児玉町文化財調査報告書　第33集

金佐奈遺跡 II

―B地点の調査―

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書28

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

児玉町文化財調査報告書　第33集

金佐奈遺跡 II

―B地点の調査―

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書28

1999

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

序

今回、発掘された埋蔵文化財の数々は古墳時代から奈良・平安時代の遺物が中心となっています。この調査により明らかになった当時の生活あとは、歴史の教科書に載っているような貴族社会の様なきらびやかなものではありませんでした。しかし、その反面一般の人々の生活が如実に表れており、それらにはさまざまな工夫と知恵が凝らされていたことが明らかになりました。これらの知恵や工夫は、日常の生活においても親から子へと受け継がれ、自然に残されてきました。そしてそれらが礎となって現代の高度な技術が存在することは言うまでもありません。本書が現在私たちが住んでいる家や、なにげなく使っている生活品の根本にある技術の基礎を顧みるきっかけになることを願うものであります。

本報告書が刊行できましたことは、町民のみなさまをはじめ、本庄土地改良事務所ならびに関係諸機関の温かいご理解とご協力の賜物と存じており、ここに深く感謝するものであります。

このささやかな報告書が児玉町、ひいては日本の歴史を解明するための資料のひとつとして、少しでも役立つことができ得るならば幸甚でございます。

平成11年3月1日

児玉町教育委員会
教育長　冨丘　文雄

例　言

1、本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字上真下字南ほかに所在する金佐奈遺跡B地点の発掘調査報告書である。本遺跡は平成9年度に遺構編として第Ⅰ分冊を刊行しており、本編は第Ⅰ分冊で収録できなかった遺構図面等と遺物編よりなる第Ⅱ分冊である。

2、発掘調査は、県営畑地帯総合土地改良事業（神川東部地区）に先立つ町内遺跡保存事業として、平成4年度に児玉町教育委員会が実施したものである。

3、調査の担当は、鈴木徳雄・徳山寿樹があたった。

4、発掘調査及び整理・報告書に要した経費は、町費・国庫補助金・県費補助金（埼玉県教育委員会）および委託金（埼玉県）である。

5、本書の編集は、整理参加者の協力を得て遺構編を徳山寿樹がおこない、遺物編および写真図版を大熊季広が行った。その他執筆分担については各文末に記した。

6、発掘調査及び本書作成にあたって下記の方々や機関から後助言・御協力を賜った。
赤熊浩一、池田敏宏、梅沢太久夫、江原英、大倉潤、太田博之、大屋道則、岡本幸夫、金子彰男
駒宮史朗、小宮山克己、坂本和俊、笹森健一、篠崎 潔、外尾常人、瀧瀬芳之、田村誠、千葉 智
徳山美砂、利根川章彦、鳥羽政之、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、長谷川勇、坂野和信
平田重之、増田一裕、丸山修、丸山陽一、水村孝行、宮本直樹、矢内勲、山口逸弘、弓明義
佐藤博之、井口泰基、埼玉県生涯学習部文化財保護課、本庄土地改良事務所、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、児玉郡市文化財担当者会、東海大学考古学研究会　　（順不同、敬称略）

7、本書作成の主な作業分担は、次のとおりである。

土器復元・接合　藤田正美、林和代、新井千都子、新井栄子、赤堀俊子、熊谷由美子、倉林美紀
倉林常子、白石敏子、野沢公代、福島礼子、峯　裕子
補　助　他　尾内俊彦、田口照代
遺構原図操作‥　徳山寿樹、松澤浩一、新井嘉人
トレース……　倉林八重子、中原好子、根岸富士江、福島礼子
遺物実測……　大熊季広、松澤浩一、櫻井和哉、永井智教、逸見百合子
遺物写真……　中原慶子、黒沢律子
遺物レイアウト　大熊季広
本文レイアウト　徳山寿樹、大熊季広

発掘調査の組織

平成４年度（発掘調査）

調査主体	児玉町教育委員会	教育長	冨丘　文雄
事務局	児玉町教育委員会社会教育課		
	社会教育課	課長	井上　英夫
		課長補佐	吉川　敏男
	社会教育係	係長	清水　　満
		主任	田島　賢二
		主事	渋谷　路子
担当者	社会教育係	主任	鈴木　徳雄
		主事	恋河内昭彦
		主事	徳山　寿樹
調査員補			尾内　俊彦
			宮本　直樹

平成10年度（整理・報告）

調査主体	児玉町教育委員会	教育長	冨丘　文雄
事務局	児玉町教育委員会社会教育課		
	社会教育課	課長	関根　安男
	社会教育係	主任	倉林美恵子
	文化財係	係長	鈴木　徳雄
		主任	杉山　茂俊
		主任	恋河内昭彦
担当者	文化財係	主事	徳山　寿樹
		主事	大熊　季広
		主事補	松澤　浩一
調査員補			尾内　俊彦

目　次

序
例　言
発掘調査の組織
目　次

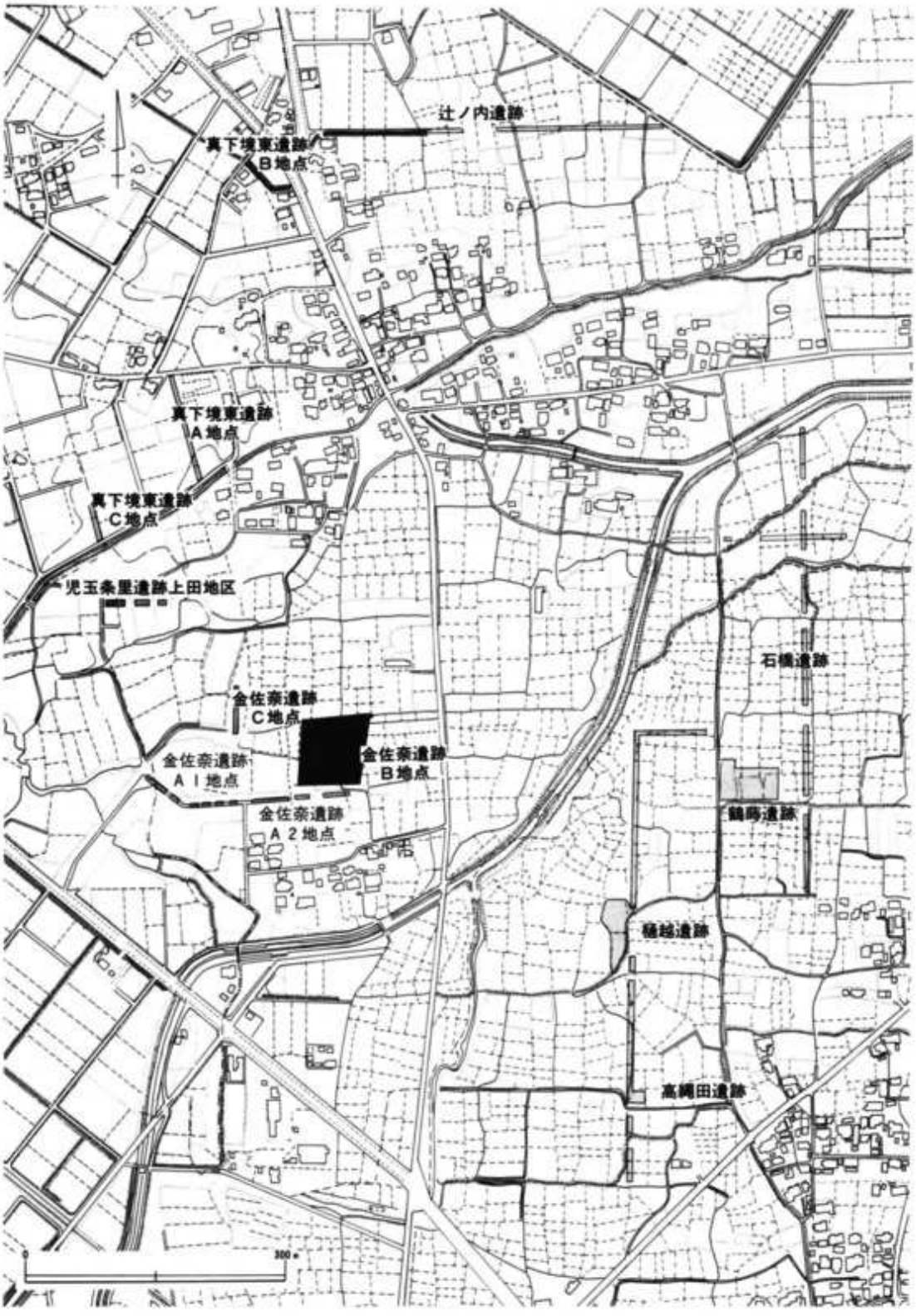
第Ⅰ章　遺構の概要 …… 1
1．竪穴式住居址 …… 1
2．掘立柱建物址 …… 1
3．溝状遺構 …… 4
4．土壙 …… 4
5．井戸 …… 4

第Ⅱ章　遺物の概要 …… 69
1．鬼高Ⅱ期 …… 69
2．真間・国分期 …… 70
3．羽釜出現期以降 …… 71

第Ⅲ章　金佐奈遺跡の古代景観の変遷 ―まとめにかえて― …… 169
1．生産空間としての土地利用 …… 169
2．生活空間としての土地利用 ―集落の設営― …… 172
3．真間期以降の集落の景観 …… 175

写　真　図　版

報 告 書 抄 録



第1図　金佐奈遺跡B地点調査位置図

第Ⅰ章　遺構の概要

1．竪穴式住居址

古墳時代後期から平安時代の竪穴式住居址（第44～216号住居址）を総数183軒調査を行った。その結果、住居址の多くは北壁から東壁にカマドを構築しており、カマドの右側に貯蔵穴を設けていた。又、床面には貼床が施されており壁溝が巡っていた。住居址の規模は、床面積が約４㎡の小型の住居から約72㎡の大型住居まで検出されている。しかし中世から現代に及ぶ耕作や開墾が地表より深部に及び遺構上部の残りは良好ではない。又、遺構同士の切合関係も激しく住居址の規模も推定でしか報告できない住居址も複数存在する。しかし、これらの中には平地式の建物址の存在も考慮しなければならないであろう。

カマド

鬼高期のカマドは本体が屋内に取り入れられており、カマド中央の軸線をややずれて石製や土製又は、高坏の再利用品の支脚を設置しており高さを調節する為に支脚に小甕等をかぶせた状況が確認されている。又、真間期から国分期にかけてのカマドの中には、補強材等として焚き口上部や袖部に長胴甕を再利用したものが見受けられる。なかには、片袖に４個体の長胴甕を利用したカマドもあった。更に、国分期のカマドになると本体の大部分が壁より外へ出て袖や燃焼部壁には、偏平な礫が用いられるようになる。このカマドには、これらの礫とは別に燃焼部の壁際に２本ないし４本の支脚を立て鬼高期の支脚の様に土器の底を支えるのではなく土器を挟む様な構造となっている。

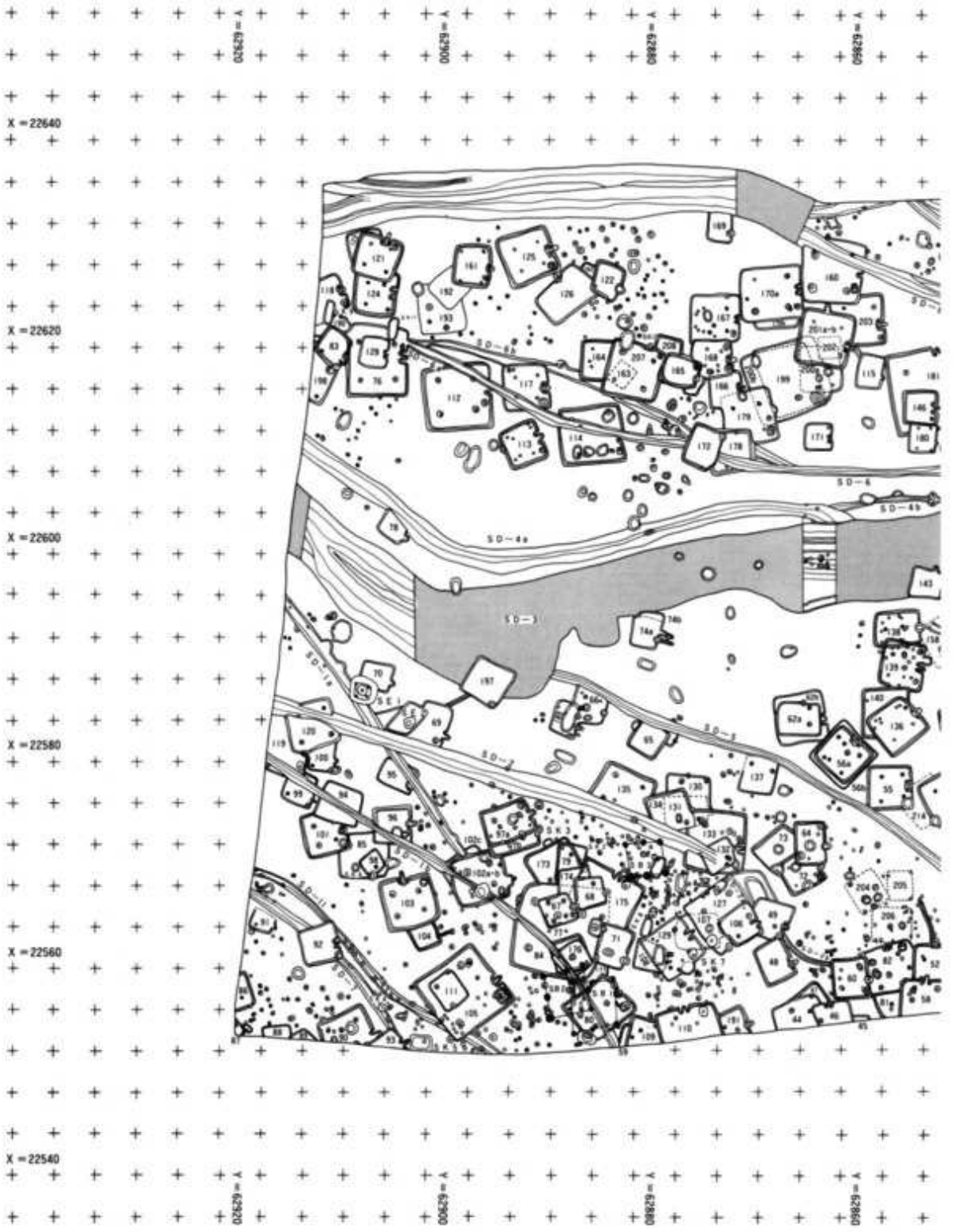
火災住居

調査された竪穴住居址の中には、複数の火災住居が存在する事が確認できている。これらは、遺構の状況や覆土の観察から、（１）家屋が使用中に何かの原因で焼失したもの。（２）住居址の覆土に一時堆積の後が確認されている後に焼失したものの二通りに大別できる。更に、これらには生活用品が残されていた家と持ち去られた家、焼失後に廃棄した家の存在があることが推定できる。その他これらの火災住居址の覆土を観察すると、明らかに自然埋没では流入しない人為的に埋められた様な覆土が存在する。又、希にではあるが火災住居であるのに炭化材が検出できない住居がある。この事から火災によってできた炭化材を炭として使っていた可能性を考える事もできる。

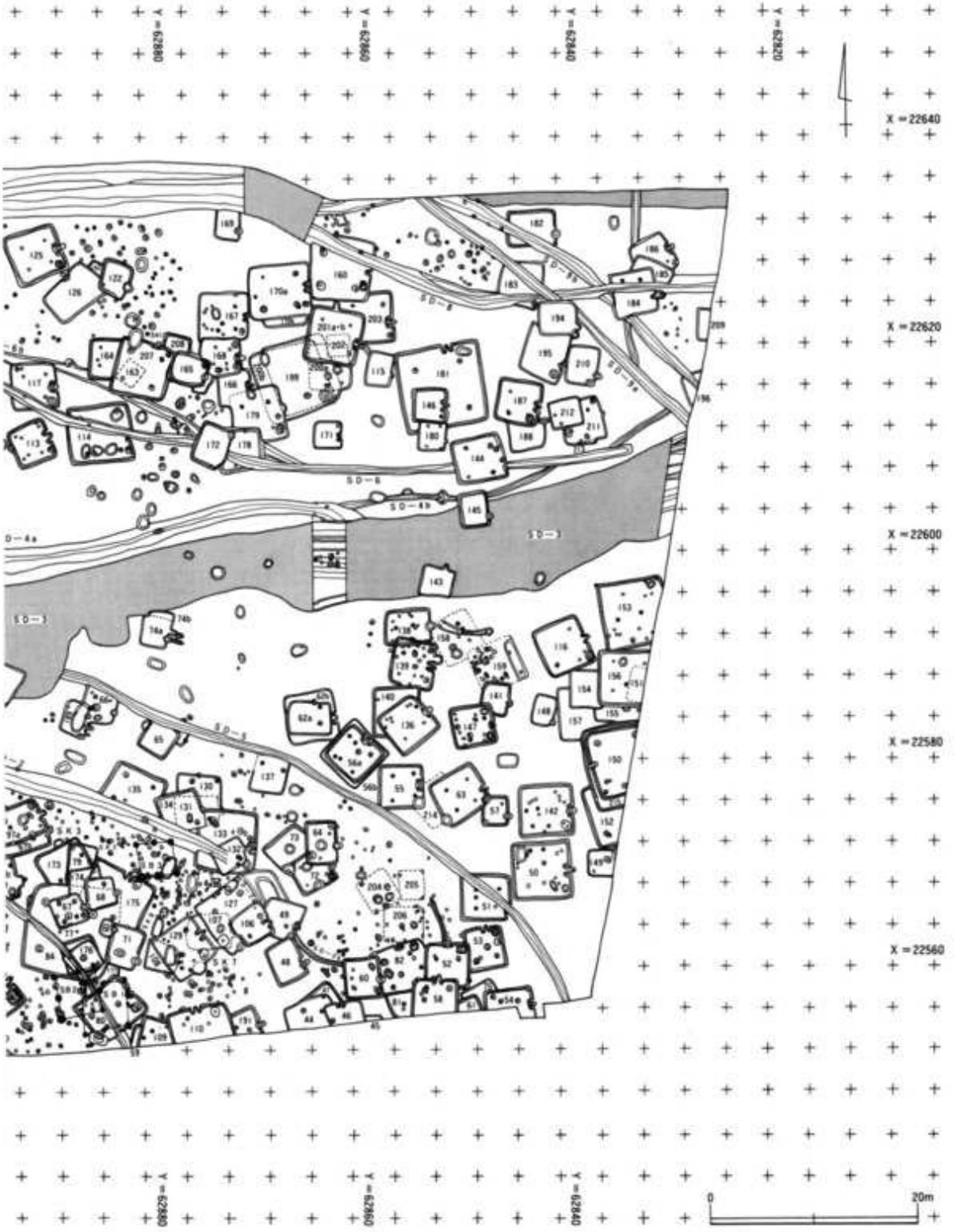
尚、既に調査報告が行われている金佐奈遺跡Ａ１地点及びＡ２地点で調査した遺跡と本報告の遺跡が同一の遺跡で在る為、住居址番号は通番とし本報告は第44号住居址より始まる。又、Ａ２地点の調査報告で第42ｂ号住居址と報告した住居址は、本報告の第109号住居址と同一の建物である事も考えられる。

2．掘立柱建物址

国分期に比定できると推定される掘立柱建物址（第１～第３号掘立柱建物址）


X = 22640
X = 22620
X = 22600
X = 22580
X = 22560
X = 22540
Y = 62920
Y = 62900
Y = 62880
Y = 62860
SD－3
SD－4a
SD－4b
SD－6
SD－7
SD－8b
SD－11
SD－12
SE 1
SE 7
SK 1
SK 3
SK 5

第２図　金佐奈遺跡


Y = 62880
Y = 62860
Y = 62840
Y = 62820
X = 22640
X = 22620
X = 22600
X = 22580
X = 22560
0
20m

B地点全測図

3棟を検出した。建物の形態は、何れも2×2間（約4×4m）であり、中間柱を持たない第3号掘立が主軸を東西にもつほかは、主軸は南北である。そのほか3軒とも束柱や礎石、礎板等は検出されていない。

3．溝状遺構

古墳時代から近現代にかけての溝状遺構（第1号～10号溝）を総数19条の調査を行った。殆どの溝は等高線に並行に掘削されており、北西に高く南東に低いという緩い高低差をもっている。又各溝の断面形は、皿状、U字形又は、箱状になる形態があり各々用排水、集水の機能を持っていたと推定される。

第3号溝

この溝は、等高線に沿っている溝と違い上流部の低地より本遺跡を乗せる微高地を掘削して東へ延びており、古墳時代後期の集落を分断している。又この溝は、北側の溝（古）南側の溝（新）との2条によって構成されている。又これらが調査区内では交差することなく並行していることが、遺構の3地点でおこなった土層観察によって明らかにされている。更に（新）の土層は以下の3段階に大別できる。(1)FA層と推定されている第11層以下の段階で、きめの細かい粘質土、細かい砂層、泥炭層を交互に含んでいる。(2)第7層以下の段階で、土層の色調が暗く泥炭質である。(3)土層の色調明るく国分期の遺物を多く含む。又、北側の溝がローム質であることから、南側の溝を掘削したときにでた排土で埋めた可能性も考えることができる。南北の溝ともに砂層や粘質土層が観察できる事によりある程度の水流あった事が想定できるが、大きな河床礫等を含まない事から付近を流下していた自然の河川から引水し、堰や水門等によってある程度制御された水が流れていたと推定できる。

尚、第3号溝は国分期には既に埋没しており、耕地整理による掘削も及ばない事から一部を調査し残存部は現状保存した。

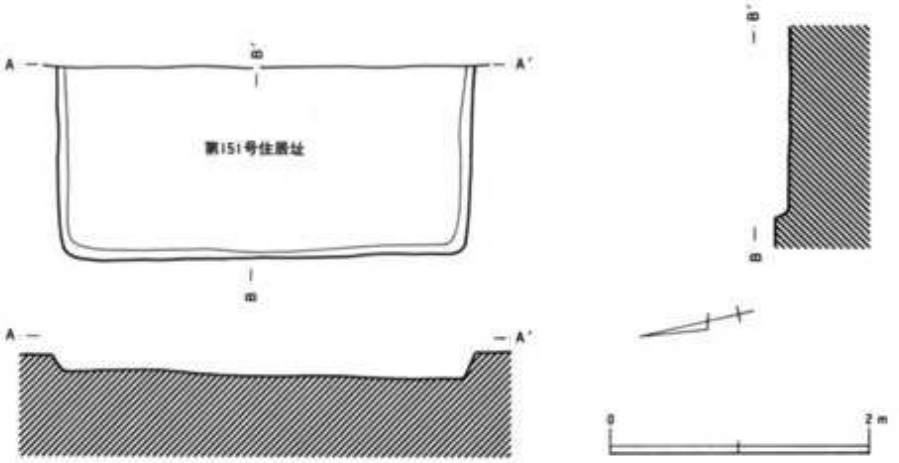
4．土壙

総数で11基（第1～11号土壙）の調査を行った。平面形態は、円形、楕円、隅丸方形などがあり、円形の土壙を除いて主軸はすべて南北方向にある。これらのうち第1・2・9・11号土壙は出土した遺物から国分式に比定されるがそのほかは時期不明である。特に第9・11号土壙は、坏などが複数副葬されており国分期の墓壙であった。尚、金佐奈遺跡Ⅰの写真図版に掲載した第18・20号土壙は本稿の第9・11号土壙にあたる。

5．井戸

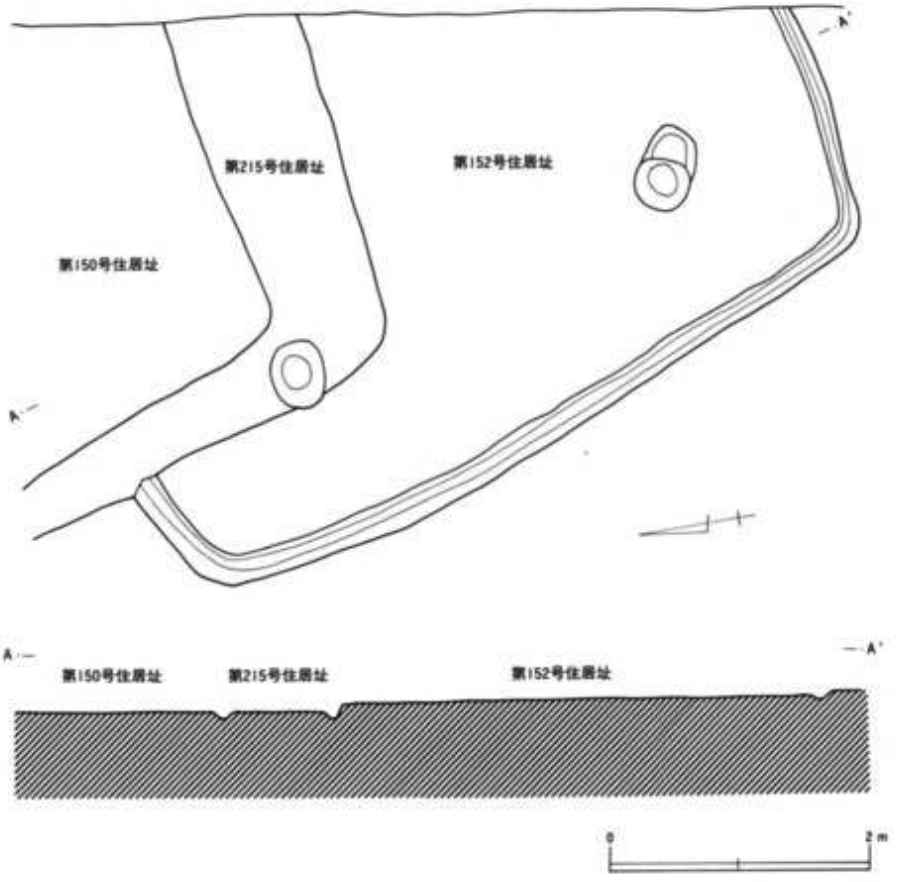
調査区西端の中央部付近で井筒構造を備える第1号井戸址と素堀である第2号井戸址を調査した。何れも井戸の底面には拳大の礫を敷き詰めてあった。特に第1号井戸は、井筒構造の外側に礫等で裏込めをしていた状況が土層断面により明らかになった。時期については何れも国分期と推定される。(徳山寿樹)

第151号住居址（第３図）



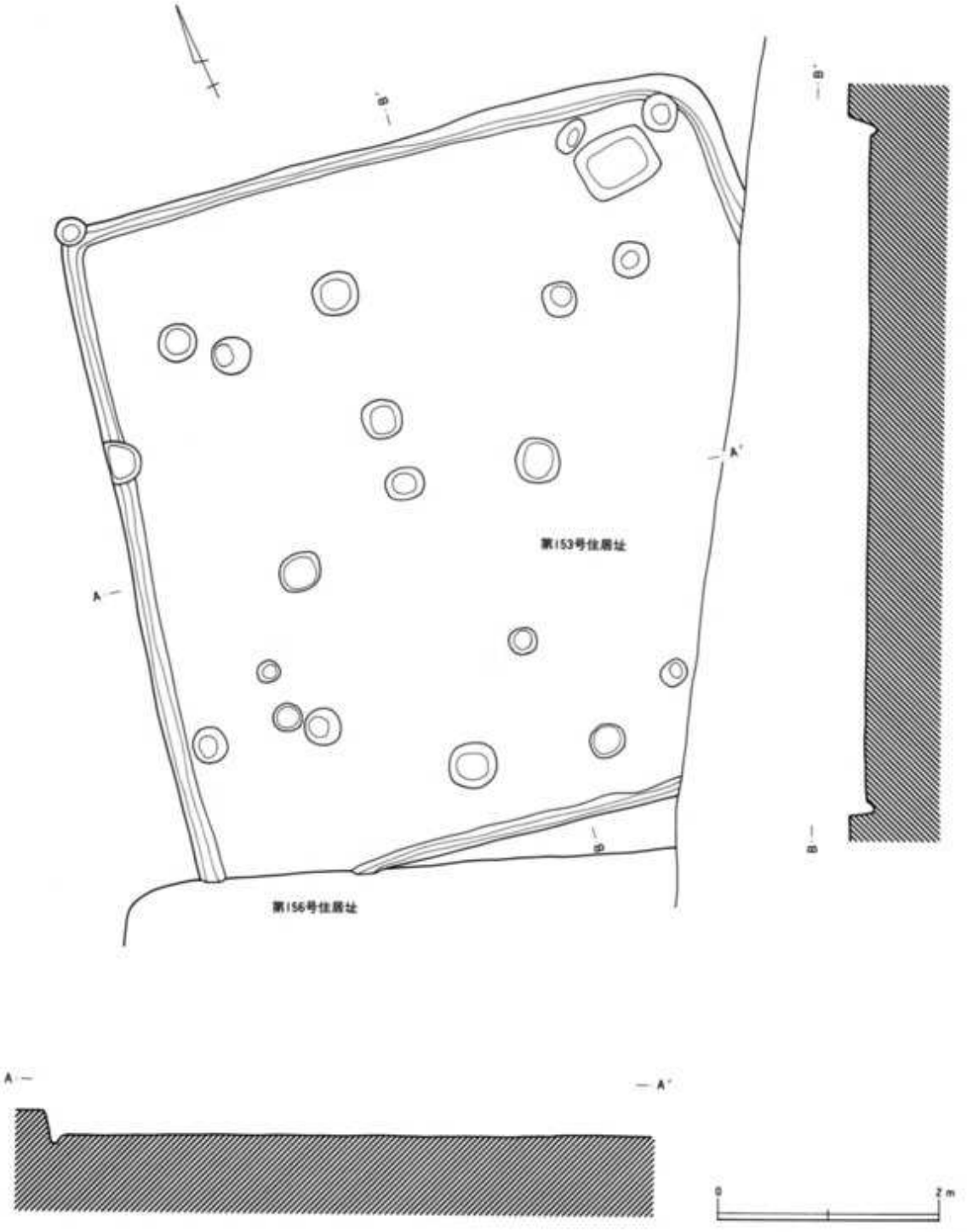
第３図　第151号住居址

第152号住居址（第４図　図版105－１）



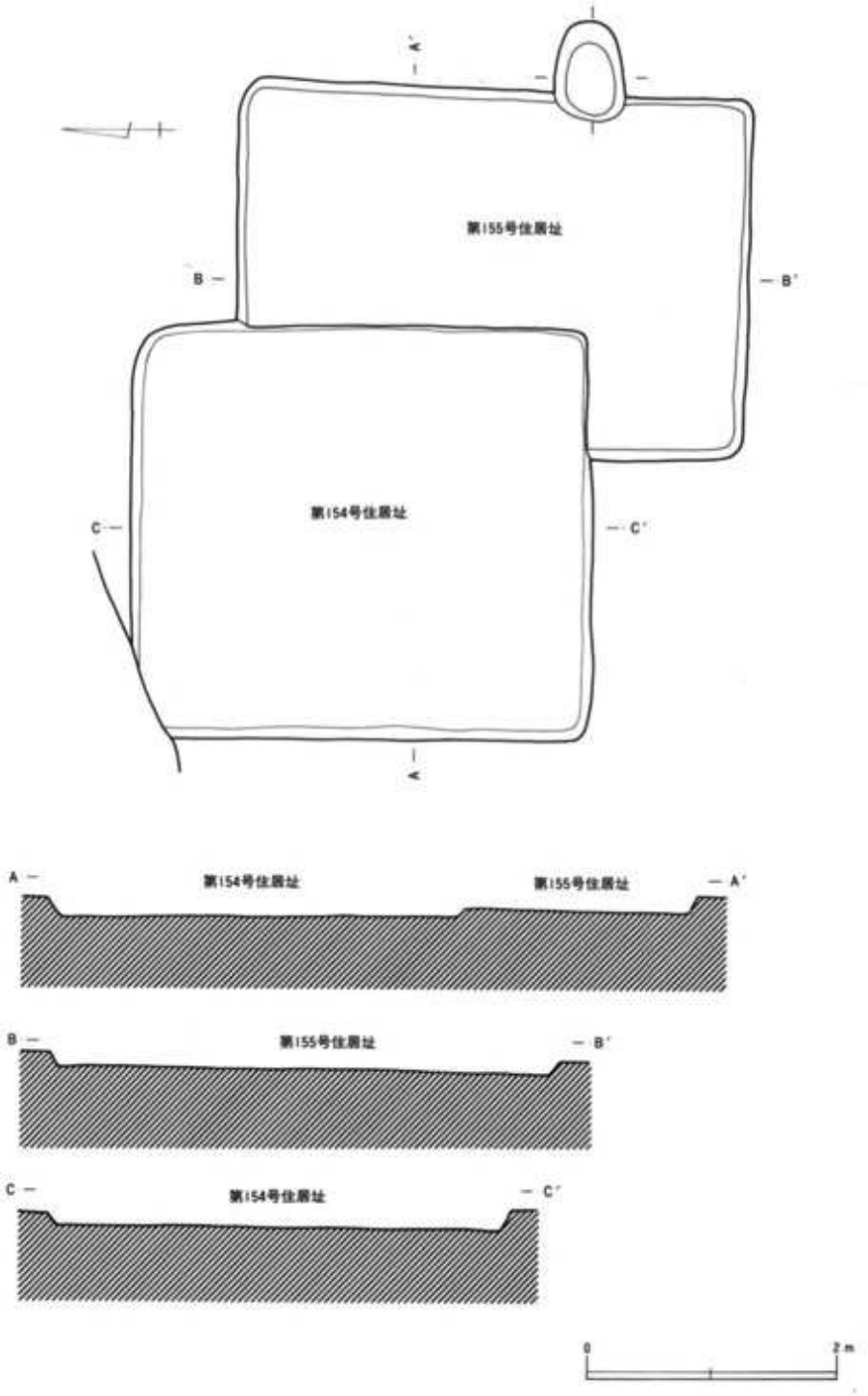
第４図　第152号住居址

第153号住居址（第５図　図版105―２）



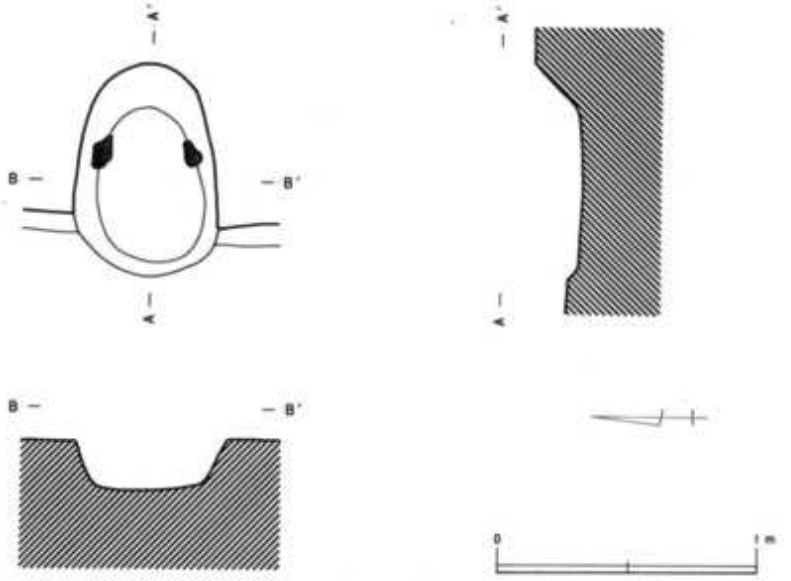
第５図　第153号住居址

第154・155号住居址（第６図　図版106－１）



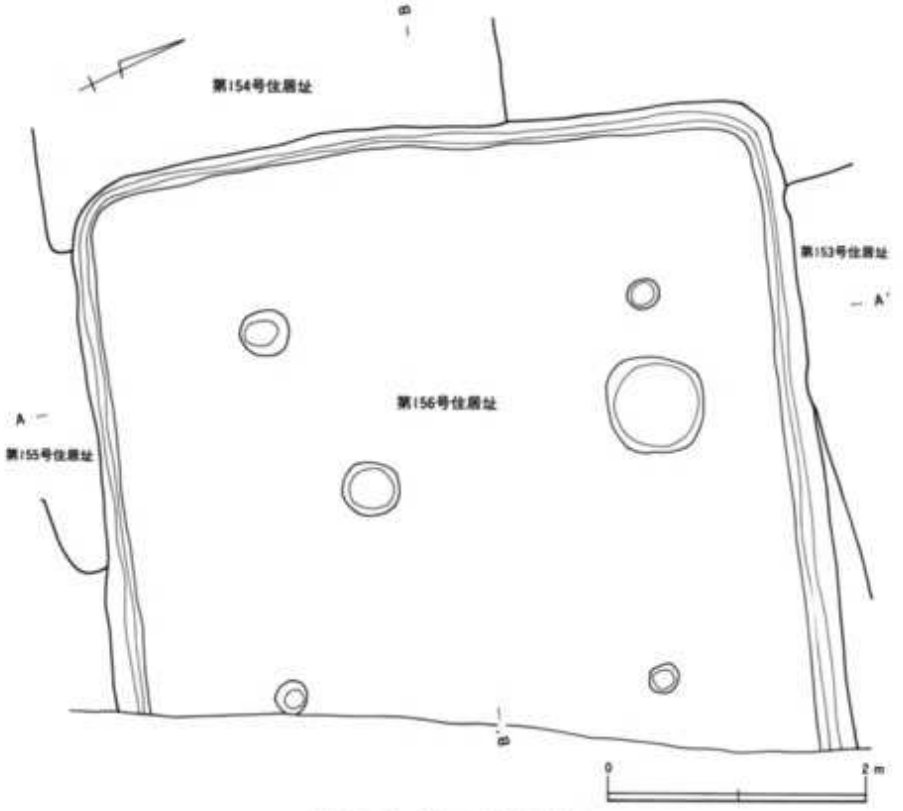
第６図　第154・155号住居址

第155号住居址カマド（第７図　図版106－２）



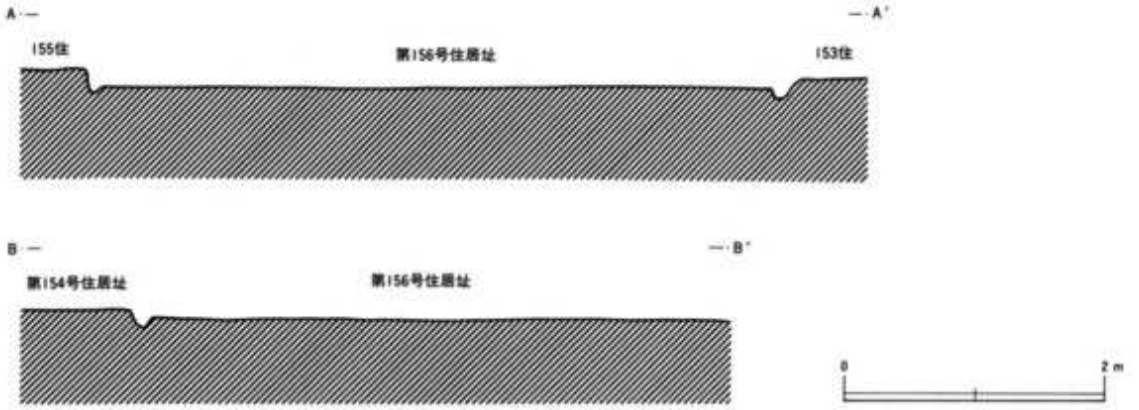
第７図　第155号住居址カマド

第156号住居址（第８図　図版107－１）



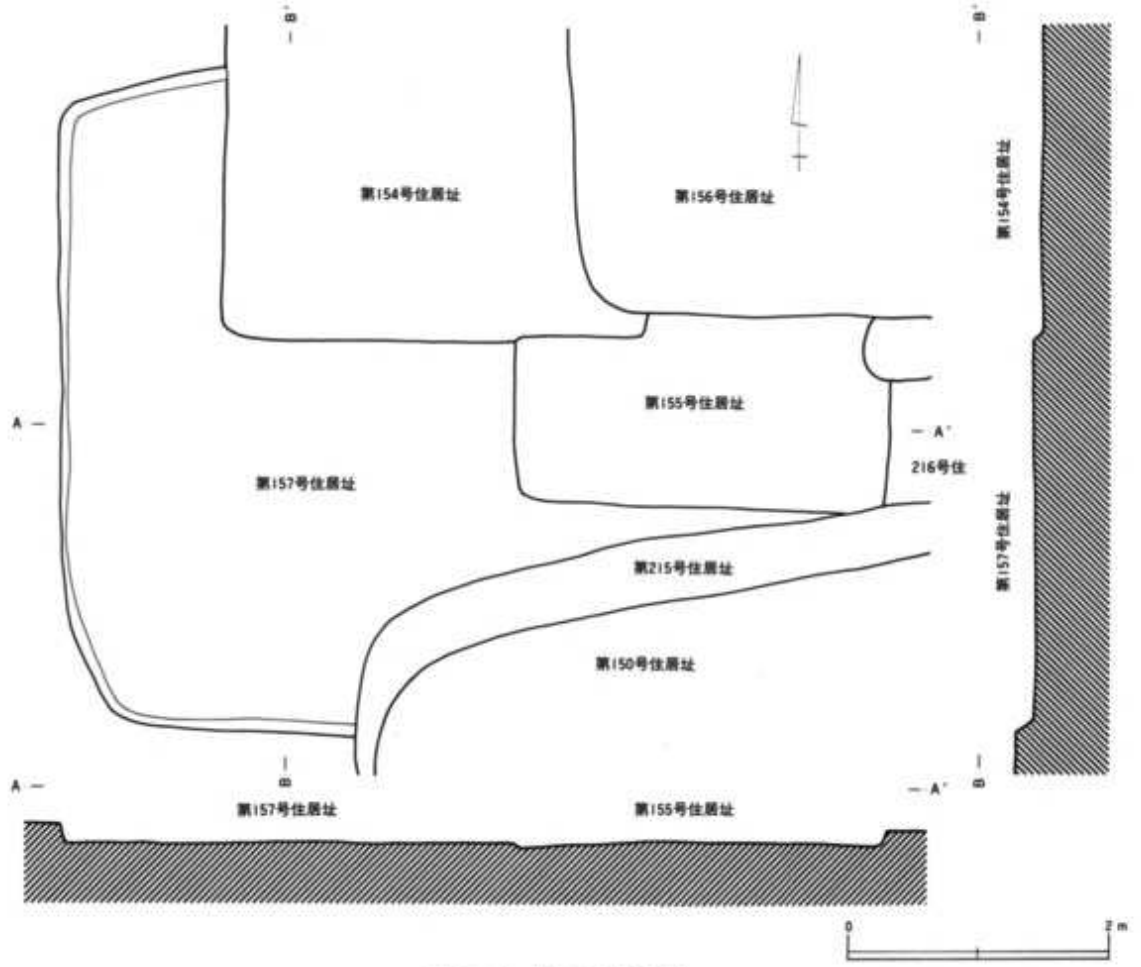
第８図　第156号住居址

第156号住居址（第９図）



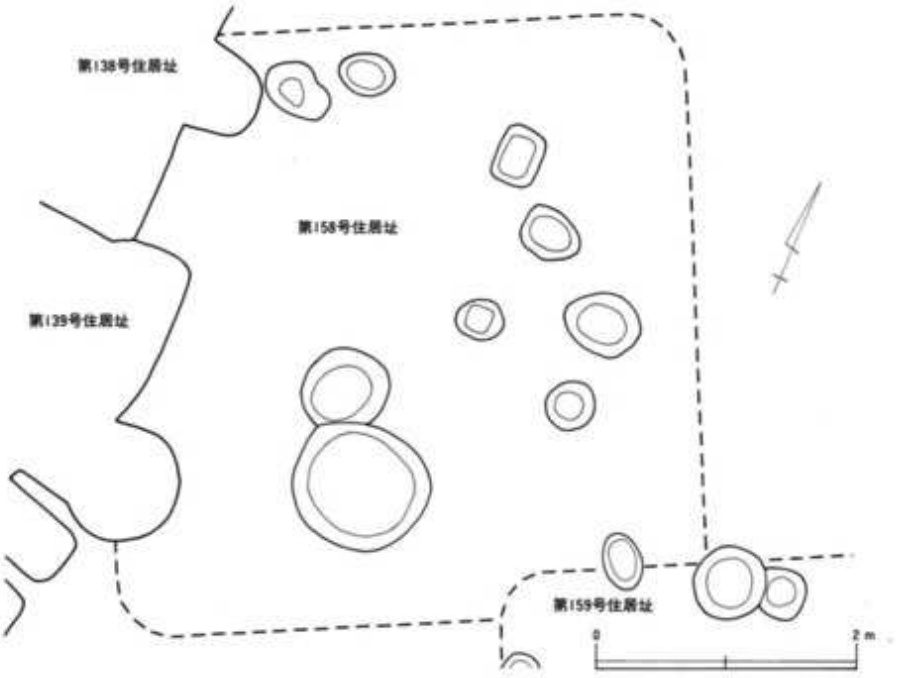
第９図　第156号住居址

第157号住居址（第10図）



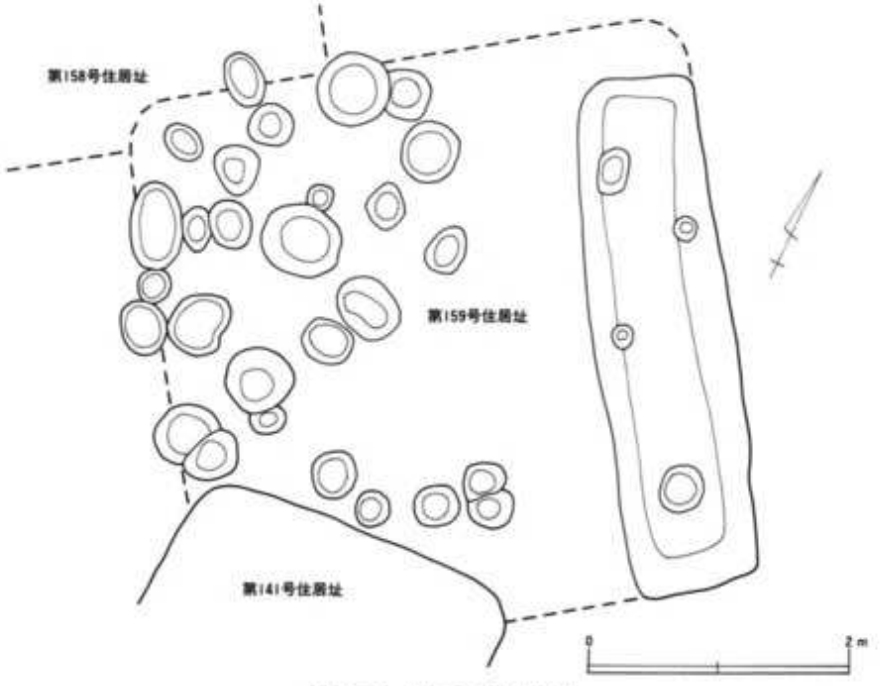
第10図　第157号住居址

第158号住居址（第11図）



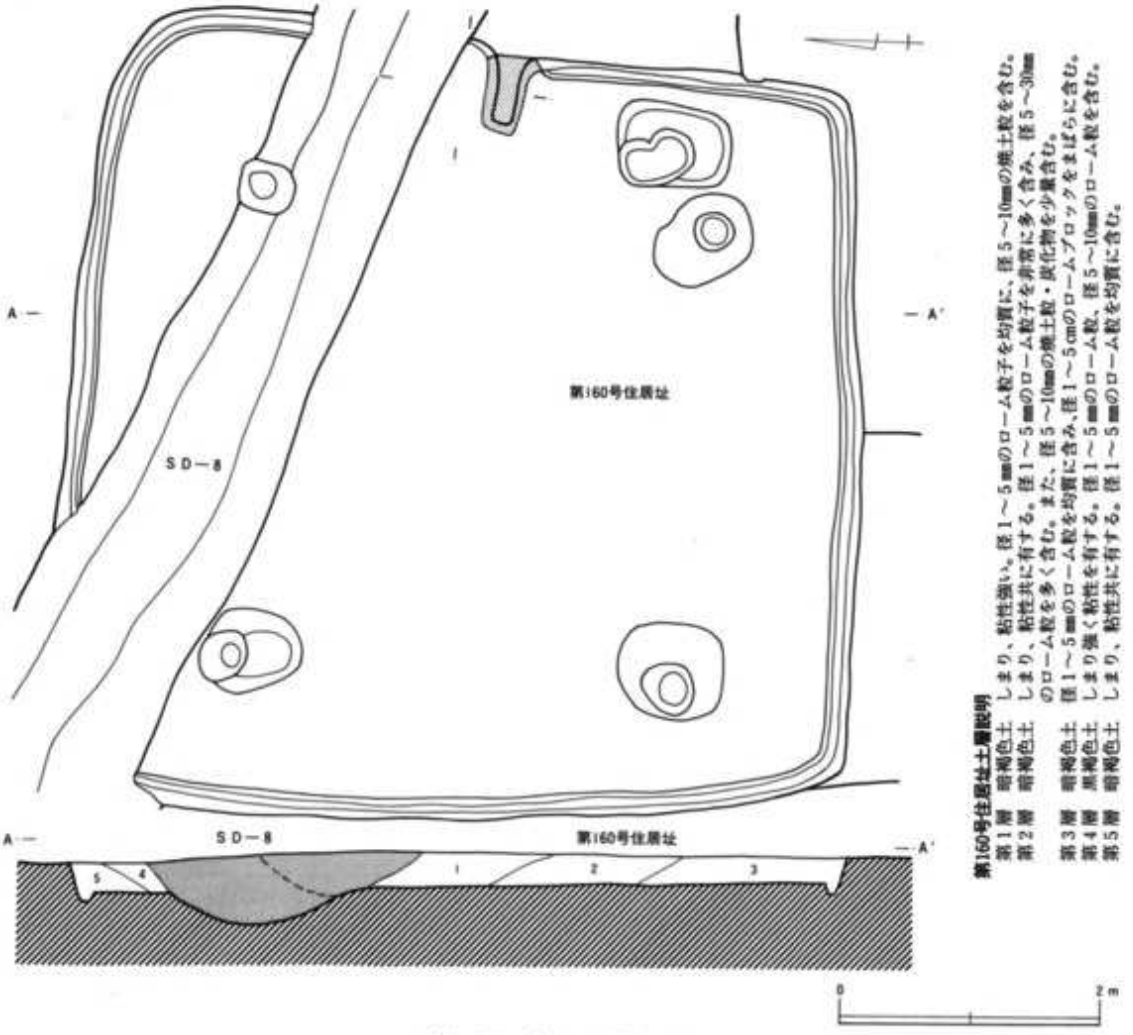
第11図　第158号住居址

第159号住居址（第12図）



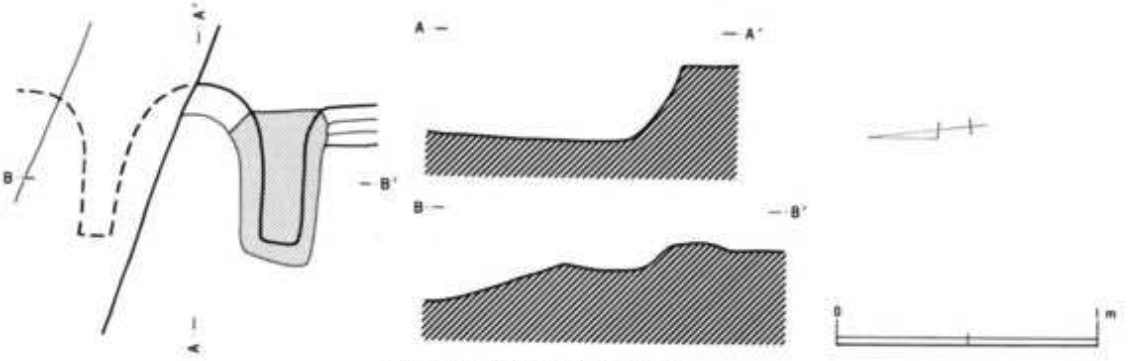
第12図　第159号住居址

第160号住居址（第13図　図版107－２）



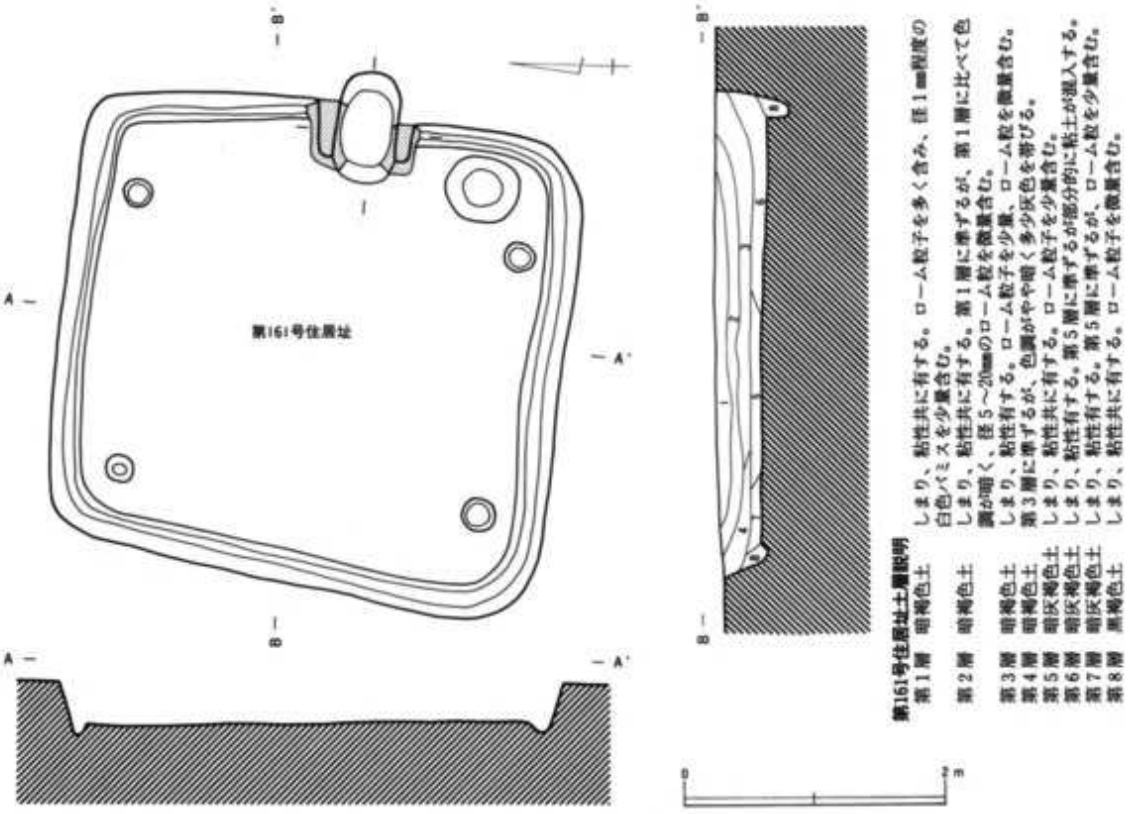
第13図　第160号住居址

第160号住居址カマド（第14図　図版108－１）



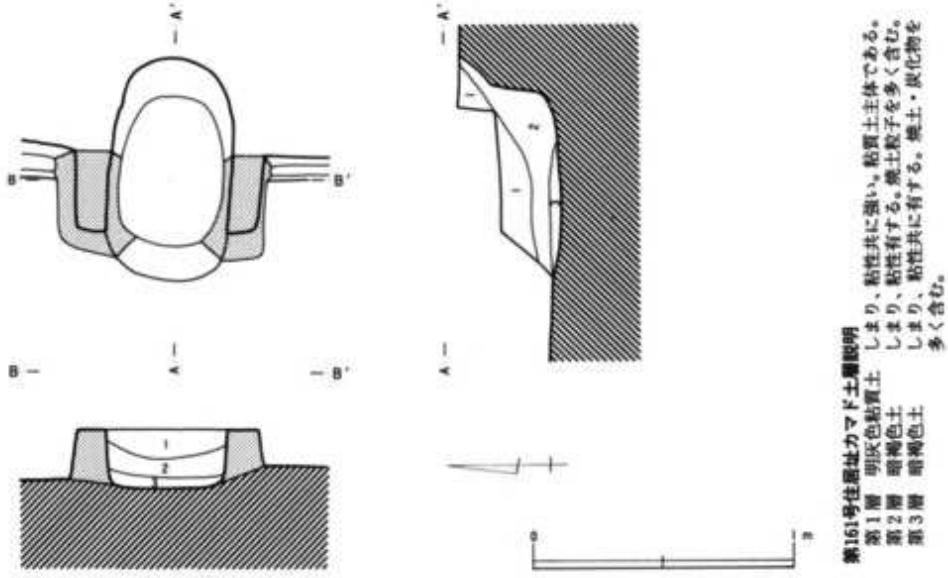
第14図　第160号住居址カマド

第161号住居址（第15図　図版109－１）



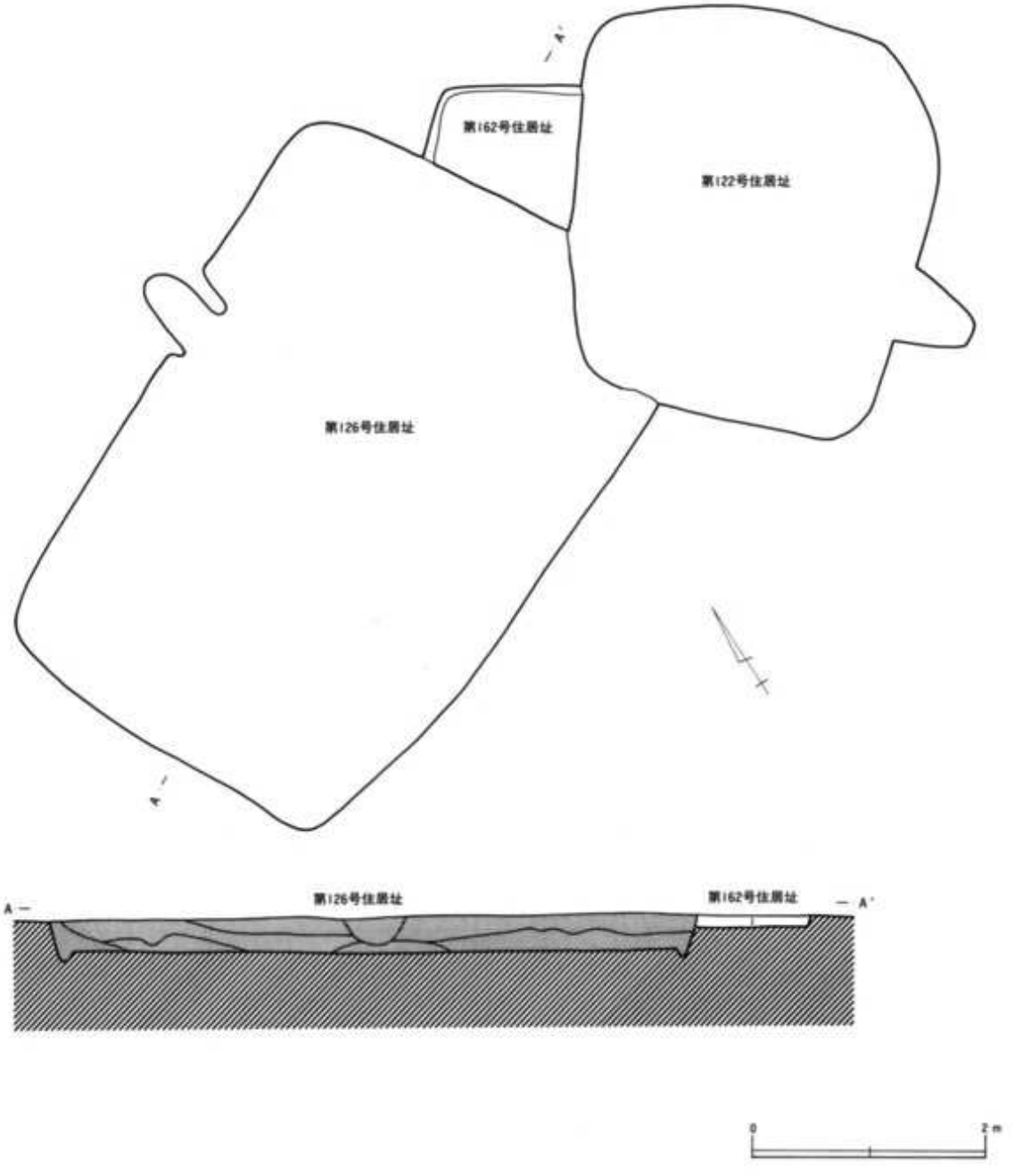
第15図　第161号住居址

第161号住居址カマド（第16図　図版109－２）



第16図　第161号住居址カマド

第162号住居址（第17図）

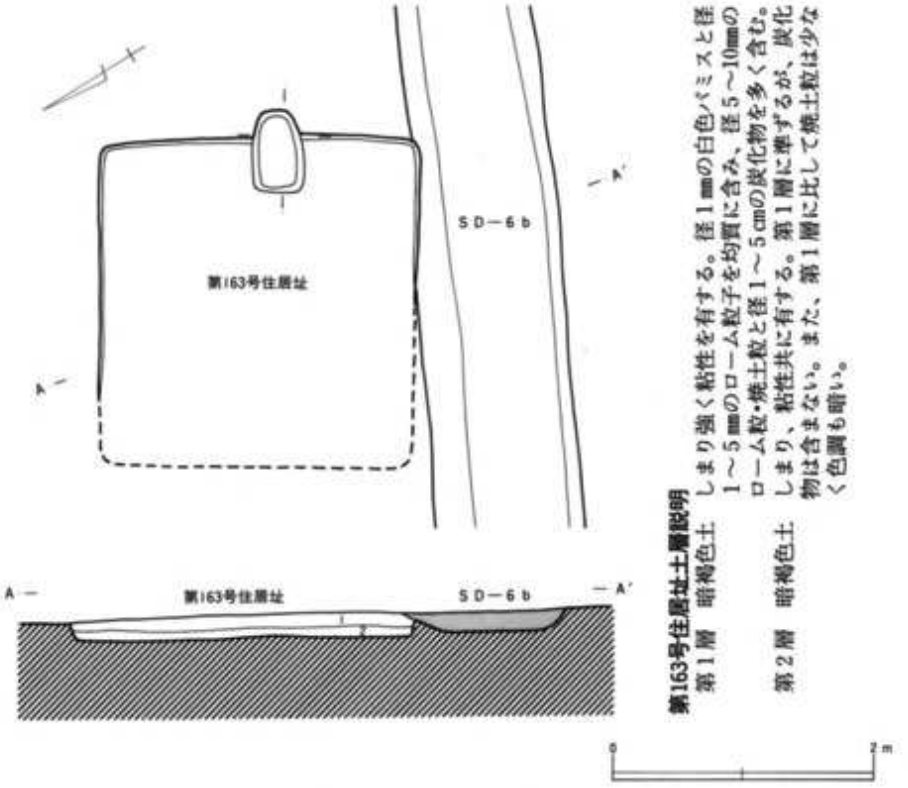


第17図　第162号住居址

第162号住居址土層説明

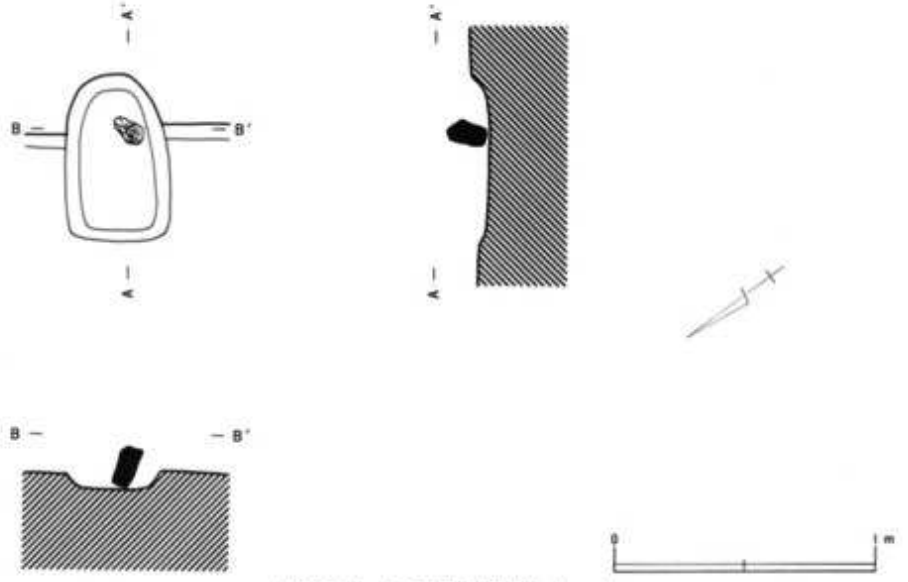
第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。また、炭化物を多量に、焼土粒を少量含む。

第163号住居址（第18図　図版110－１）



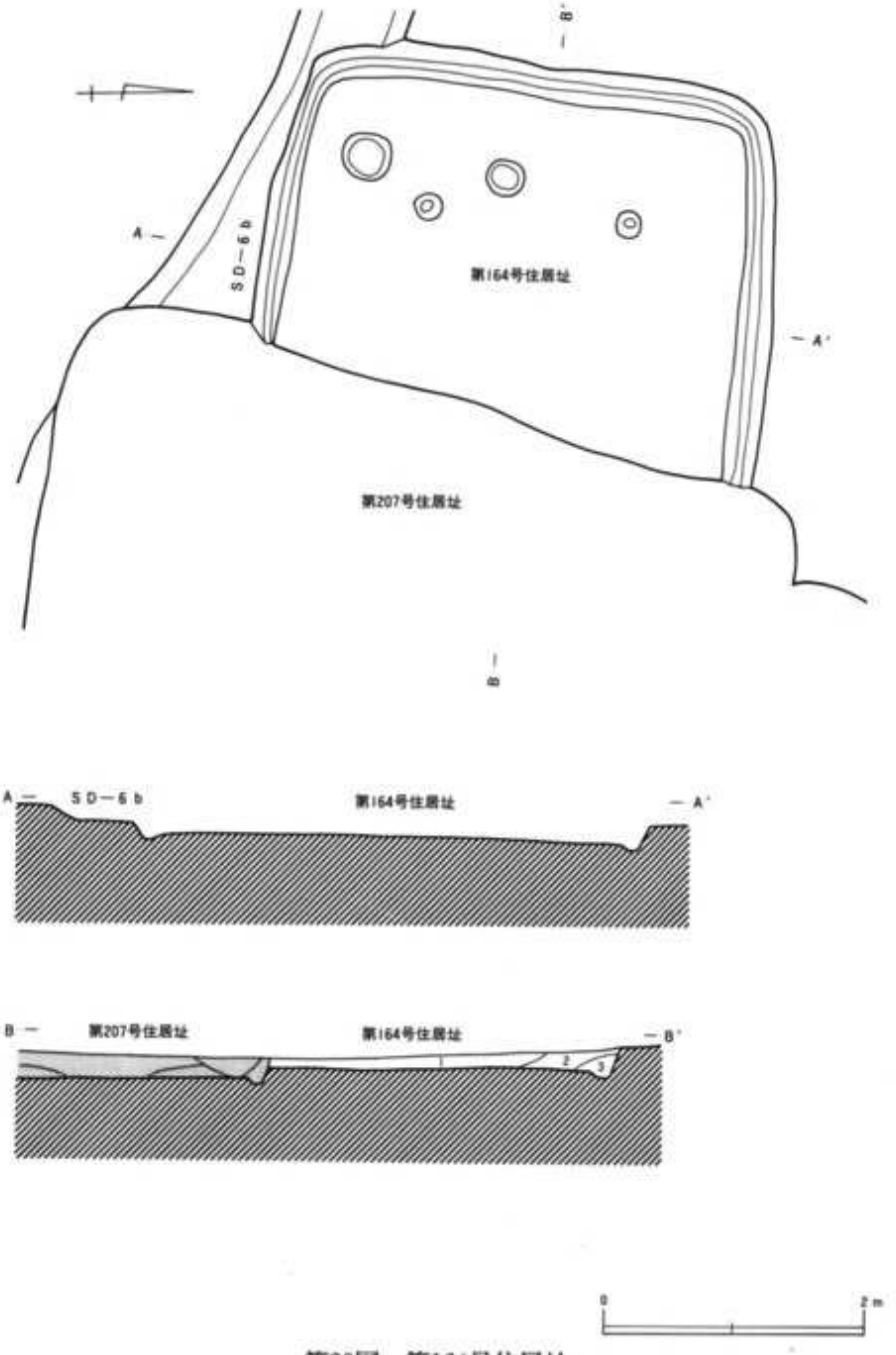
第18図　第163号住居址

第163号住居址カマド（第19図　図版110－２）



第19図　第163号住居址カマド

第164号住居址（第20図　図版111－1）

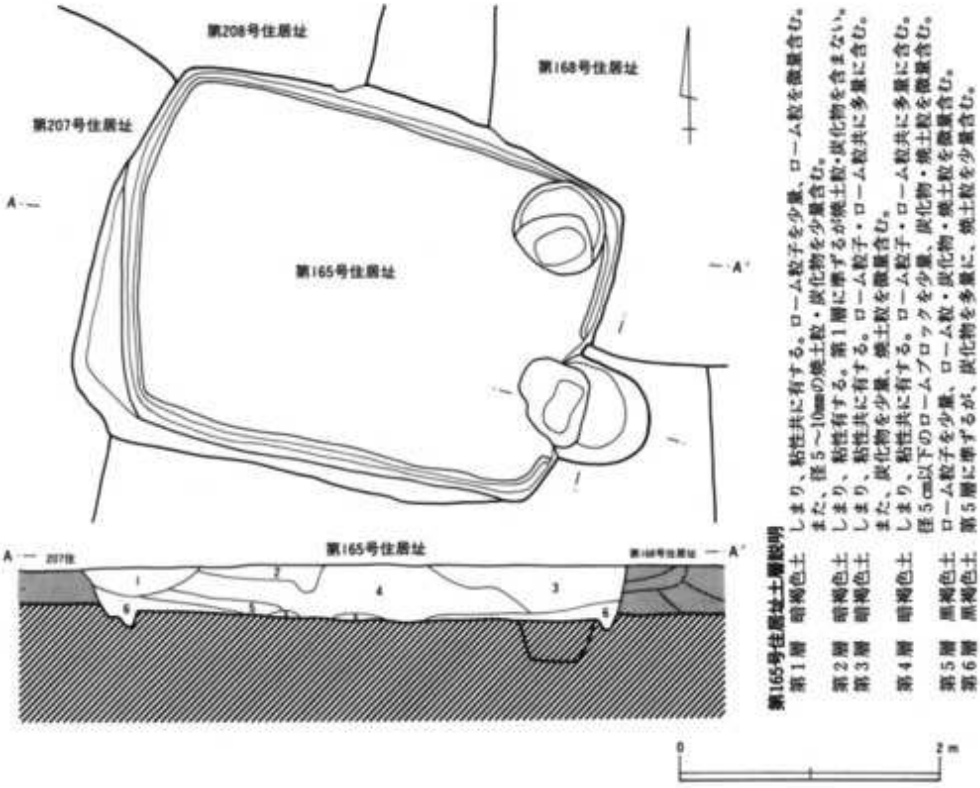


第20図　第164号住居址

第164号住居址土層説明

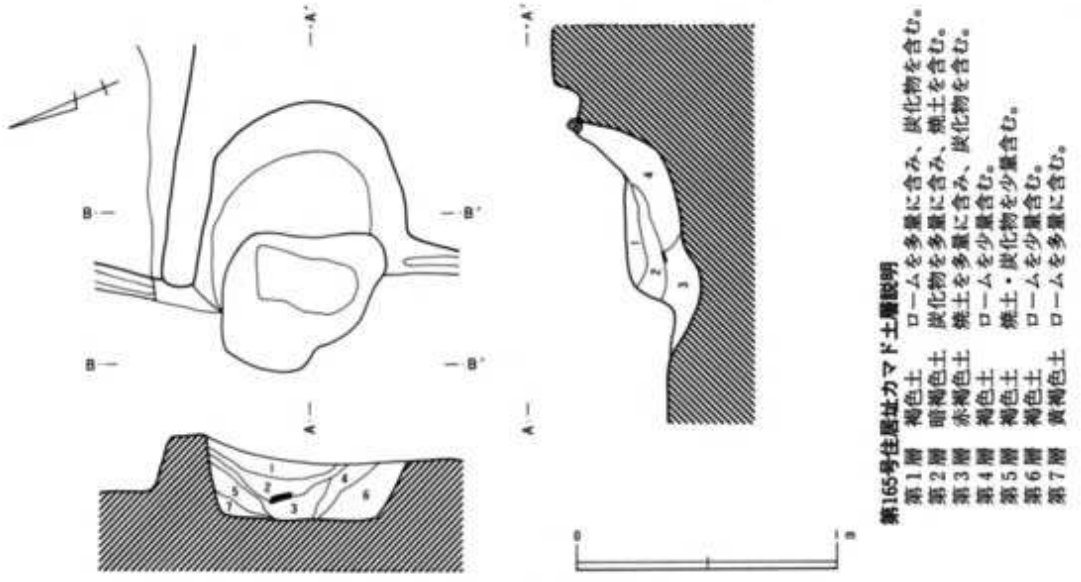
第１層　黒褐色土　しまり、粘性やや強い。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。
第２層　暗褐色土　しまり、粘性やや強い。ローム粒子を多量、ローム粒を微量含む。
第３層　黒色土　　しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を微量含む。

第165号住居址（第21図　図版111－２）



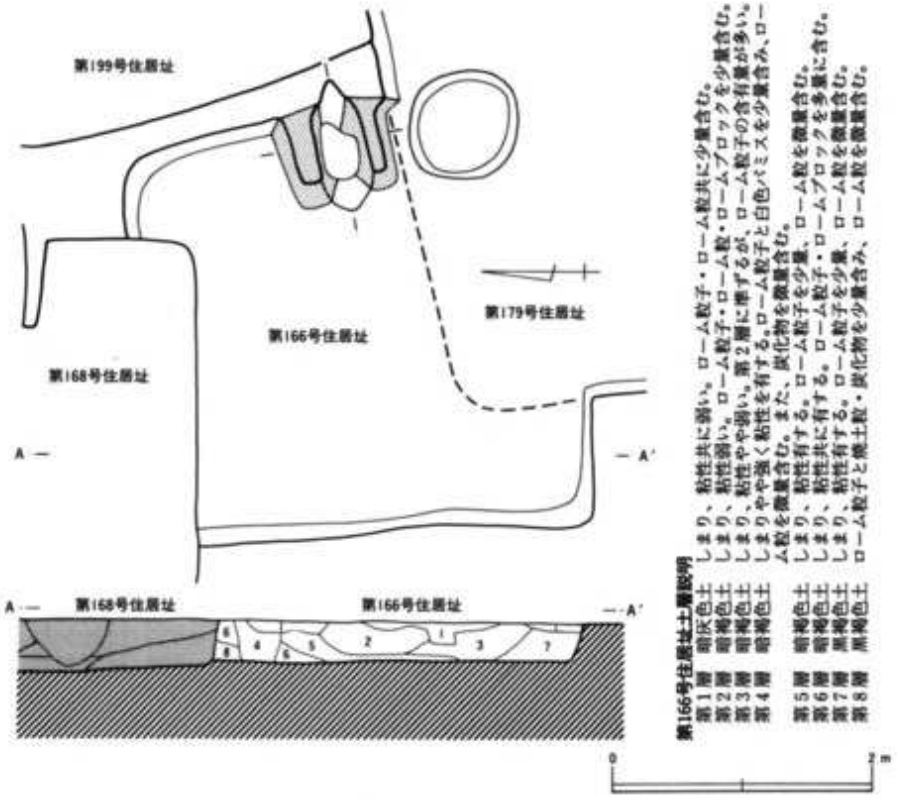
第21図　第165号住居址

第165号住居址カマド（第22図　図版112－１）



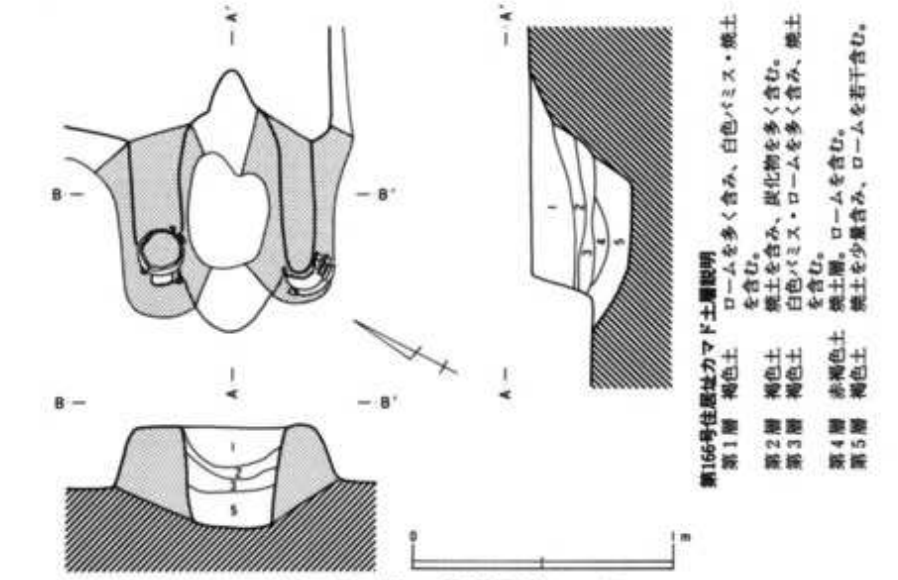
第22図　第165号住居址カマド

第166号住居址（第23図　図版112－２）



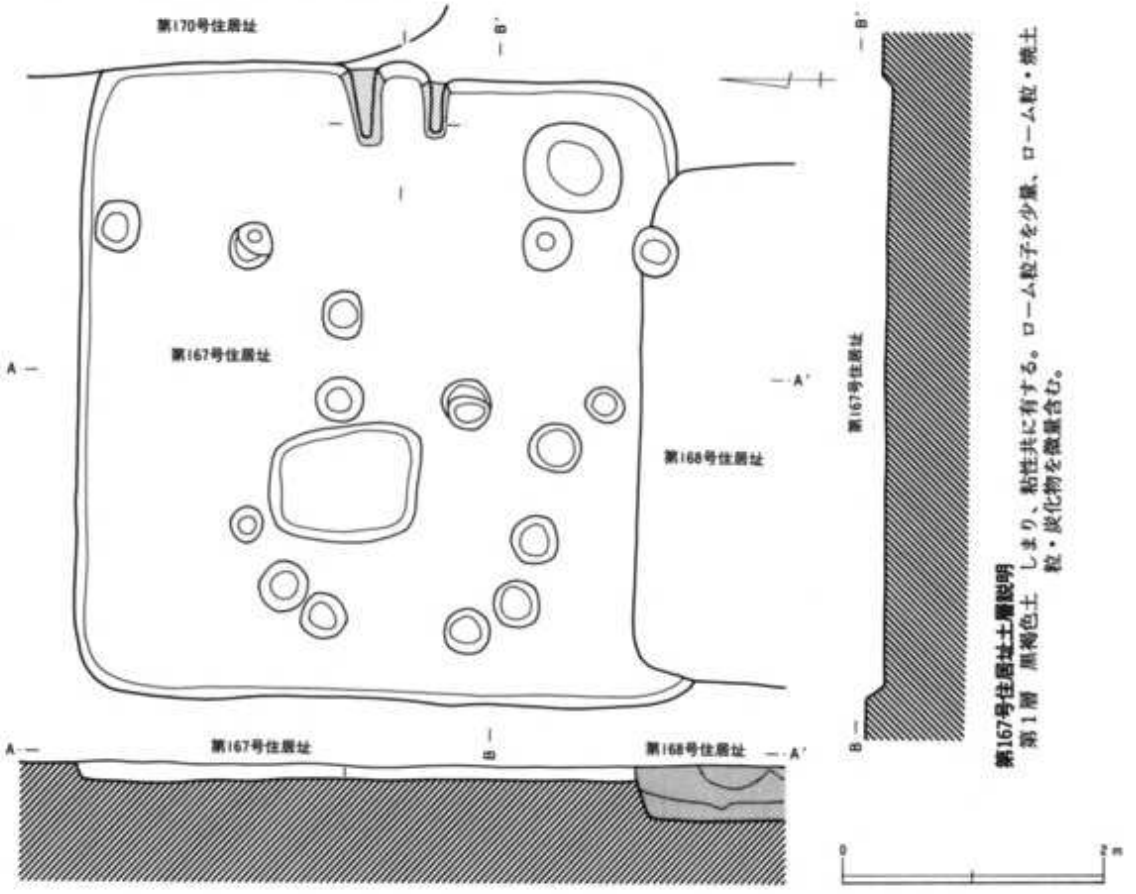
第23図　第166号住居址

第166号住居址カマド（第24図　図版166－１）



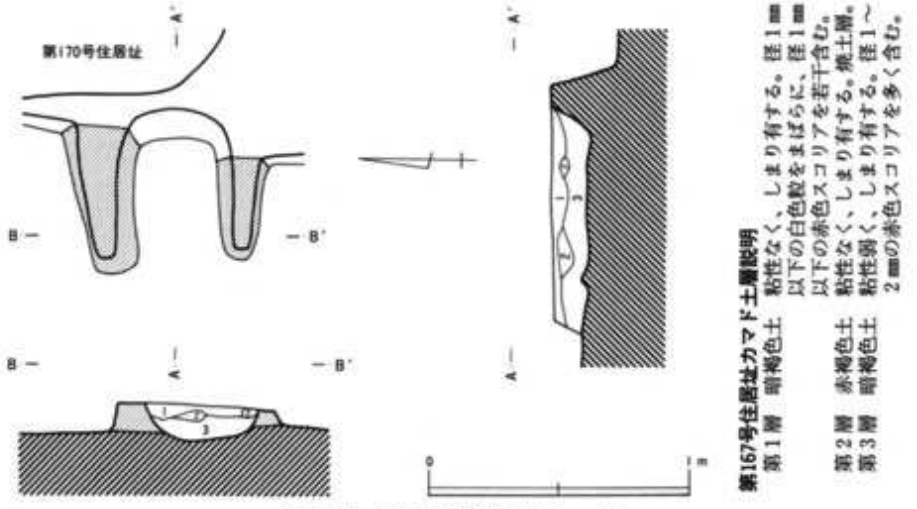
第24図　第166号住居址カマド

第167号住居址（第25図　図版113－２）



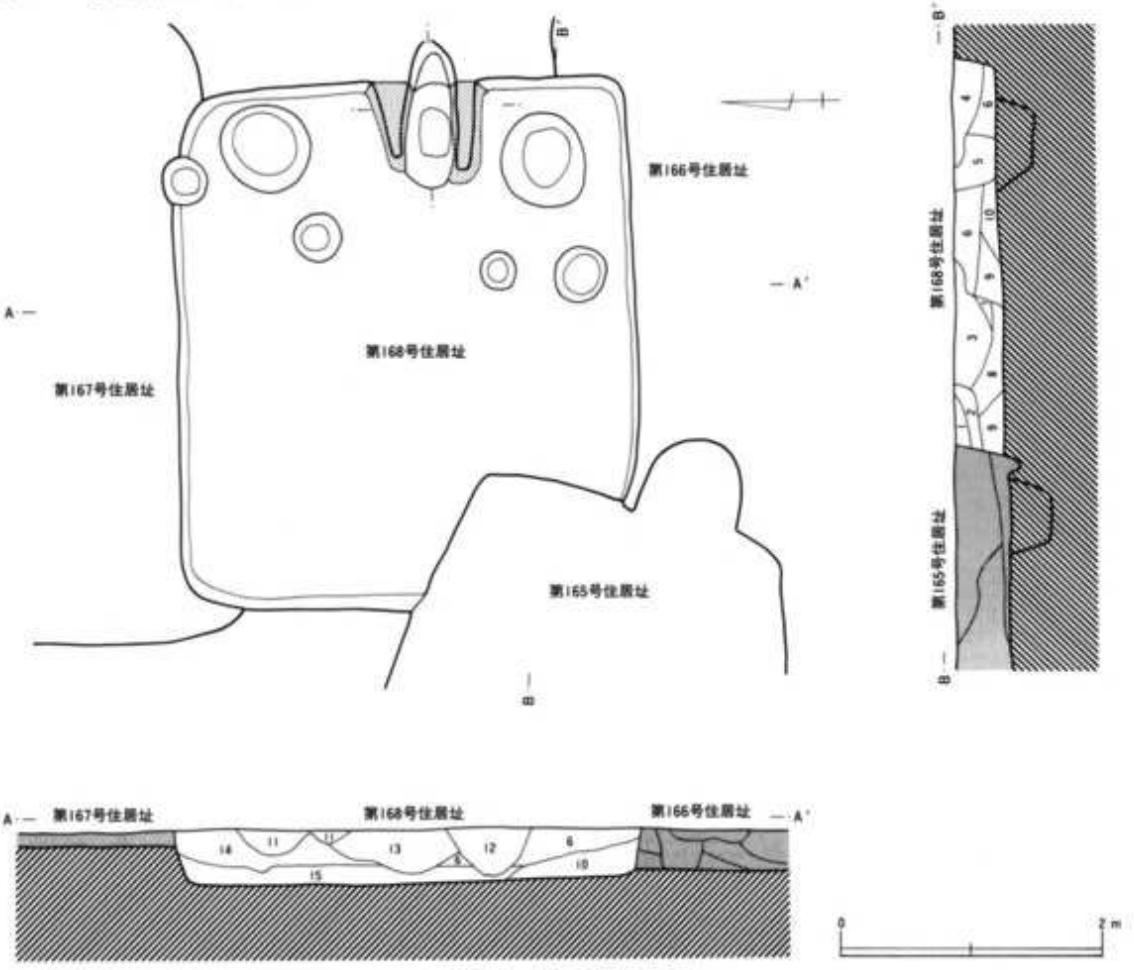
第25図　第167号住居址

第167号住居址カマド（第26図　図版114－１）



第26図　第167号住居址カマド

第168号住居址（第27図）

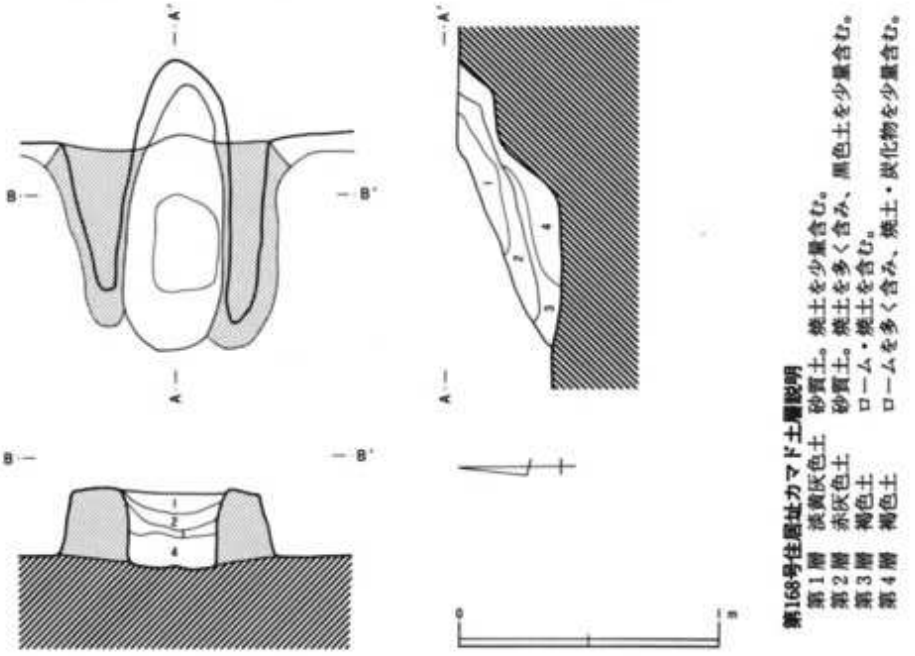


第27図　第168号住居址

第168号住居址土層説明

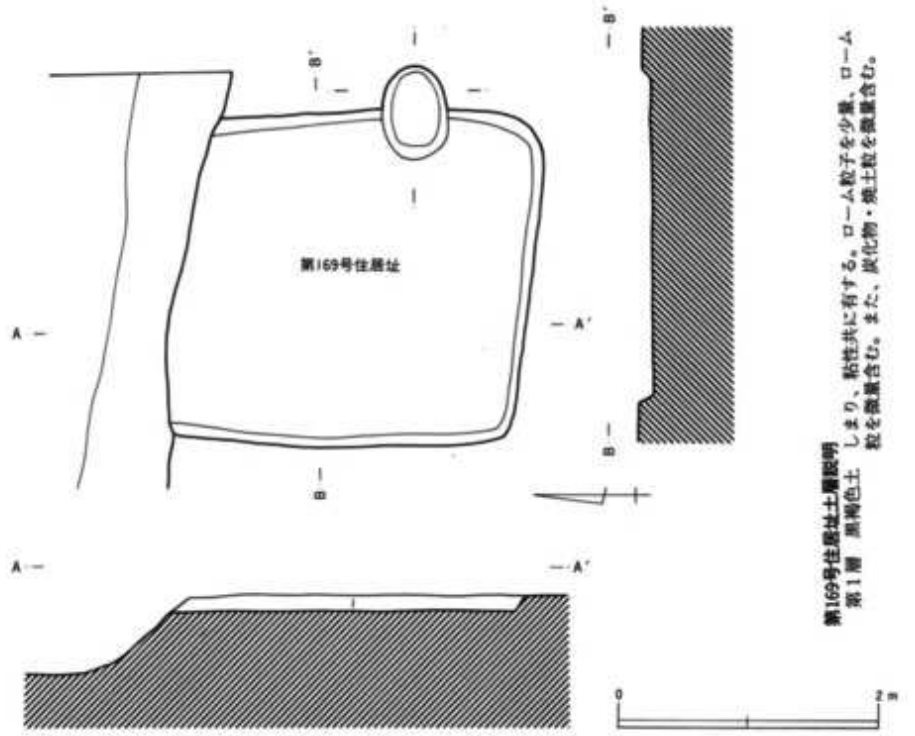
第１層	褐色土	しまり、粘性やや弱い。ローム粒子・焼土粒を多量、ローム粒・炭化物を少量含む。
第２層	暗褐色土	しまり、粘性共にやや弱い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。
第３層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。
第４層	暗褐色土	しまり有し粘性やや弱い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第５層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。
第６層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。第４層に準ずるが、ローム粒子・ローム粒共に第４層に比べて少ない。
第７層	黒褐色土	しまり有し粘性やや強い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第８層	黒褐色土	しまり有し粘性やや強い。第７層に準ずるが、第７層に比べてローム粒子が少なく色調も暗い。
第９層	暗褐色土	しまり弱く粘性やや強い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第10層	暗褐色土	しまり、粘性やや強い。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。
第11層	暗灰色土	しまり、粘性共に弱い。ローム粒子と径１㎜程度の白色パミスを少量含む。
第12層	暗褐色土	しまり有し、粘性やや弱い。ローム粒子と白色パミスを少量、ローム粒子を微量含む。
第13層	暗褐色土	しまり有し、粘性やや弱い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。また、径５～20㎜の焼土粒を少量含む。
第14層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第15層	黒褐色土	しまり、粘性共に有する。第14層に準ずるが、色調が黒色を帯びる。

第168号住居址カマド（第28図）



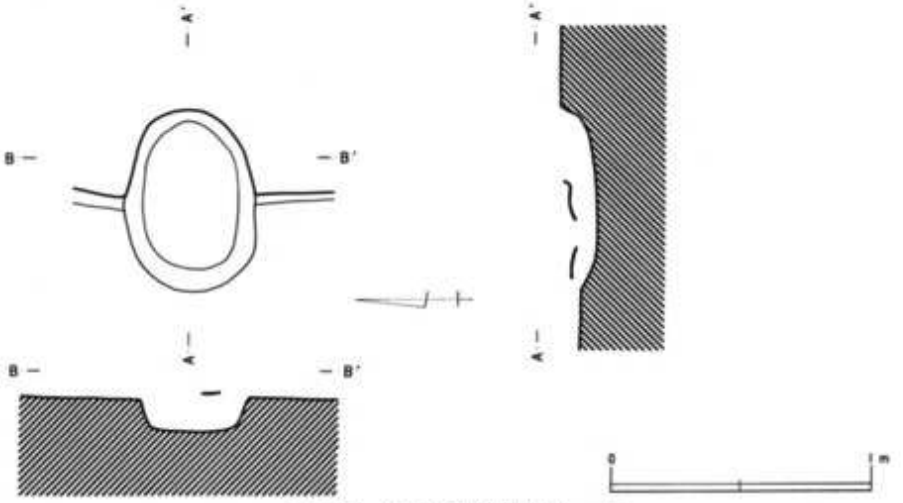
第28図　第168号住居址カマド

第169号住居址（第29図　図版114－２）



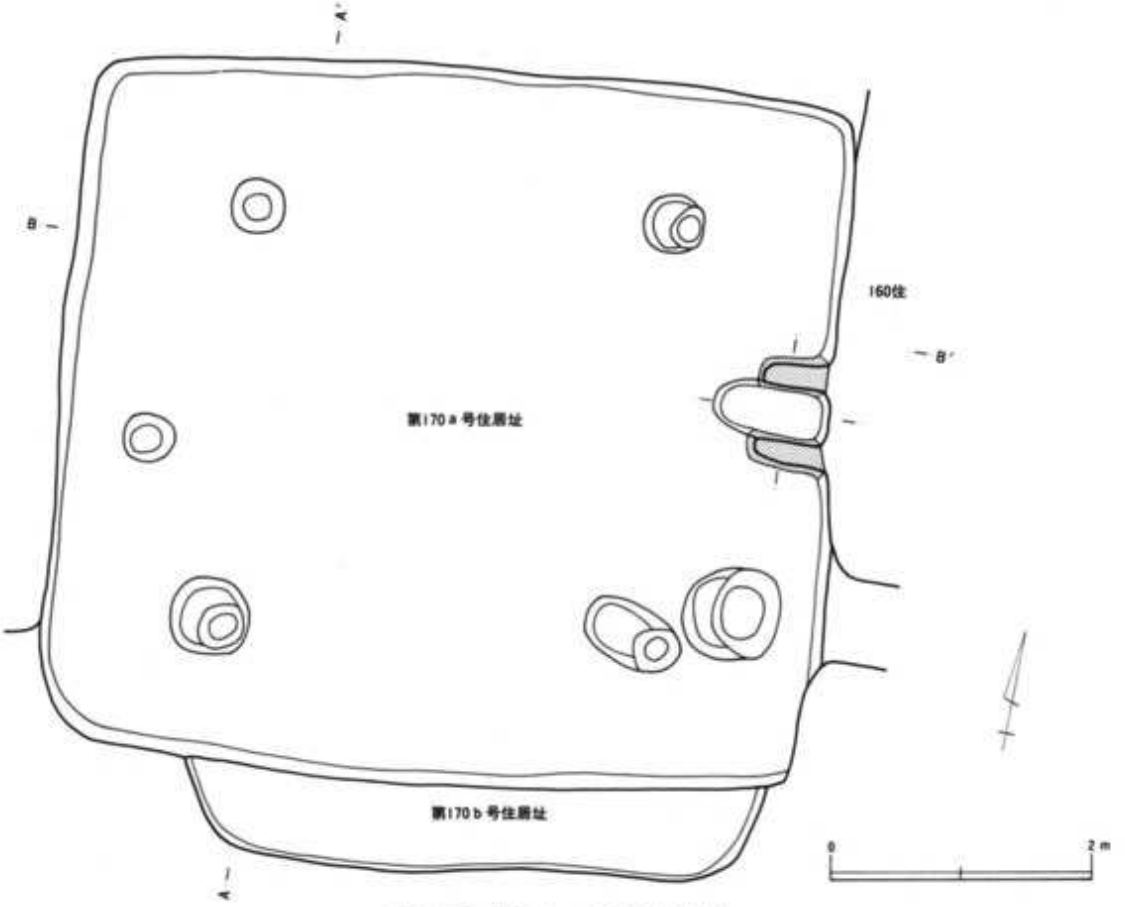
第29図　第169号住居址

第169号住居址カマド（第30図　図版115－１）



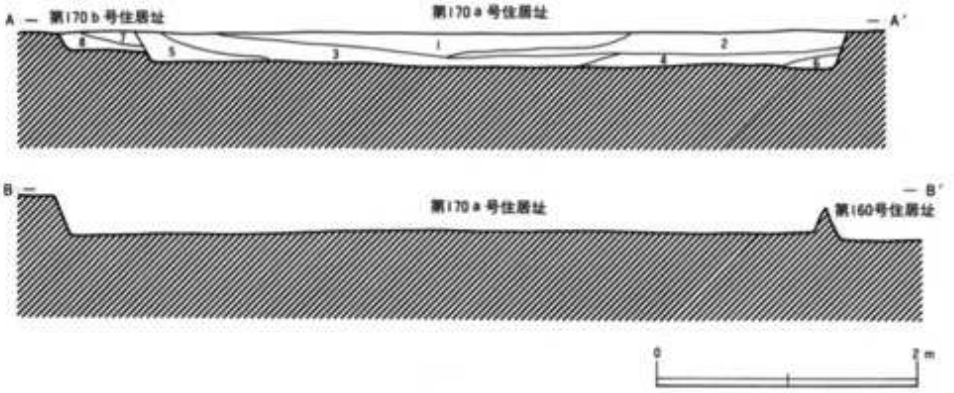
第30図　第169号住居址カマド

第170a・b号住居址（第31図）



第31図　第170a・b号住居址

第170a・b 号住居址（第32図）

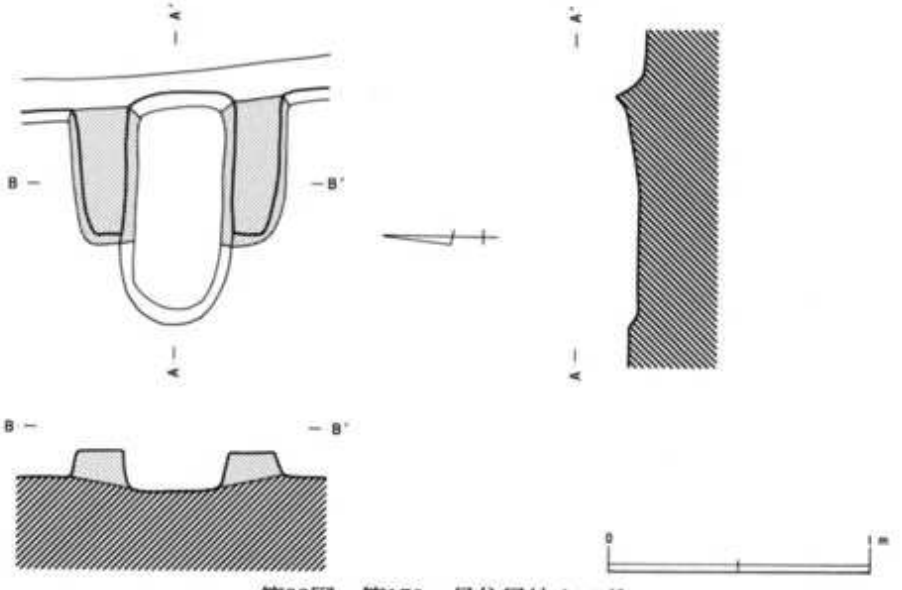


第32図　第170 a・b 号住居址

第170a.b号住居址土層説明

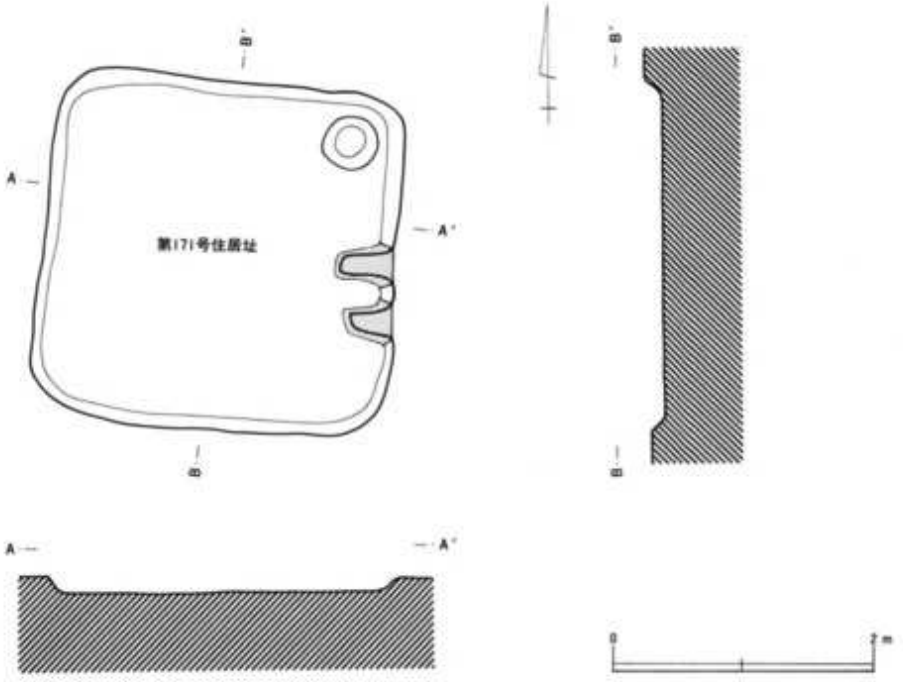
第1層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。径5㎜以下のローム粒子を多量に、径5～20㎜のローム粒を少量含む。また、径5㎜程度の焼土粒・炭化物を微量含む。
第2層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を微量含む。色調は第1層より黒色を帯びる。
第3層	黒褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第4層	黒褐色土	しまり、粘性共に有する。第3層に準ずるが、第3層に比べてローム粒子・ローム粒の含有量が少ない。
第5層	黒色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第6層	黒色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。
第7層	黒褐色土	しまりやや強く、粘性を有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第8層	黒色土	しまりやや強く、粘性を有する。ローム粒子を少量含む。

第170a 号住居址カマド（第33図）



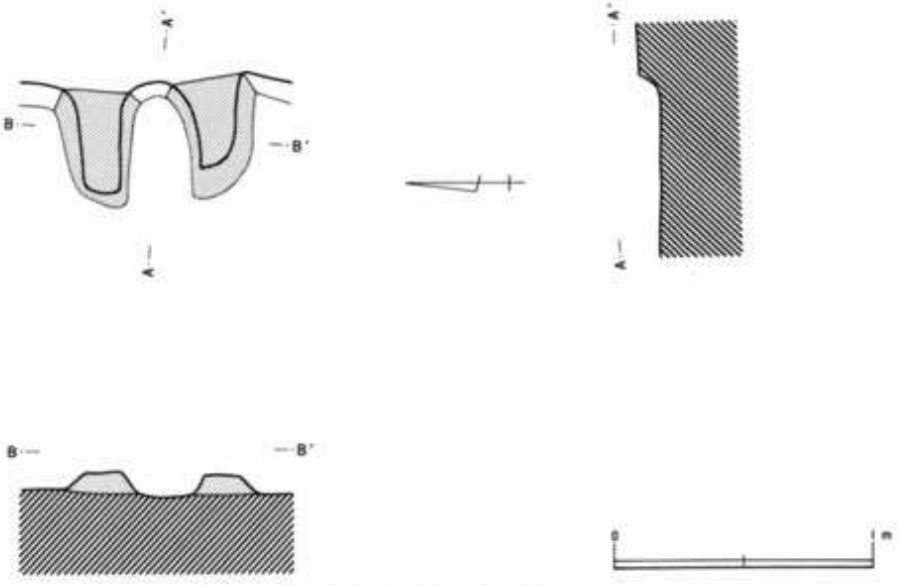
第33図　第170 a 号住居址カマド

第171号住居址（第34図　図版118－1）



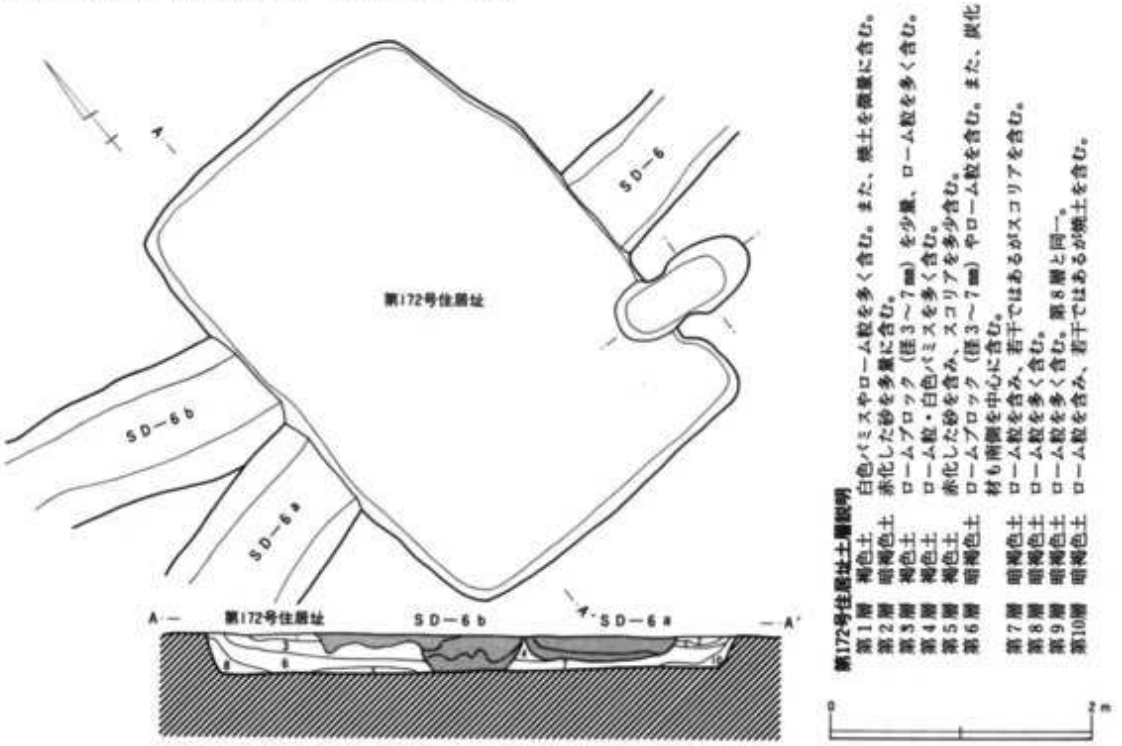
第34図　第171号住居址

第171号住居址カマド（第35図　図版118－2）



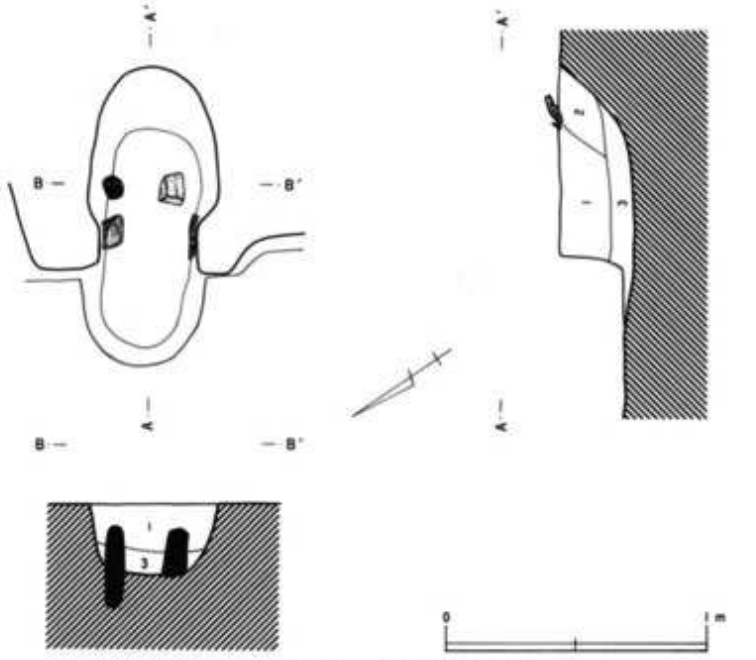
第35図　第171号住居址カマド

第172号住居址（第36図　図版119－２）



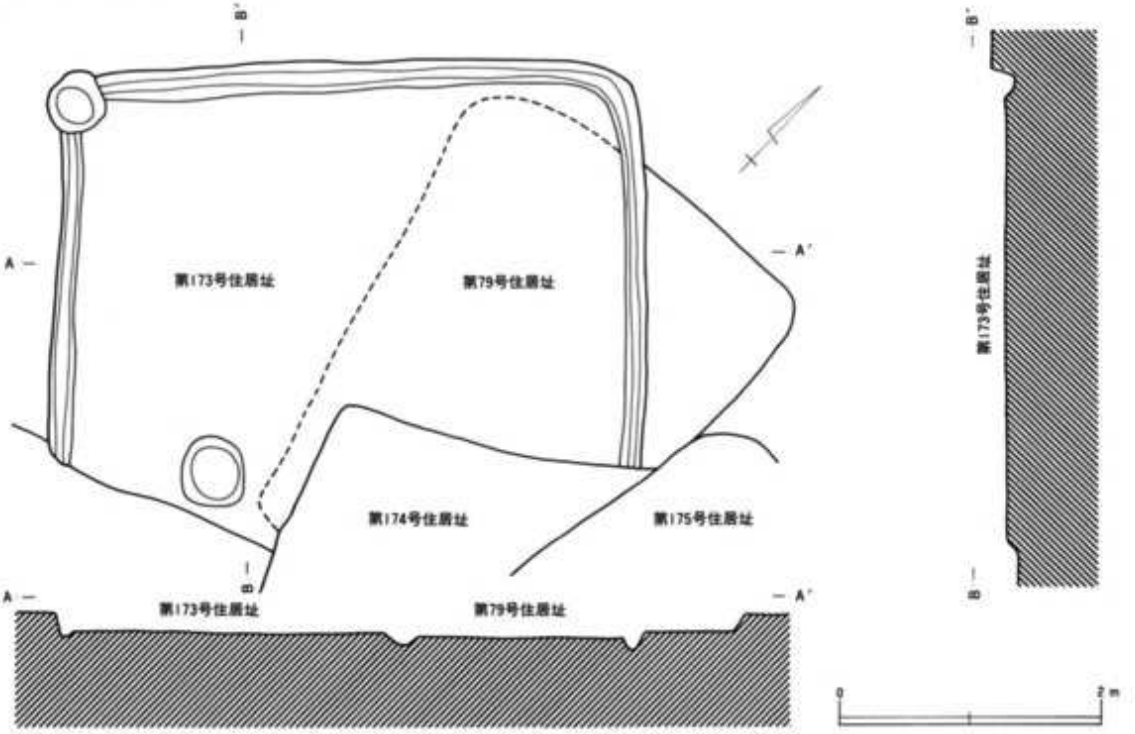
第36図　第172号住居址

第172号住居址カマド（第37図　図版120－１・２）



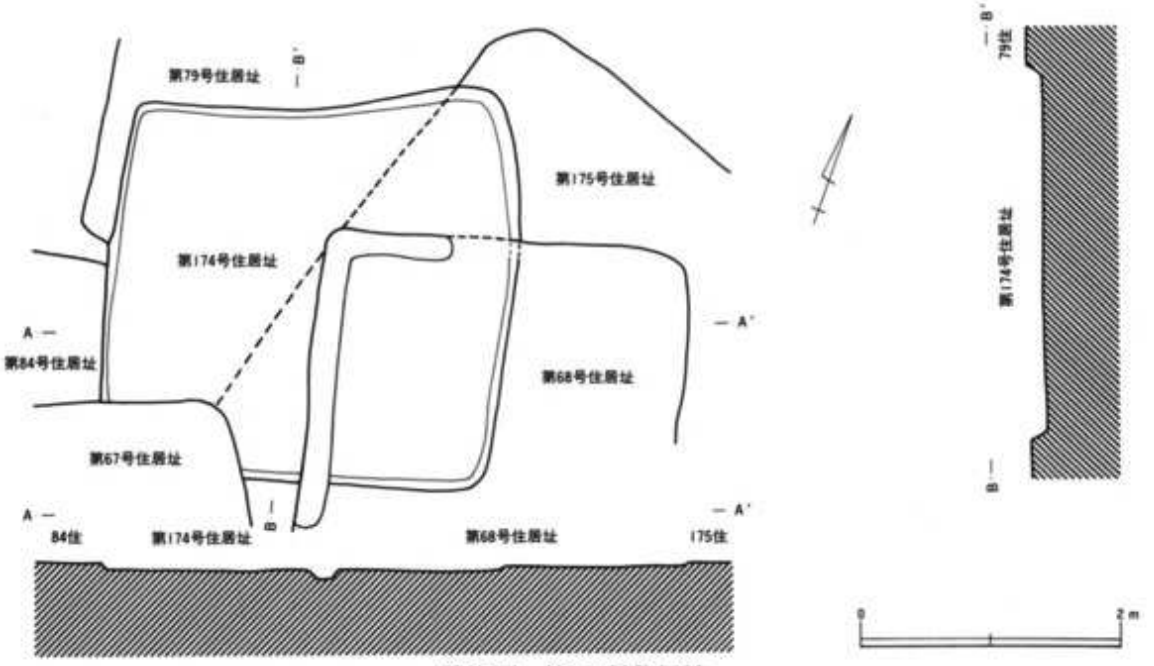
第37図　第172号住居址カマド

第173号住居址（第38図）



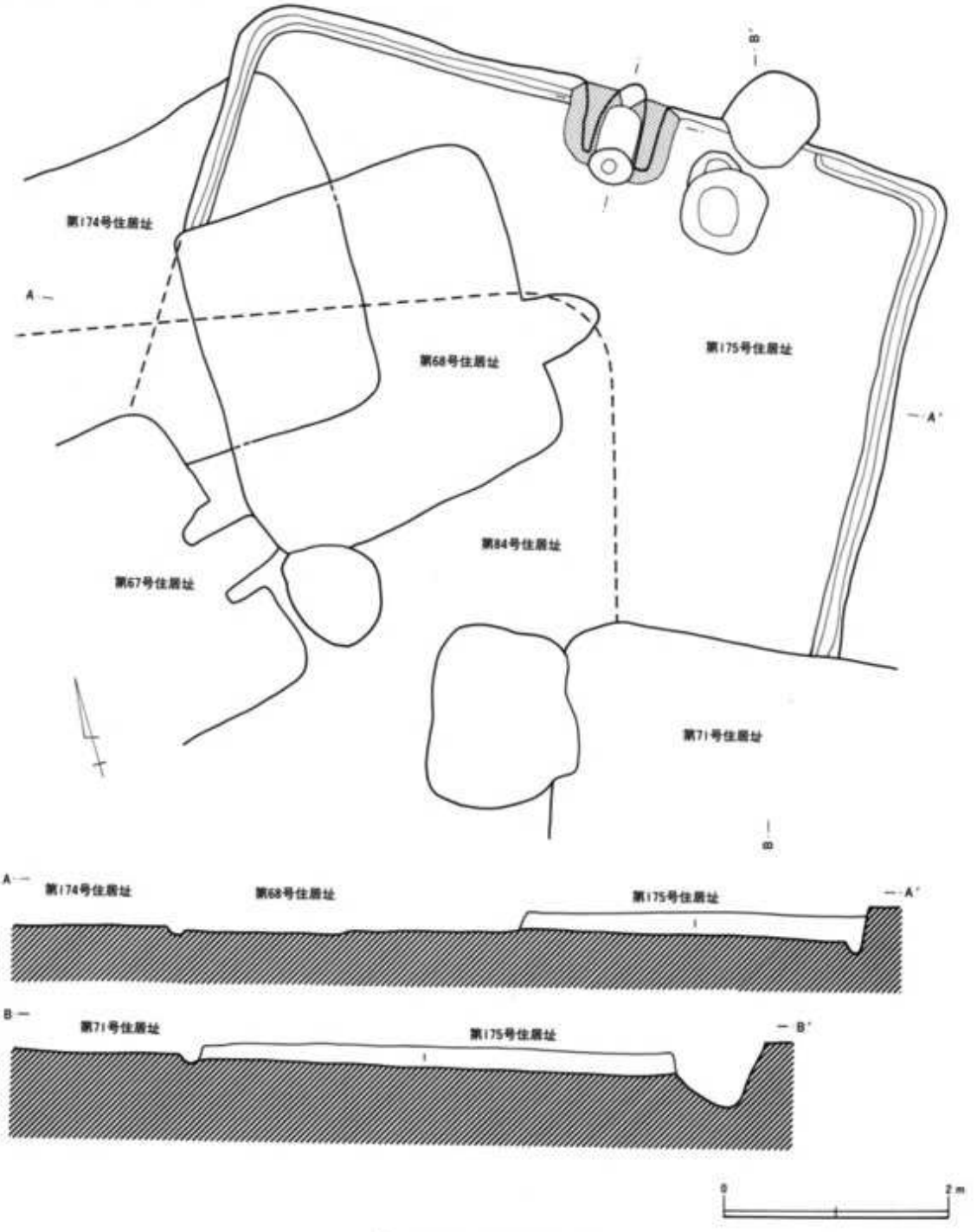
第38図　第173号住居址

第174号住居址（第39図）



第39図　第174号住居址

第175号住居址（第40図）

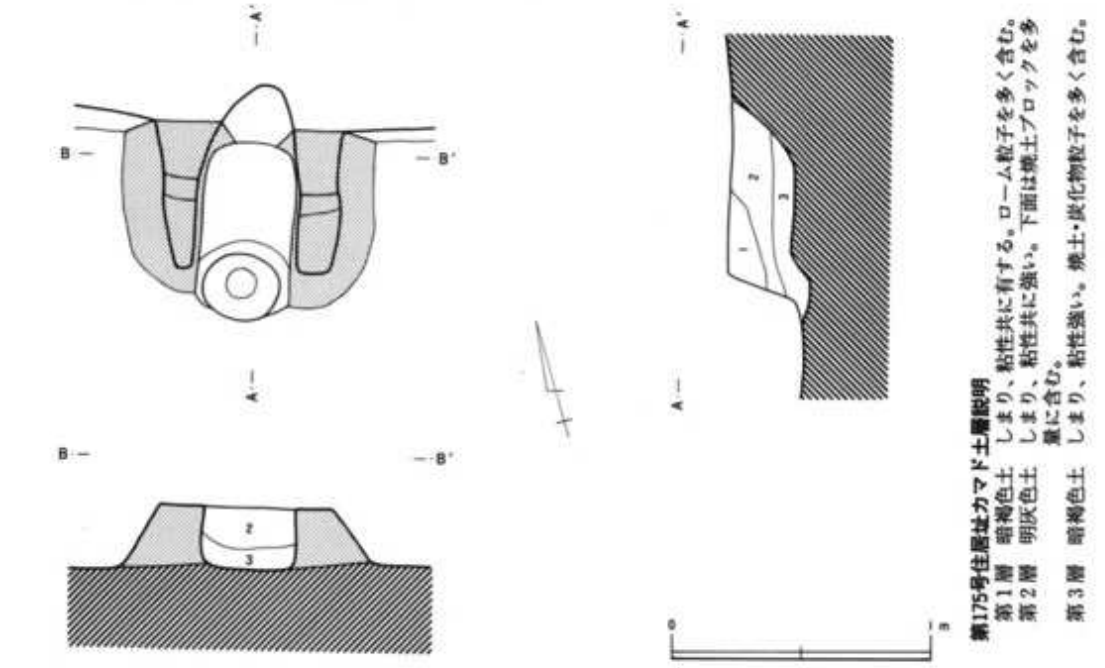


第40図　第175号住居址

第175号住居址土層説明

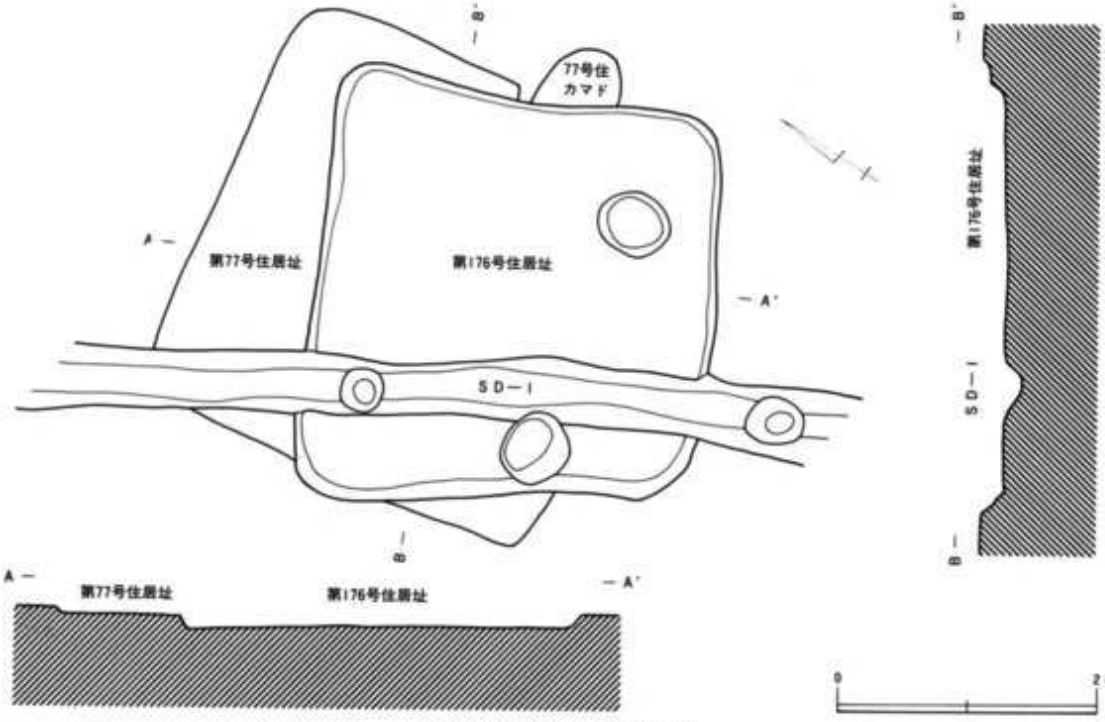
第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に弱い。ローム粒子を多く含む。

第175号住居址カマド（第41図　図版121－1）



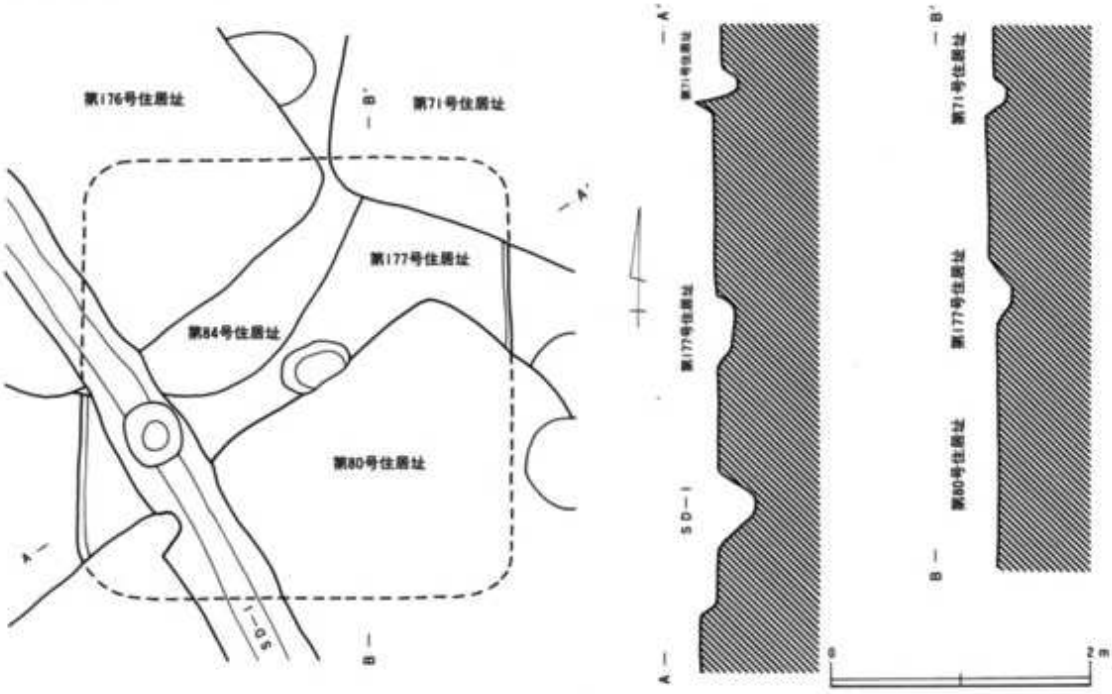
第41図　第175号住居址カマド

第176号住居址（第42図）



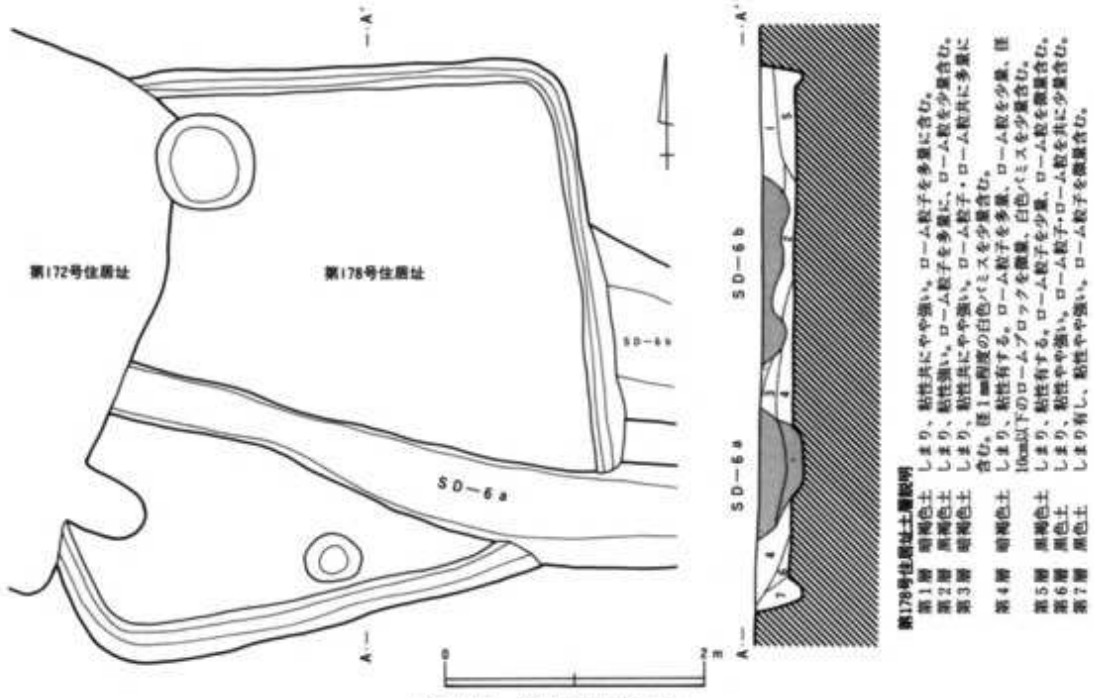
第42図　第176号住居址

第177号住居址（第43図）



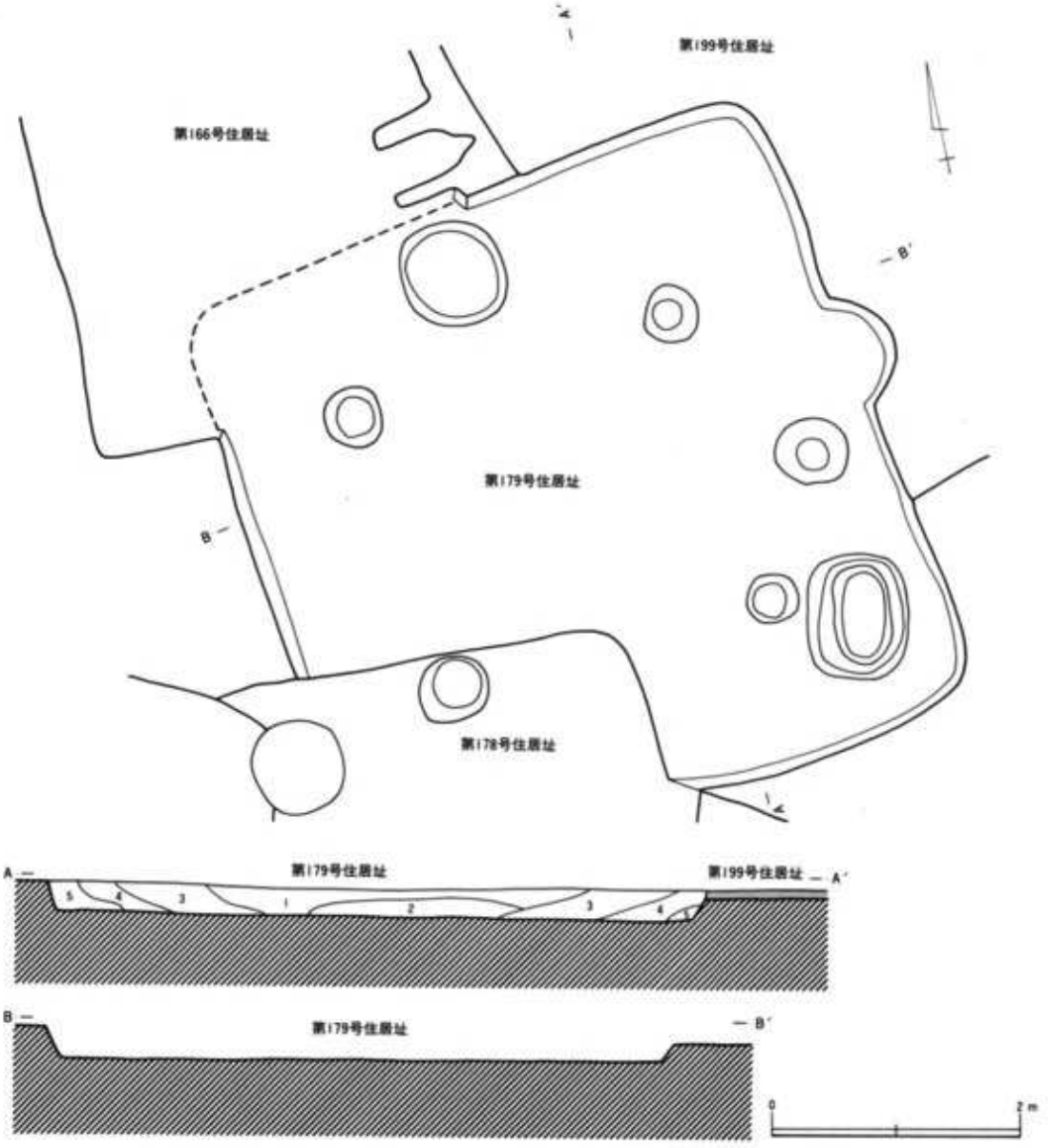
第43図　第177号住居址

第178号住居址（第44図　図版121－2）



第44図　第178号住居址

第179号住居址（第45図　図版122－1）



第45図　第179号住居址

第179号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径5mm以下のローム粒子を多量に、径5～20mmのローム粒を少量含む。また、径5～10mmの焼土粒・炭化物を少量含む。

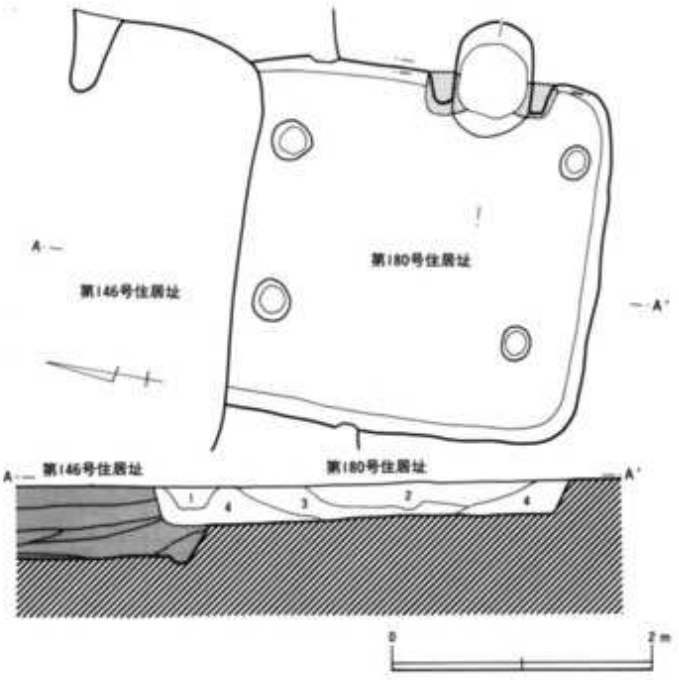
第2層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。径5mm以下のローム粒子を多量に、径5～20mmのローム粒径5cm以下のロームブロック、焼土粒・炭化物を少量含む。

第3層　暗褐色土　しまり強く粘性を有する。ローム粒子・ローム粒共に少量含む。また、微粒子の砂が少量混入する。

第4層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。

第5層　黒褐色土　しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を少量含む。

第180号住居址（第46図）

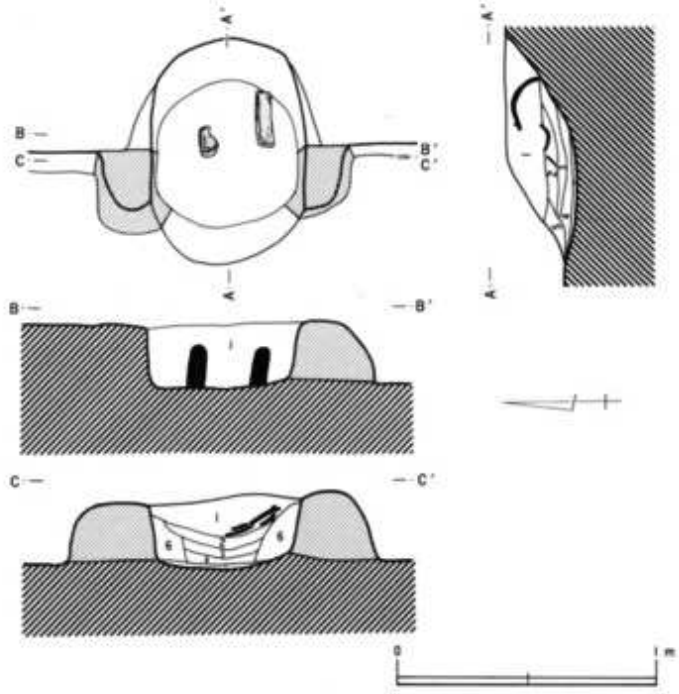


第180号住居址土層説明

第1層	暗褐色土	しまり、粘性共に弱い。全体に径1mm程度の砂が混入し、同径の白色パミスと径5～10mmのローム粒を含む。
第2層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。径1mm程度の白色パミスと径1～5mmのローム粒子を均質に含み、径5～20mmのローム粒と径5～10mmの焼土粒を少量含む。
第3層	暗灰褐色土	しまり、粘性有する。径1mm程度の白色パミスと径1～5mmのローム粒子を均質に含むが第2層に比べて粒子が粗い。
第4層	暗褐色土	第2層に準ずるが、径5～20mmのローム粒を多く含む。

第46図　第180号住居址

第180号住居址カマド（第47図）

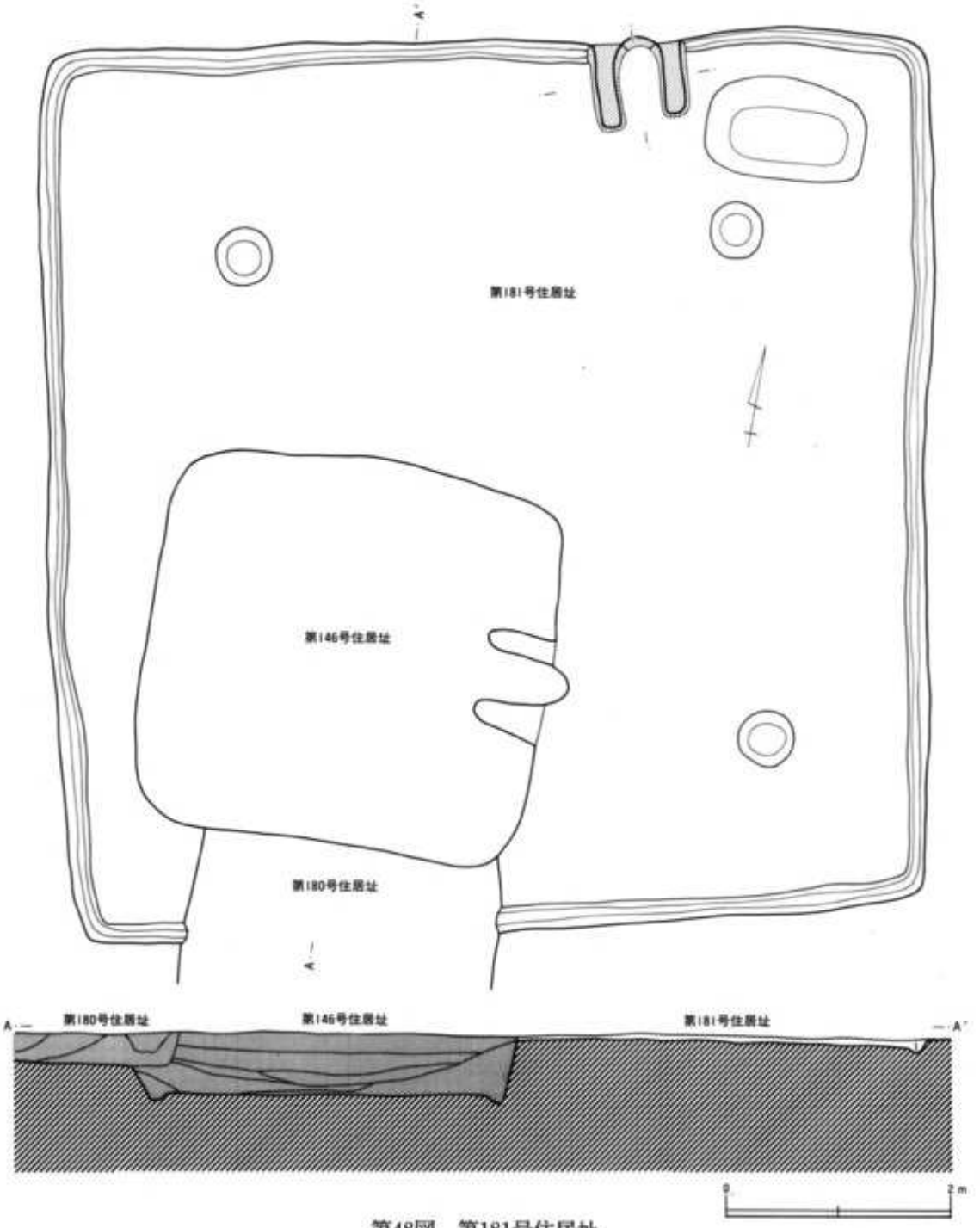


第180号住居址カマド土層説明

第1層	黒褐色土	焼土粒を含むフク土層。
第2層	褐色粘土	比較的均一の層。天井部。
第3層	焼土	ブロック粒子。天井焼土。
第4層	黒色土	炭化物・焼土粒を含む。燃焼部。
第5層	黒褐色土	焼土粒・粘土を含む。第1層に準ずる。
第6層	褐色粘質土	粘土・焼土塊を含む。内壁剥落あり。
第7層	黒色土	炭化物・焼土粒を含む。

第47図　第180号住居址カマド

第181号住居址（第48図　図版123－1）

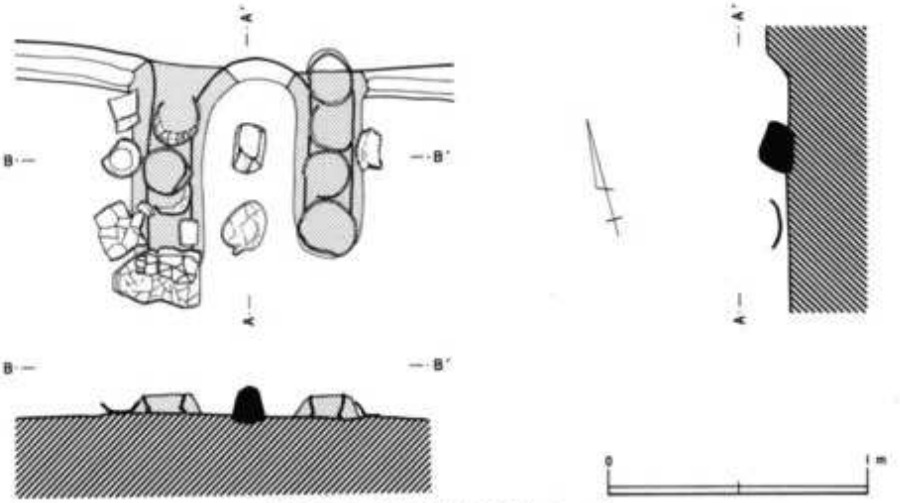


第48図　第181号住居址

第181号住居址土層説明

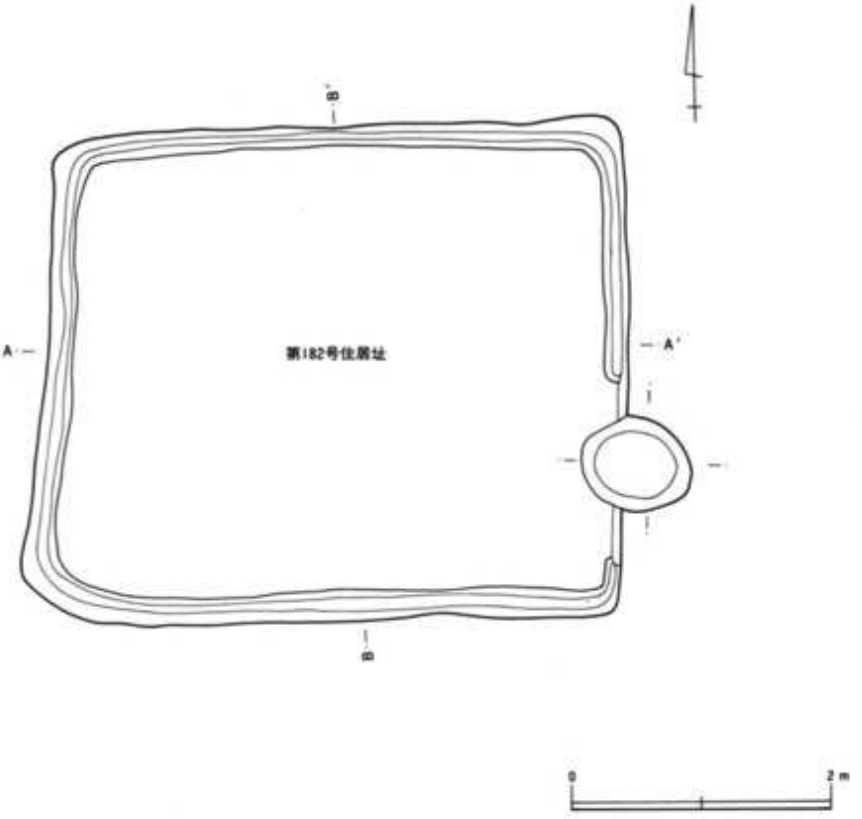
第1層　暗褐色土　しまり強く粘性をやや有する。径1㎜程度の白色パミスと径1～5㎜のローム粒を多く含む。

第181号住居址カマド（第49図　図版123－２）



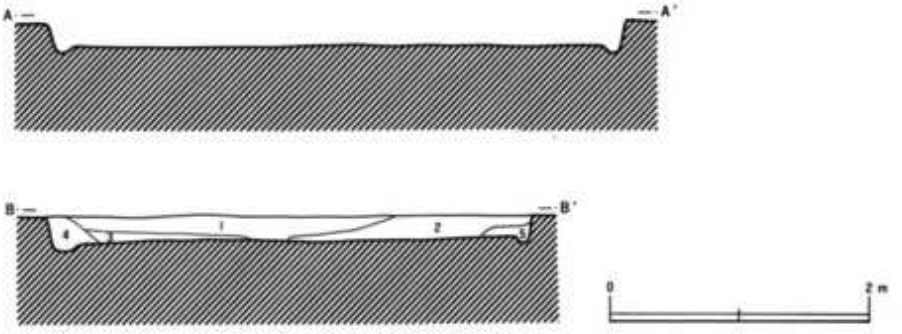
第49図　第181号住居址カマド

第182号住居址（第50図　図版124－１）



第50図　第182号住居址

第182号住居址（第51図）

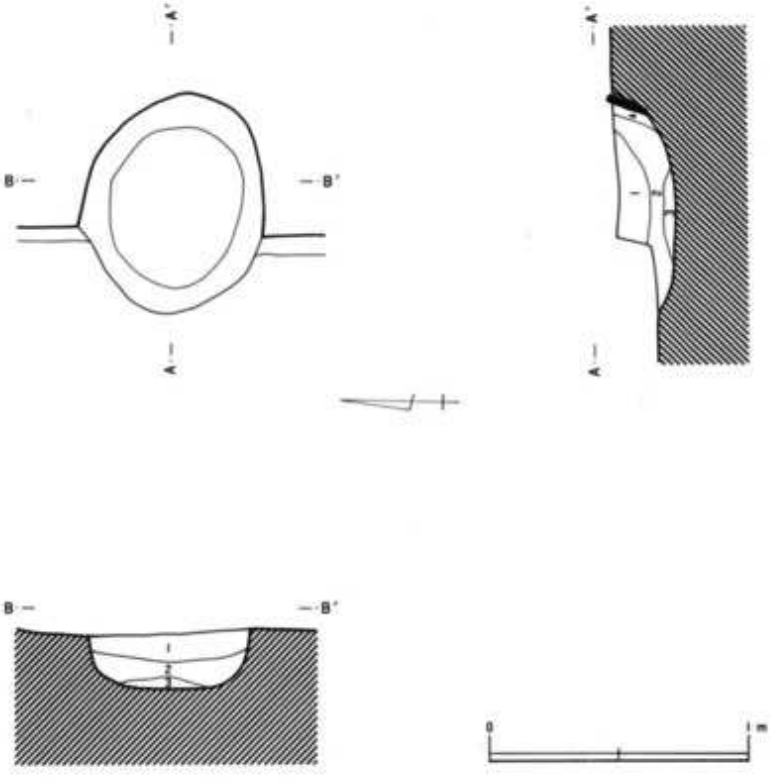


第51図　第182号住居址

第182号住居址土層説明

第１層	暗褐色土	しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を多量、ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
第２層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒・焼土粒・炭化物を微量含む。
第３層	暗灰褐色土	しまり、粘性共に強い。ローム粒子・ローム粒・炭化物を少量含み、焼土粒とロームブロックを微量含む。
第４層	暗灰褐色土	しまり、粘性有する。ローム粒子・ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
第５層	暗灰褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子・ローム粒を微量含む。

第182号住居址カマド（第52図　図版124－２）

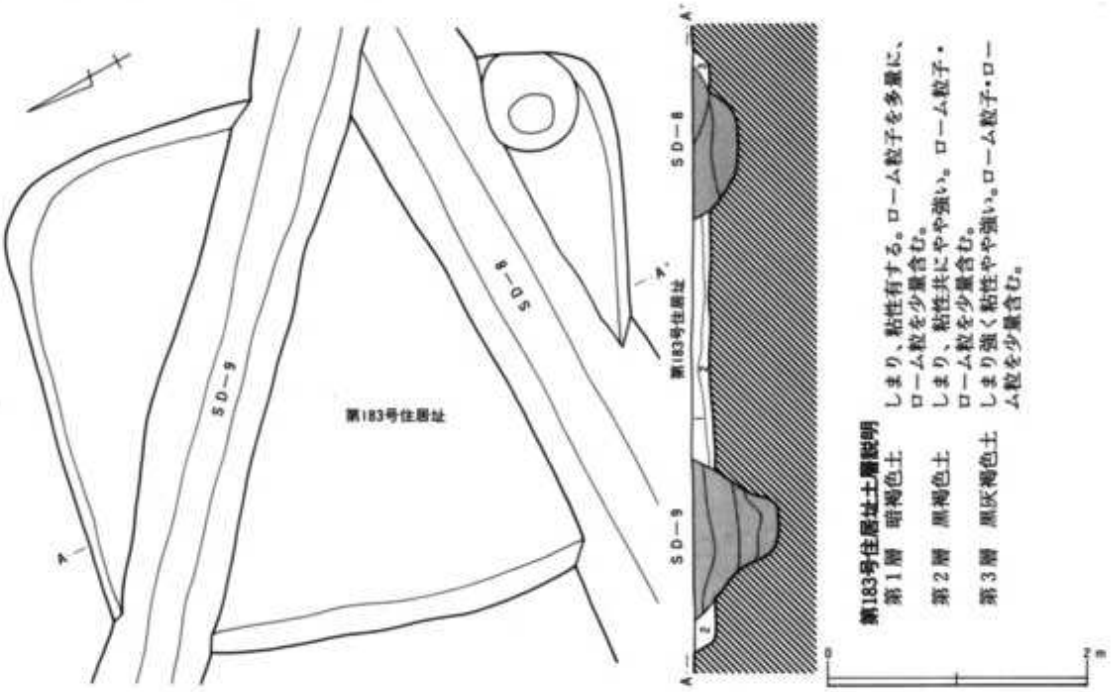


第182号住居址カマド土層説明

第１層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム微粒子・焼土微粒子を多く含む。
第２層	暗赤褐色土	しまり、粘性共に有する。焼土ブロックを多く含む。
第3.4層	赤色土	焼面。

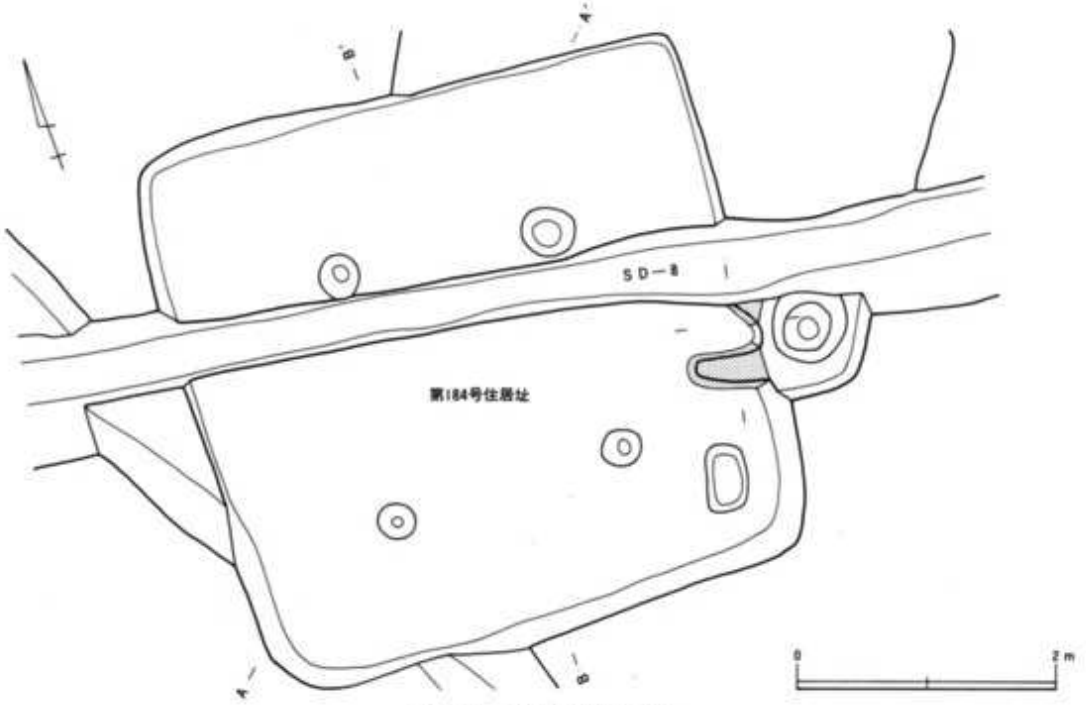
第52図　第182号住居址カマド

第183号住居址（第53図　図版125－1）



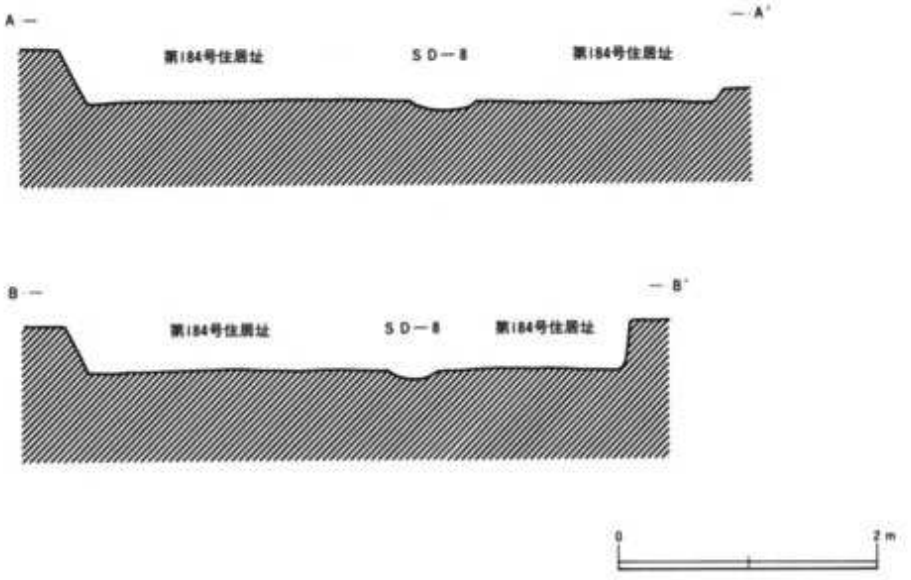
第53図　第183号住居址

第184号住居址（第54図　図版125－2）



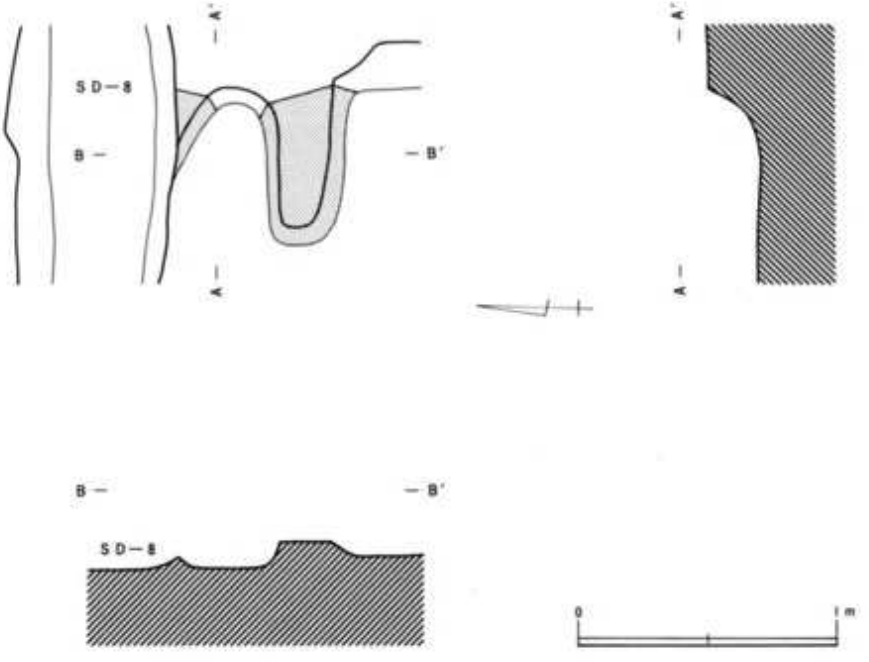
第54図　第184号住居址

第184号住居址（第55図）



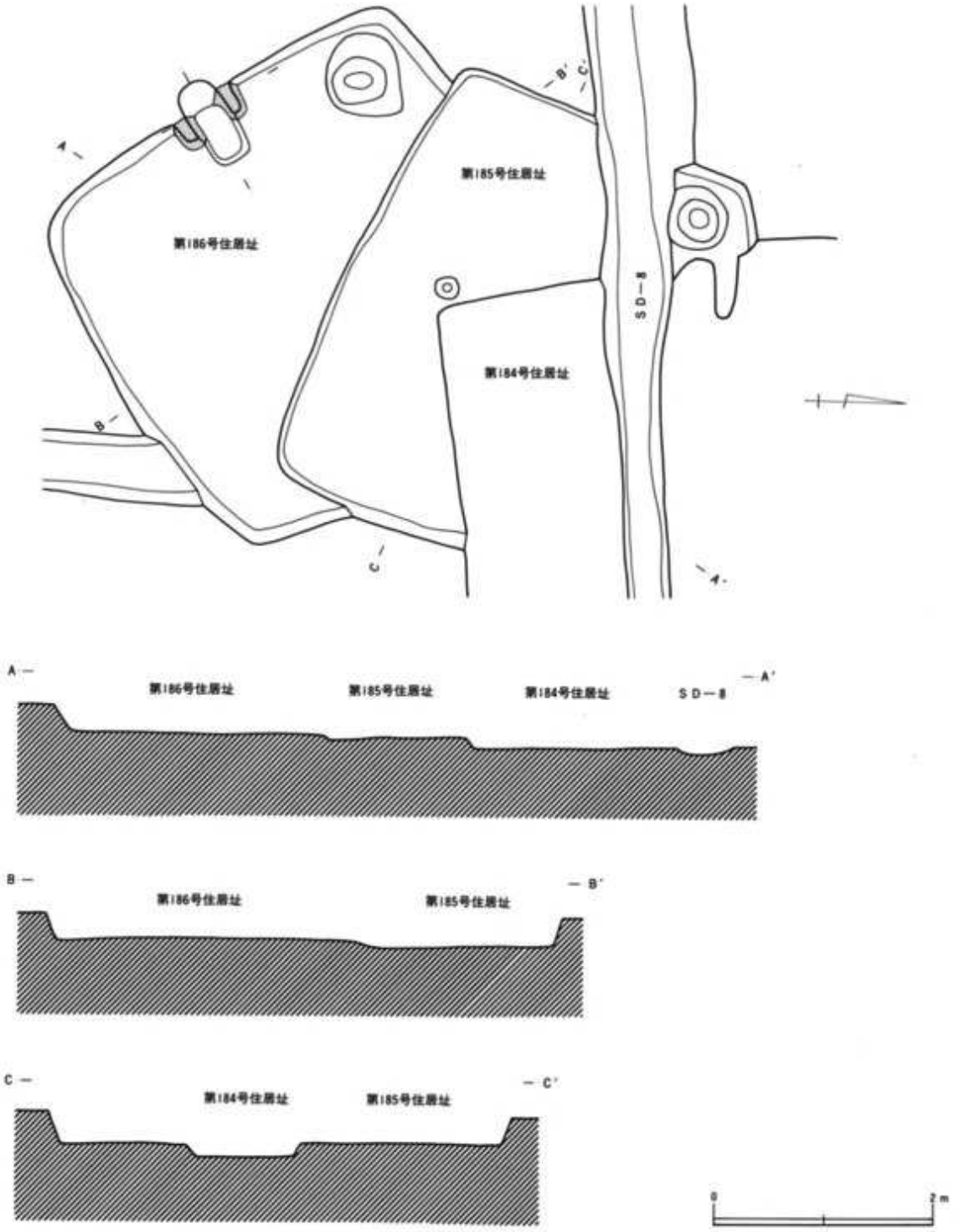
第55図　第184号住居址

第184号住居址カマド（第56図　図版126—1）



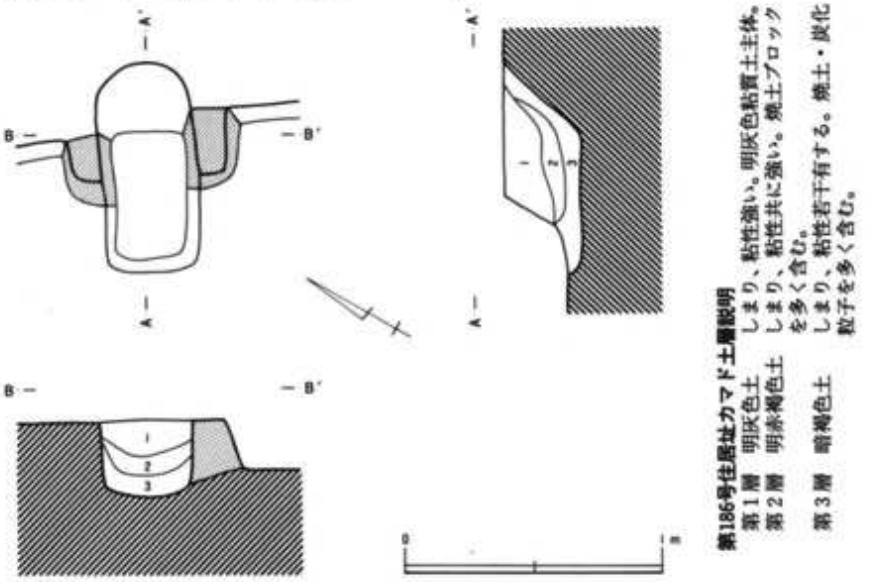
第56図　第184号住居址カマド

第185・186号住居址（第57図　図版125－２）



第57図　第185・186号住居址

第186号住居址カマド（第58図　図版126－２）

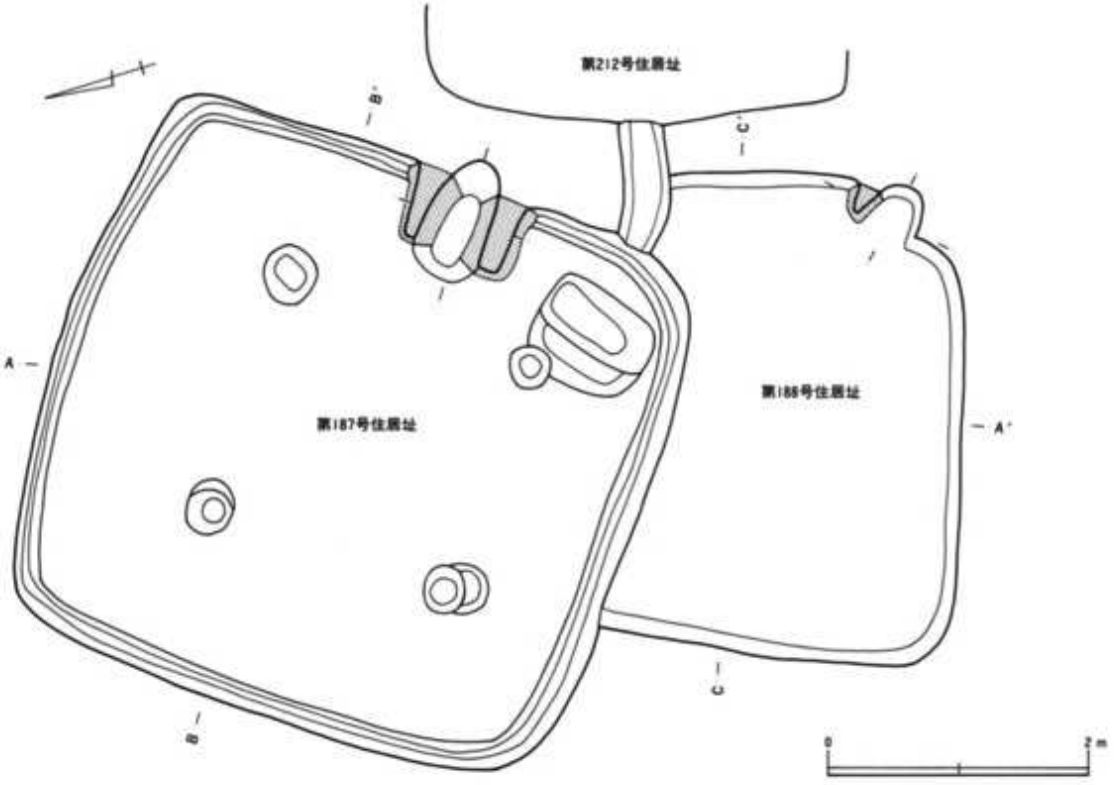


第186号住居址カマド土層説明

第１層	明灰色土	しまり、粘性強い。明灰色粘質土主体。
第２層	明赤褐色土	しまり、粘性共に強い。焼土ブロックを多く含む。
第３層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。焼土・炭化粒子を多く含む。

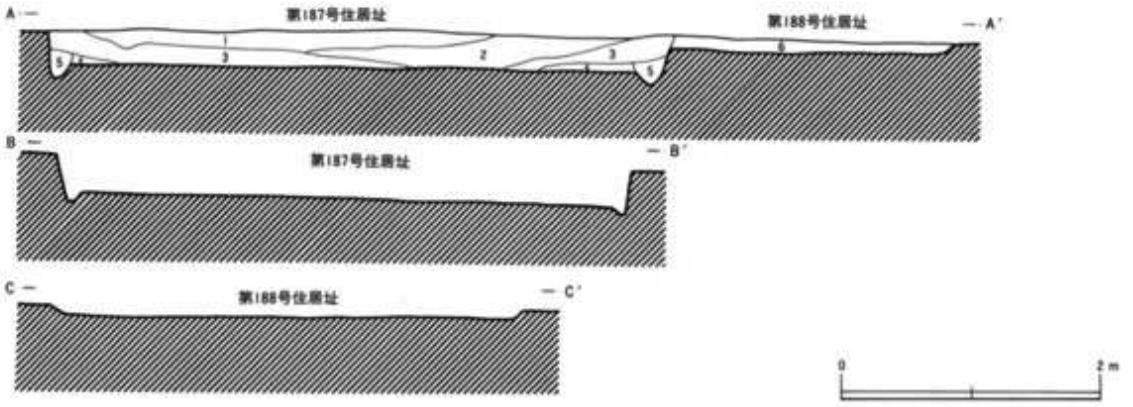
第58図　第186号住居址カマド

第187・188号住居址（第59図　図版127－１）



第59図　第187・188号住居址

第187・188号住居址（第60図）

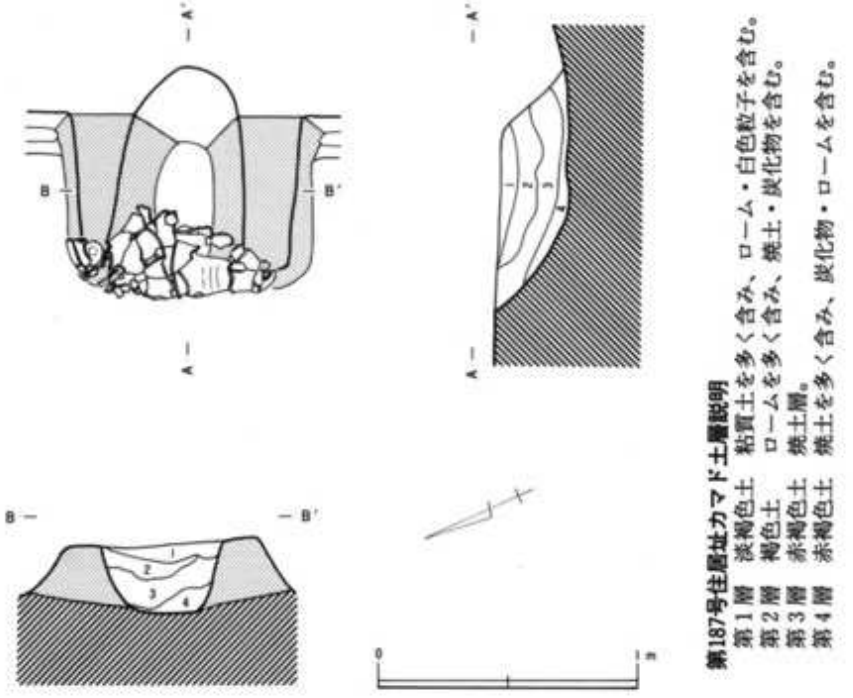


第60図　第187・188号住居址

第187・188号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径１～５㎜のローム粒子を多量に含み、径10～30㎜のローム粒を少量含む。
第２層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。第１層に準ずるが、色調がやや黒色を帯び、白灰色の粘土ブロックが部分的に混入する。
第３層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第４層　黒色土　しまり有し粘性やや強い。ローム粒子・ローム粒共に少量含む。
第５層　黒色土　しまり有し粘性やや強い。ローム粒子を微量含む。
第６層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。

第187号住居址カマド（第61図　図版127－２）

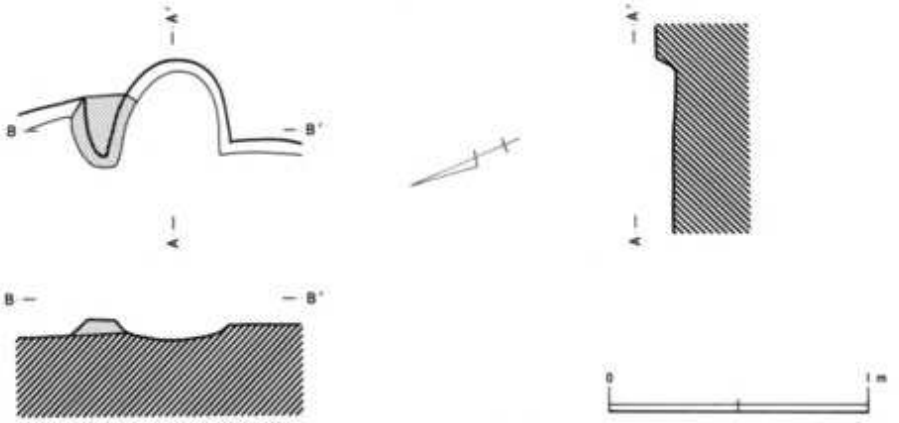


第187号住居址カマド土層説明

第１層　淡褐色土　粘質土を多く含み、ローム・白色粒子を含む。
第２層　褐色土　ロームを多く含み、焼土・炭化物を含む。
第３層　赤褐色土　焼土層。
第４層　赤褐色土　焼土を多く含み、炭化物・ロームを含む。

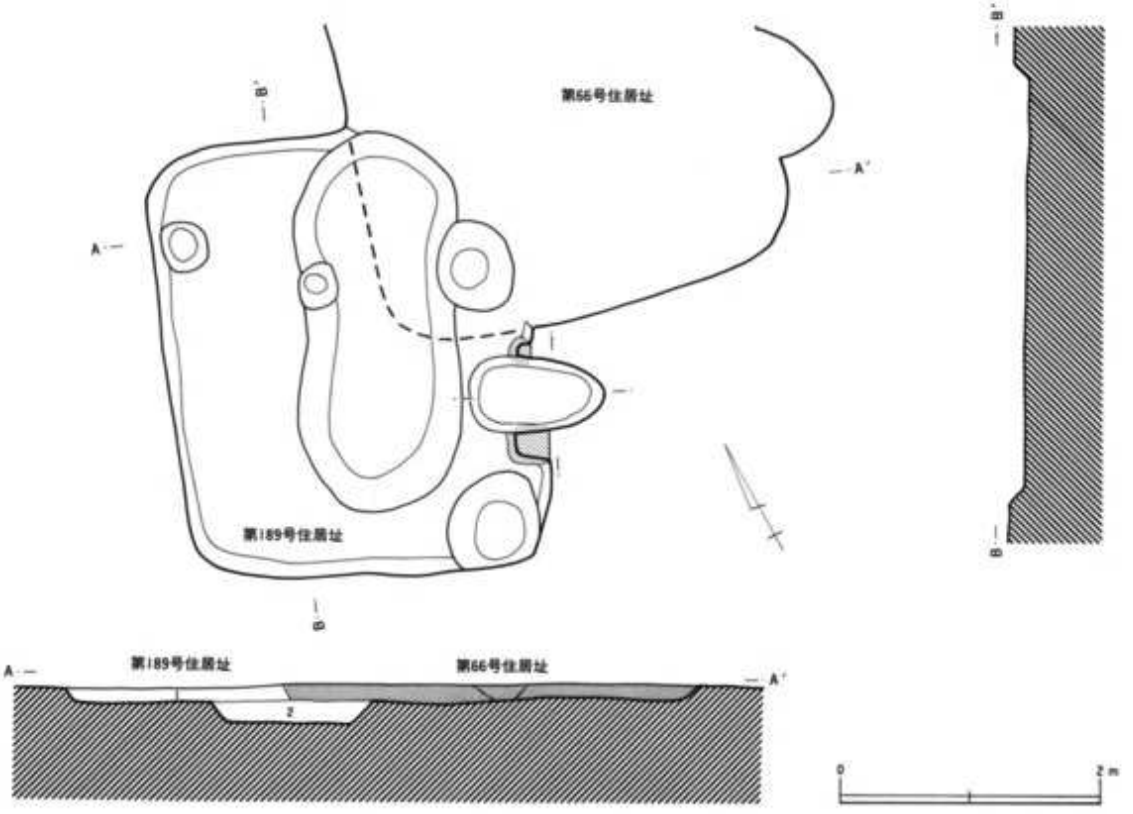
第61図　第187号住居址カマド

第188号住居址カマド（第62図　図版128－1）



第62図　第188号住居址カマド

第189号住居址（第63図）



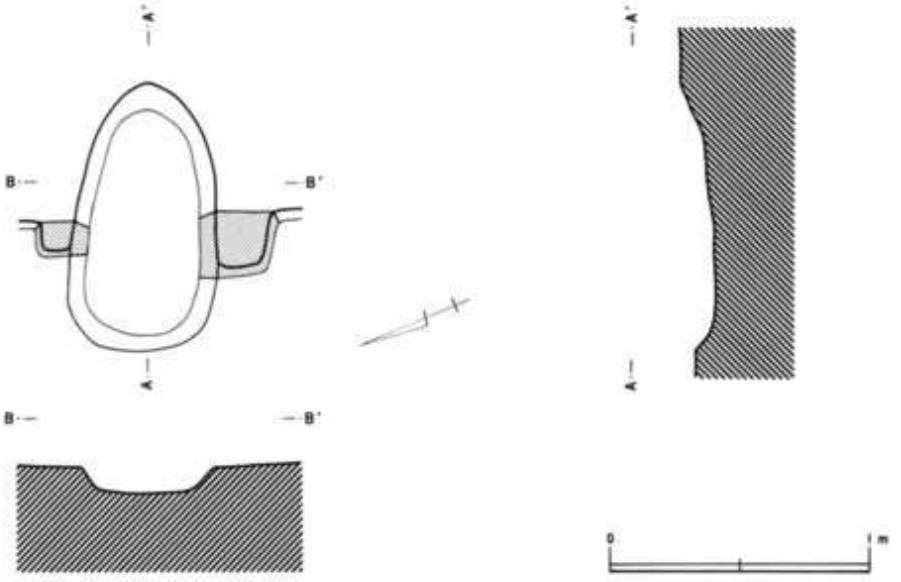
第63図　第189号住居址

第189号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多くローム粒を少量含む。

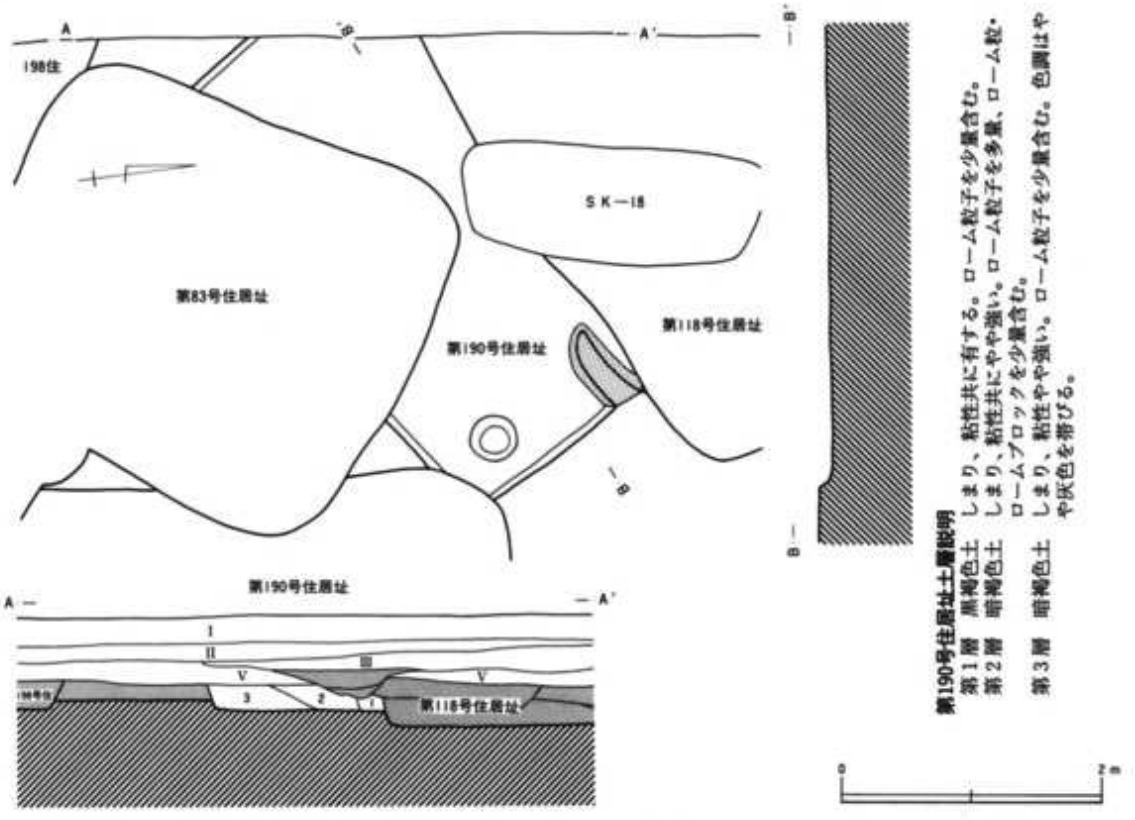
第２層　暗灰褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子・ローム粒を少量含み、径10cm以下のローム ブロックを微量含む。

第189号住居址カマド（第64図　図版128－２）



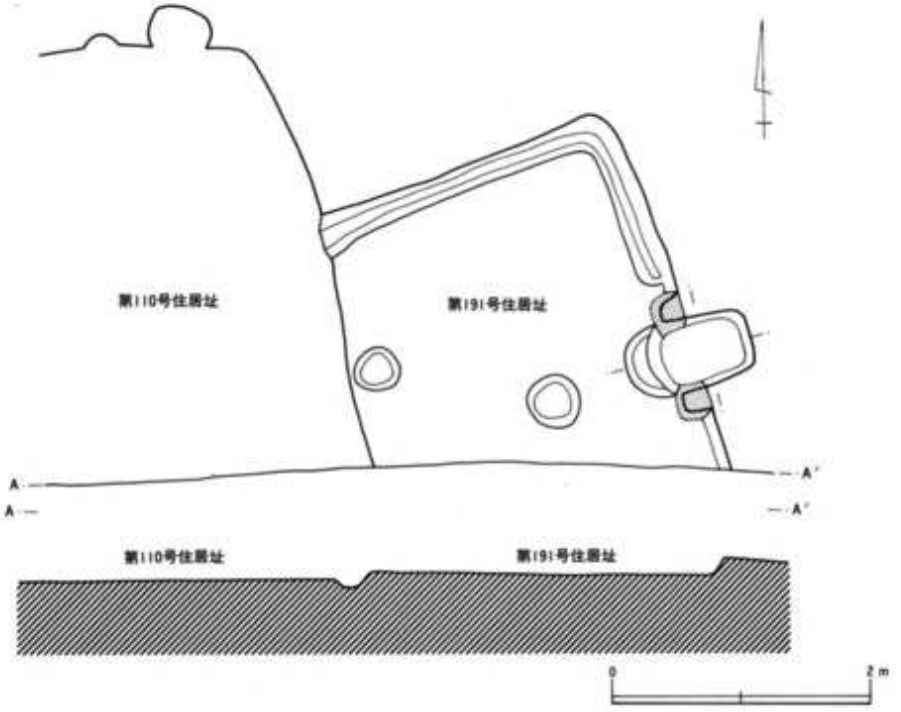
第64図　第189号住居址カマド

第190号住居址（第65図）



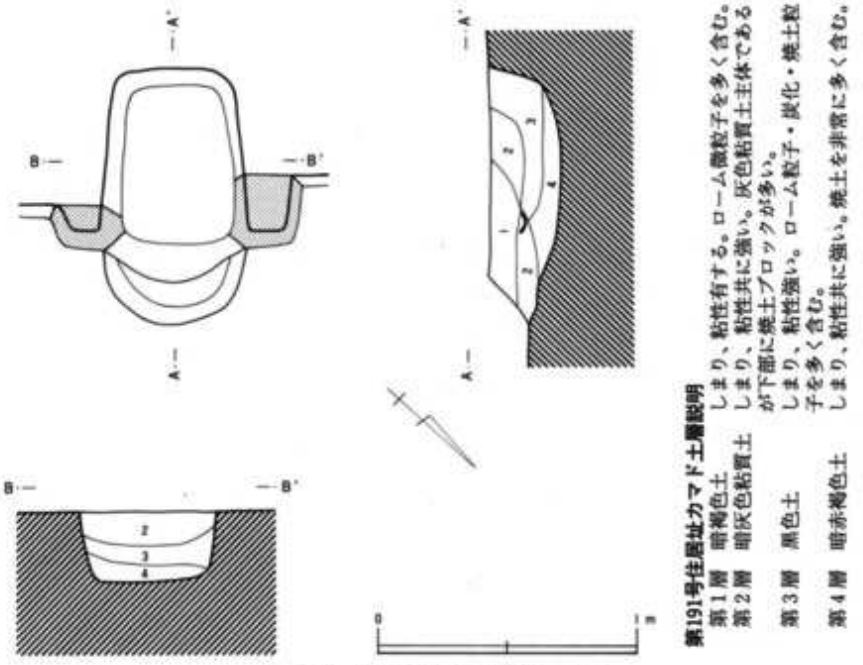
第65図　第190号住居址

第191号住居址（第66図）



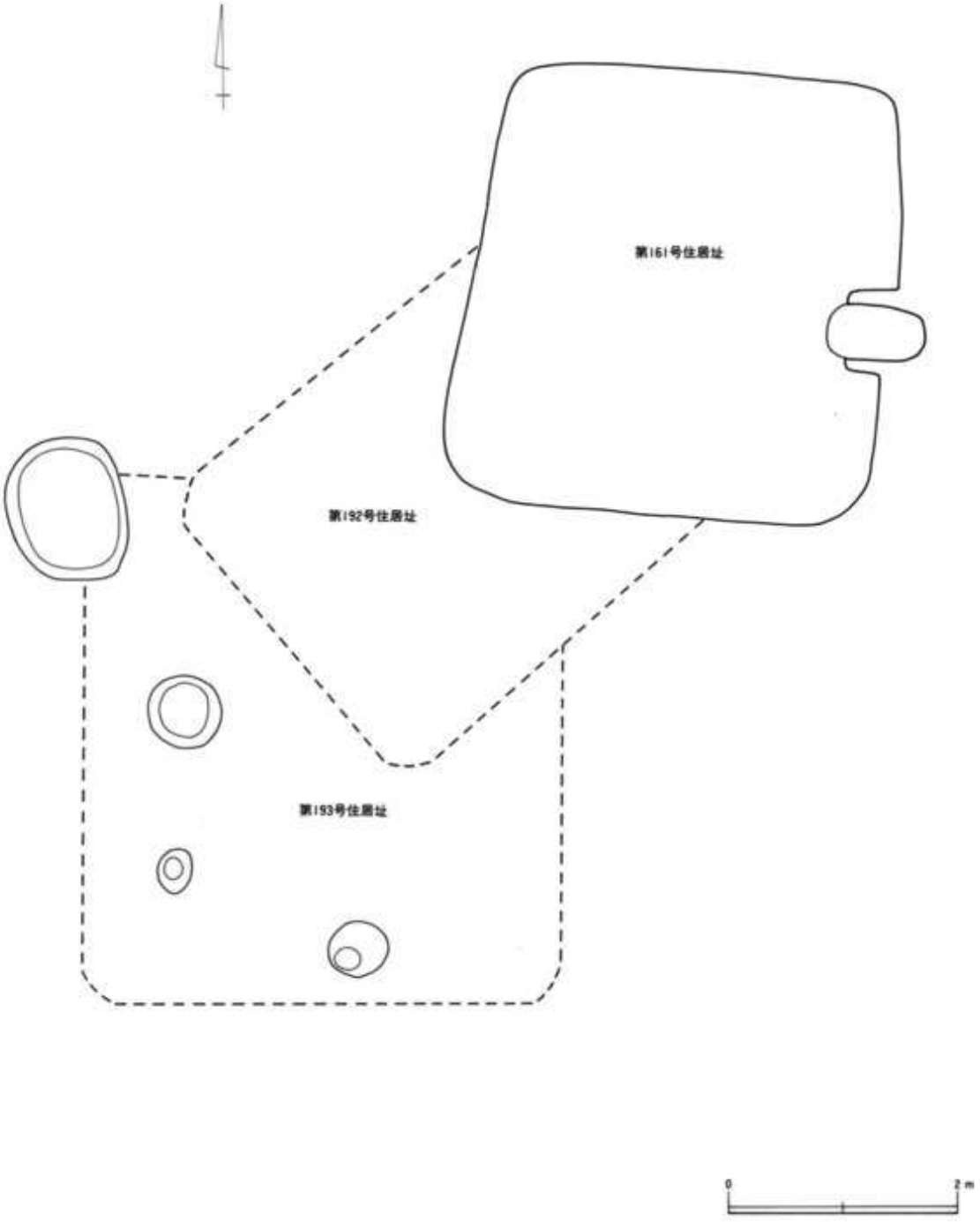
第66図　第191号住居址

第191号住居址カマド（第67図　図版129―１）



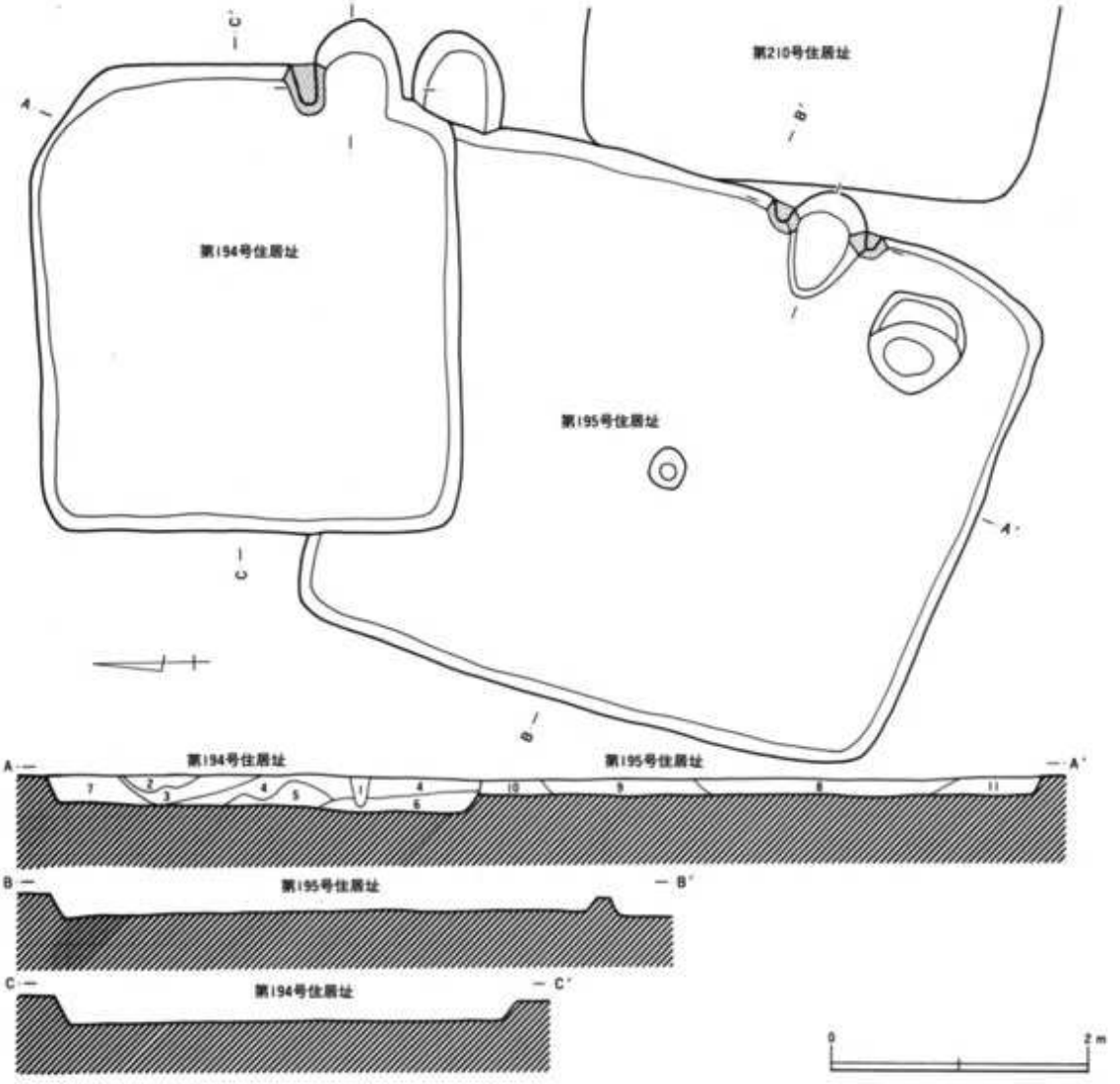
第67図　第191号住居址カマド

第192・193号住居址（第68図）



第68図　第192・193号住居址

第194・195号住居址（第69図　図版130―1・131―1）

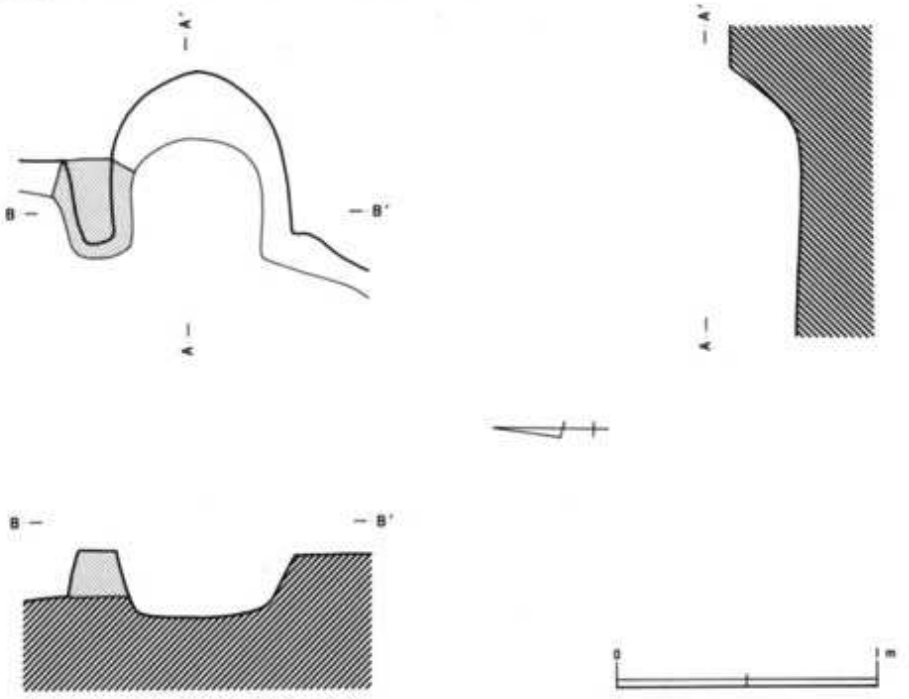


第69図　第194・195号住居址

第194・195号住居址土層説明

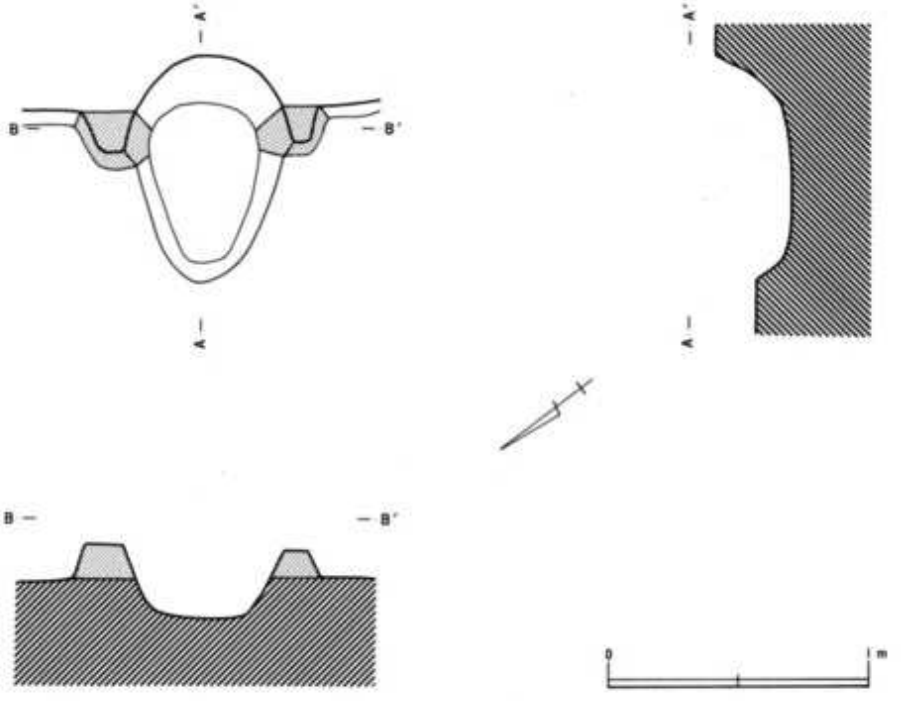
第1層	暗灰色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を少量含む。
第2層	暗褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を少量含む。
第3層	黒灰褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を少量含み、焼土粒を多量、炭化物を少量含む。また、粘土ブロックが一部混入する。
第4層	暗灰褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含み、焼土粒・炭化物を少量含む。
第5層	暗褐色土	しまり有し粘性強い。粘土ブロックを非常に多く含む。
第6層	黒褐色土	しまり有し粘性強い。ローム粒を少量、ローム粒子を微量含む。
第7層	暗灰褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子・ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。焼土粒・炭化物を微量含む。
第8層	暗褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。径1～5㎜のローム粒と同径の焼土粒・炭化物を少量含む。色調はやや灰色を帯びる。
第9層	暗灰褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子・焼土粒・炭化物を微量含む。
第10層	暗灰色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を微量含む。
第11層	暗褐色土	しまりやや弱く、粘性を有する。ローム粒子を多量に、ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。

第194号住居址カマド（第70図　図版130－２）



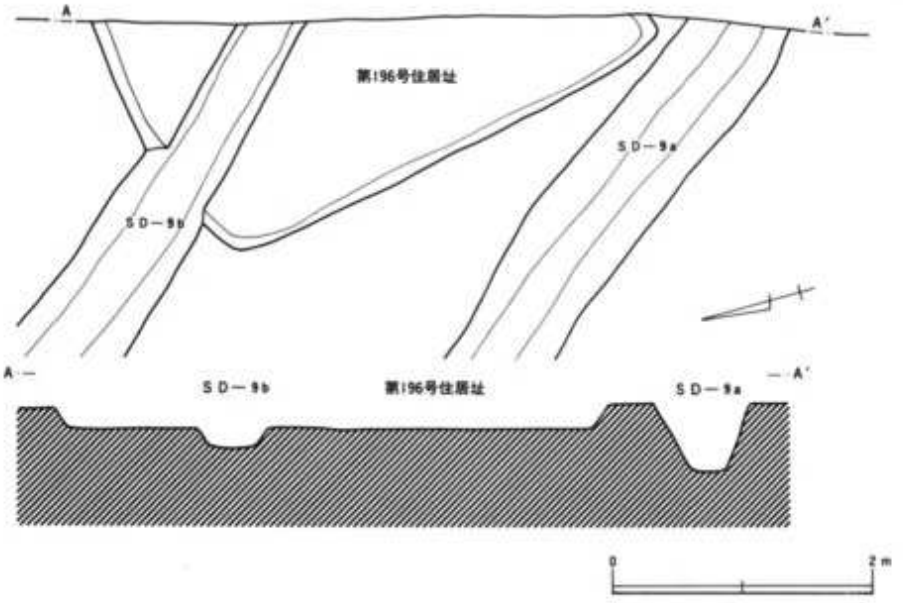
第70図　第194号住居址カマド

第195号住居址カマド（第71図　図版131－２）



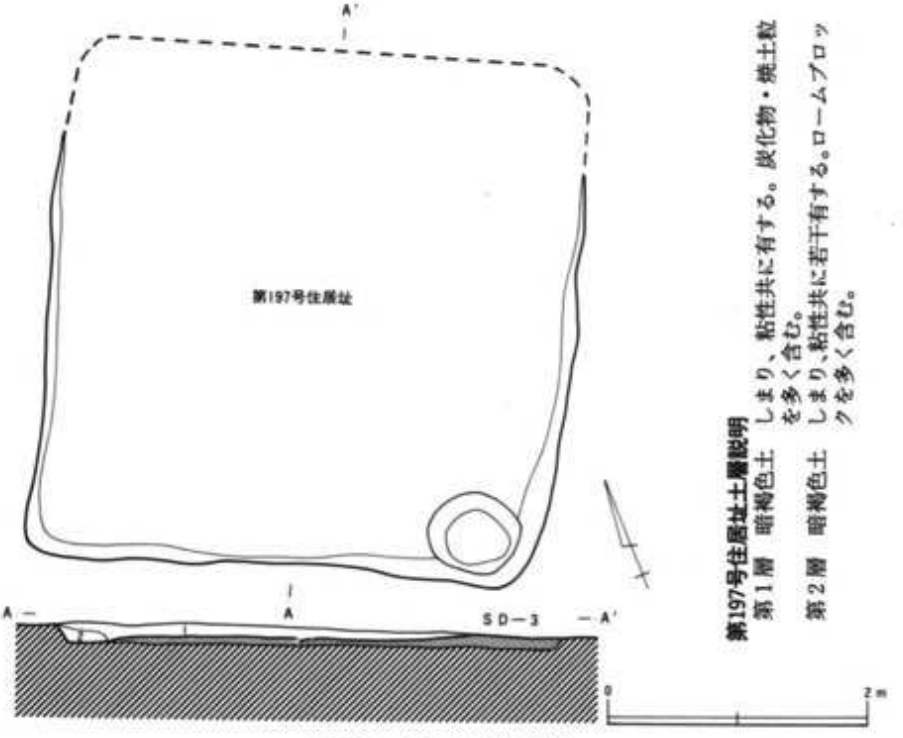
第71図　第195号住居址カマド

第196号住居址（第72図　図版132－1）



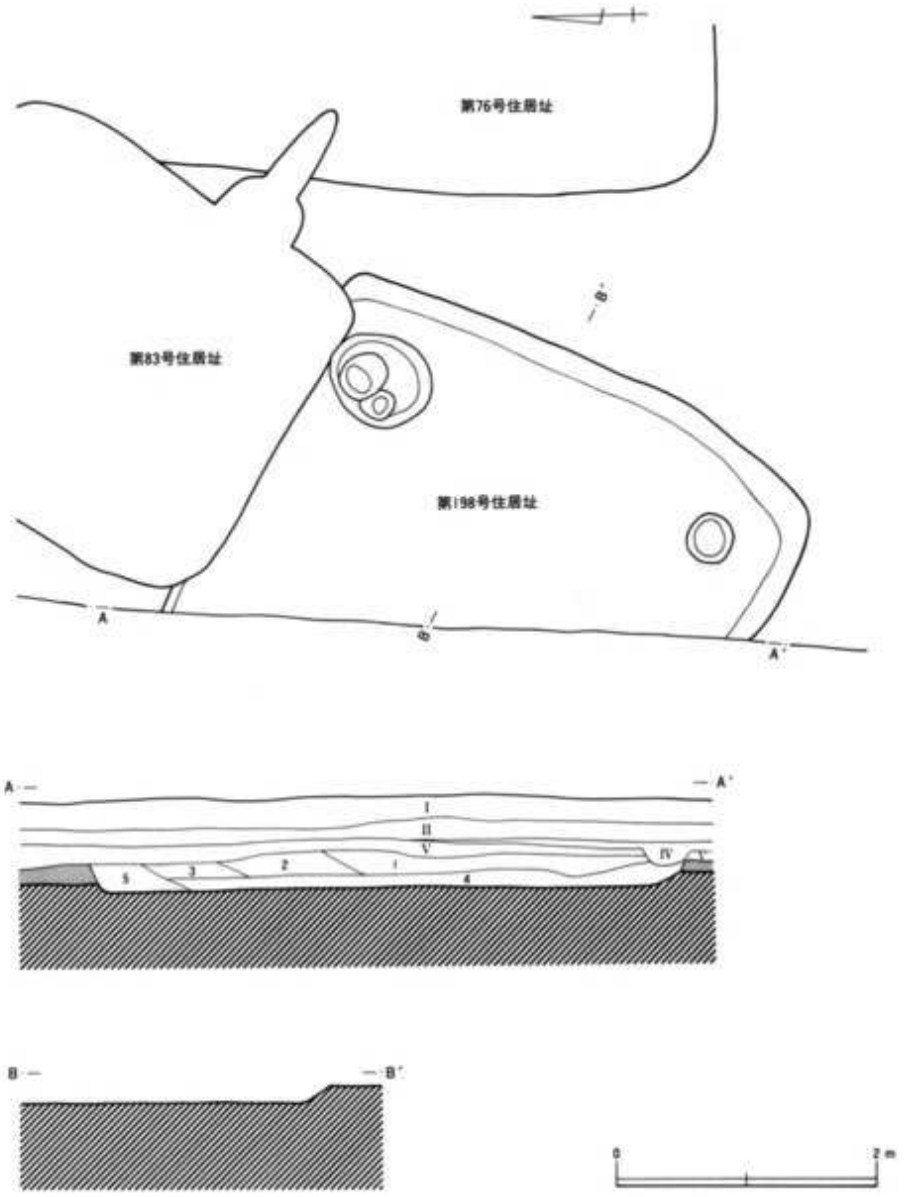
第72図　第196号住居址

第197号住居址（第73図　図版132－2）



第73図　第197号住居址

第198号住居址（第74図　図版133－２）

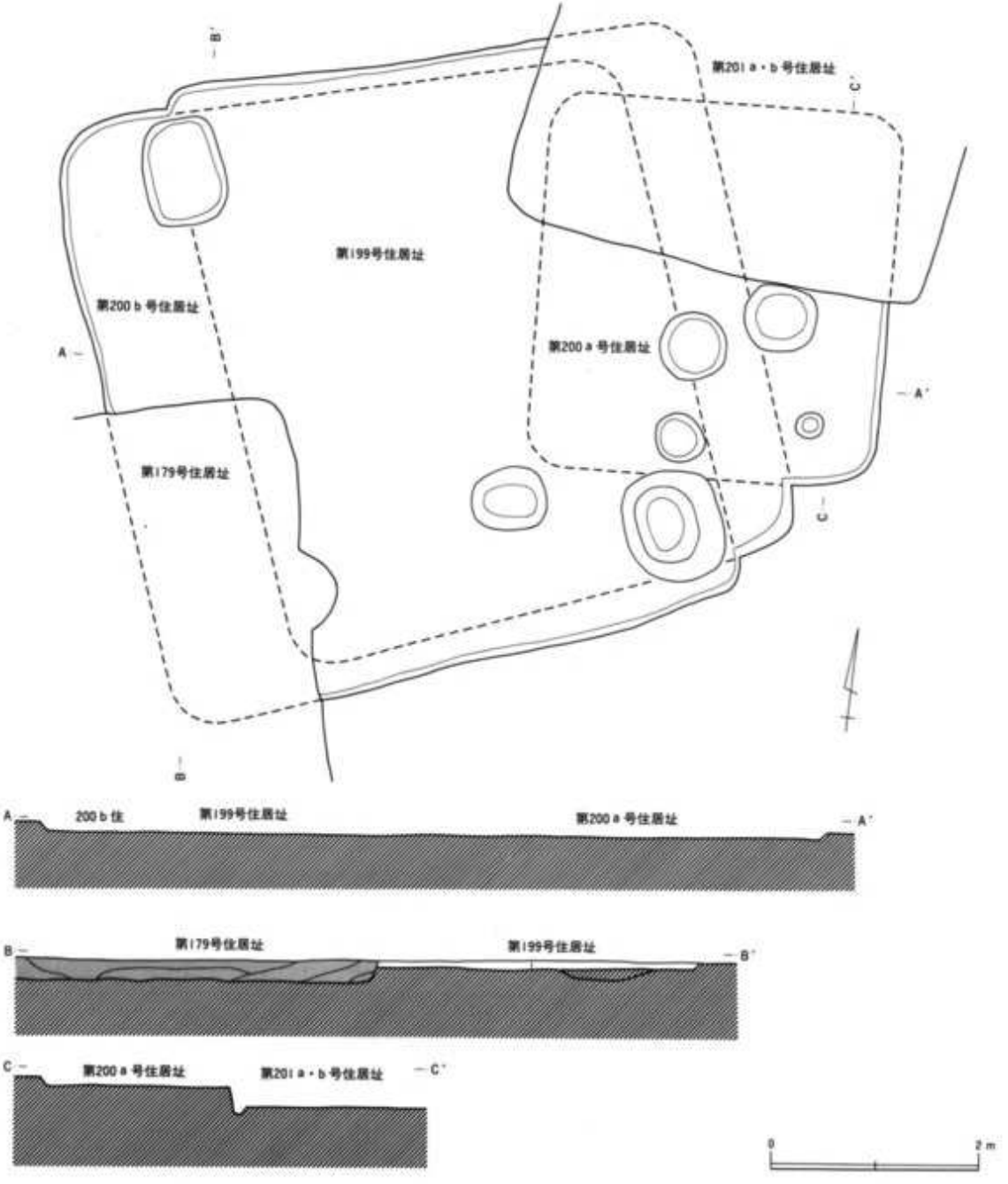


第74図　第198号住居址

第198号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性やや強い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第２層　暗褐色土　しまり、粘性やや強い。第１層に準ずるが、焼土粒を少量含む。
第３層　暗褐色土　しまり、粘性やや強い。ローム粒子を多量に含み、径５～10mmのこげ茶色の粒を少量含む。また焼土粒を微量含む。
第４層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第５層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量含み、焼土粒・炭化物を微量含む。

第199・200号住居址（第75図　図版134－1）

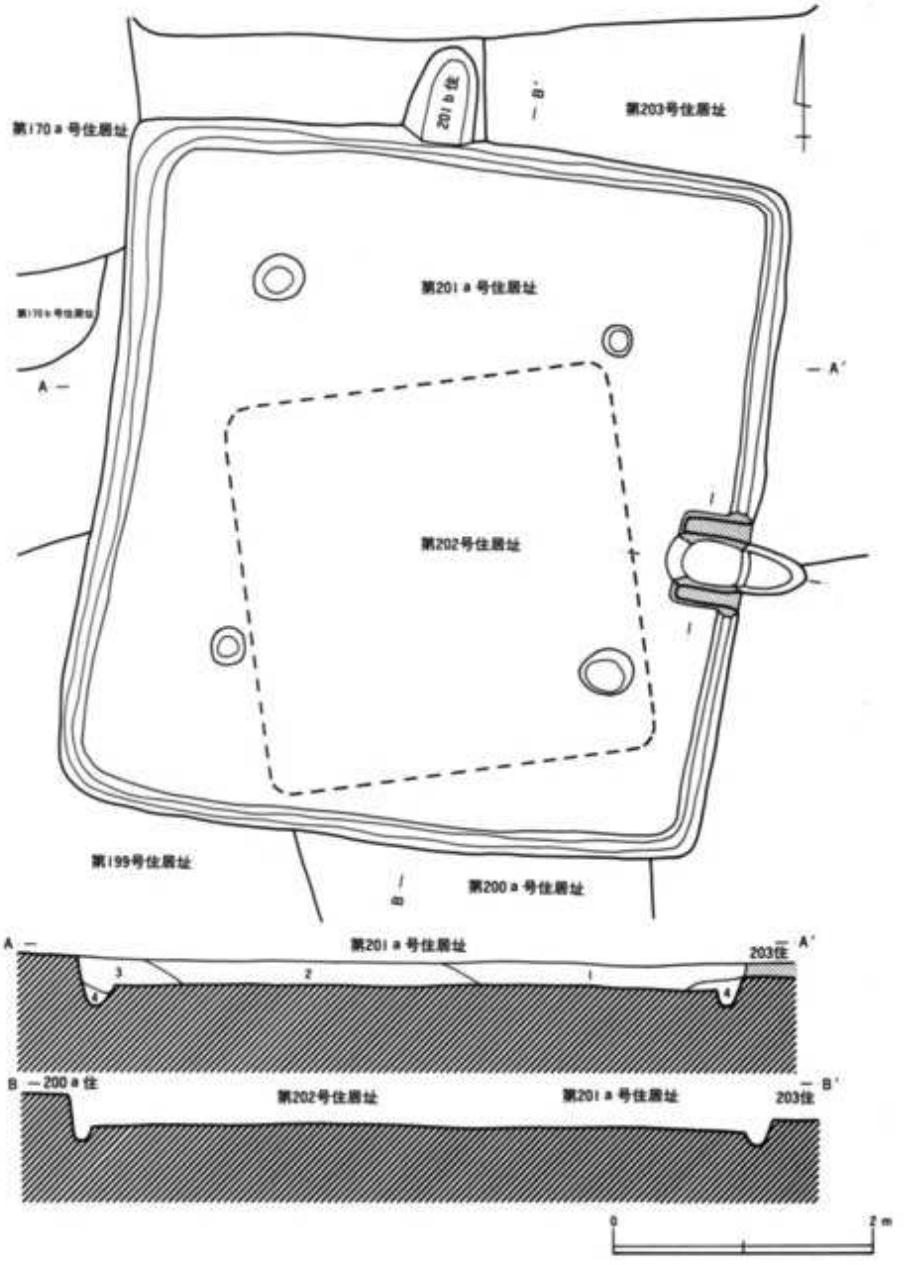


第75図　第199・200号住居址

第199号住居址土層説明

第１層　黒褐色土　しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を少量、ローム粒を微量含む。また、焼土粒・炭化物を少量含む。

第201・202号住居址（第76図　図版201－2）



第76図　第201・202号住居址

第201号住居址土層説明

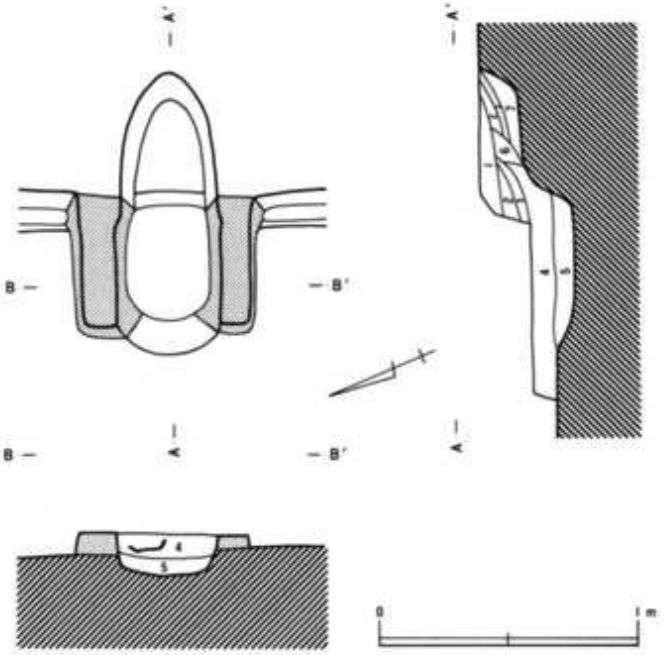
第１層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量に、ローム粒を少量含む。また、焼土粒・炭化物を多量に含む。

第２層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。第１層に準ずるが、第１層に比べて色調が明るく、焼土粒・炭化物の量も少ない。

第３層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

第４層　暗褐色土　しまり有し粘性強い。ローム粒子・ローム粒・ロームブロックを多量に含む。

第201号住居址カマド（第77図　図版135－1）

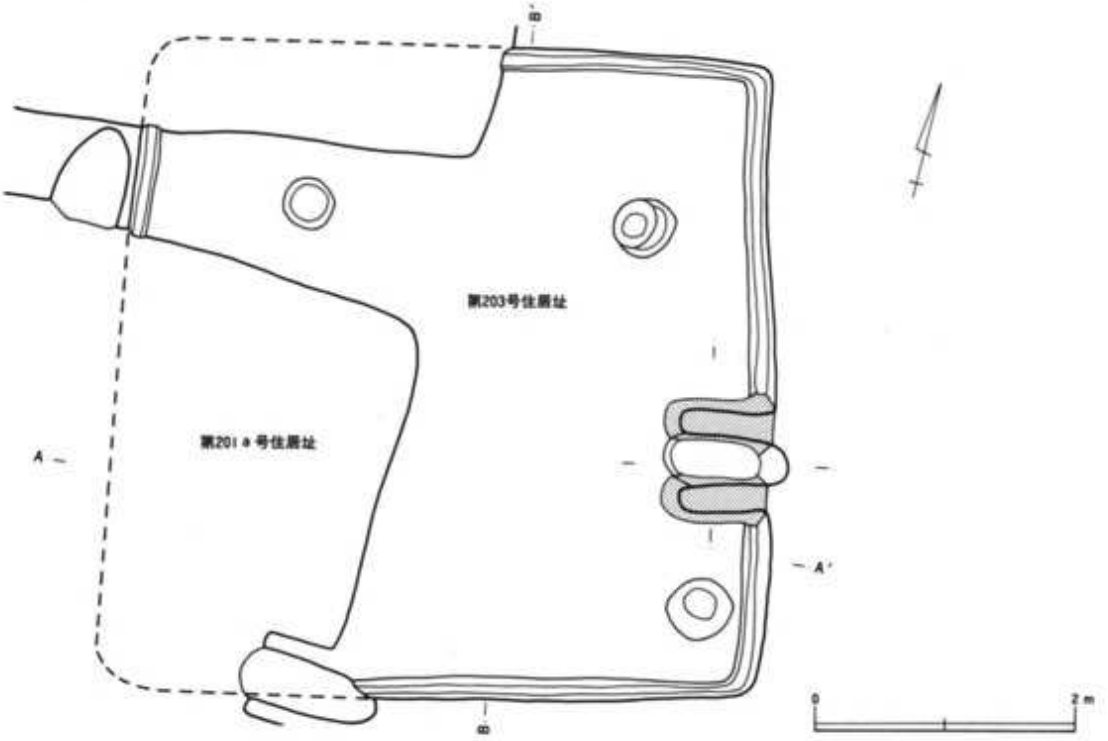


第201号住居址カマド土層説明

第1層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。炭化物粒子を含む。
第2層	明灰色粘質土	しまり、粘性共に強い。
第3層	明赤色土	非常に硬質である。
第4層	暗褐色土	しまり、粘性共に若干有する。焼土・炭化粒子を多く含む。
第5層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム粒子を多く含む。
第6層	明灰色土	しまり、粘性共に強い。第2層と第3層に酷ずる。
第7層	黒色土	しまり、粘性若干有する。炭化粒子を多く含む。

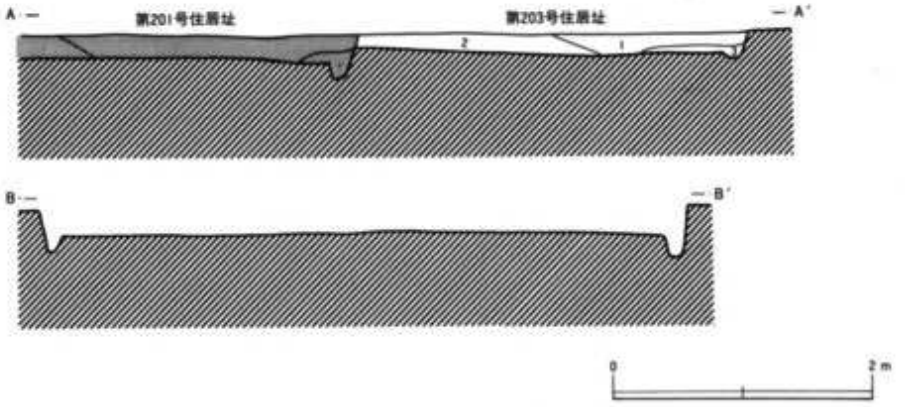
第77図　第201号住居址カマド

第203号住居址（第78図　図版136－2）



第78図　第203号住居址

第203号住居址（第79図）

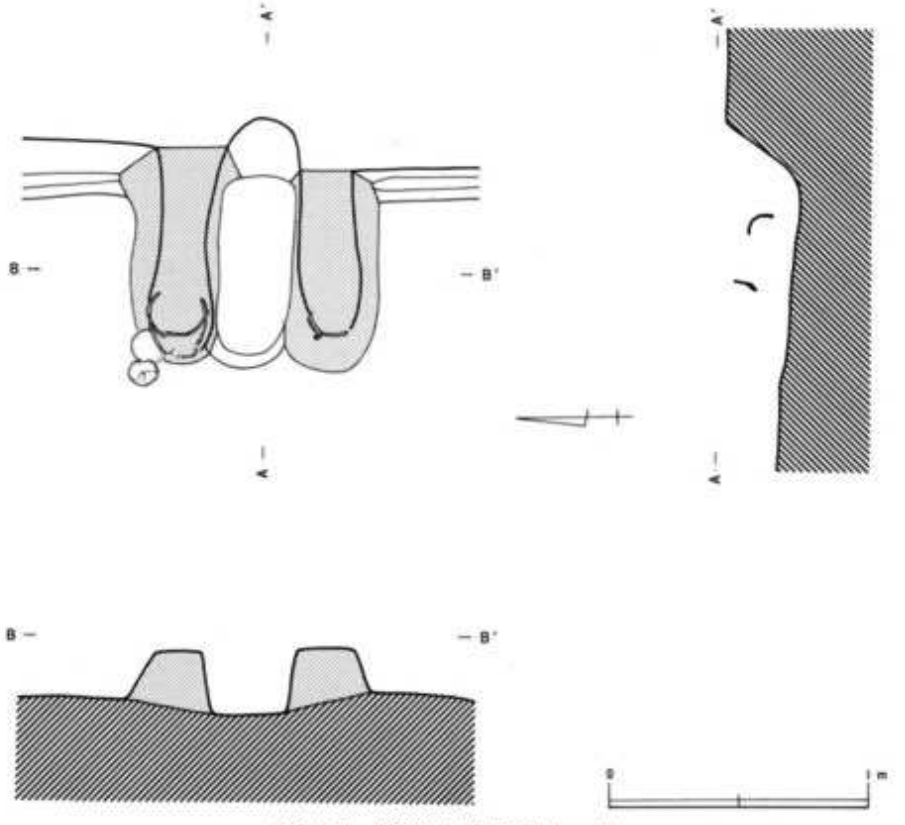


第79図　第203号住居址

第203号住居址土層説明

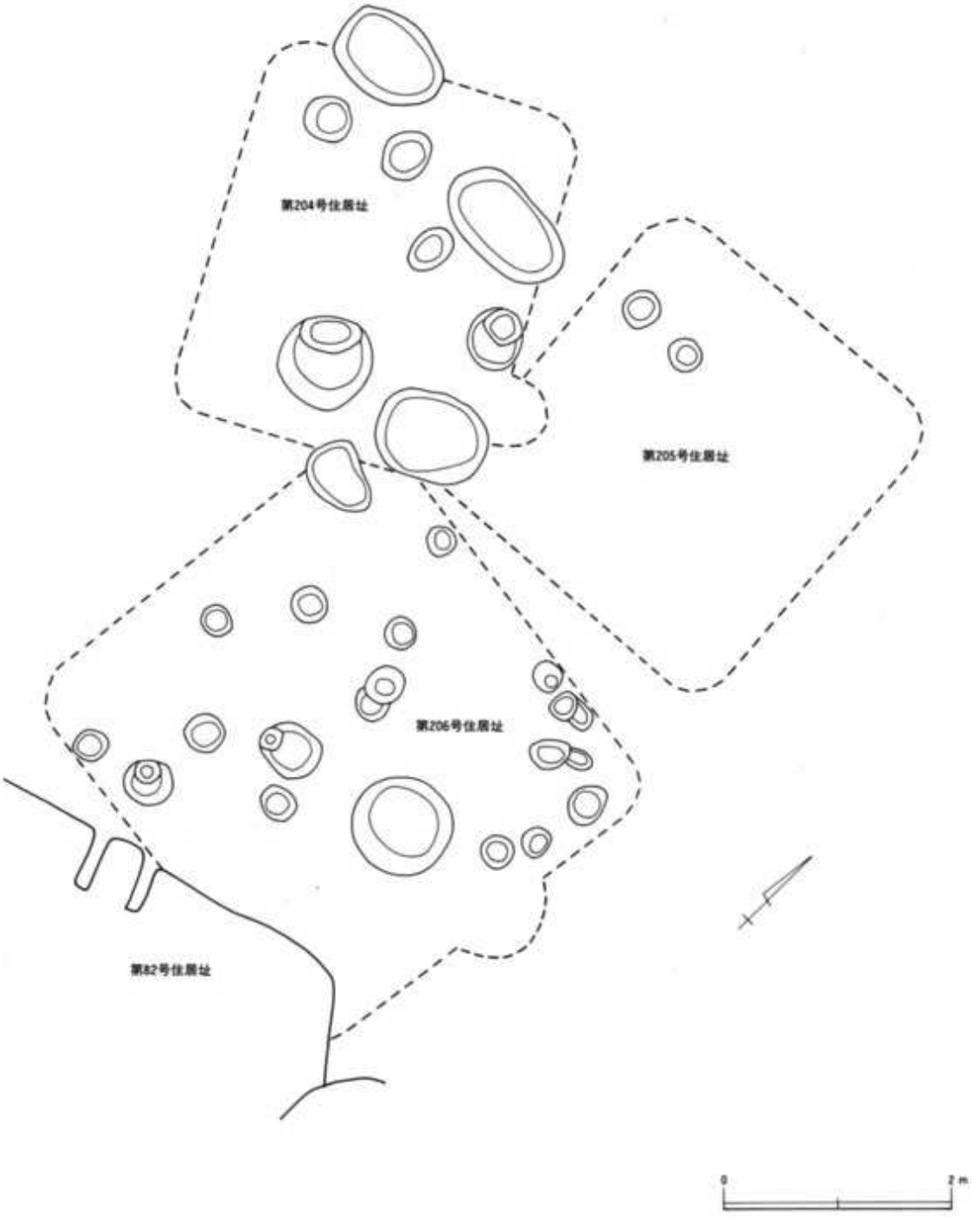
第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第２層　黒褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
　　また、焼土粒・炭化物を少量含む。
第３層　黒褐色土　しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子・ローム粒を多量に含む。

第203号住居址カマド（第80図　図版137－２）



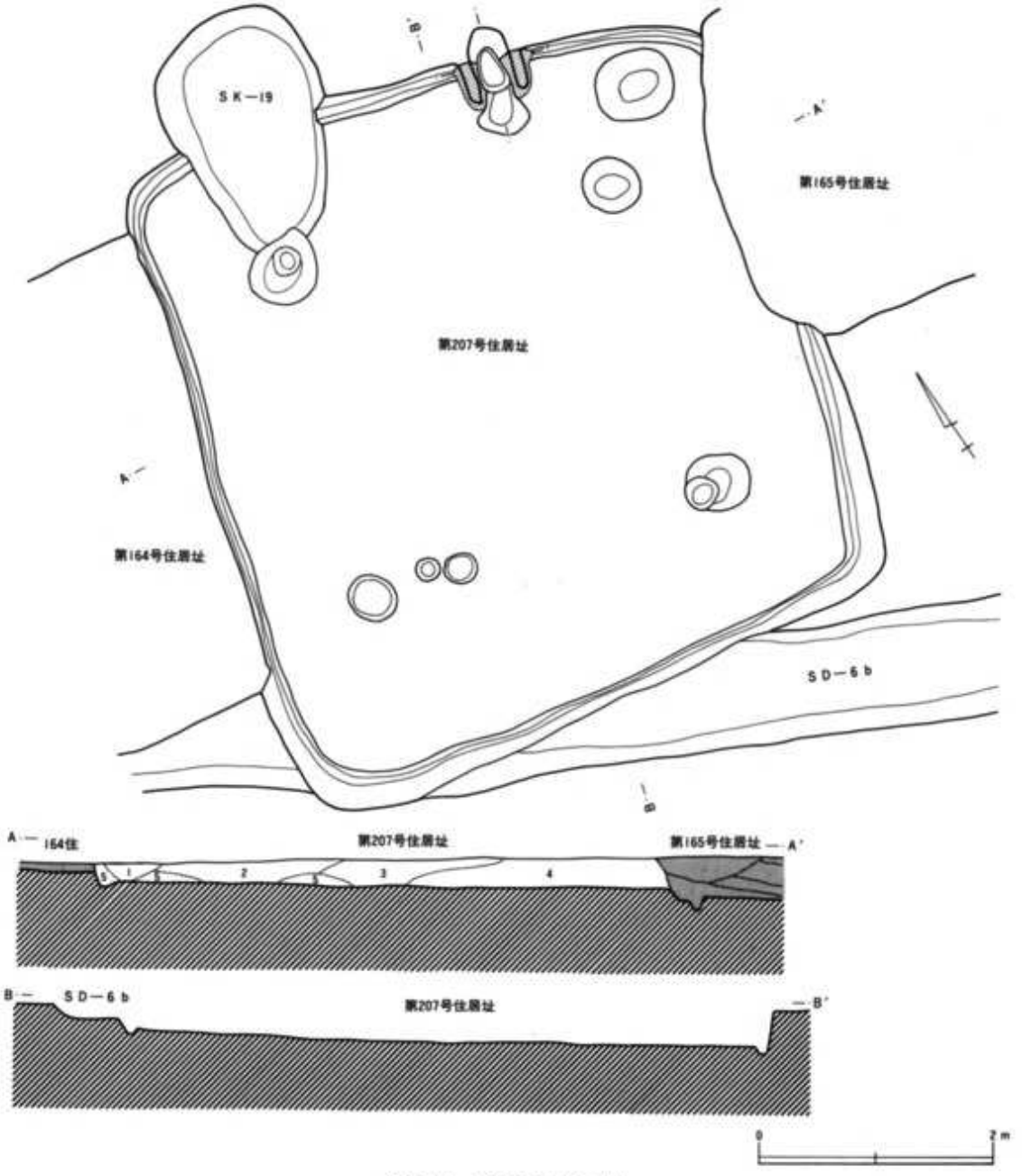
第80図　第203号住居址カマド

第204・205・206号住居址（第81図）



第81図　第204・205・206号住居址

第207号住居址（第82図　図版111－1）

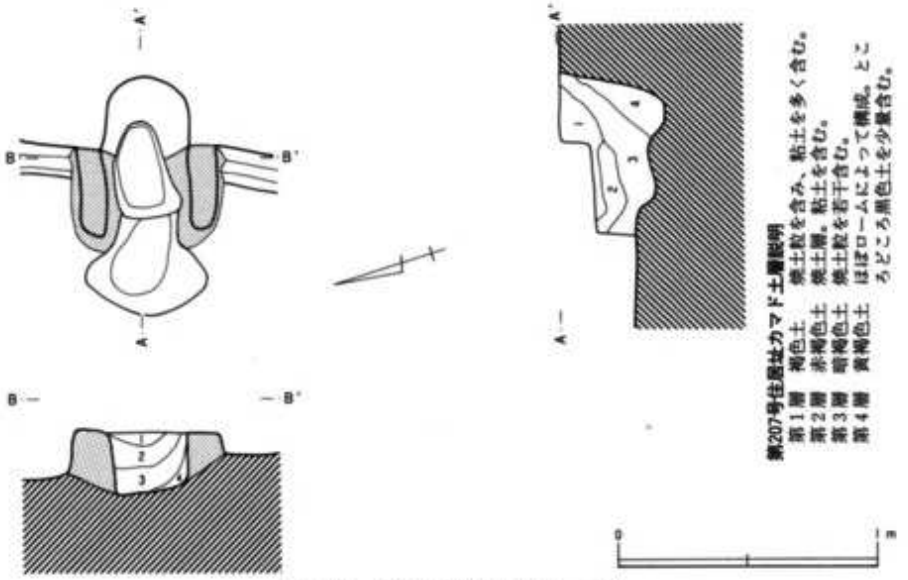


第82図　第207号住居址

第207号住居址土層説明

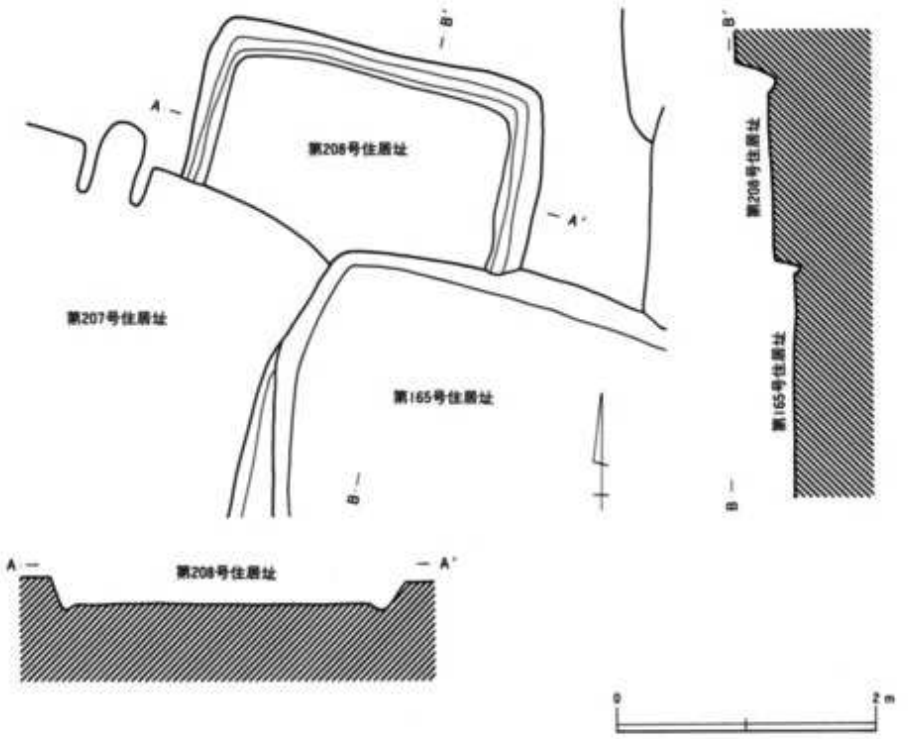
第1層	褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。
第2層	黒褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。焼土粒・炭化物を微量含む。
第3層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。
第4層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒子・ローム粒共に多量に含む。
第5層	黒色土	しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。

第207号住居址カマド（第83図　図版137－２）



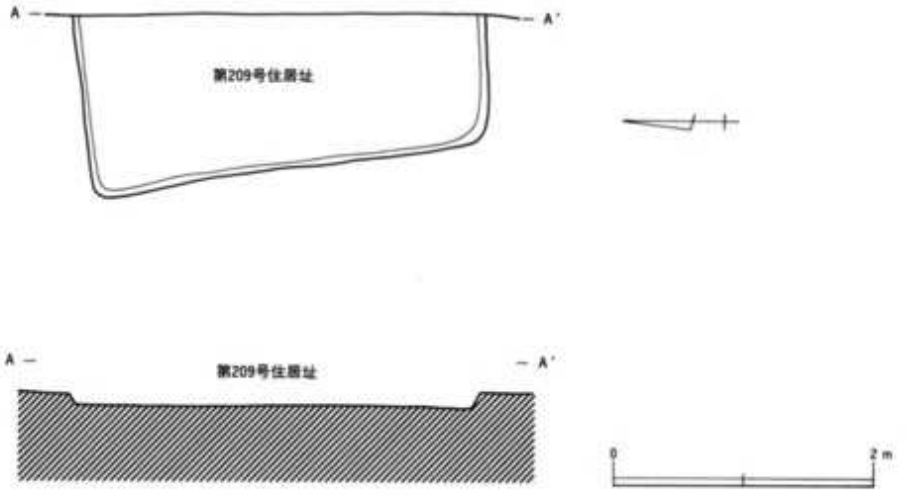
第83図　第207号住居址カマド

第208号住居址（第84図）



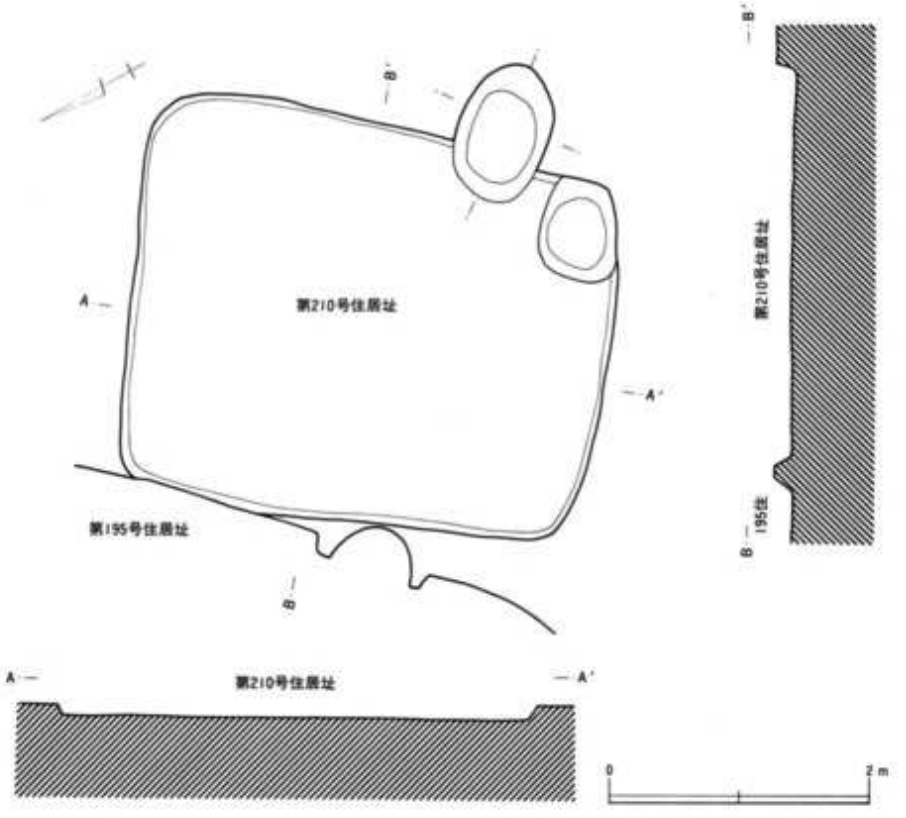
第84図　第208号住居址

第209号住居址（第85図　図版138－２）



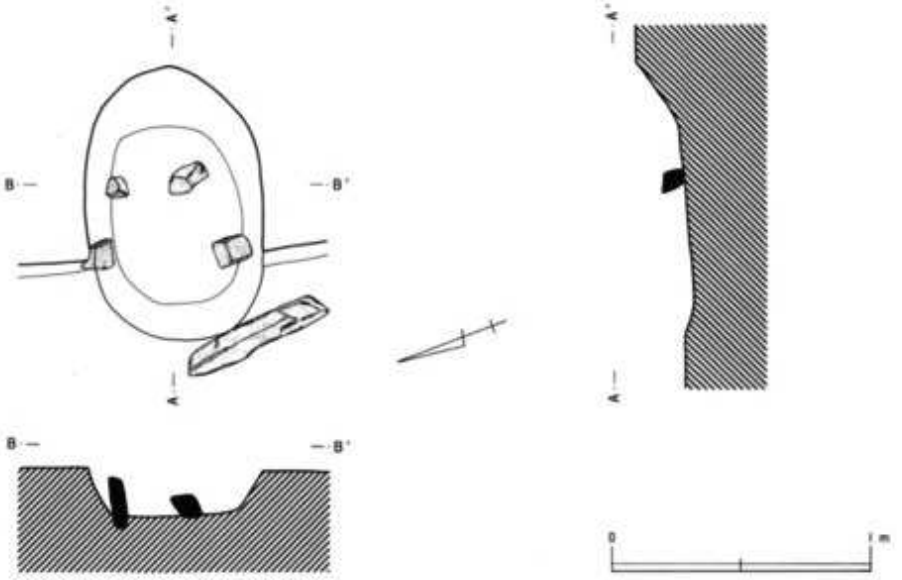
第85図　第209号住居址

第210号住居址（第86図　図版139－１）



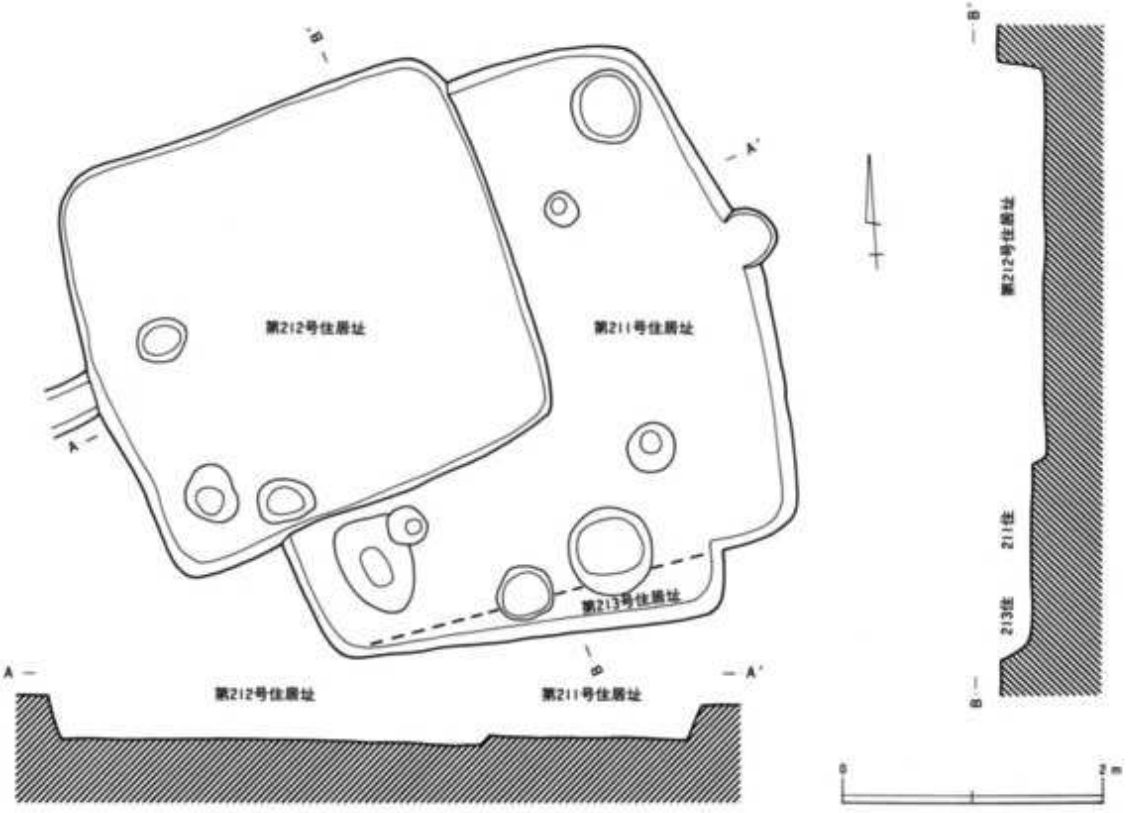
第86図　第210号住居址

第210号住居址カマド（第87図　図版139―２）



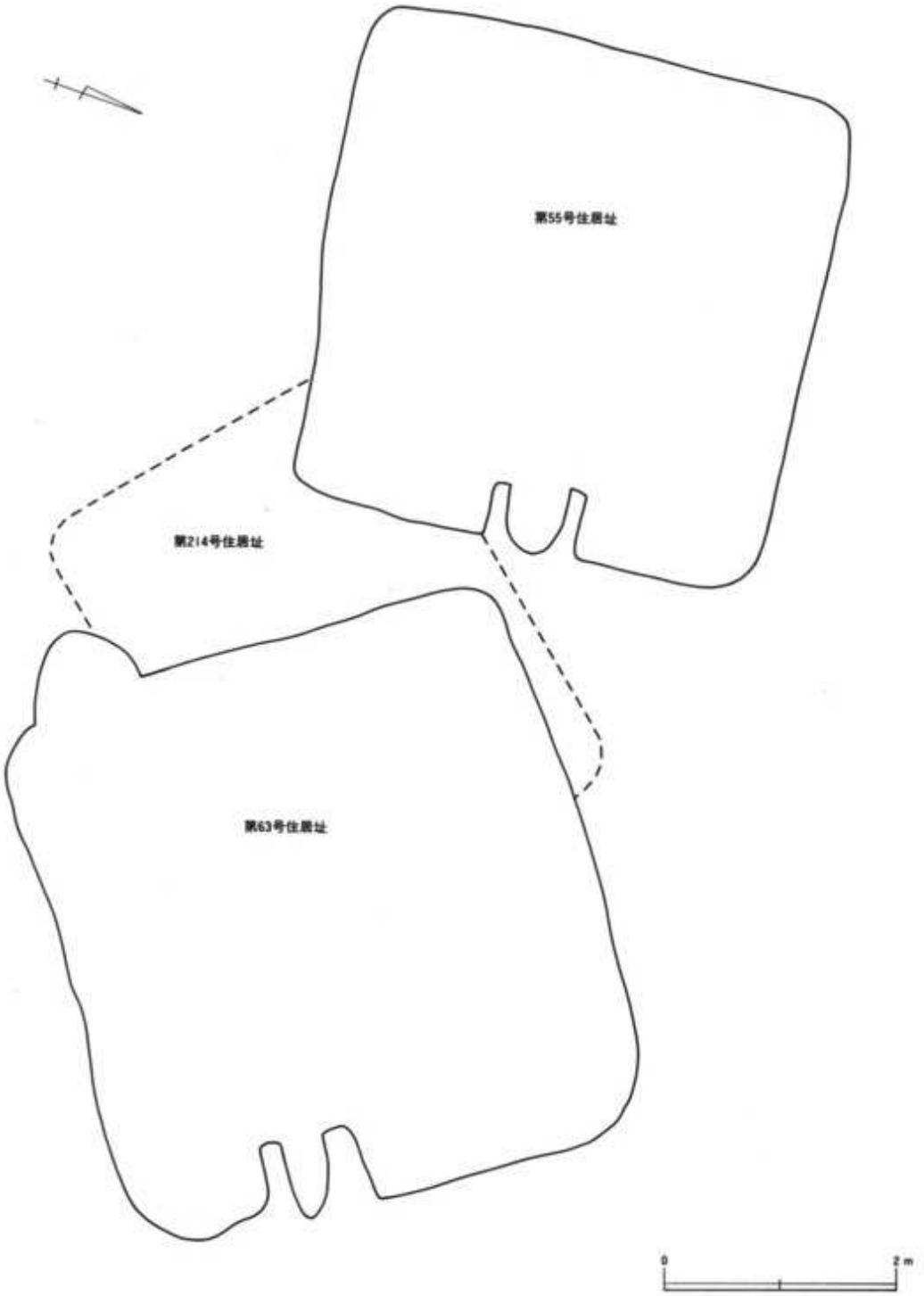
第87図　第210号住居址カマド

第211・212・213号住居址（第88図　図版140―１）



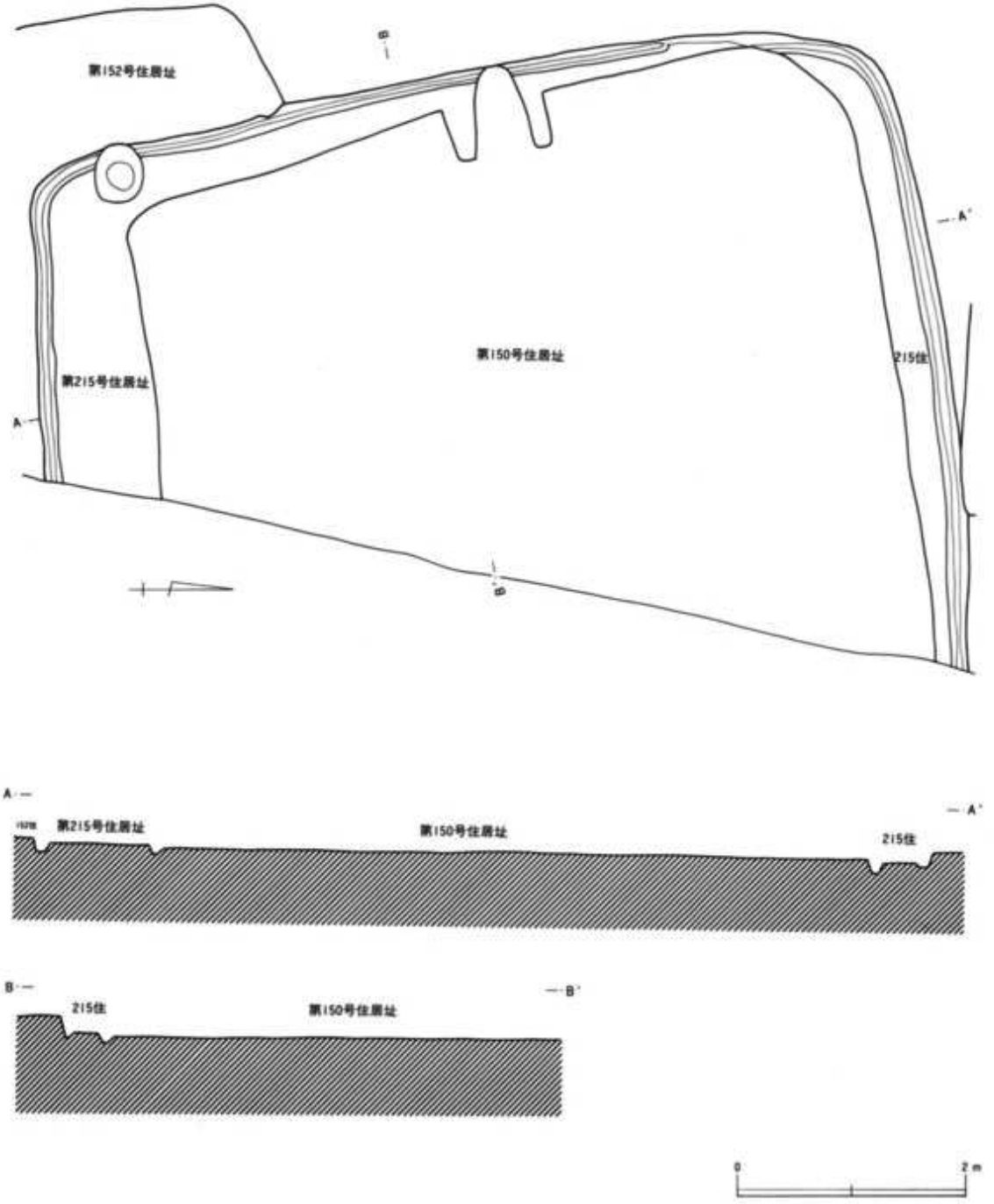
第88図　第211・212・213号住居址

第214号住居址（第89図）



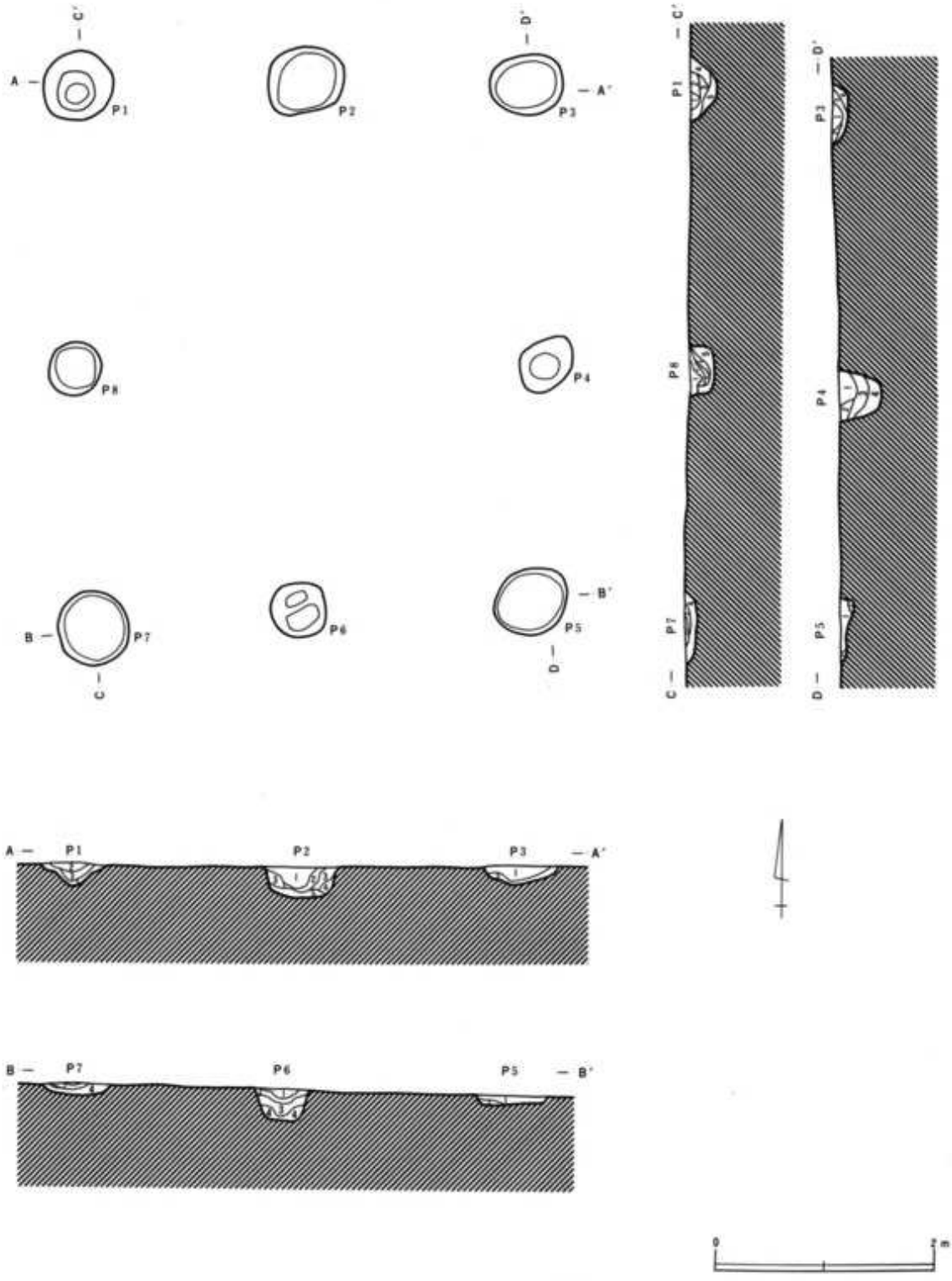
第89図　第214号住居址

第215号住居址（第90図　図版103－２）



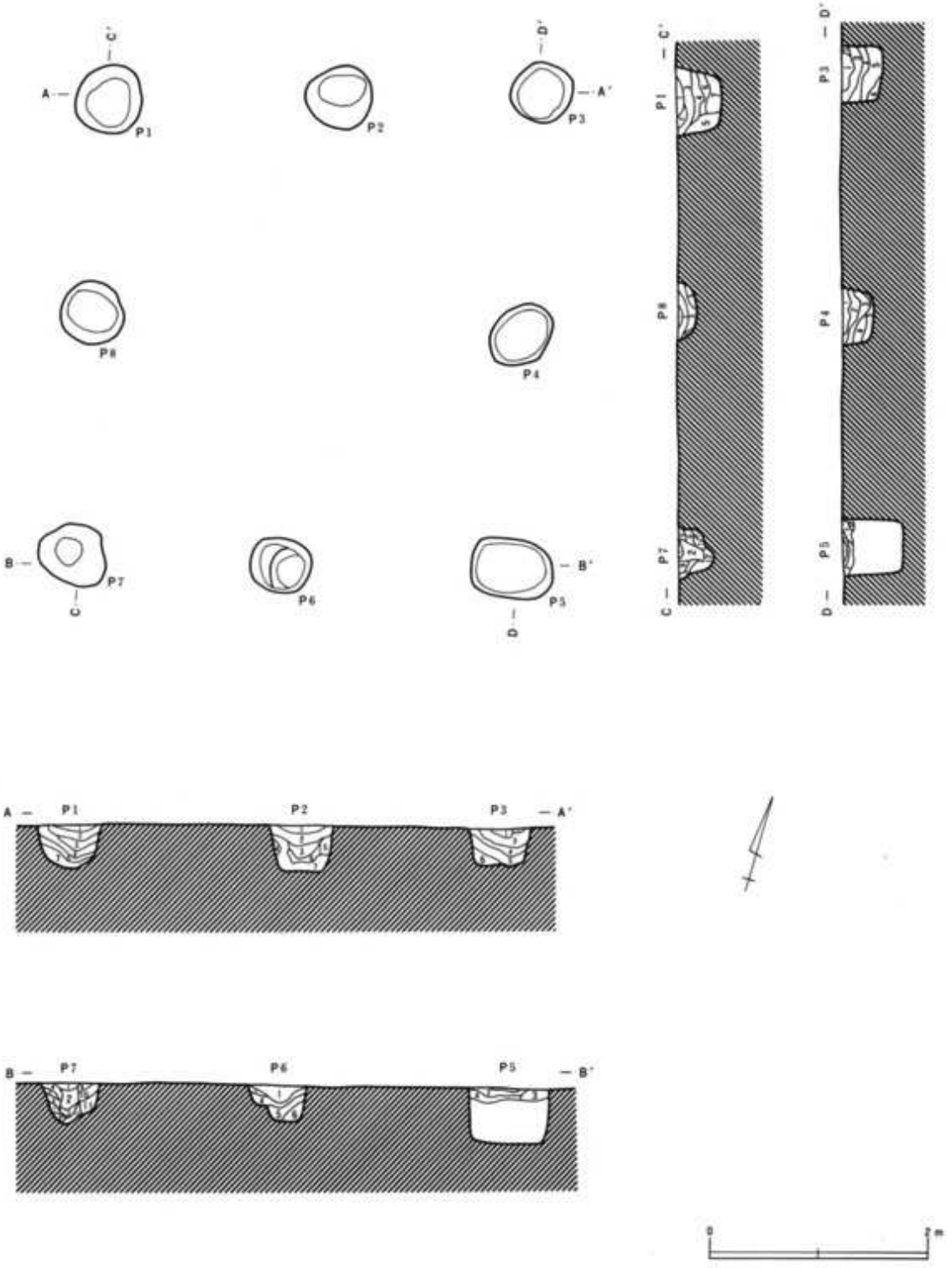
第90図　第215号住居址

第１号掘立柱建物址（第91図　図版144－１）



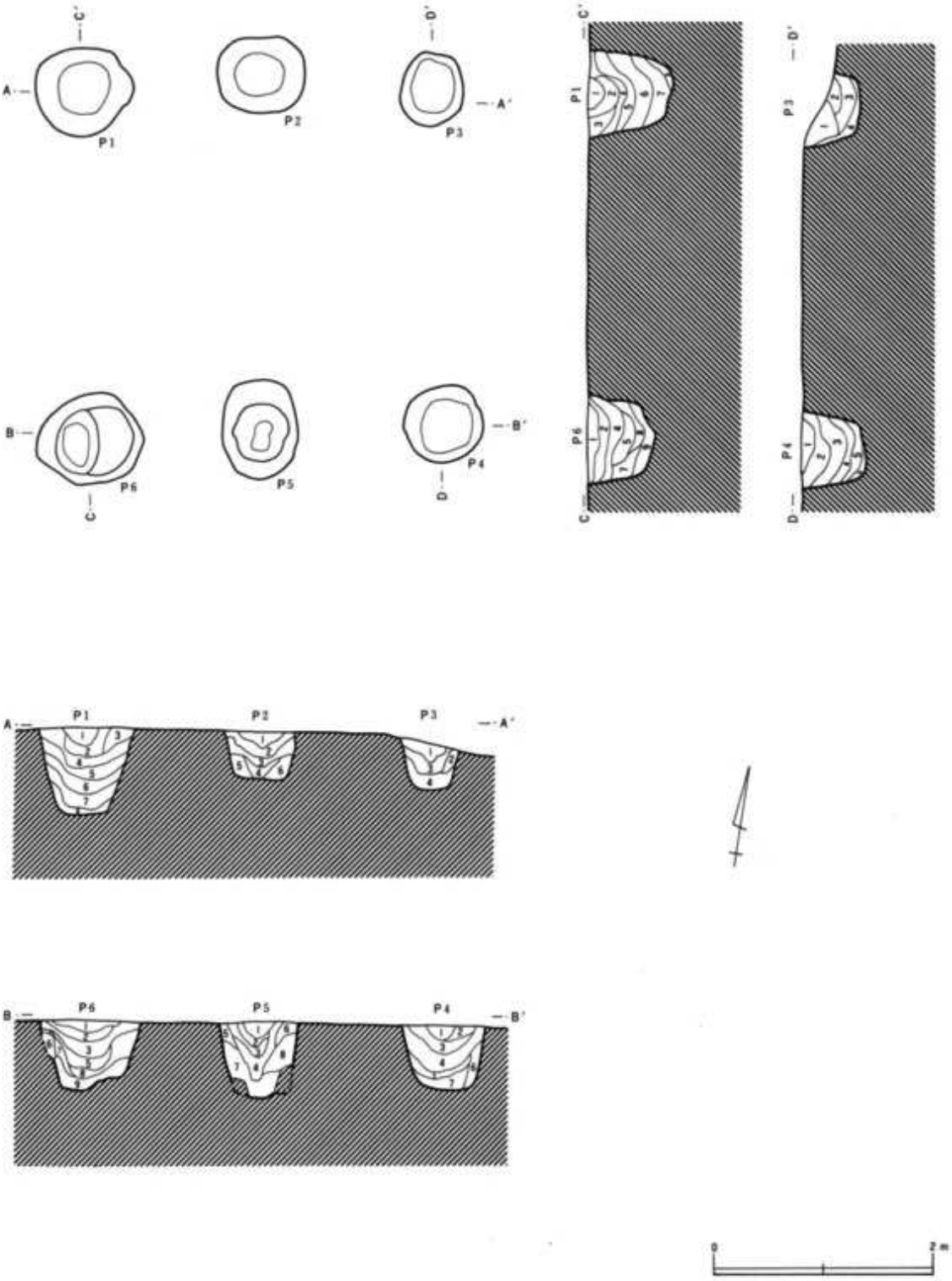
第91図　第１号掘立柱建物址

第２号掘立柱建物址（第92図　図版144－２）



第92図　第２号掘立柱建物址

第３号掘立柱建物址（第93図　図版145－２）



第93図　第３号掘立柱建物址

第１号掘立柱建物址土層説明

Pit 1

第１層	暗茶褐色土	大きなローム塊を含む。しまり普通で粘性なし。
第２層	暗茶褐色土	ローム粒（径１㎜程度）、焼土粒（径２㎜程度）を含む。しまり普通で粘性強い。
第３層	暗褐色土	炭塊（径２～３㎜）を若干含む。粘性強くしまり良好。
第４層	褐色土	ローム粒（径３～４㎜）を含む。しまりよく粘性強い。
第５層	暗褐色土	ローム粒を多大に含む。しまり良好で粘性なし。

Pit 2

第１層	暗茶褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。粘性強くしまり普通。
第２層	暗褐色土	粘性、しまり共に有する。
第３層	暗褐色土	炭塊を若干含む。しまり良好で粘性強い。
第４層	暗褐色土	ローム塊（径５～10㎜）、炭塊（径３～６㎜）を含む。粘性強くしまり普通。
第５層	暗褐色土	ローム粒・白色粒子を若干含む。しまり、粘性共に有する。

Pit 3

第１層	暗茶褐色土	ローム粒（径１㎜程度）、焼土粒（径２㎜程度）を含む。しまり普通で粘性強い。
第２層	暗褐色土	炭塊（２～３㎜）を若干含む。しまり良好で粘性強い。
第３層	暗褐色土	ローム粒を多大に含む。しまり良好で粘性なし。
第４層	暗褐色土	ローム粒を若干含む。しまり、粘性共に有する。

Pit 4

第１層	暗茶褐色土	ローム塊（径５～８㎜）と焼土塊を含む。粘性弱くしまり普通。
第２層	暗褐色土	ローム粒を若干含む。粘性なくしまり普通。
第３層	暗褐色土	ローム塊（径５㎜程度）を含む。粘性なくしまり普通。
第４層	暗褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。粘性普通でしまり悪い。

Pit 5

第１層	暗黄褐色土	ローム粒を多大に含む。また、炭塊（径２～３㎜程度）を若干含む。しまり普通で粘性を有する。
第２層	暗褐色土	ローム粒を多く含む。粘性、しまり共に有する。
第３層	褐色土	ローム粒を多く含む。しまり強く粘性を有する。

Pit 6

第１層	暗茶褐色土	ローム粒・ローム塊（径５～７㎜）を含む。しまり、粘性共に有する。
第２層	暗黄褐色土	ローム粒を多大に含む。また、炭塊（径２～３㎜程度）を若干含む。しまり普通で粘性を有する。
第３層	褐色土	ローム粒を多く含む。しまり強く粘性を有する。
第４層	暗褐色土	ローム粒・白色粒子を若干含む。しまり、粘性共に有する。

Pit 7

第１層	暗茶褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。しまり、粘性共に有する。
第２層	暗黄褐色土	ローム粒を多大に含む。また、炭塊（径２～３㎜程度）を若干含む。しまり普通で粘性を有する。
第３層	褐色土	ローム粒を多く含む。しまり強く粘性を有する。
第４層	褐色土	ローム粒を多少含む。しまり普通で粘性を有する。

Pit 8

第１層	暗茶褐色土	ローム粒を若干含む。粘性なくしまり普通。
第２層	褐色土	ローム塊（径３㎜）を含む。粘性、しまり共に有する。
第３層	暗褐色土	ローム粒を多く含む。粘性なくしまり良好。
第４層	暗褐色土	粘性普通でしまり良好。

第２号掘立柱建物址土層説明

Pit 1

第１層	暗茶褐色土	ローム粒・炭塊・焼土粒を含む。粘性、しまり共に有する。
第２層	褐色土	ローム粒を多く含み、焼土塊（２～３㎜）を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第３層	褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。粘性普通でしまり良好。
第３′層	暗褐色土	ローム粒を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第４層	暗褐色土	焼土塊を含む。粘性強くしまり普通。
第５層	暗褐色土	ローム粒・ローム塊を多く含む。粘性強くしまり普通。
第６層	暗褐色土	ローム粒を含み、焼土塊を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第７層	暗褐色土	ローム粒を多く含む。粘性強くしまり普通。

Pit 2

第１層	茶褐色土	ローム粒・焼土粒（径２㎜）を多く含む。粘性なくしまり普通。
第２層	褐色土	ローム粒を含み、焼土塊（径３～４㎜）、炭塊（径３㎜前後）を多く含む。しまり、粘性共に有する。
第３層	褐色土	焼土粒・炭塊を含む。粘性強くしまり良好。
第４層	暗褐色土	粘性なくしまり良好。
第５層	暗褐色土	ローム粒・塊を多く含み、焼土粒・炭塊を多少含む。粘性強くしまり良好。
第６層	暗褐色土	ローム粒を若干含む。粘性強くしまり良好。
第７層	褐色土	ローム粒・塊を多量に含む。しまり良好で粘性強い。

Pit 3

第１層	明褐色土	ローム粒を含み、焼土塊（径２㎜）を若干含む。粘性なくしまり普通。
第２層	褐色土	焼土塊・炭塊（径２～４㎜）を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第２′層	褐色土	ローム粒を多く含む。粘性強くしまり普通。
第３層	褐色土	ローム塊（径２～４㎜）を多く含み、炭塊を含む。粘性普通でしまり良好。
第４層	暗褐色土	炭塊を多少含む。粘性普通でしまり良好。
第５層	暗褐色土	ローム塊（径５～10㎜）を含む。粘性普通でしまり良好。
第６層	暗褐色土	ローム粒・塊（径３～６㎜）を含む。
第６′層	暗褐色土	粘性強くしまり普通。

Pit 4

第１層	褐色土	ローム粒・塊（径２～４㎜）を多量に含む。粘性なくしまり普通。
第２層	褐色土	ローム塊（径２～10㎜）を多量に含み、焼土塊を少量含む。粘性普通でしまり良好。
第３層	褐色土	ローム粒・炭塊（径２㎜前後）を含む。粘性強くしまり良好。
第４層	暗褐色土	ローム粒を多少含む。粘性強くしまり良好。
第５層	暗褐色土	ローム粒を含む。粘性、しまり共に有する。

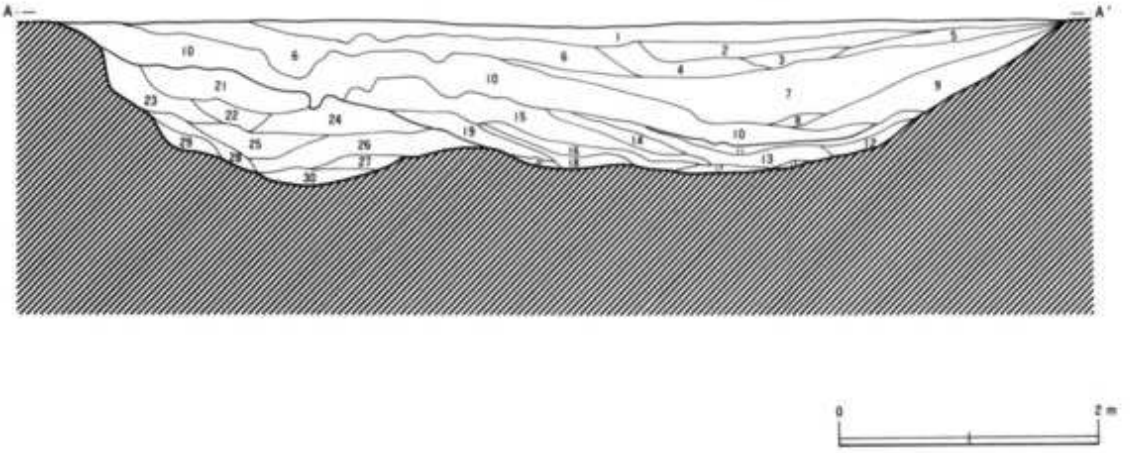
Pit 5

第１層	明褐色土	ローム粒・焼土塊を含む。粘性なくしまり普通。
第２層	褐色土	ローム粒・塊を多く含み、焼土塊・炭塊を含む。粘性、しまり共に有する。

第３層　暗褐色土　　ローム粒・塊（径５～８㎜）を多く含む。粘性普通でしまり良好。
第４層　暗褐色土　　焼土塊（径２㎜）を若干含む。粘性普通でしまり良好。
第５層　暗褐色土　　ローム粒を多少含む。粘性、しまり共に有する。
Pit 6
第１層　明褐色土　　ローム粒・焼土塊（径２～５㎜）炭塊（径３㎜前後）を多く含む。
第２層　褐色土　　ローム粒を多く含む。粘性、しまり共に有する。
第３層　褐色土　　ローム粒を多く含む。粘性、しまり共に有する。
第４層　褐色土　　ローム粒・塊・炭塊を含む。粘性、しまり共に有する
第５層　暗褐色土　　ローム粒を含む。粘性、しまり共に有する。
第６層　暗褐色土　　ローム塊を多量に含む。粘性強くしまり良好。
Pit 7
第１層　暗茶褐色土　ローム粒を含む。粘性、しまり共に有する。
第２層　明褐色土　　ローム粒・塊（径４～７㎜）を含む。炭塊・焼土塊を若干含む。粘性普通でしまり良好。
第３層　褐色土　　焼土粒・ローム粒を含む。粘性強くしまり普通。
第４層　明褐色土　　ローム粒・焼土塊（径２㎜）を含む。粘性、しまり共に有する。
第５層　褐色土　　ローム粒を含み、焼土塊を少し含む。粘性普通でしまり良好。
第６層　暗褐色土　　焼土塊を多く含む。粘性強くしまり良好。
第７層　暗褐色土　　焼土塊を含み、炭塊を若干含む。粘性強くしまり普通。
第８層　暗褐色土　　ローム粒・塊（径２～３㎜）を含む。粘性、しまり共に有する。
第９層　明褐色土　　ローム粒・焼土塊（径２㎜）を含む。粘性、しまり共に有する。
第10層　褐色土　　ローム粒を含み、焼土塊を少し含む。粘性普通でしまり良好。
第11層　暗褐色土　　ローム塊（径５㎜前後）を多く含む。粘性普通でしまり良好。
第12層　暗褐色土　　ローム粒・塊（径２～３㎜）を含む。粘性、しまり共に有する。
Pit 8
第１層　暗茶褐色土　粘土を多量に含み、ローム粒を含む。粘性、しまり共に有する。
第２層　褐色土　　ローム粒を多量に、焼土塊（径２㎜前後）、炭塊（径２㎜前後）を若干含む。粘性、しまり有する。
第３層　褐色土　　ローム塊を多量に、焼土塊を少量含む。粘性普通でしまり良好。
第４層　暗褐色土　　ローム粒を少し含む。粘性強くしまり普通。
第５層　暗褐色土　　ローム粒を少し含む。粘性強くしまり普通。

第３号掘立柱建物址土層説明
Pit 1
第１層　明褐色土　　ローム粒子を多く含む。粘性普通でしまり良好。
第２層　褐色土　　ローム粒を含む。炭塊・焼土塊（共に径２～４㎜）を若干含む。粘性強くしまり良好。
第３層　褐色土　　ローム粒・焼土粒を含む。粘性なくしまり普通。
第４層　暗褐色土　　ローム粒を若干含み、焼土塊を含む。粘性普通でしまり弱い。
第５層　暗褐色土　　ローム粒・焼土粒を若干含む。粘性普通でしまり弱い。
第６層　暗褐色土　　ローム粒・焼土塊を含む。粘性、しまり共に有する。
第７層　暗褐色土　　ローム粒・塊を多く含む。粘性普通でしまり弱い。
第８層　暗黄褐色土　ローム粒・塊を多量に含む。粘性強くしまり弱い。
Pit 2
第１層　褐色土　　ローム粒・塊（径20㎜前後）を含む。粘性、しまり共に有する。
第２層　褐色土　　ローム粒・塊を含み、焼土塊を若干含む。粘性普通でしまり良好。
第３層　暗褐色土　　ローム粒・塊（径５～10㎜）を含む。粘性弱くしまり良好。
第４層　暗褐色土　　ローム粒を含む。粘性強くしまり弱い。
第５層　暗褐色土　　粘性強くしまり弱い。
第６層　暗褐色土　　ロームが多く入り込んでいる。粘性強くしまり弱い。
Pit 3
第１層　褐色土　　ローム粒・塊（径10～15㎜）を多く含む。粘土を多く含む。粘性弱くしまり良好。
第２層　褐色土　　ローム塊を含み、焼土粒を若干含む。粘性普通でしまり良好。
第３層　暗褐色土　　ローム粒が多く含まれる。粘性弱くしまり良好。
第４層　暗褐色土　　ロームが多く入り込んでいる。粘性強くしまり普通。
Pit 4
第１層　暗茶褐色土　ローム粒を多く含み、焼土粒を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第２層　褐色土　　ローム粒・塊を含み、焼土粒・炭塊を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第３層　褐色土　　ローム塊を含み、ローム粒を少量含む。粘性強くしまり有する。
第４層　暗褐色土　　ローム粒・塊を少量含む。粘性普通でしまり弱い。
第５層　暗褐色土　　粘性、しまり共に有する。
第６層　褐色土　　ローム粒を多量に含む。粘性、しまり共に有する。
第７層　暗褐色土　　ローム粒・塊を含む。粘性、しまり共に弱い。
Pit 5
第１層　暗茶褐色土　ローム粒を多く含む。焼土粒を若干含む。粘性なくしまり有する。
第２層　暗茶褐色土　ローム粒を多く含む焼土粒。炭塊（径２㎜）を少量含む。粘性弱くしまり普通。
第３層　褐色土　　ローム粒・塊（径３～５㎜）を含む。粘性なくしまり普通。
第４層　暗褐色土　　ローム粒・塊（径５～７㎜）を多く含み、焼土塊・炭塊を若干含む。
第５層　褐色土　　ローム粒を含む。粘性なくしまり強い。
第６層　褐色土　　ローム粒・塊（径10～15㎜）を含む。粘性普通でしまり強い。
第７層　褐色土　　ローム粒・塊を多量に含む。粘性、しまり共に有する。
第８層　褐色土　　ローム粒・塊を含む。粘性強くしまり有する。
Pit 6
第１層　暗茶褐色土　ローム粒・塊を含み、炭塊を若干含む。粘性なくしまり有する。
第２層　褐色土　　ローム粒を含み、焼土粒を若干含む。粘性、しまり共に有する。
第３層　暗褐色土　　ローム粒・塊を含み、炭塊を少量含む。粘性、しまり共に有する。
第４層　褐色土　　焼土粒を少量含む。粘性、しまり共に有する。
第５層　暗褐色土　　ローム粒を若干含む。粘性普通でしまり良好。
第６層　黄褐色ローム　黄褐色ロームを主体とする。
第７層　暗褐色土　　ローム粒を含み、焼土粒を若干含む。粘性強くしまり良好。
第８層　暗褐色土　　ローム粒・塊を含む。粘性強くしまり普通。
第９層　暗褐色土　　ローム粒を多く含む。粘性強くしまりなし。

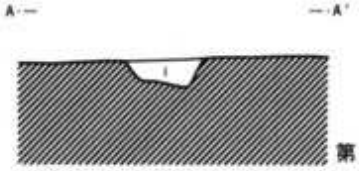
第３号溝（第94図　図版147・148）



第94図　第３号溝

第３号溝土層説明

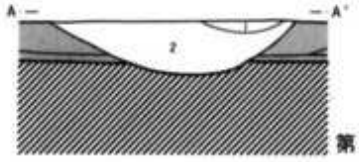
第１層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。白色微粒子・炭化微粒子・焼土微粒子を若干含む。
第２層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。白色・黄色微粒子を含む。
第３層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。第２層に類似するが、鉄分を若干含む。
第４層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。径１㎜～３㎜位の白色テフラ状の物を非常に多く含む。
第５層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。白色テフラ状の物は含まない。
第６層	暗茶褐色土	第４層に類似するが、炭化粒・焼土粒を多く含む。
第７層	暗灰色土	しまり、粘性共に有する。白色・炭化・焼土粒子を含む。
第８層	暗灰色土	第７層に類似するが、鉄分を若干含む。
第９層	黒色土	しまり、粘性若干有する。ローム粒を含む。
第10層	明灰色粘質土	しまり粘性共に強い。焼土・炭化粒を若干含みやや砂質である。
第11層	暗灰色粘質土	しまり、粘性共に強い。上層１cm位はＦＡと考えられる。明灰色粘質層でそれより下は、１㎜～５㎜位の厚さの泥炭層と砂層が交互に入っている。
第12層	明灰黄色粘土	しまり粘性共に強い。ローム粒・微粒子を非常に多く含む。
第13層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム粒子を非常に多く含み、やや砂質である。
第14層	明灰色土	しまり、粘性共に有する。きめが細かい明灰色粘質土と泥炭が交互に入る。やや砂質である。
第15層	暗灰色土	しまり、粘性共に有する。第14層に類似するが、鉄分を含み色調がやや暗い。
第16層	明灰色土	しまり、粘性共に有する。きめの細かい砂と泥炭・明灰色粘質土が交互に入る。
第17層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム粒子を若干含む。
第18層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム粒子を多く含む。若干の薄い泥炭層がみられる。
第19層	明灰色土	しまり、粘性若干有する。きめの細かい明灰色粘質土・砂層が交互に入っている。
第20層	明褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム微粒子を多く含む。やや砂質である。
第21層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。白色テフラ・炭化粒子を若干含む。
第22層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。第21層に類似するがやや砂質である。
第23層	暗褐色土	しまり、粘性若干有する。ローム微粒子を多く含む。
第24層	明褐色土	しまり、粘性若干有する。粘質土と微砂層を交互に含む。
第25層	暗褐色土	しまり、粘性共に強い。鉄分を若干含む。
第26層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。粘質土と微砂層が交互に混ざる。
第27層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。鉄分・ローム粒子を多く含む。
第28層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ローム粒を多く含む。
第29層	暗褐色土	しまり、粘性共に有する。ロームブロックを含む。
第30層	暗褐色土	しまり、粘性共に強い。ローム粒を若干含み、底部には径１～３cmの砂利を含む。



第１号溝

第１号溝土層説明

第１層　黒色土　しまり、粘性若干有する。第80号住に切られている。



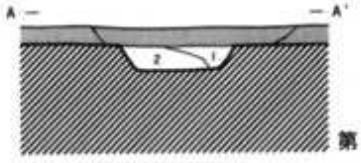
第２号溝

第２号溝土層説明

第１層　灰褐色土　しまり強く粘性やや強い。全体に粘質で、径１㎜程度の白色パミス・(As－A)を多く含む。

第２層　灰褐色土　しまり強く粘性やや強い。第１層に準ずるが白色パミスは含まない。

第４号溝

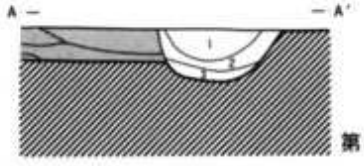


第５号溝

第５号溝土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性共にやや強い。径５～30㎜のロームブロック及び白黄色の粘土ブロックを非常に多く含む。

第２層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径１～５㎜のローム粒子を多く含み、径５～20㎜のローム粒をまばらに含む。



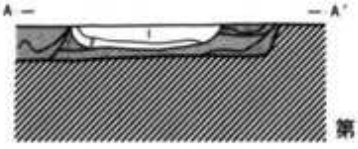
第６ａ号溝

第６ａ号溝土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に強い。径１㎜程度のローム粒子を少量、径５㎜以下の焼土粒を微量含む。

第２層　暗褐色土　しまり、粘性共にやや強い。ローム粒子を少量、径１㎝のローム粒を微量含む。また、径１㎝以下の焼土粒を微量含む。

第３層　暗灰褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子と径３㎝以下のローム粒を少量含む。

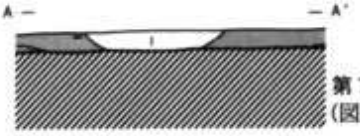


第６ｂ号溝

第６ｂ号溝土層説明

第１層　淡橙褐色土　砂層。ローム粒を多量に含み、スコリア・炭化物を含む。ガチガチにしまった状態で、砂は赤化している。

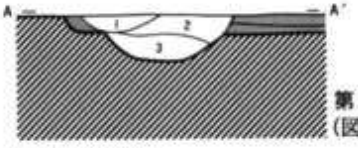
第２層　暗褐色土　砂質分を多少含む。径４～７㎜のロームブロックを少量含む。



第７号溝
(図版151－２)

第７号溝土層説明

第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に若干有する。ローム粒子を多く含む。



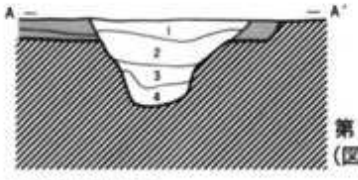
第８号溝
(図版152－１)

第８号溝土層説明

第１層　暗灰色土　しまり有し粘性強い。径１㎜程度の白色パミスを少量含む。

第２層　暗灰褐色土　しまり有し粘性強い。径５㎜程度の黒褐色粒を少量含む。

第３層　暗灰褐色土　しまり、粘性共に強い。第２層に準ずるが、黒褐色粒がより少なく色調が明るい。



第９号溝
(図版152－２)

第９号溝土層説明

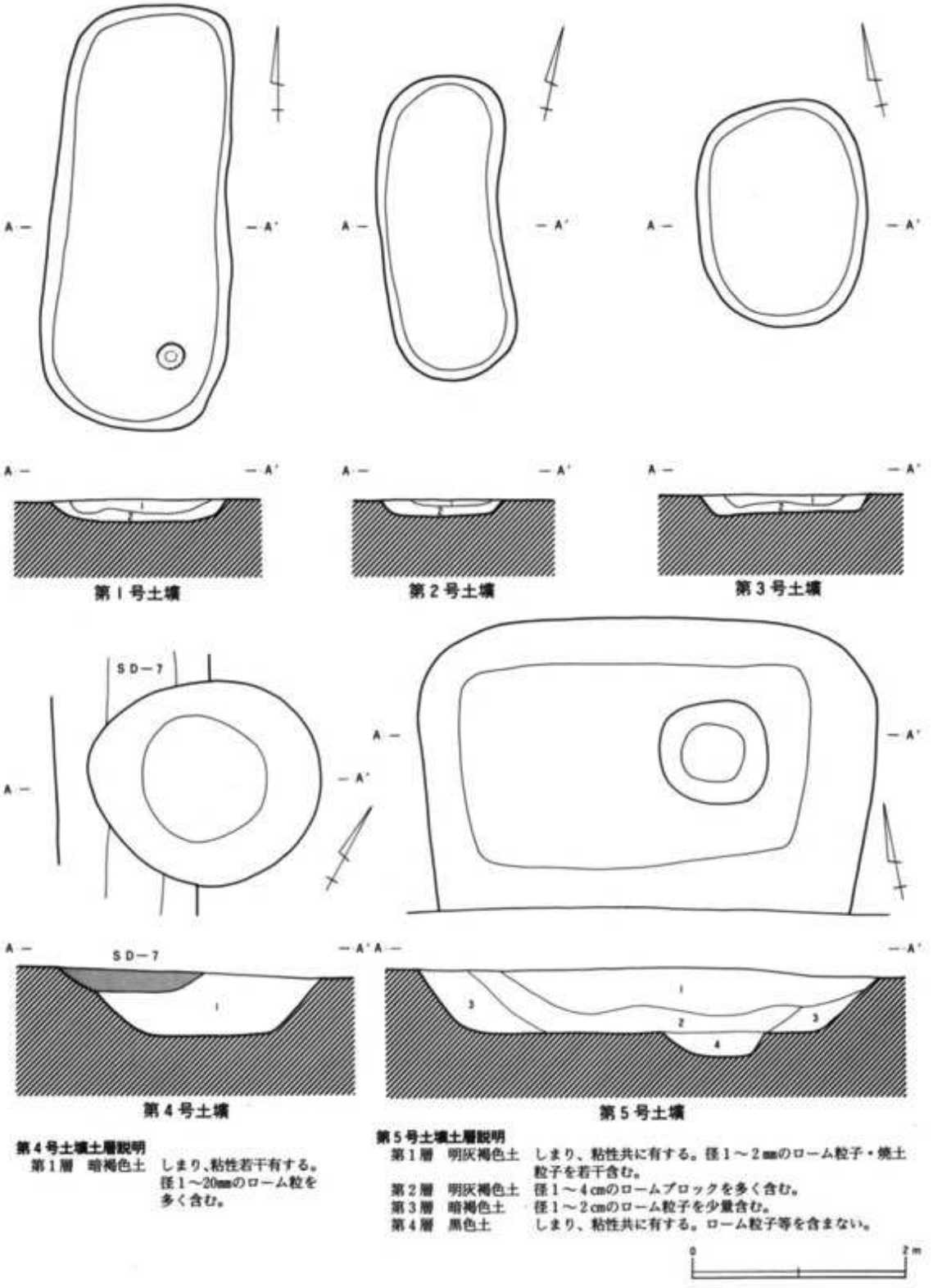
第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子を多量、ローム粒を少量含む。

第２層　黒褐色土　しまり有し粘性やや強い。ローム粒子を多量、ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。

第３層　暗褐色土　しまり有し粘性やや強い。ローム粒子・ローム粒・ロームブロックを非常に多く含む。

第４層　黒色土　しまり有し粘性強い。ローム粒子・ローム粒・ロームブロックを少量含む。

第95図　溝状遺構



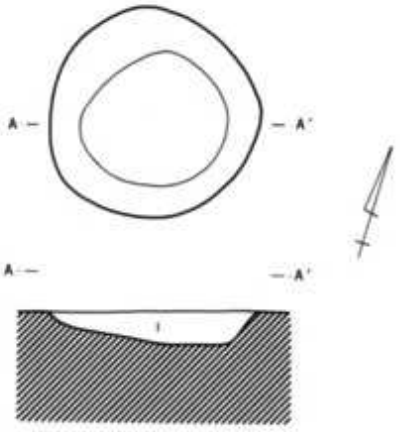
第4号土壙土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性若干有する。径1～20mmのローム粒を多く含む。

第5号土壙土層説明

第1層　明灰褐色土　しまり、粘性共に有する。径1～2mmのローム粒子・焼土粒子を若干含む。
第2層　明灰褐色土　径1～4cmのロームブロックを多く含む。
第3層　暗褐色土　径1～2cmのローム粒子を少量含む。
第4層　黒色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子等を含まない。

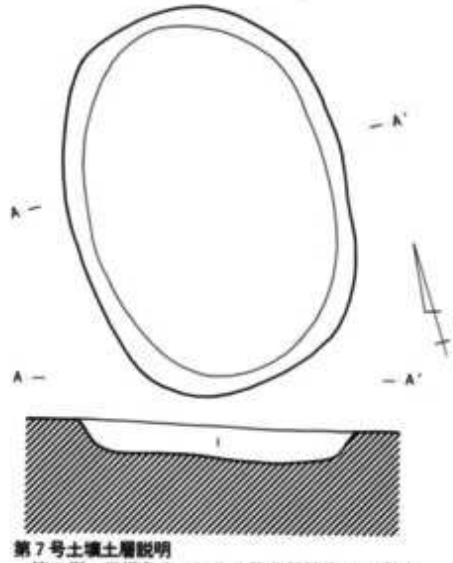
第96図　土壙(1)



第6号土壙土層説明

第1層　黒色土　しまり、粘性共に有する。径1㎜程度の白色パミスとローム粒子を多く含み、径1～5㎜の焼土粒・炭化物を疎らに含む。

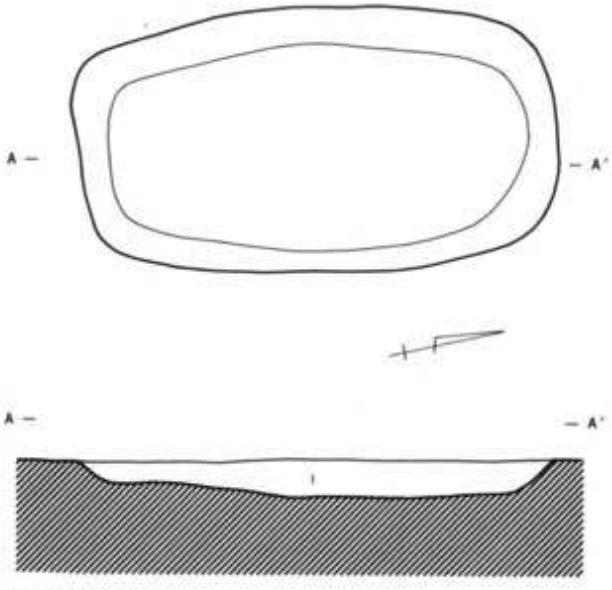
第6号土壙



第7号土壙土層説明

第1層　黒褐色土　しまり強く粘性をやや有する。径1㎜以下の白色パミスを均質に含み、径1㎜前後の焼土粒・炭化物を多く含む。

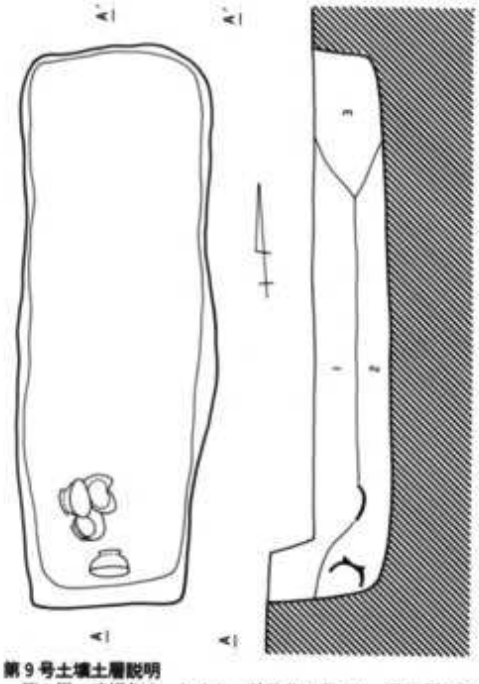
第7号土壙



第8号土壙土層説明

第1層　暗褐色土　しまり強く粘性をやや有する。径1㎜程度の白色粒とローム粒を均質に含む。径5～30㎜のローム粒を多く含み、径1～5㎜の焼土粒をまばらに含む。

第8号土壙



第9号土壙土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。第3層に比べて径5～10㎜のローム粒が多い。

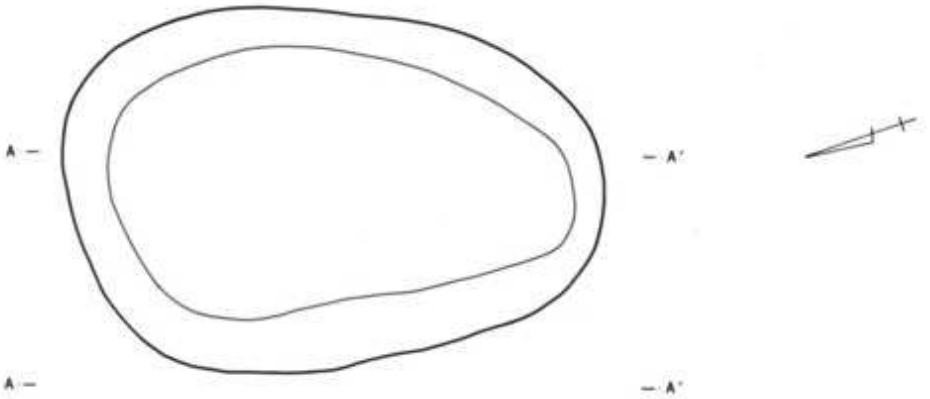
第2層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径1～5㎜のローム粒をまばらに含む。

第3層　黒色土　しまり、粘性共に有する。径1㎜以下のローム粒を均質に含み、径5～10㎜のローム粒をまばらに含む。

第9号土壙（図版142）

0　2m

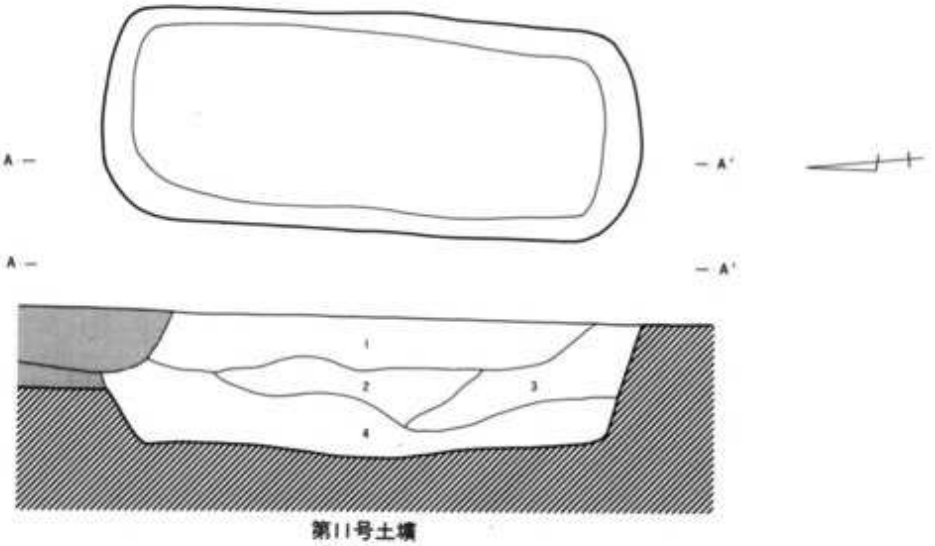
第97図　土壙(2)



第10号土壙

第10号土壙土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径1㎜程度の白色パミスと径1～5㎜のローム粒を均質に含み、径5～10㎜の焼土粒を少量含む。
第2層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。径1～2㎝のローム粒を多く含む。
第3層　暗褐色土　しまり有し粘性やや強い。径1㎜程度の白色パミスを均質に含み、径1～2㎝のローム粒を非常に多く含む。



第11号土壙
(図版143)

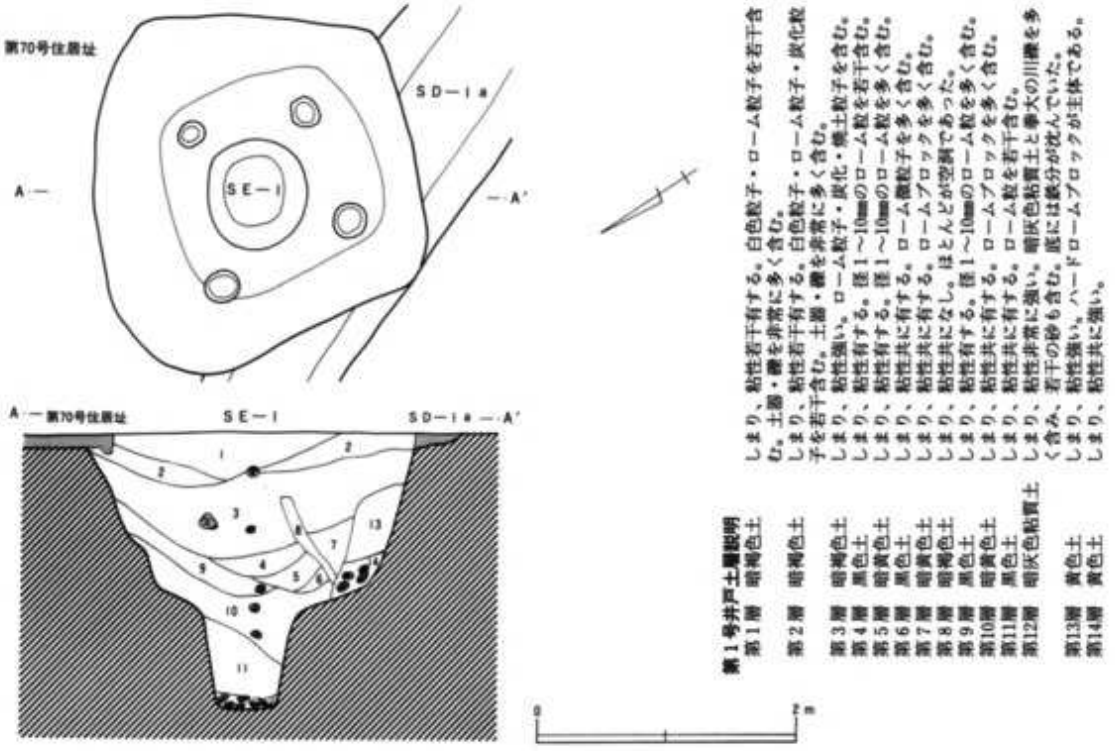
第11号土壙土層説明

第1層　褐色土　しまり強く粘性を有する。径1㎜以下の白色パミスを均質に含み、ローム粒子を多く、径5～20㎜のローム粒を少量含む。また、径5～10㎜の炭化物・焼土粒を微量含む。
第2層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。ローム粒子・径1～10㎝のロームブロックを多く含む。
第3層　暗褐色土　しまり、粘性有する。ローム粒子と径1～3㎝のローム粒を含む。
第4層　暗褐色土　しまり、粘性有する。ローム粒子と径1～2㎝のローム粒を含む。
明　1＞2＞3＞4　暗

0　2m

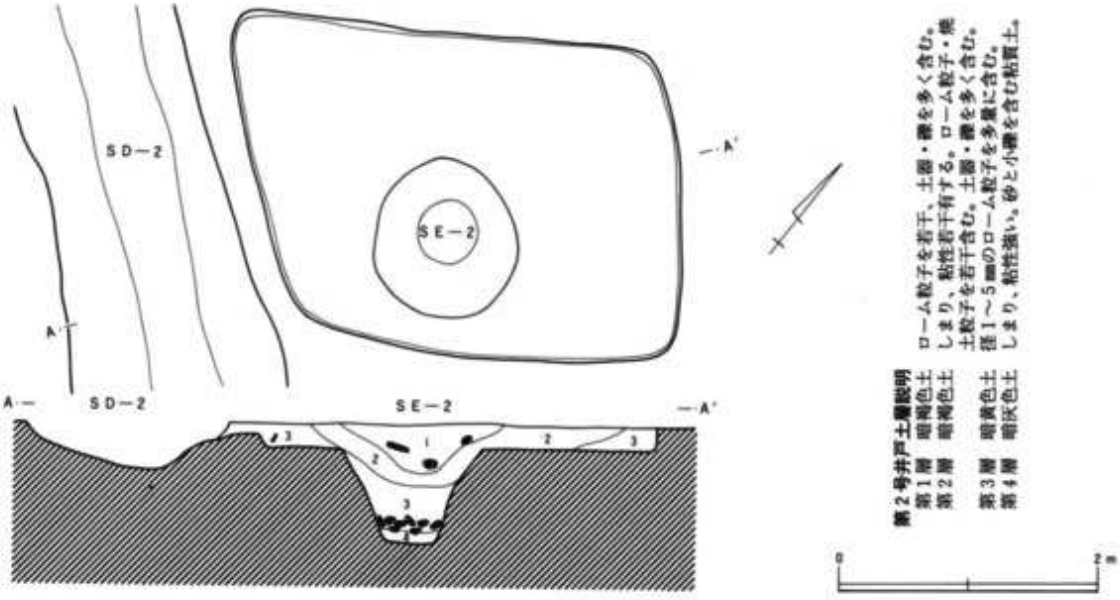
第98図　土壙(3)

第１号井戸（第99図　図版153・154・155）



第99図　第１号井戸

第２号井戸（第100図　図版156－１）



第100図　第２号井戸

第II章　遺物の概要

本遺跡から出土した遺物には鬼高II期・真間期・国分期・羽釜出現期以降のものがある。その中でも鬼高II期・羽釜出現期以降の時期に遺物の出土が密である。本章では、遺跡においてもっとも一般的な出土遺物である土器を中心に製作過程等を検討することで遺物観察に代えたいと思う。

1．鬼高II期

鬼高II期は、本遺跡において遺物出土量が卓越する時期である。遺物組成の主体を為すのは土師器であり、その他の遺物には、須恵器・土錘・石製紡錘車・刀子等が挙げられる。出土した須恵器の器種には大甕・大形壺・提瓶・甑・高坏・坏等が認められ、第3・4号溝址からの出土が多く、住居址からの出土は稀である。

胎　土

まず始めに、本遺跡出土土師器の胎土の検討を行ないたい。本遺跡出土の土師器で結晶片岩・絹雲母を含む粘土によって製作されたものは、概ね児玉町付近に産地が限定される可能性が高い(註1)。供膳具と煮炊具・貯蔵具では、使用される粘土に相違が見られ、概して前者の粘土は夾雑物・混和材がきめ細かく、後者のものは夾雑物・混和材が粗い傾向にある。そしてそのことは即ち器種によって限定された粘土選択の過程の存在を示すものである。なお土に在地的な特徴が観察されないものは全体の二割程度であり、概ね坏に限定される(註2)。

坏の製作過程

坏の製作工程は一般的に、器体原形製作工程＜イ＞口辺部調整工程＜ロ＞、底部調整工程＜ハ＞の工程に区分・配列されると思われる。＜イ＞の工程では台上の逆位台形状もしくはコマ状粘土塊に粘土帯を積み、圧延及び押圧によって口辺部・内底部の原形を製作する方法（大屋、1995）が考えられている。逆位台形状またはコマ状粘土塊の存在を示唆するものに第129号住址1・第201号住址5の資料が挙げられるが、粘土塊への粘土帯圧着の痕跡を示す資料は確認されなかった。＜ロ＞の工程における口辺部調整痕にはナデ上げた痕跡を示すもの、断続的な回転ナデの痕跡を示すものの二種類が観察される。これは調整に使用した工具の差異を表すものであり、前者は口辺部内外面において対応し、口辺部を二指で挟み込んで行なう回転ナデであるとされるが、一方で硬質な擦痕を残すものもあり、器面と指との間に介在する工具の存在を想定しうる。後者に該当する工具には軟質木口状工具の名称が与えられている（大屋、1988）。＜ロ＞・＜ハ＞の工程の間には一定の乾燥期間がおかれる。＜ハ＞の工程では外底部突出部の切除と器厚の調整が行なわれていると考えられる。

尚、本遺跡出土の坏は、形態的差異に富み、細別分類が可能である。坏の形態的差異は＜イ＞・＜ロ＞の工程の内容の差異に起因すると思われ、分類され

たものと同数の製作過程の存在を示唆するものである。

高坏の製作過程

高坏は、長脚高坏が一定量出土している。第4号溝址1の高坏は脚体部内面は上半に絞り目が認められ、下半には明瞭な輪積み痕を残し、第3号溝址17の高坏では、坏部及び脚部接合部分の断面形が枘状に観察される。こうした事例は、形態的には連続性を欠くものの、所謂和泉型高坏との製作過程上の関連が想起され、和泉型高坏の製作工程単位内の変形である可能性が示唆される。しかしながら、概して脚体部内面は掻き取り状のケズリ調整が及び、前工程と重複することが多く、製作工程の単位が不明瞭なものが多いので一概には言えない。また、具体的な工程配列の把握までには及ばず、検討の余地を残すものである。

甕・壺・大形甑の製作過程

甕・壺・大形甑等の器種は原則として製作工程に対応が認められ、概ね器体下半部製作工程＜イ＞・器体上半部製作工程＜ロ＞・口縁部製作工程＜ハ＞・器面調整工程＜ニ＞に区分・配列される。また、甑では底部穿孔工程が追加される。＜イ＞の工程において底部胴部下半を鉢状に製作し、場合により粘土紐を数単位追加する。＜イ＞・＜ロ＞の工程の接点において、内面調整の不連続や明瞭な接合痕、または掻き取り状のケズリの痕跡等が観察され、両者の間には一定の時間的な断絶を認めることが可能である。この時間的な断絶は、主として器体下半部を乾燥させることで安定させ、＜ロ＞の工程における器体上半部製作の結果増加する重量の支持を目的としていると思われる。＜ロ＞の工程では粘土紐の上方への積み上げによって胴部上半から口縁部の原形が形成される。輪積み痕の断面形から、上方の粘土紐下半の一部が下方のそれの内側に貼付される傾向を指摘できる。これは粘土紐間の安定した接着幅の確保を目的としていると思われる。本工程における工具押し引きによる内面調整は、器面整形を兼ねた粘土帯圧着に関わるものであると考えられる。工具が粘土紐数単位を横断する痕跡が認められることから、＜数単位の輪積み→指頭押圧・ナデ→工具押し引き＞といった作業単位を想起することができる。本工程はこうした作業単位が状況に対応し任意反復されることで構成されると考えられる。＜ハ＞の工程では口縁部の製作が行なわれる。口縁部の外反は、曲げ・圧延等に拠っていることが想定され、口縁部に口径円心方向に亀裂が入る個体も確認される。＜ニ＞の工程ではヨコナデによる口縁部調整、ヘラケズリによる胴部外面調整が行なわれる。ヘラケズリには、ナデ状のもの・削がれたもの・ノッキングするものなどの痕跡の相違が観察され、それらは作業配列上の差異や、工具の使用法に起因すると思われる。

2．真間・国分期

本遺跡における真間・国分期は、集落が縮小傾向を示しつつも継続され、そ

れに相関して遺物の出土量を減じる時期である。供膳具・煮炊具は、所謂北武蔵型坏・武蔵型甕と呼称される伝統的で連続的な変遷をたどる土師器（鈴木、1983・1984）が主体的である。また、児玉町付近においては須恵器は常に客体的な存在である。

胎　土　　夾雑物・混和材は器種に拠って差異が認められ、煮炊具に白色粒子が顕著に含まれるのが特徴的である。本遺跡では器種を問わず粘土はきめ細かく、同一の器種内においては均質である傾向が観察され、このことは前時期との間に生地土生成の工程における変化を示すものと思われる。

坏・甕の製作過程　坏・甕の製作過程には前時期との一定の連続性が推察される。坏は台上製作から掌上製作への転換、口辺部成形における曲げ・圧延成形への依存が指摘され(鈴木、1984)、器体原形製作工程の前時期との一定の断絶が認められる。それに対し、口辺部・底部調整ではは前時期と同様の工程が継続採用され、その関係性が窺われる。甕では胴部中位において明瞭な接合痕、または掻き取り状のケズリ痕が観察される場合が多く、前時代の工程配列と対応が認められる。内面調整おいても工具痕が確認され、前時期と同種の作業が想定されるが、比較的丁寧にナデ消される傾向が強い。

3．羽釜出現期以降

羽釜出現期以降は、土師器を主体とした伝統的な器種組成は衰退した状態にあり、ロクロ使用の新しい様相を呈する器種が主体をなす。該期の土器様相を端的に示す遺構には第71号住居址・第107号住居址などが挙げられる。前時期と様相を劃する器種群を、主として製作過程の点から概括し、以下に記述してゆきたい。なお、灰釉陶器やその他の器種の出土も確認されているが、出土量が寡少であり、検討の必要性を感じつつも割愛した。

供膳具の製作過程　該期の坏・椀類の製作過程は、器表面の観察からロクロナデの工程のみのもの＜イ＞・ロクロナデ後、高台貼付の工程を採用するもの＜ロ＞・ロクロナデ後、底部外周ヘラケズリ及び高台貼付の工程を採用するもの＜ハ＞の三種類に分けられる。焼成は酸化炎焼成のものが主体的である。＜イ＞の製作過程を採用する坏・椀共にあり、底部に回転糸切りによる切り離しの痕跡が認められる。＜ロ＞の製作過程を採用する坏は、端部調整の緩い高台を伴うものが主体的である。椀は、高台が高く「八」の字を呈するものと、高台が低く端部調整の緩いものの二種類が認められる。＜ハ＞の製作過程を採用するものは椀のみである。器内面が磨かれ、黒色処理が施されるものが多い。また、ヘラケズリには手持ちヘラケズリ、回転ヘラケズリの両者が確認される。

坏・椀の高台貼付はロクロナデを伴う作業であることから、逆位で為されたと考えられる。しかし、口端部に設置面を有さず、また高台部が明瞭に剝脱す

る場合や、ヘラケズリ後の貼付が認められるため、高台貼付前に一定の乾燥期間が与えられていた蓋然性が高い。ロクロの使用は作業上の合理性・効率性を高めるものであり、また供膳具は、需要が高く量的に豊富である器種であることを鑑みれば、この乾燥期間の有効的な利用を想定できる(註3)。

羽釜の製作過程

本遺跡出土の羽釜は胴部が張るものが一般的であり、口縁部形態において概ね直立気味に外反するもの、内湾するものに弁別することが可能である。焼成の方法には酸化焔焼成・還元焔焼成の両方の場合がある。羽釜の製作工程は器体製作工程＜イ＞・胴部外面調整工程＜ロ＞に区分・配列される。＜イ＞の工程はこれらは回転台上での一連の作業である。粘土円盤への粘土紐を積み上げの結果、底部・胴部・口縁部原形が形成される。この時ロクロナデが螺旋状に連続せず、断続的であるため＜数単位の輪積み→指頭押圧・ナデ→ロクロナデ＞を一単位とする作業の反復が想定される。口端部は平坦面を有するため、工具の使用による面とり後のヨコナデを想定したい。鍔部は貼付には強い押圧を伴い、上下をつまんでのヨコナデが施されている。尚、該期の甑は羽釜と製作過程のほとんどを共有し、両者の関係性が緊密であることが指摘される。本遺跡での出土は稀であり、確実に甑として認識し得るものは第197号住居址3のみである。

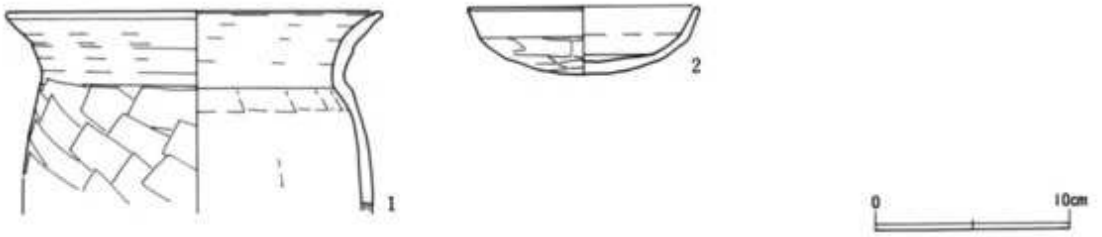
本章では、主として各期における主要な器種の製作過程の把握に努めることで遺物の概要に替えた。しかしながら、実証性や用語の適切性も不十分であり、また、遺物の詳細についてまでは及ばず、今後に課題を残すものとなった。更なる研鑽を心がけたい。　　（桜井和哉）

註

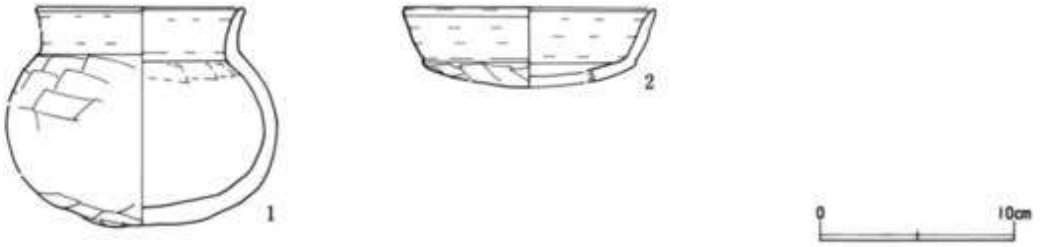
（1） 結晶片岩粒と微量の海面骨針を含む粘土は群馬県藤岡市付近から児玉町付近で産出されるものであることが、埴輪の胎土観察（井口、1997）や縄文土器の胎土観察（鈴木、1997）によって推定されている。尚、海面骨針については観察が及ばず、混入を確認しえなかった。

（2） こうした土器群は形態的特徴をもって認識され、有段口縁坏・比企型坏等の名称が与えられており広域な分布圏を構成している。

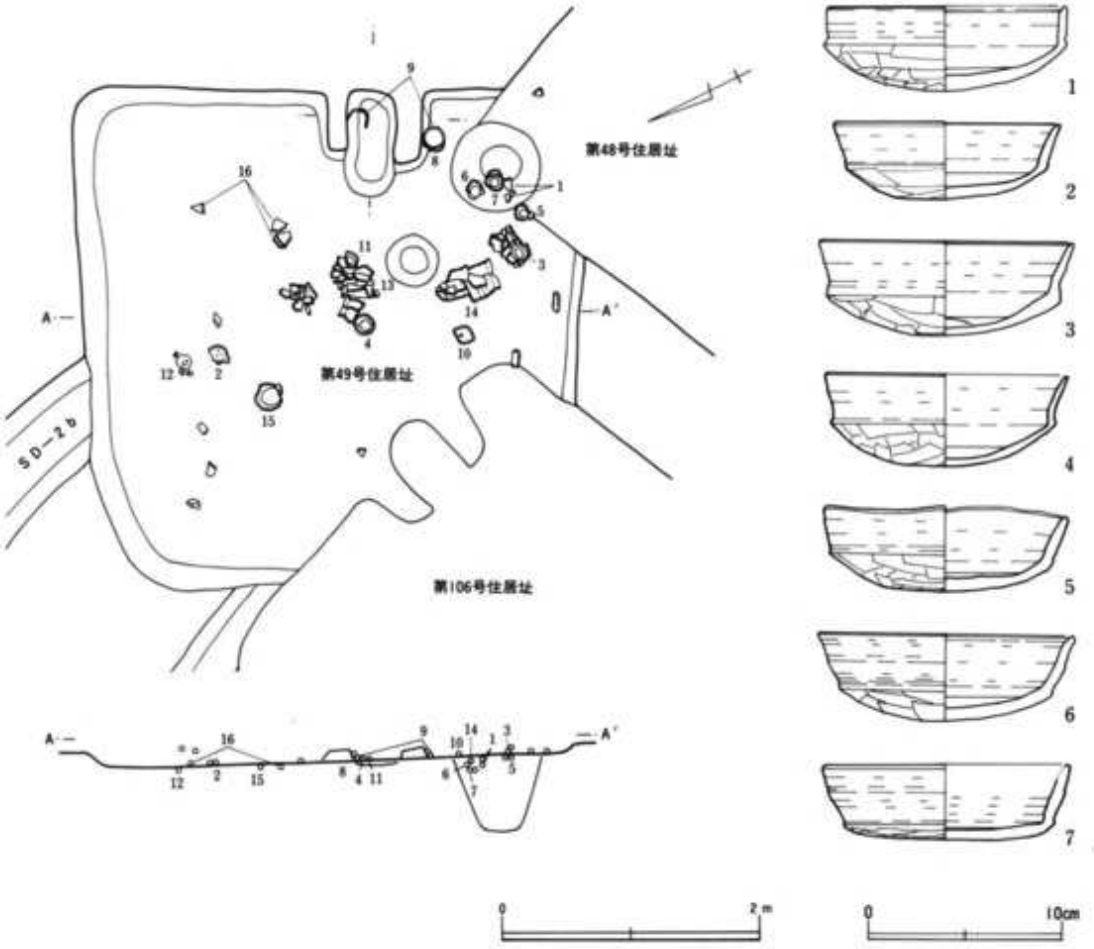
（3） 具体的には乾燥期間中の別個体の作成といった連鎖し並行する製作工程が考えられる。ロクロ使用の土器は伝統的な土師器より、省力化された製作技法を取るため、よりそうした場合を想定しやすい。



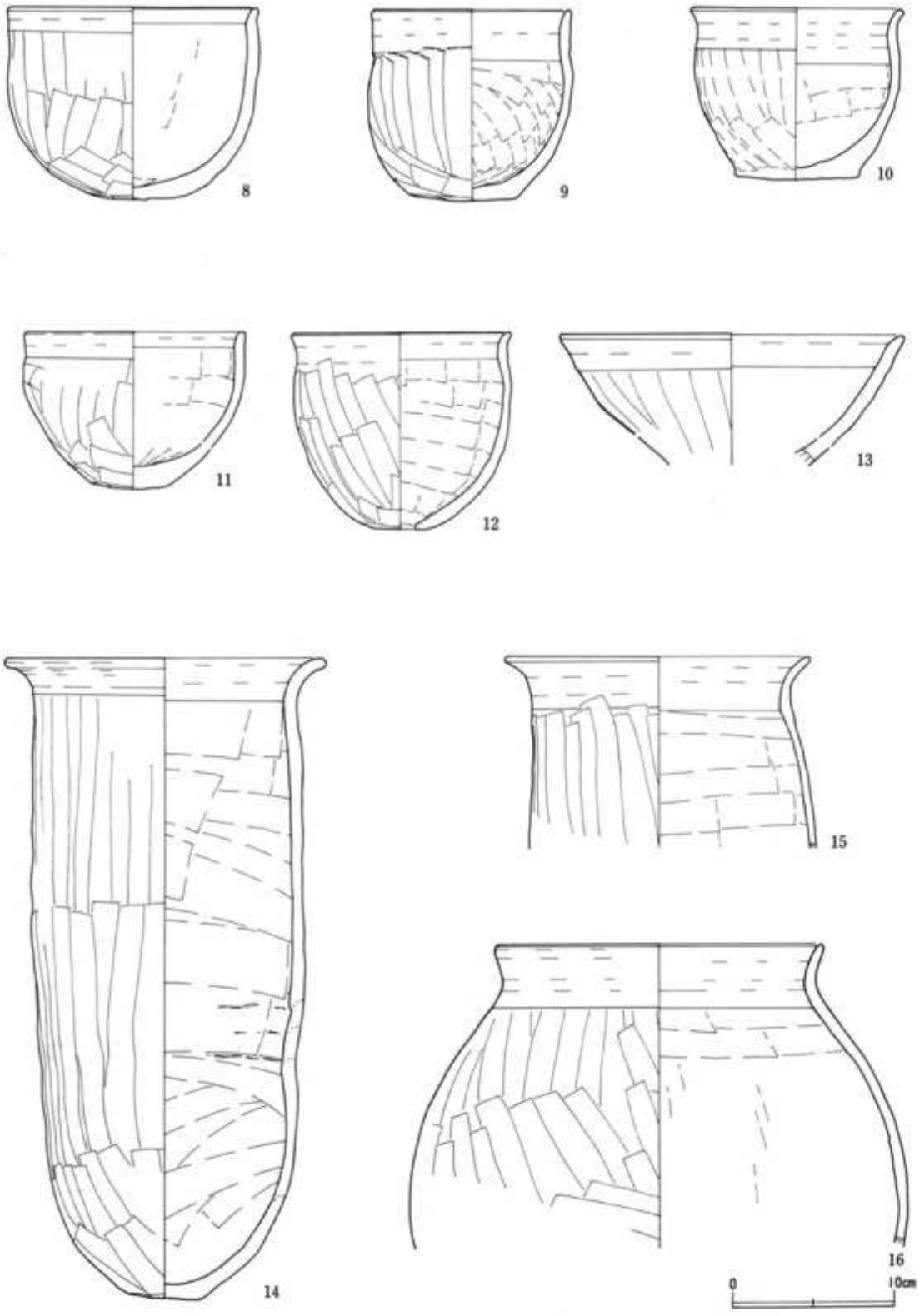
第101図　第44号住居址出土遺物



第102図　第46号住居址出土遺物

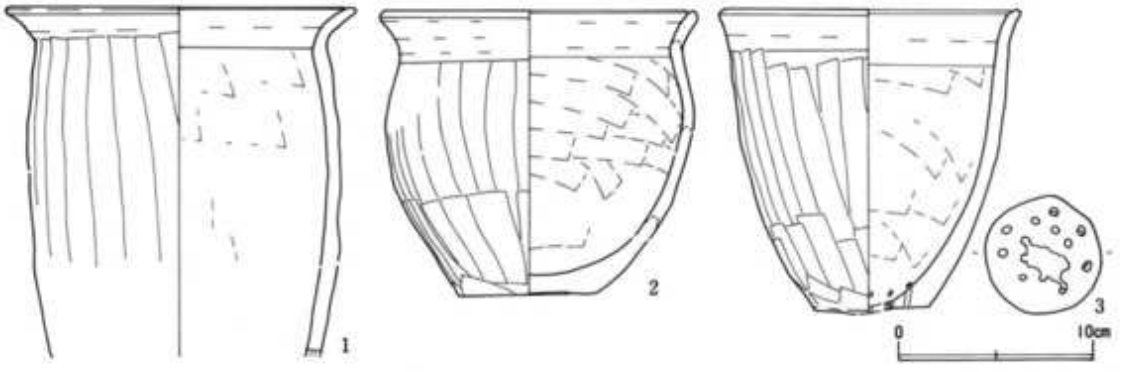


第103図　第49号住居址遺物出土状況及び出土遺物(1)

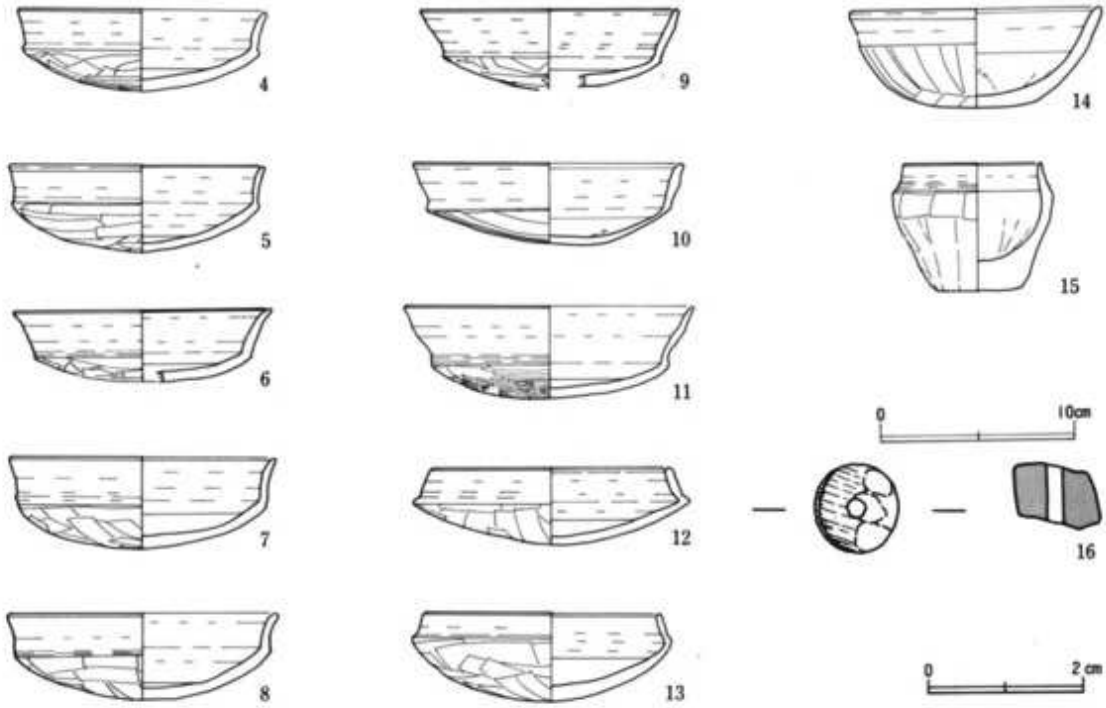


第104図　第49号住居址出土遺物(2)

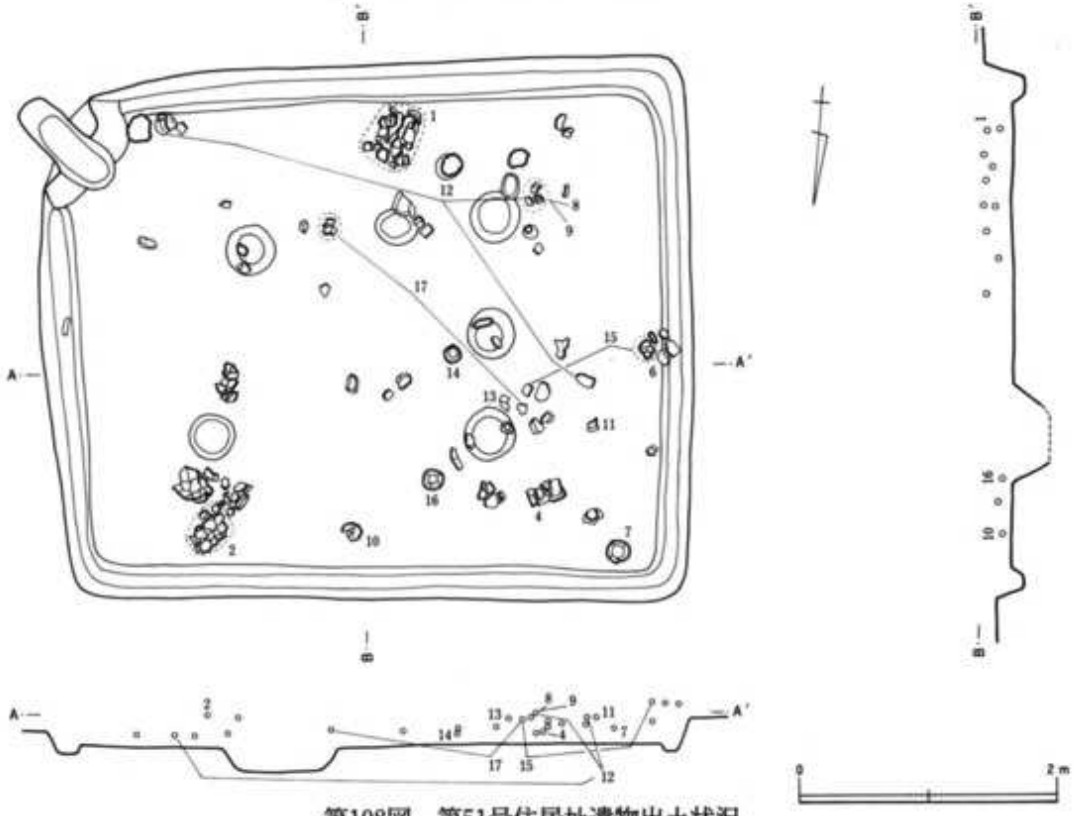
第105図　第50号住居址遺物出土状況



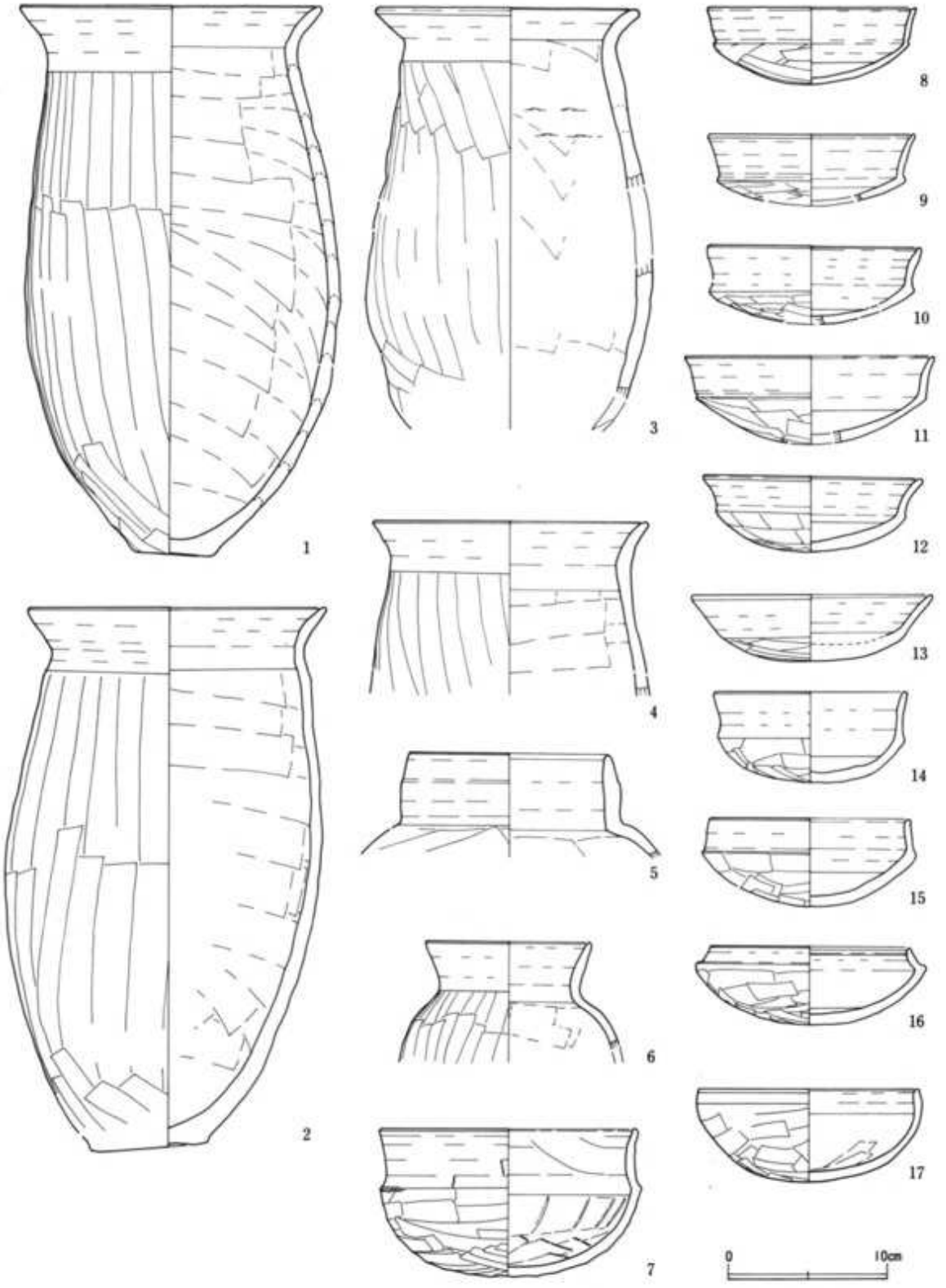
第106図　第50号住居址出土遺物(1)



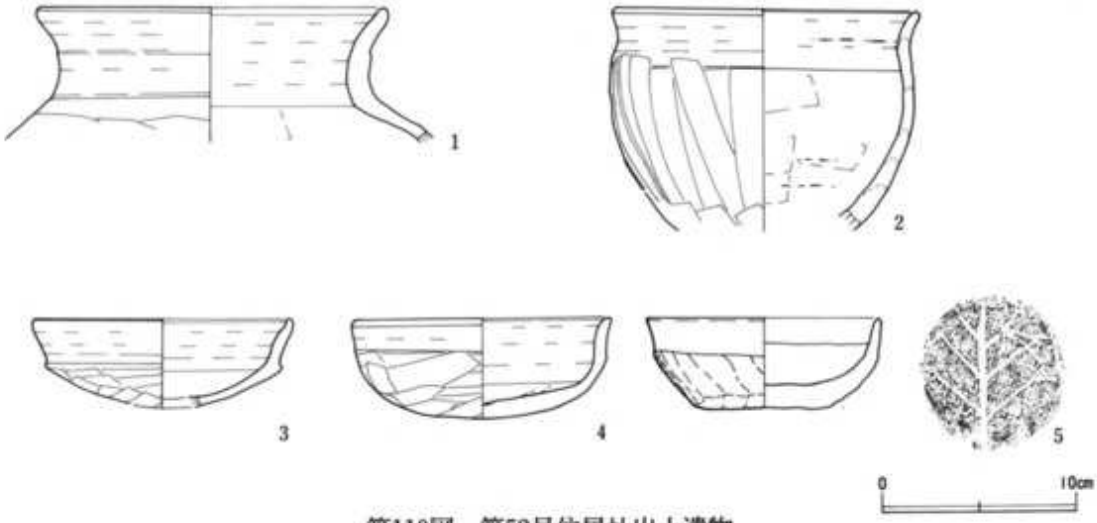
第107図　第50号住居址出土遺物(2)



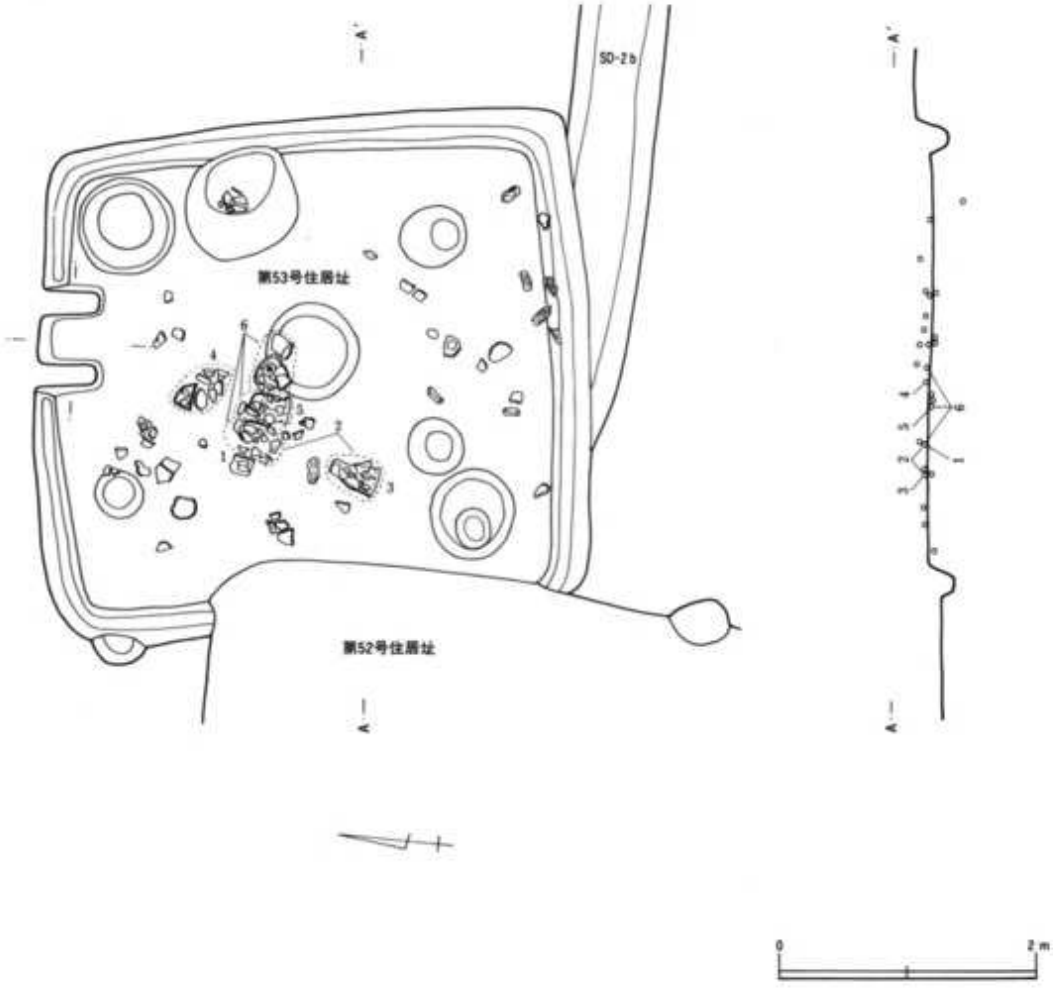
第108図　第51号住居址遺物出土状況



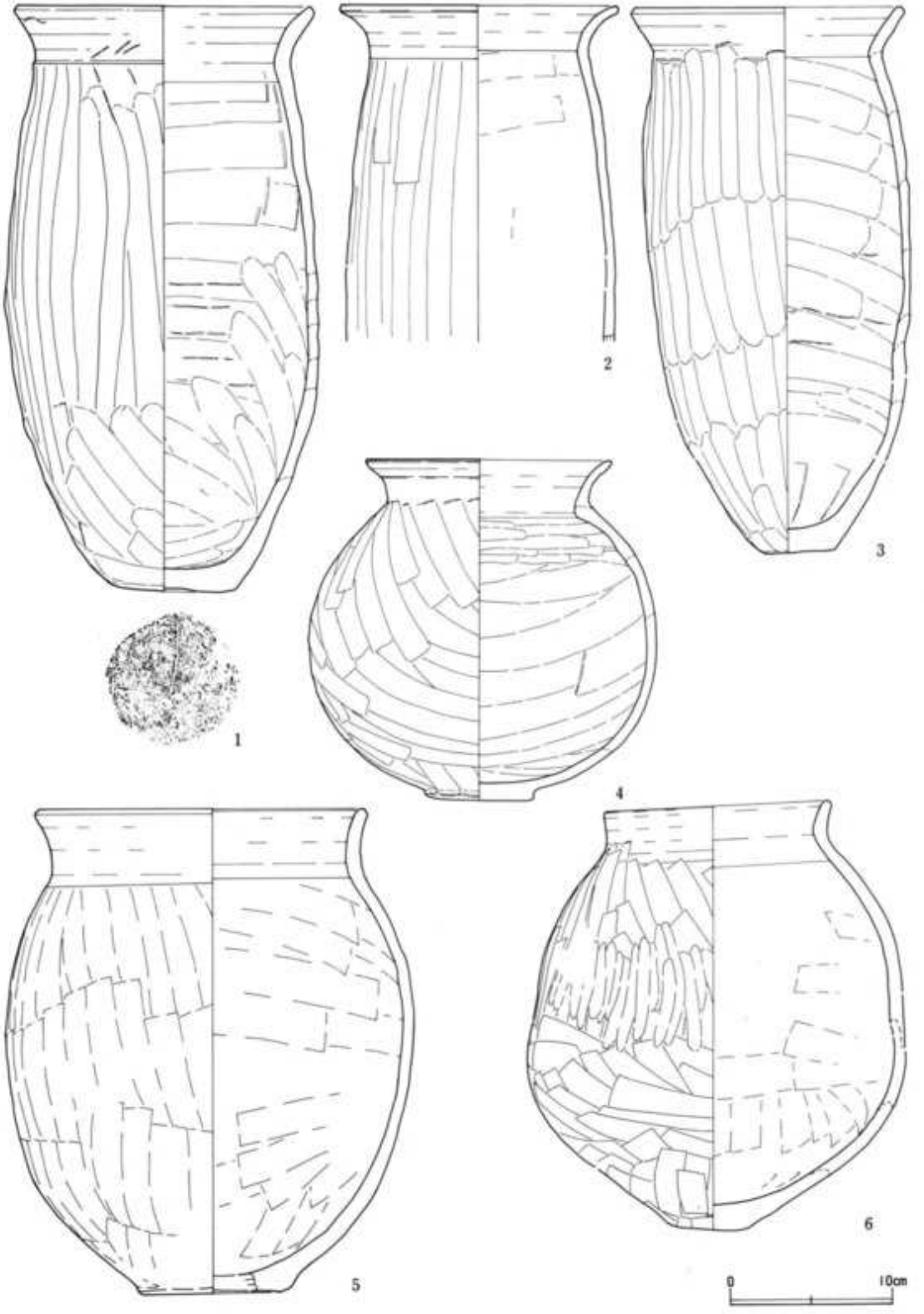
第109図　第51号住居址出土遺物



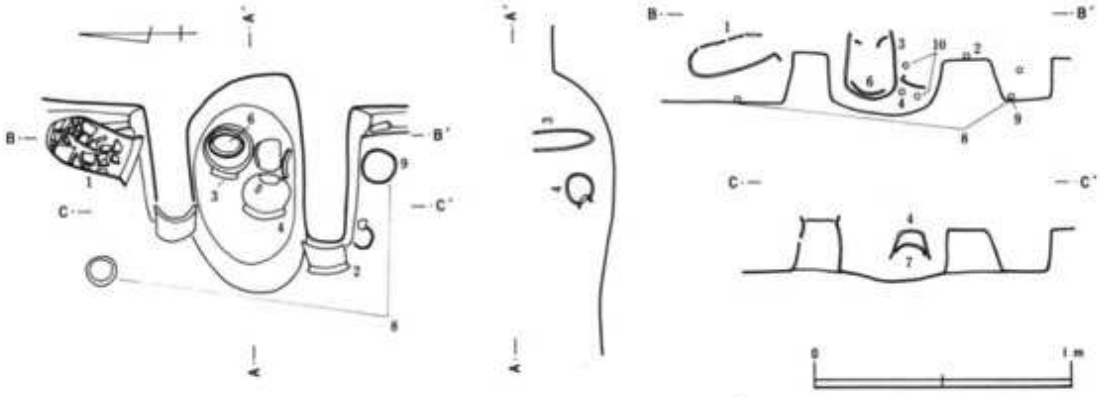
第110図　第52号住居址出土遺物



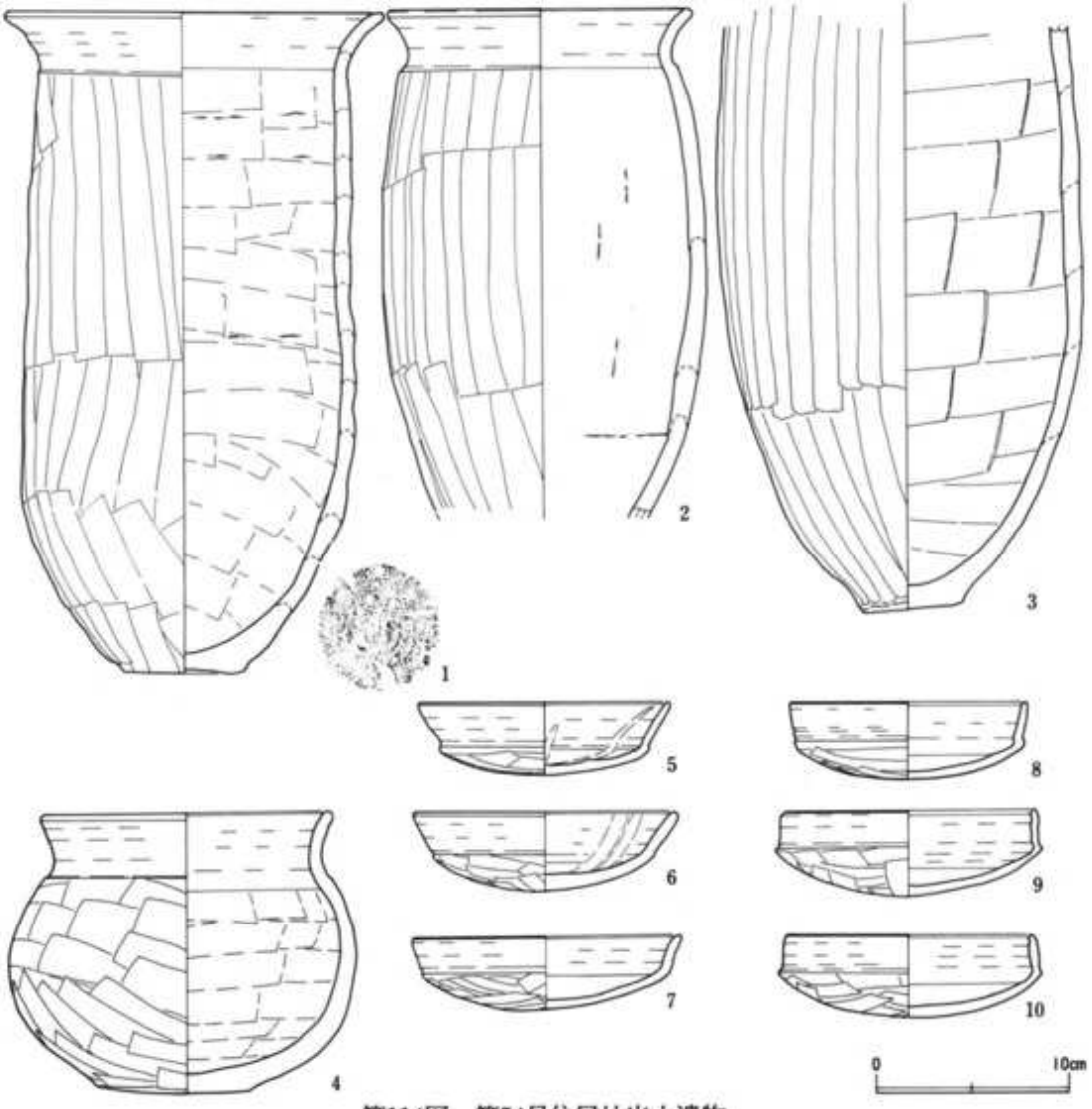
第111図　第53号住居址遺物出土状況



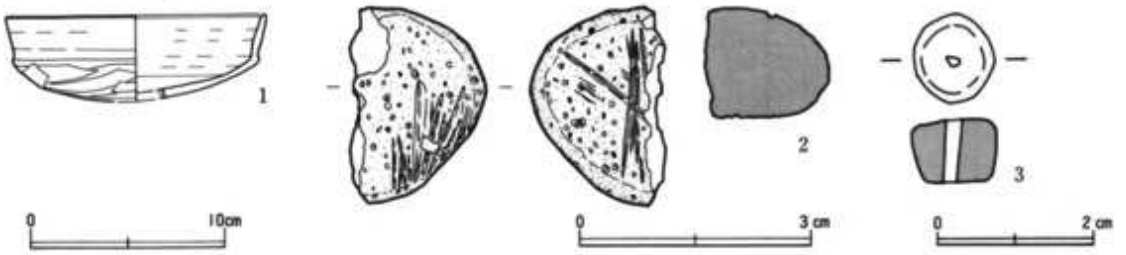
第112図　第53号住居址出土遺物



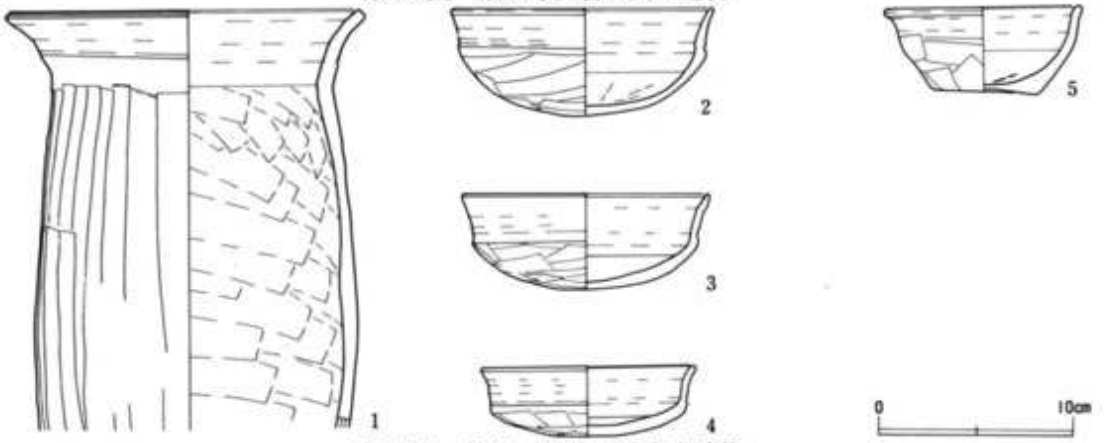
第113図　第54号住居址カマド遺物出土状況



第114図　第54号住居址出土遺物

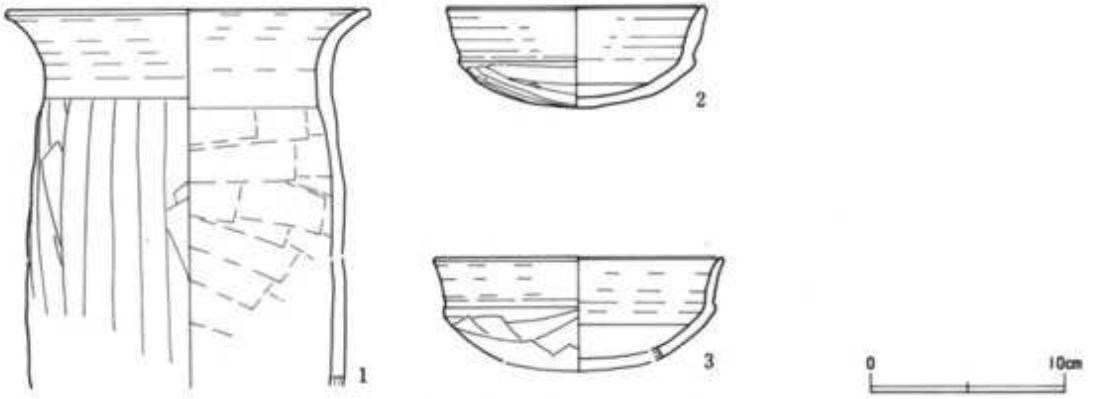


第115図　第55号住居址出土遺物



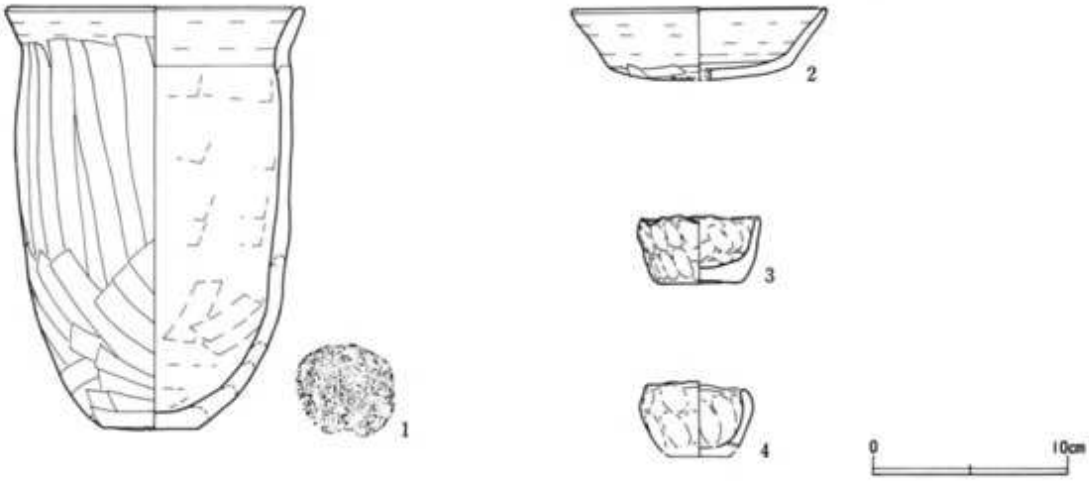
第116図　第56 a 号住居址出土遺物

第117図　第57号住居址出土遺物

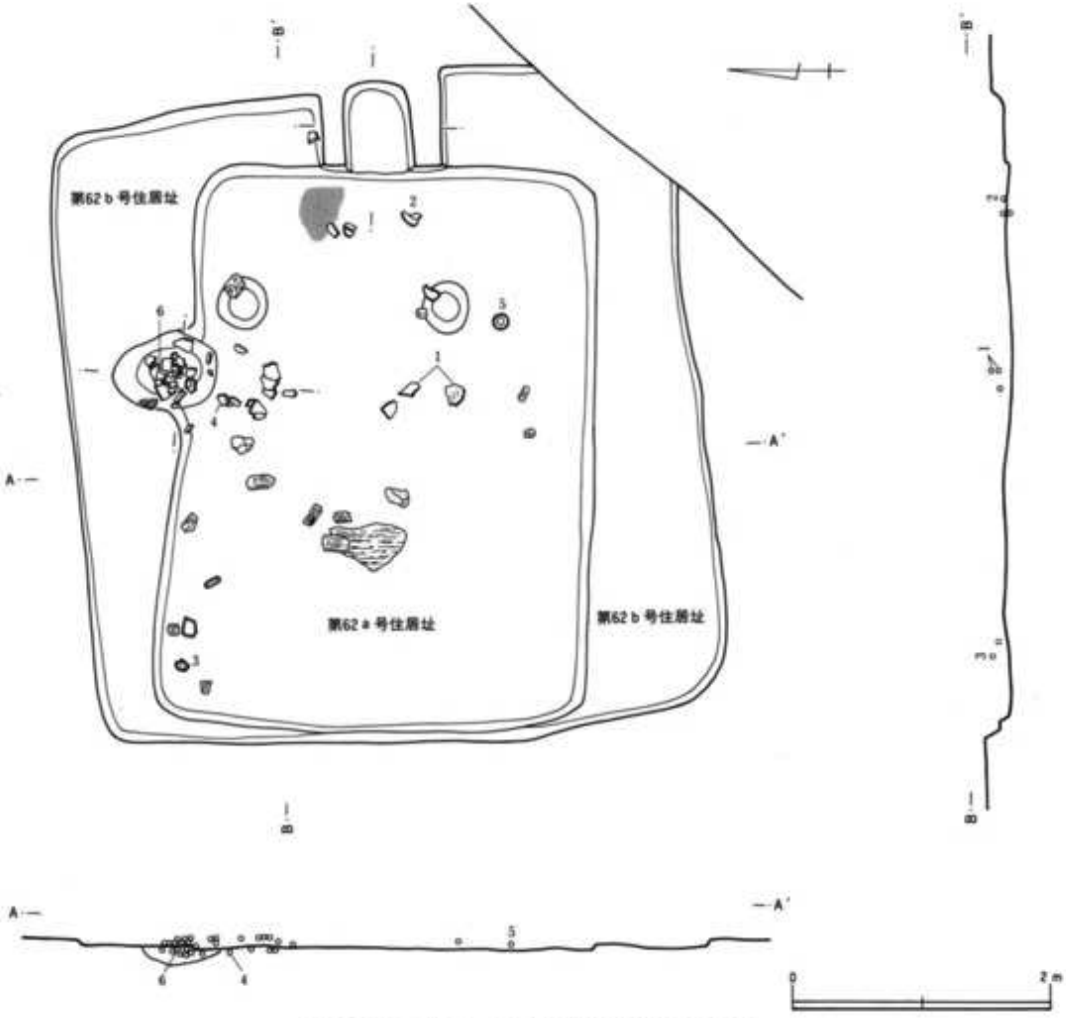


第118図　第58号住居址出土遺物

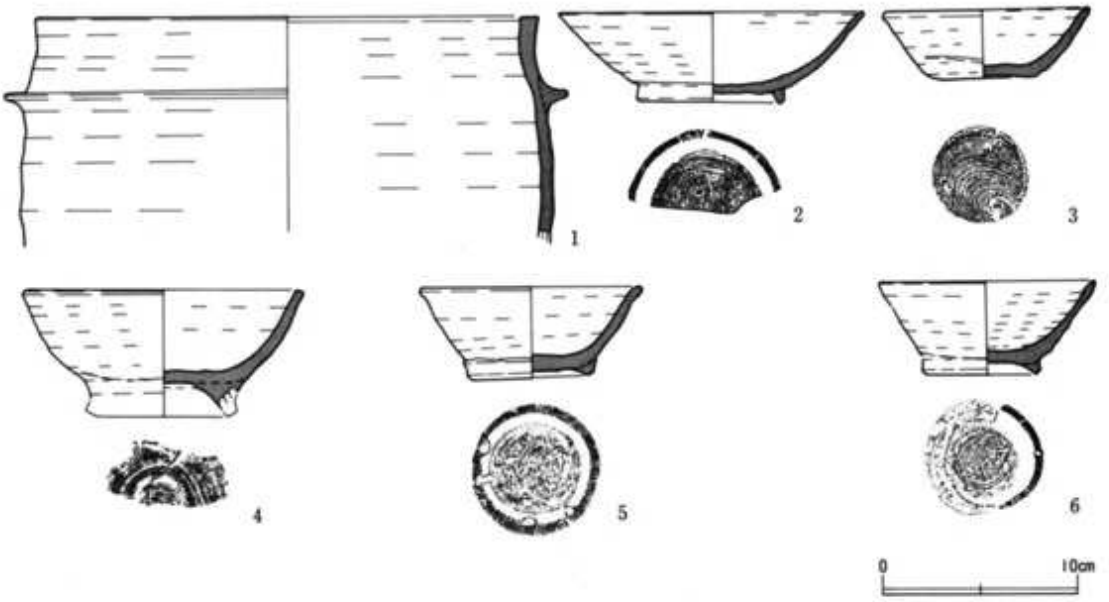
第119図　第59号住居址出土遺物



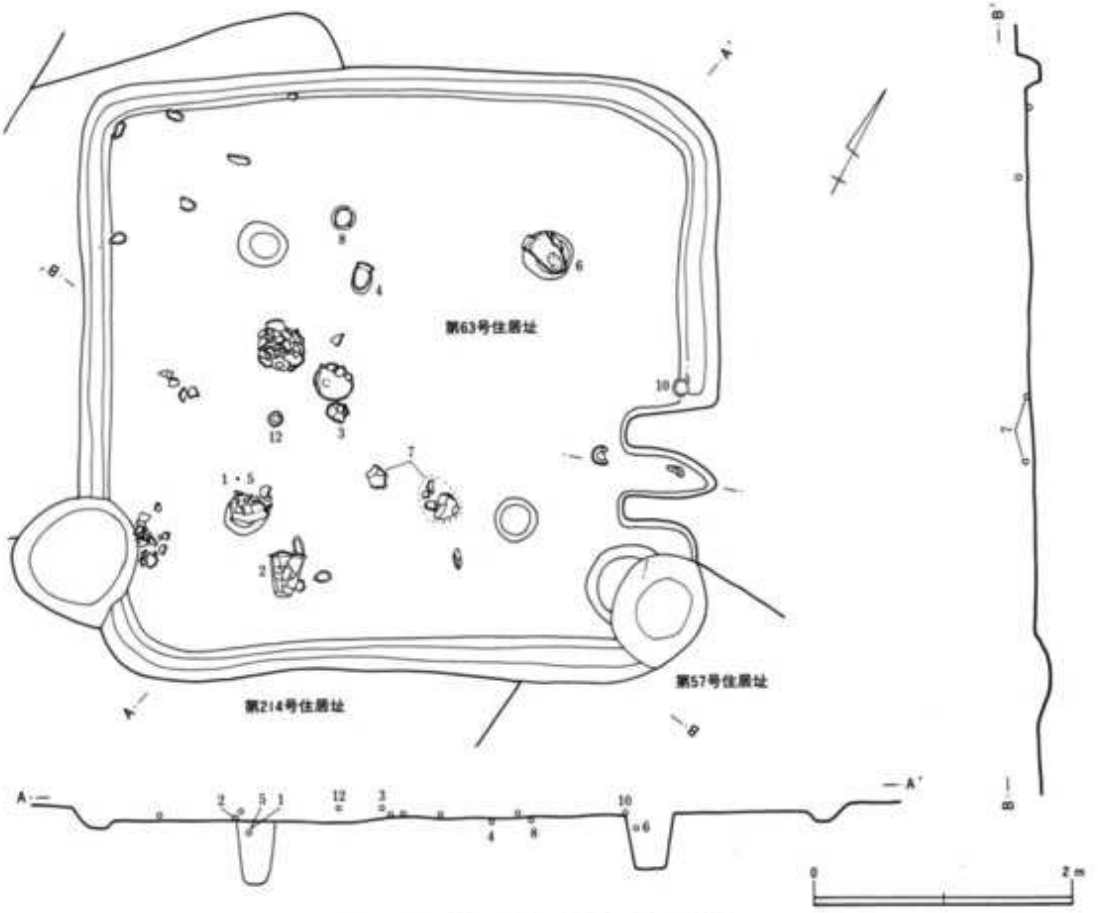
第120図　第60号住居址出土遺物



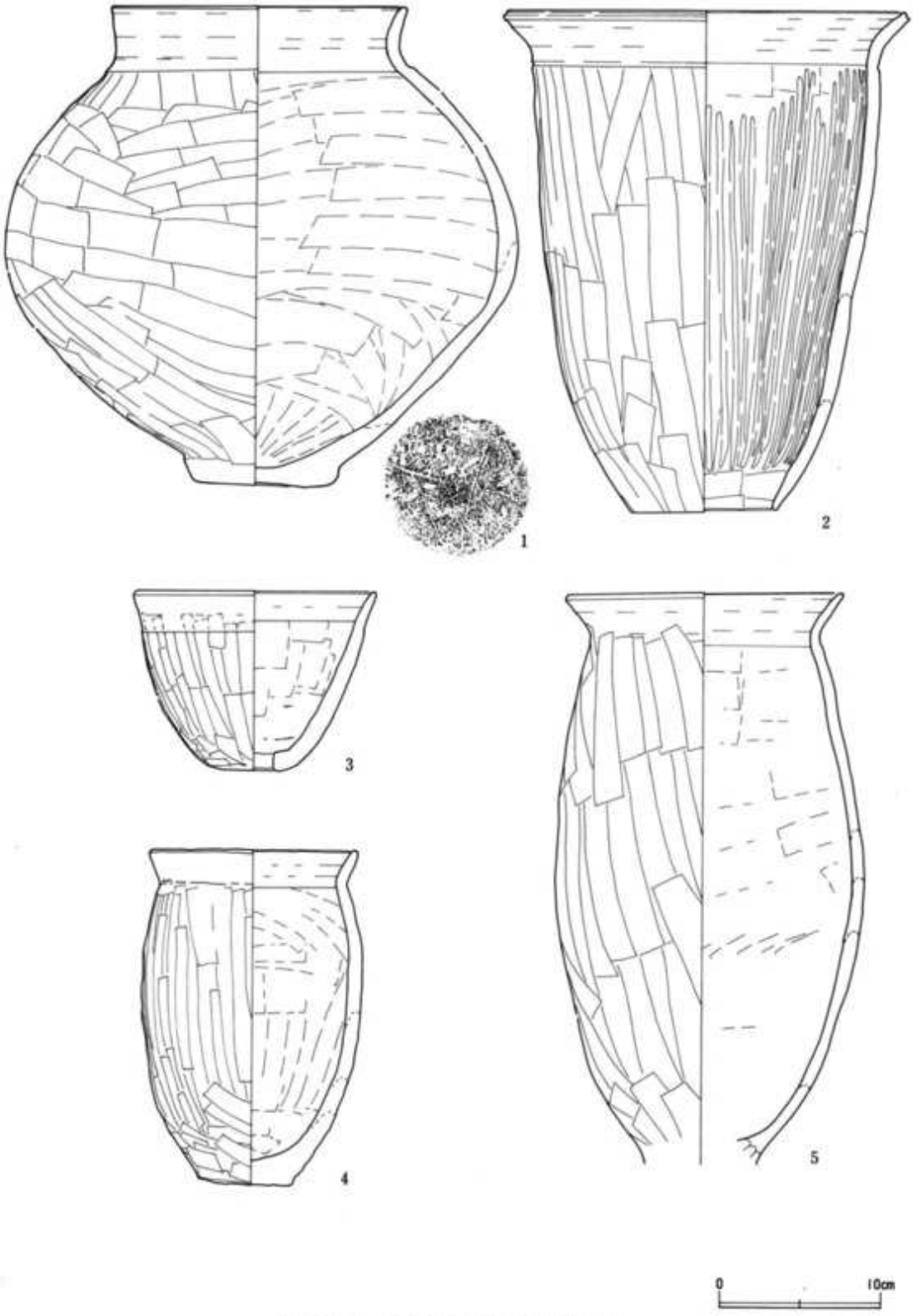
第121図　第62ａ号住居址遺物出土状況



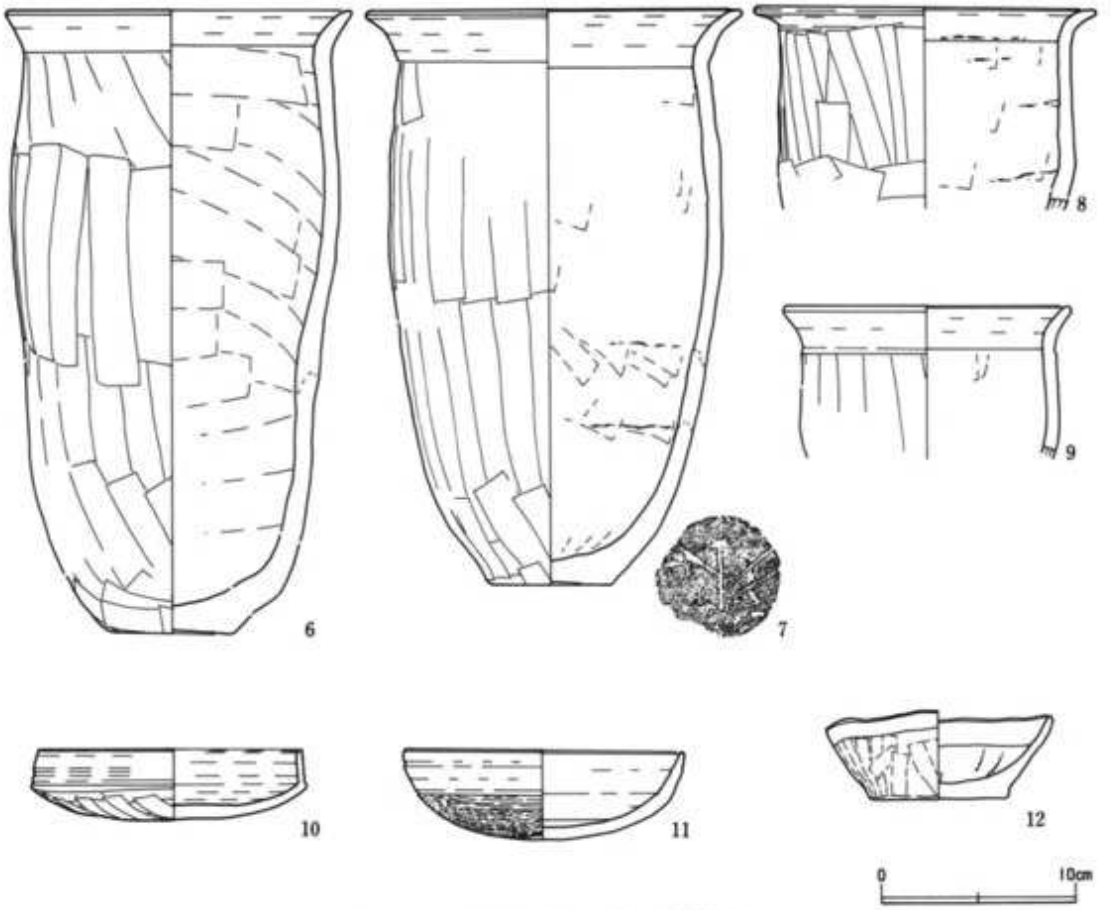
第122図　第62 a 号住居址出土遺物



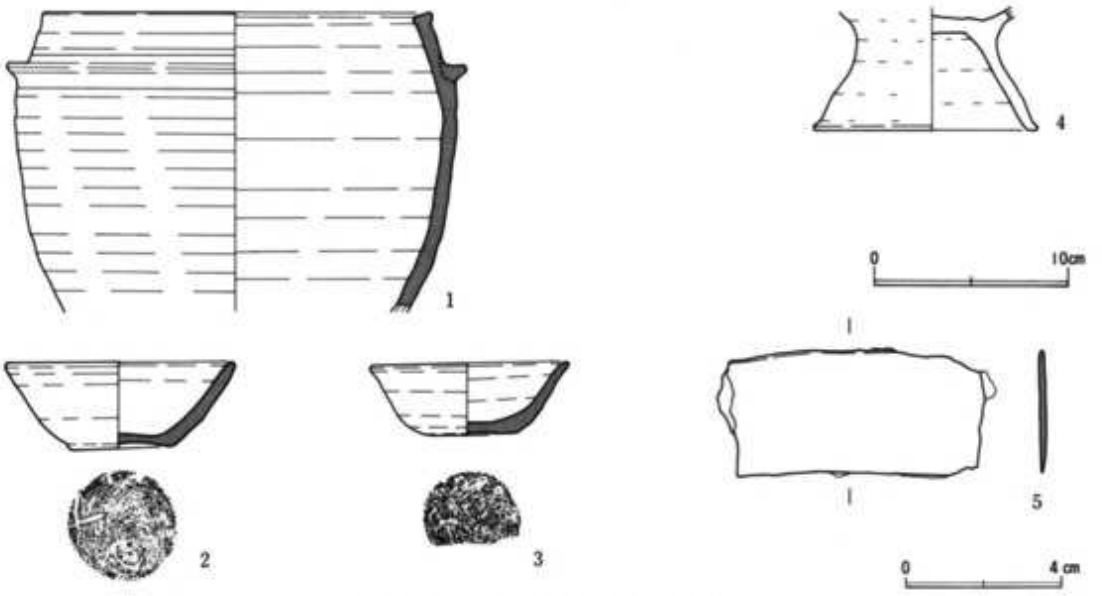
第123図　第63号住居址遺物出土状況



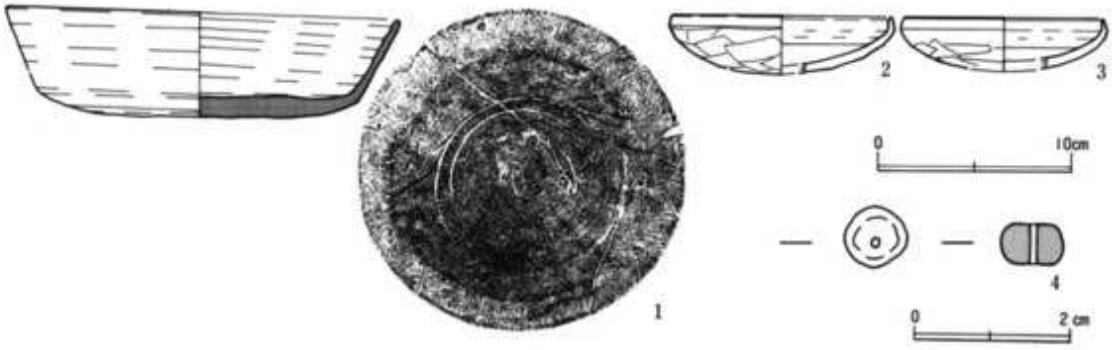
第124図　第63号住居址出土遺物(1)



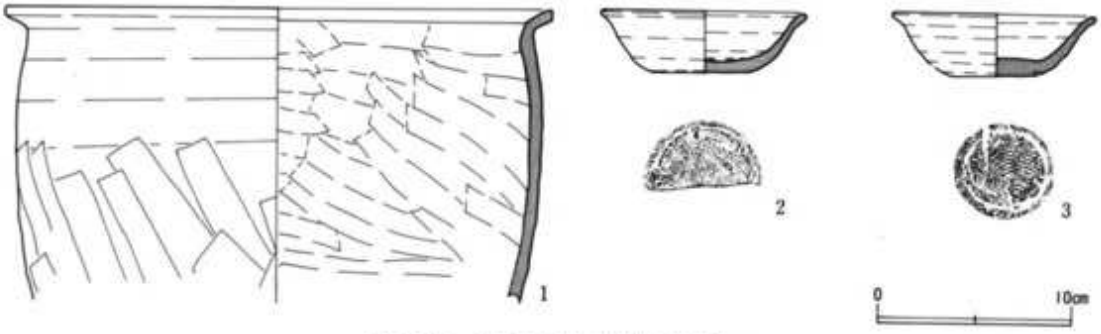
第125図　第63号住居址出土遺物(2)



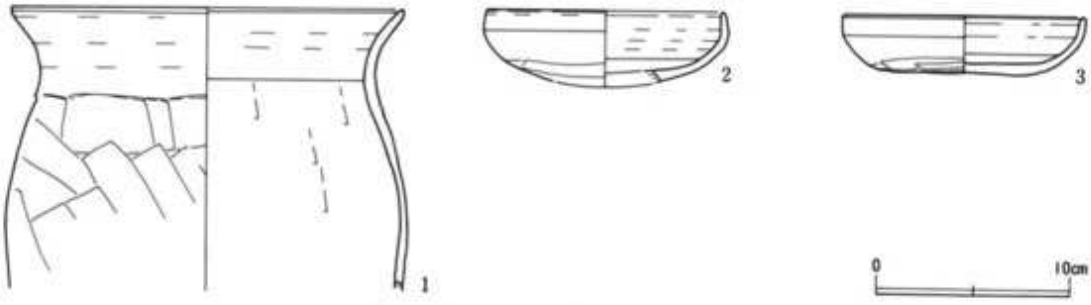
第126図　第64号住居址出土遺物



第127図　第65号住居址出土遺物



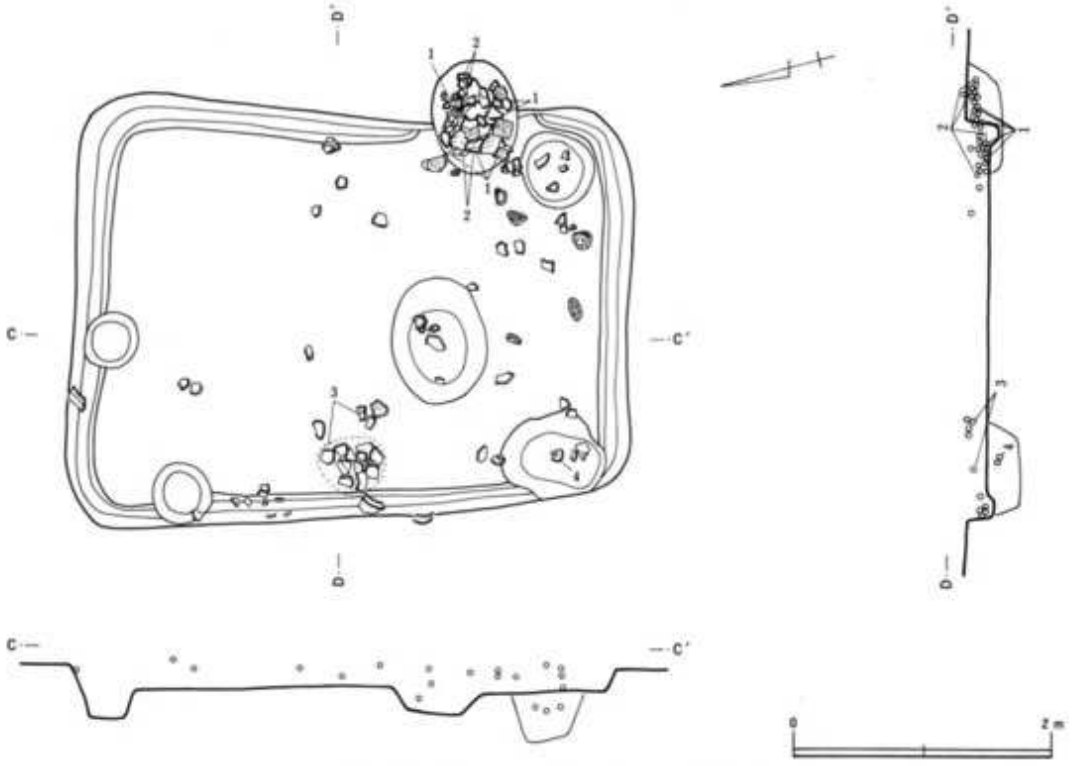
第128図　第66号住居址出土遺物



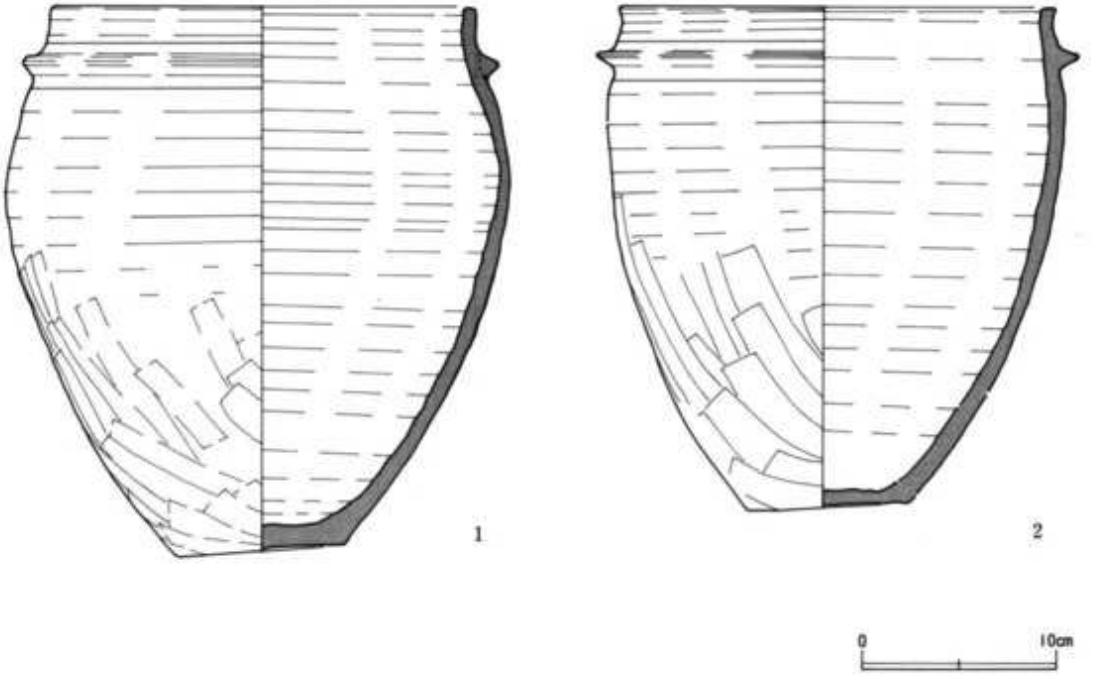
第129図　第67号住居址出土遺物

第130図　第68号住居址出土遺物

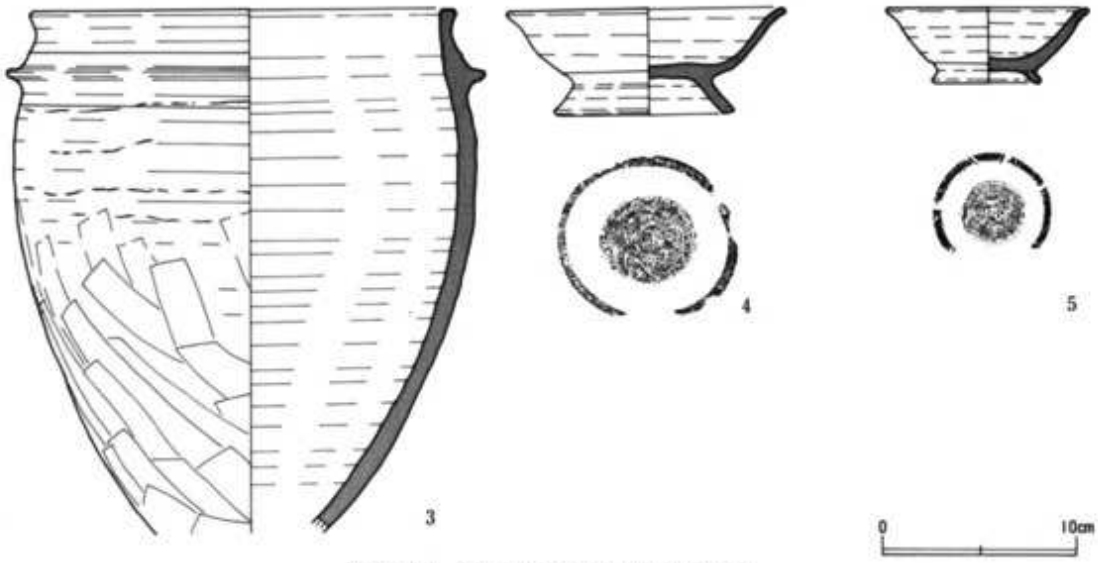
第131図　第70号住居址出土遺物



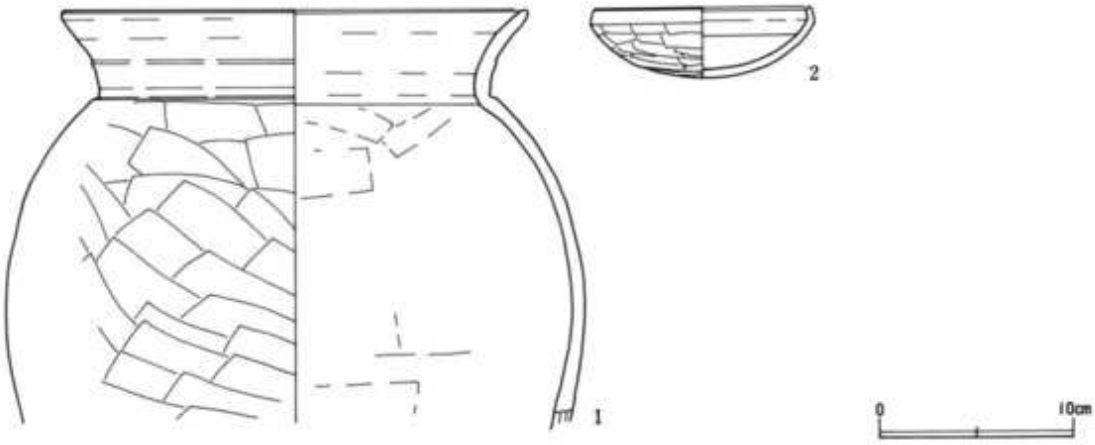
第132図　第71号住居址遺物出土状況



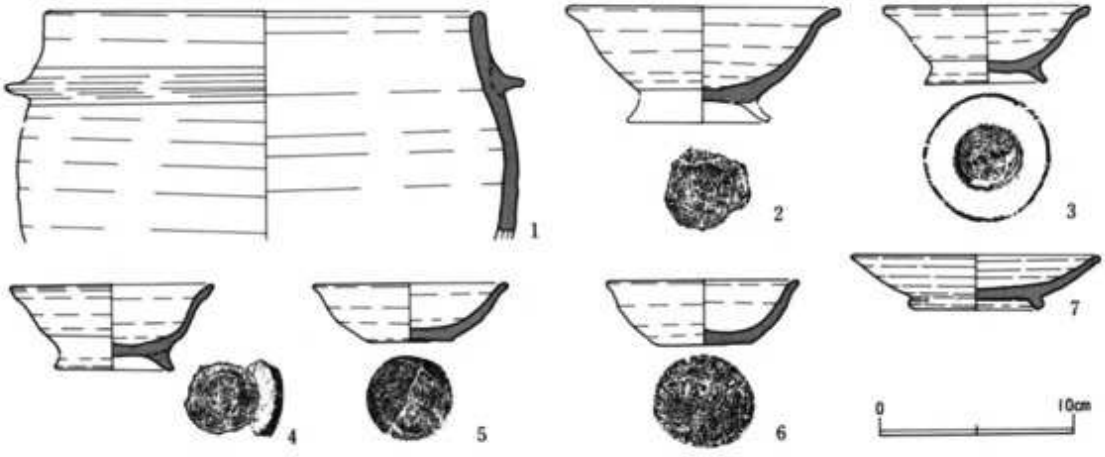
第133図　第71号住居址出土遺物(1)



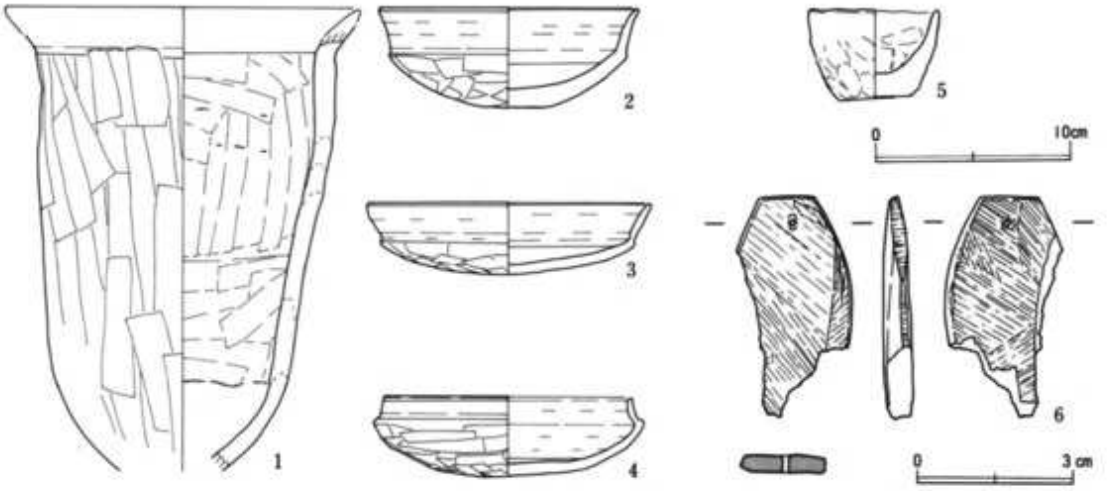
第134図　第71号住居址出土遺物(2)



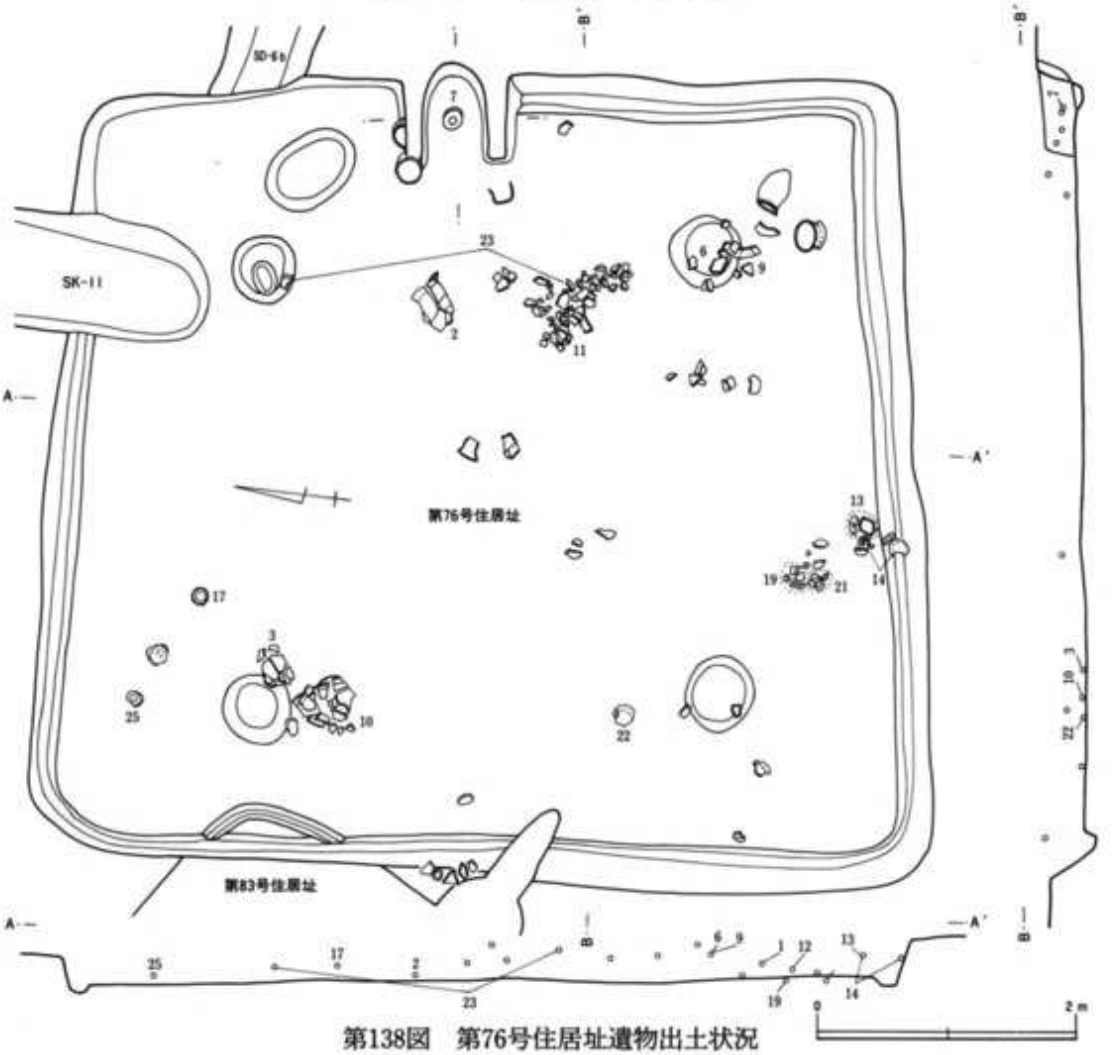
第135図　第72号住居址出土遺物



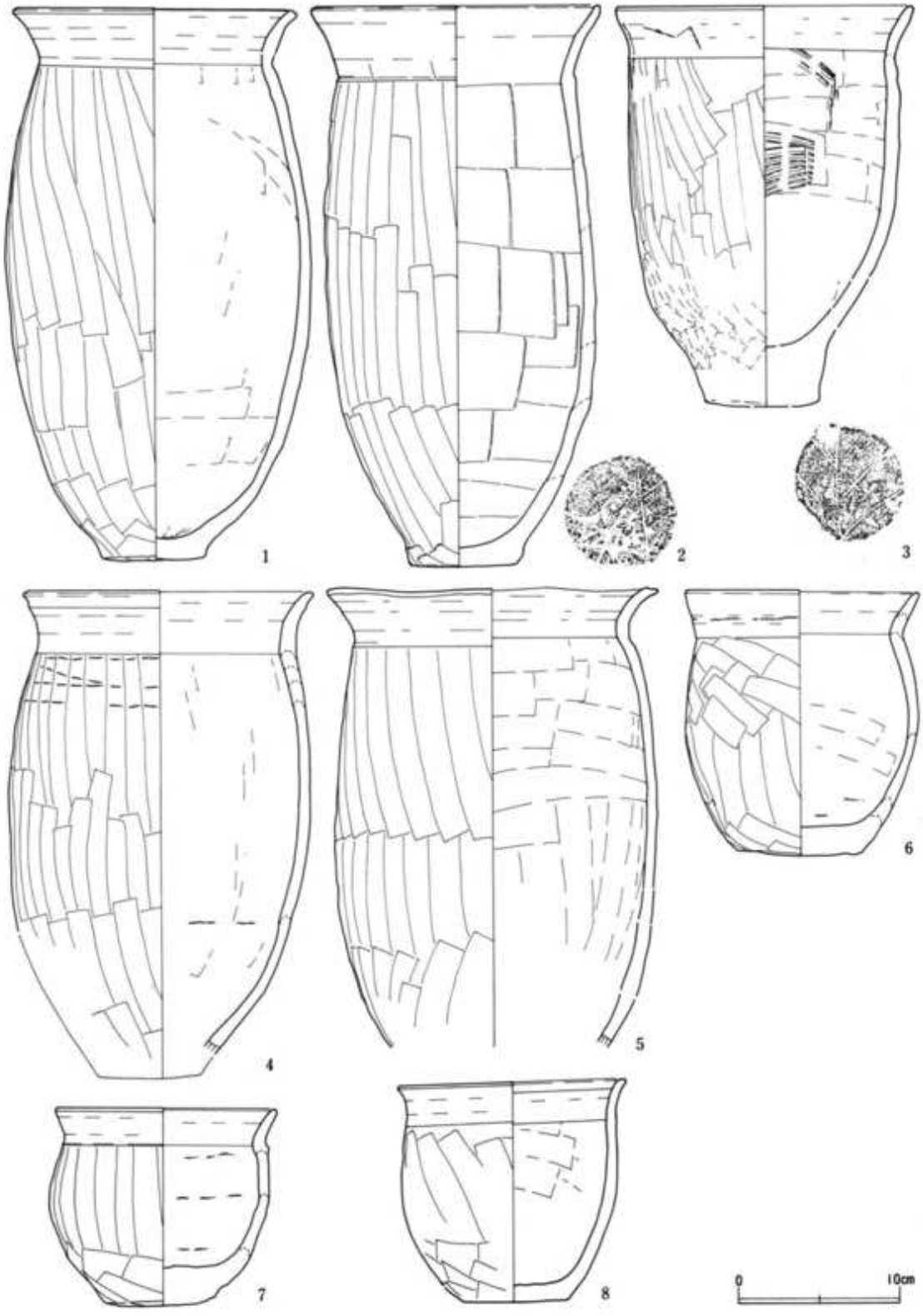
第136図　第74号住居址出土遺物



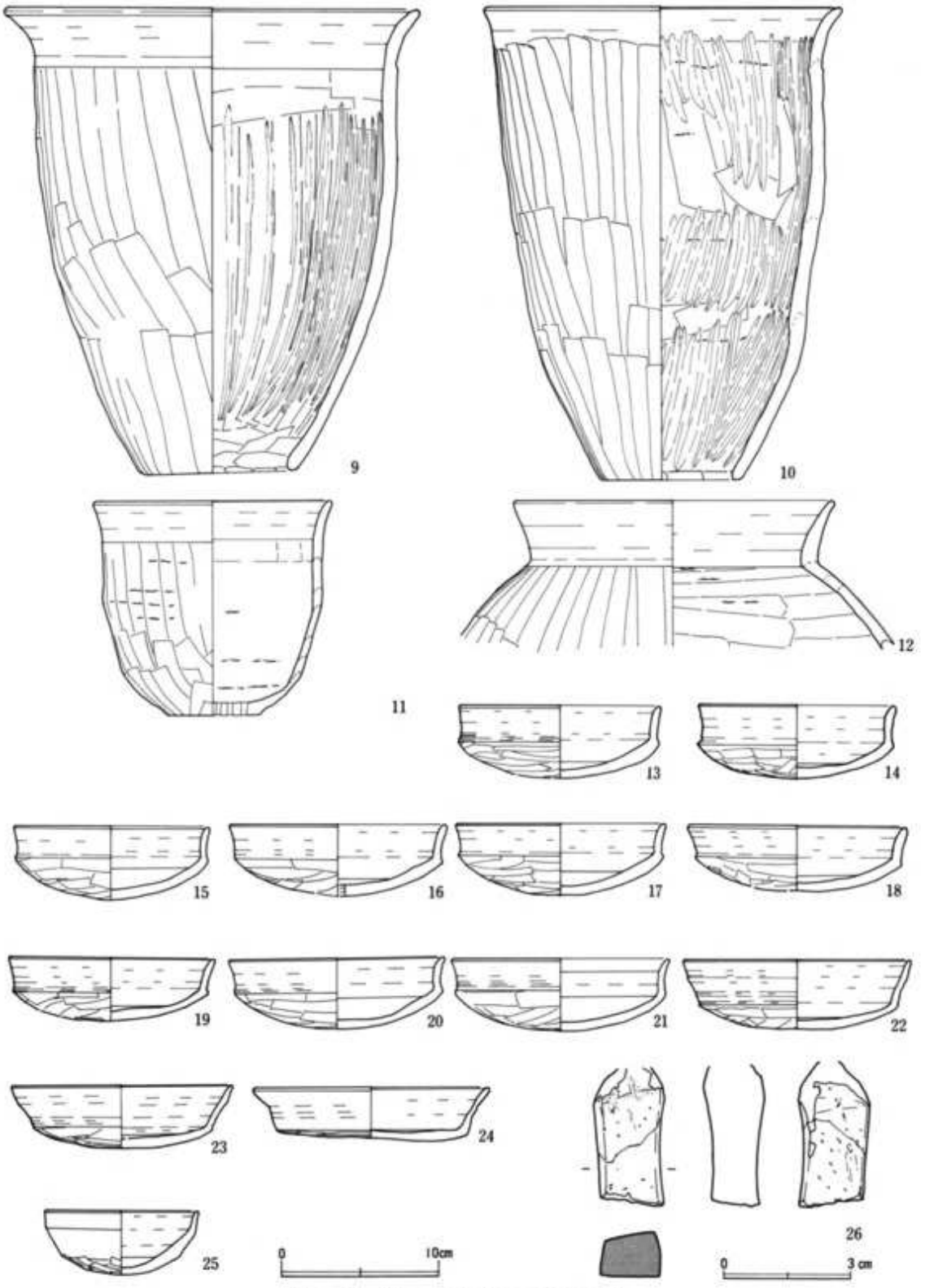
第137図　第75号住居址出土遺物



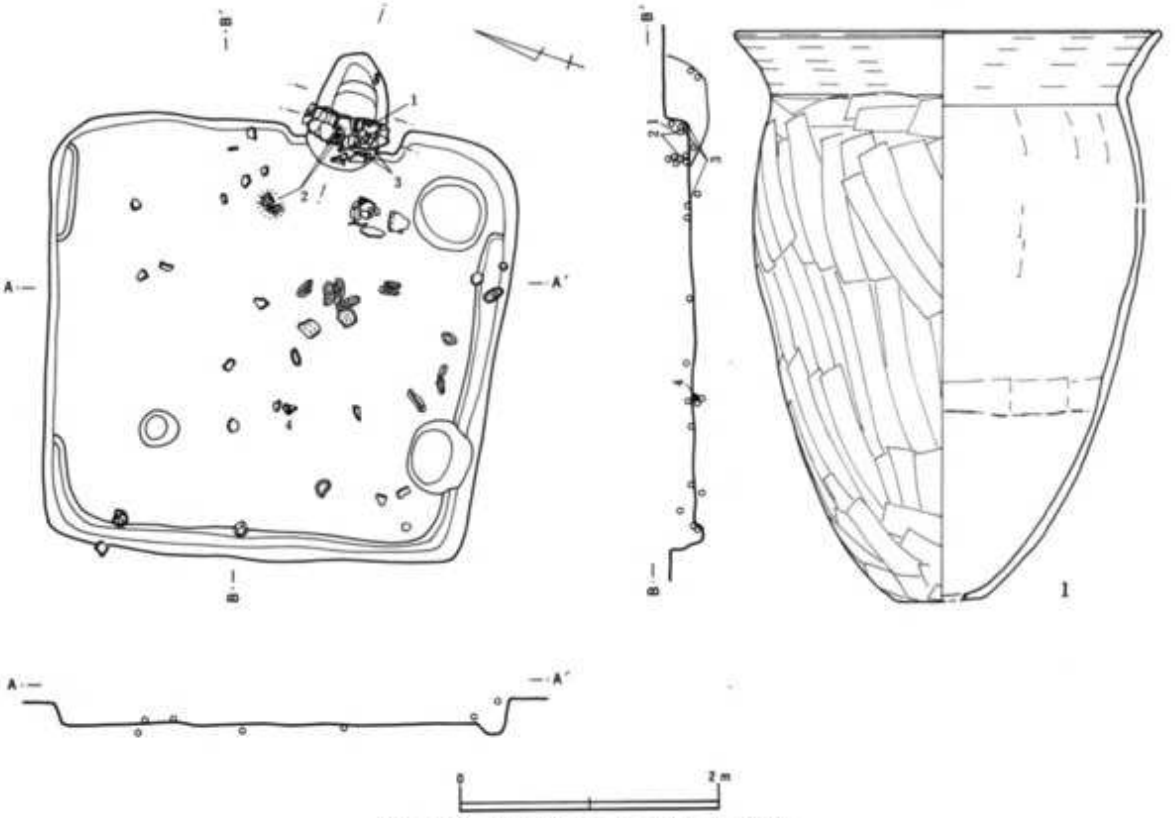
第138図　第76号住居址遺物出土状況



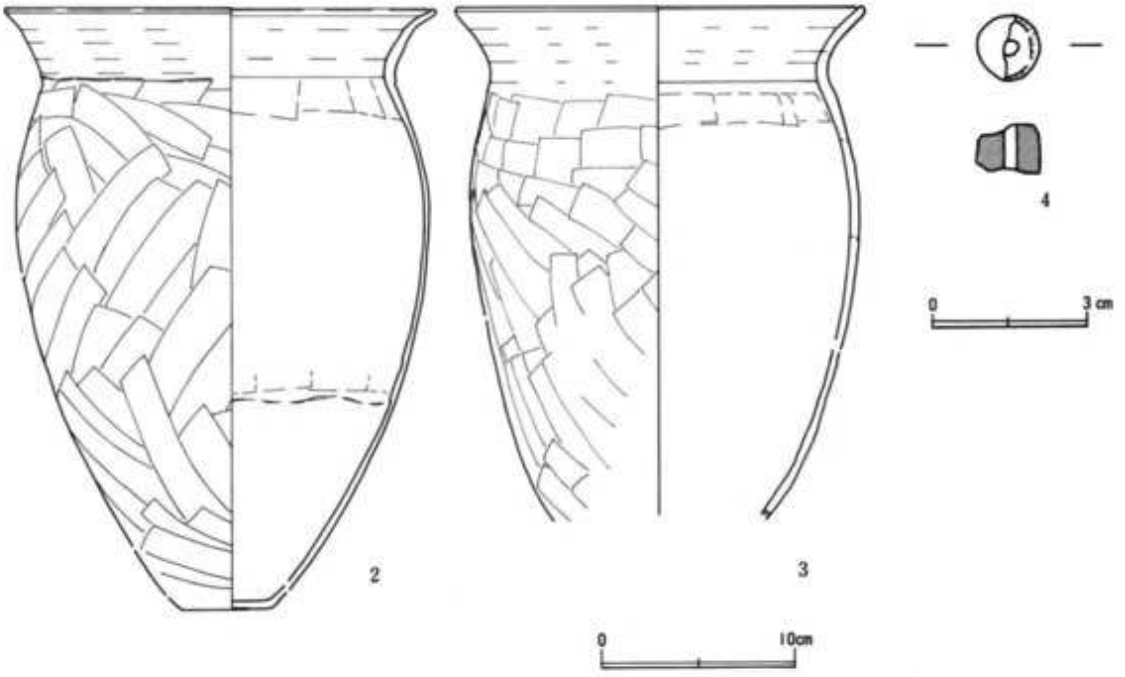
第139図　第76号住居址出土遺物(1)



第140図　第76号住居址出土遺物(2)

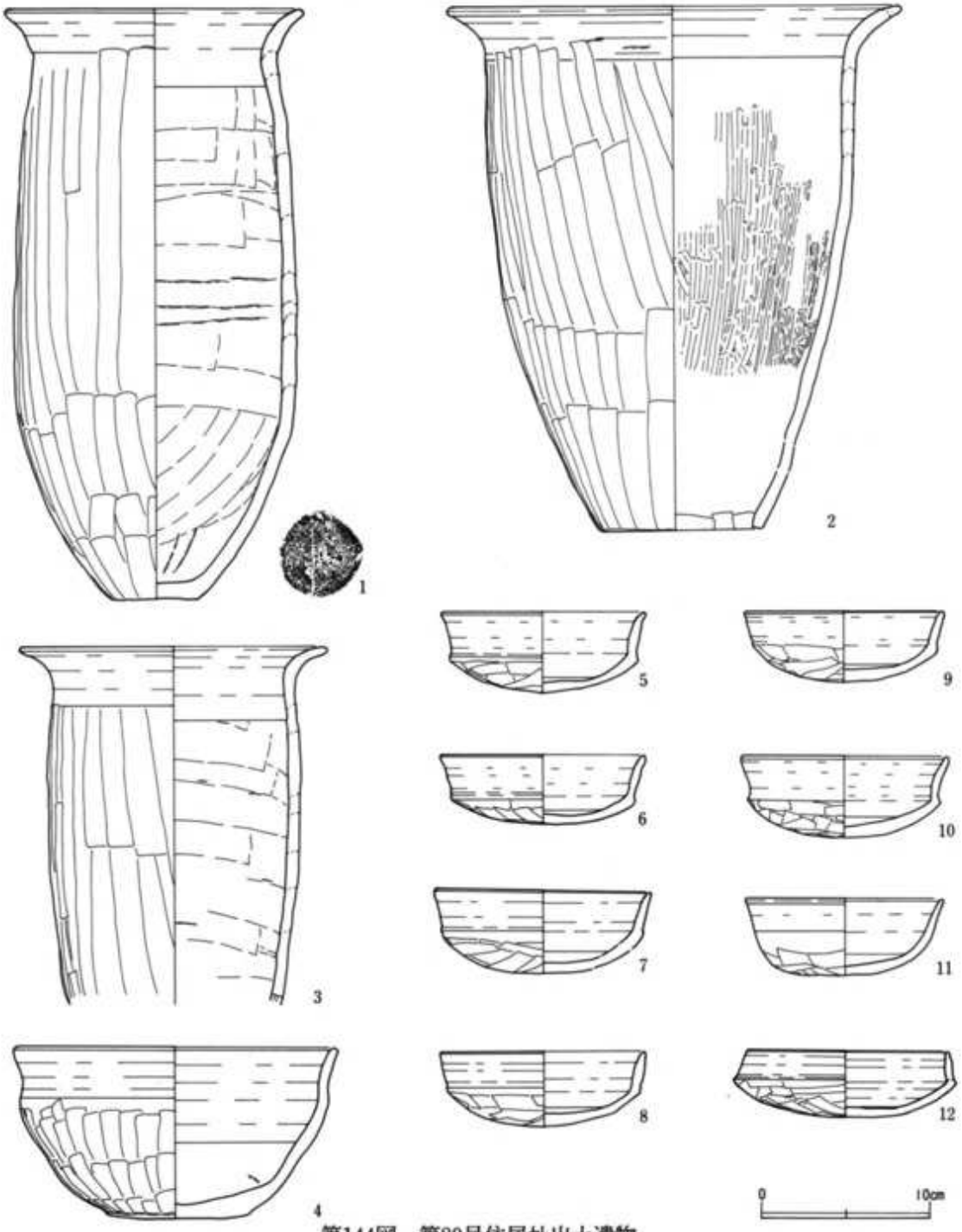


第141図　第77号住居址遺物出土状況

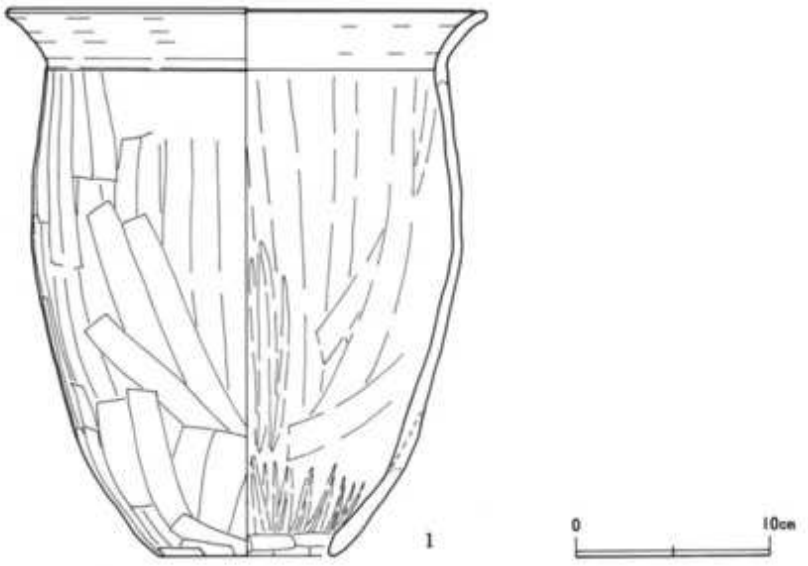


第142図　第77号住居址出土遺物

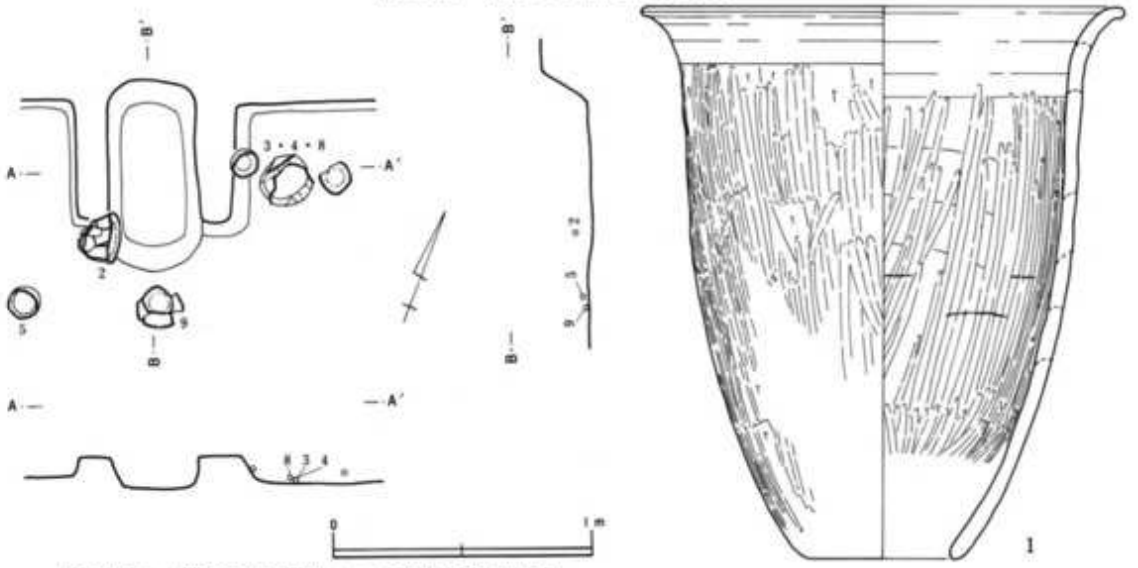
第143図　第78号住居址出土遺物



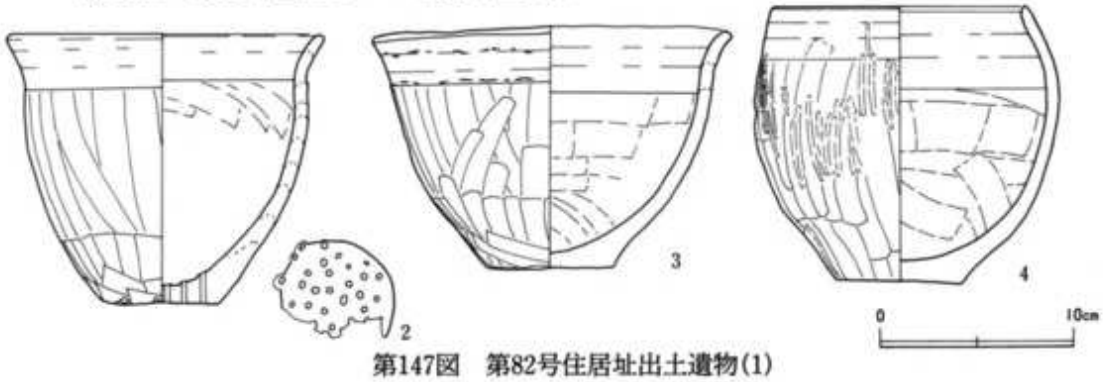
第144図　第80号住居址出土遺物



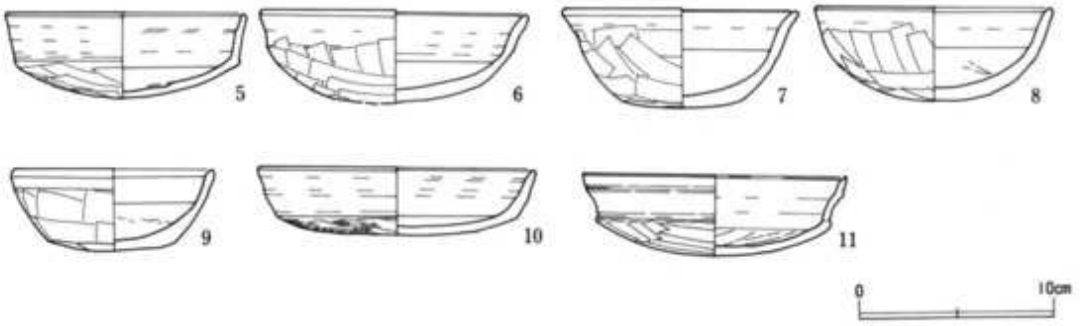
第145図　第81号住居址出土遺物



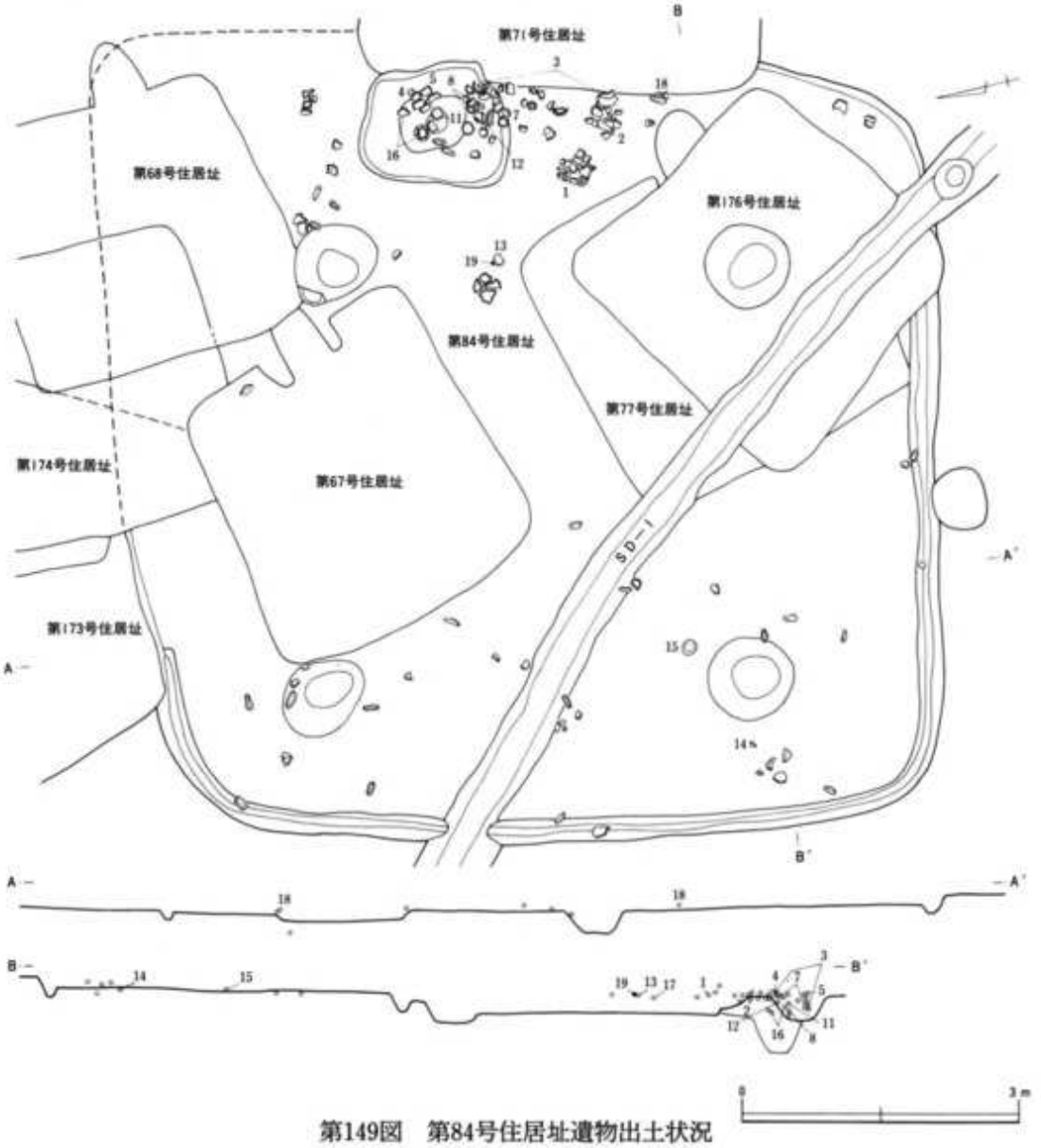
第146図　第82号住居址カマド遺物出土状況



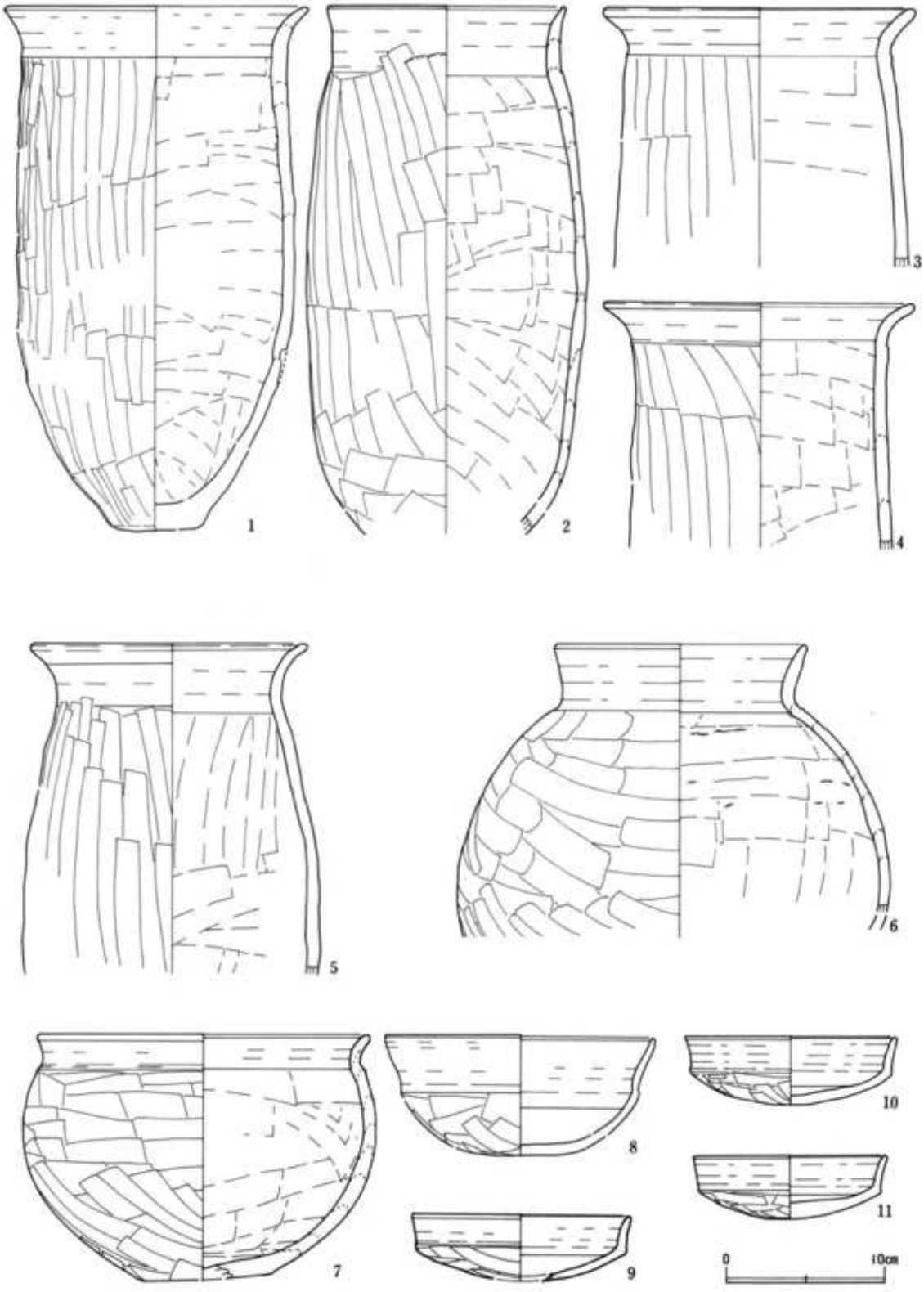
第147図　第82号住居址出土遺物(1)



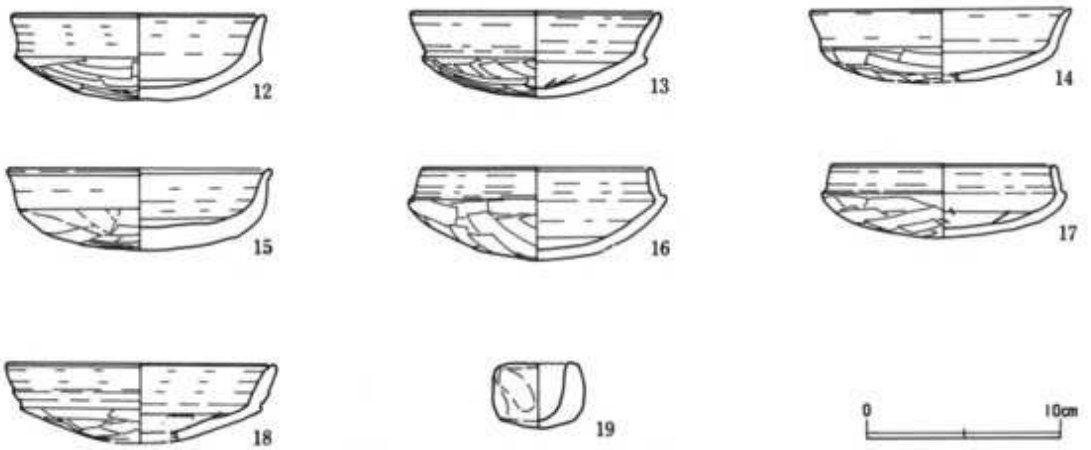
第148図　第82号住居址出土遺物(2)



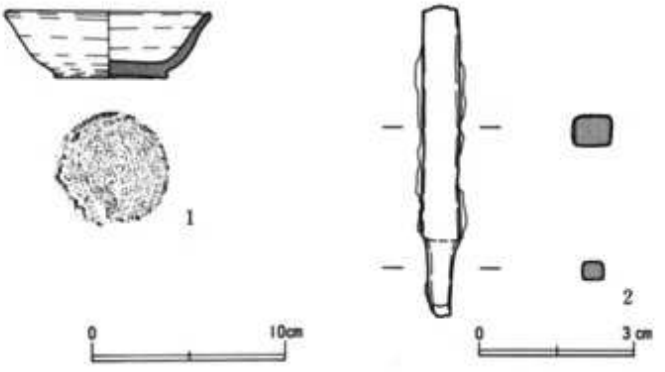
第149図　第84号住居址遺物出土状況



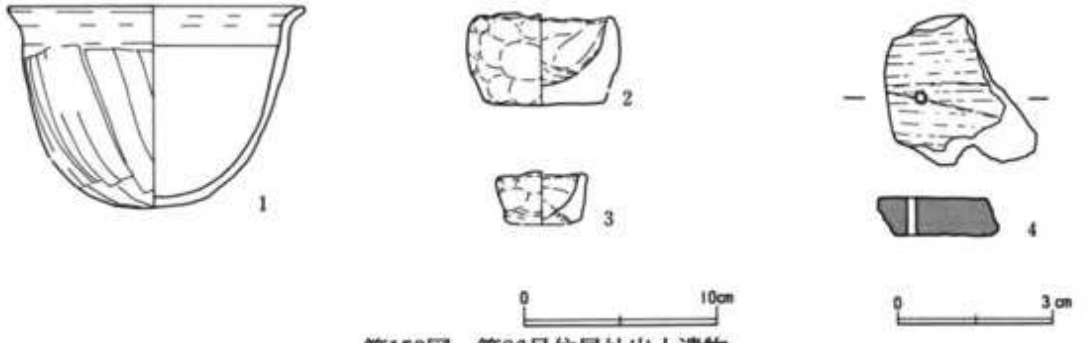
第150図　第84号住居址出土遺物(1)



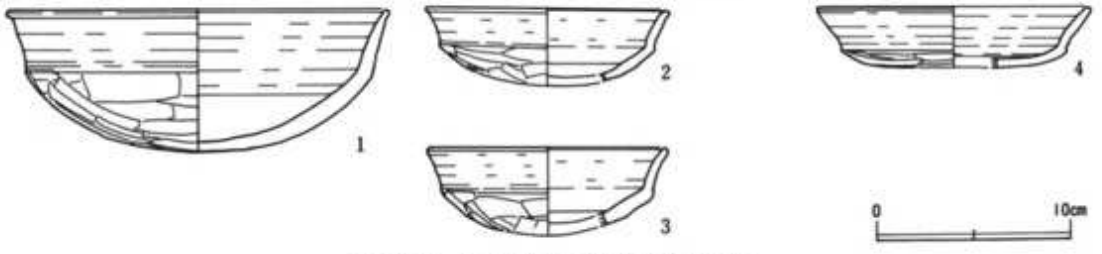
第151図　第84号住居址出土遺物(2)



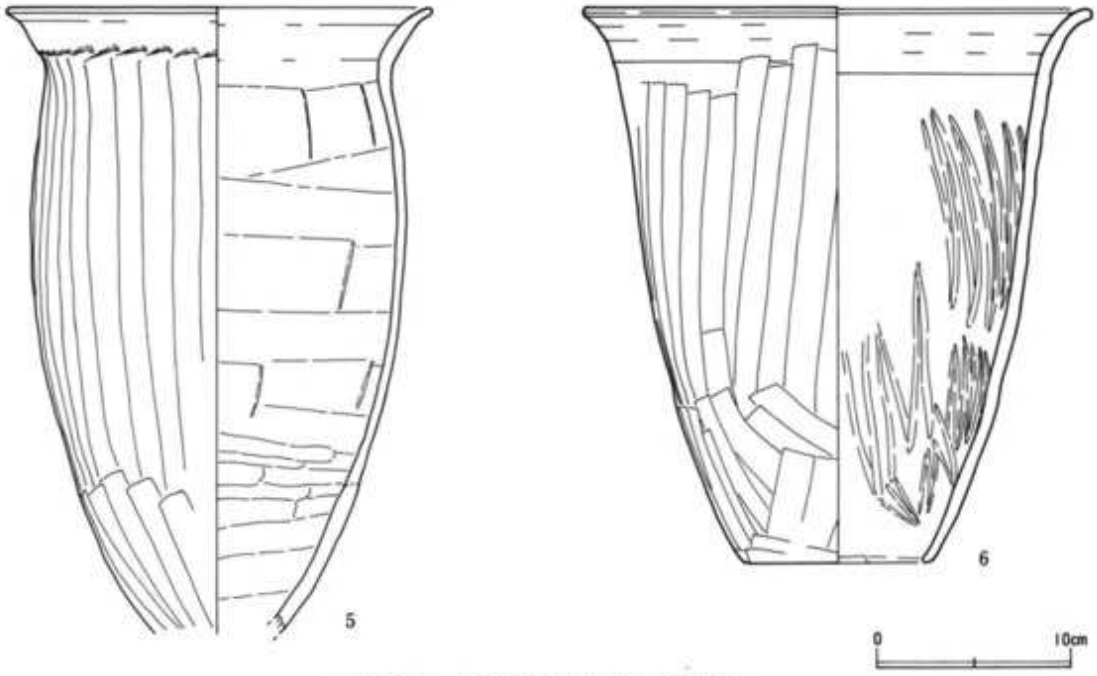
第152図　第85号住居址出土遺物



第153図　第86号住居址出土遺物



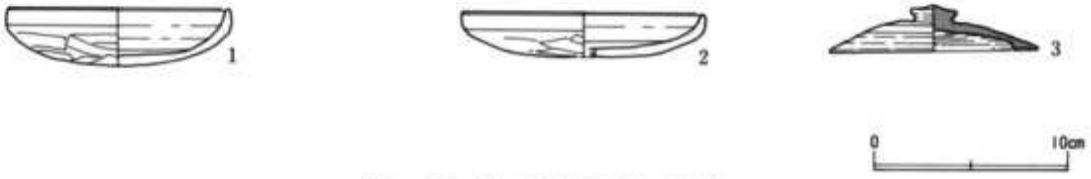
第154図　第87号住居址出土遺物(1)



第155図　第87号住居址出土遺物(2)

第156図　第88号住居址出土遺物

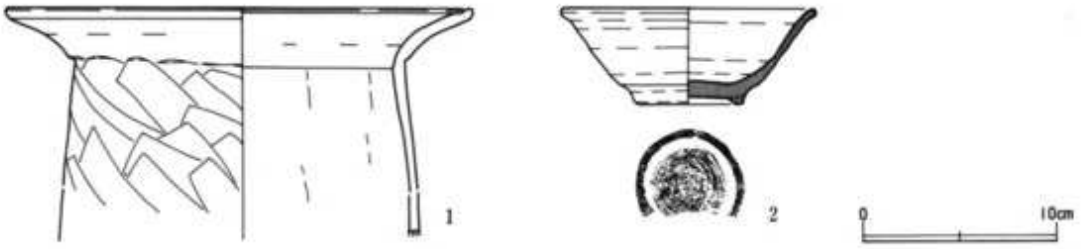
第157図　第89号住居址出土遺物



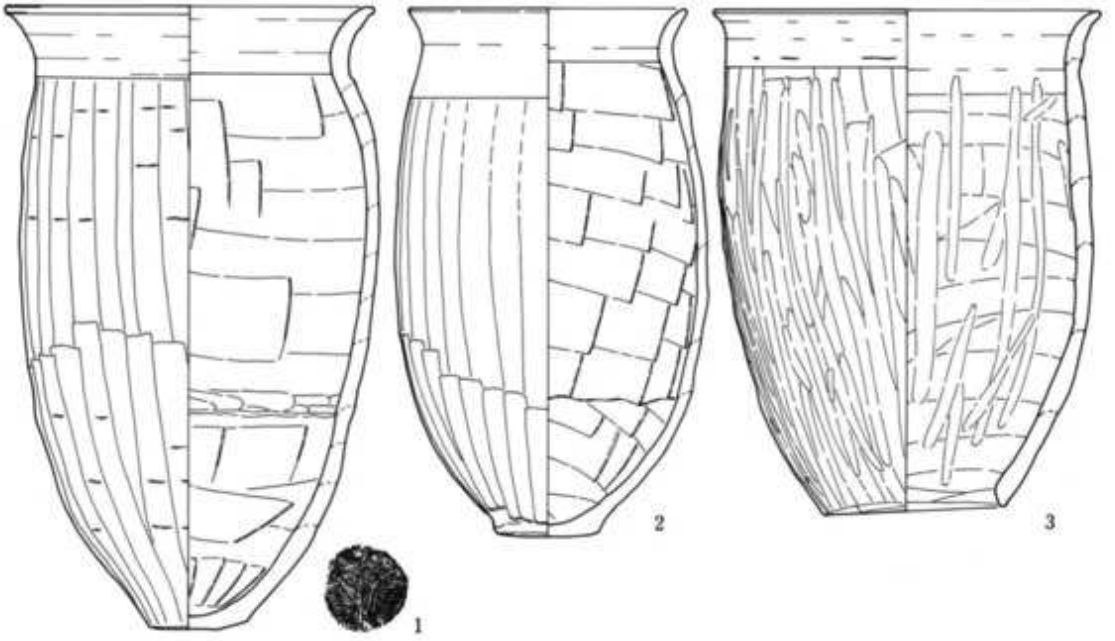
第158図　第90号住居址出土遺物

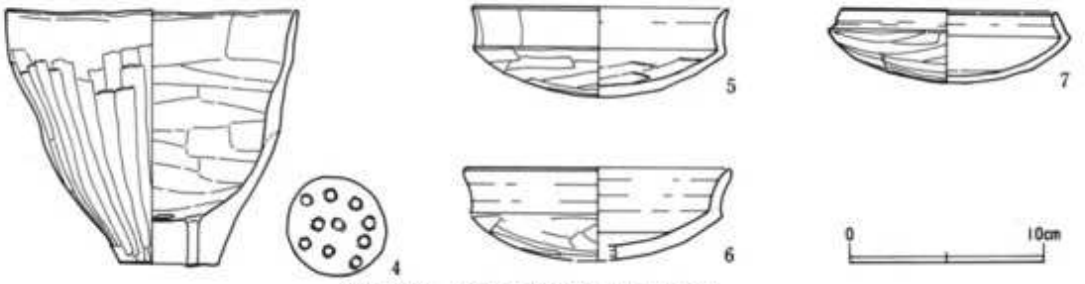
第159図　第91号住居址出土遺物

第160図　第92号住居址出土遺物

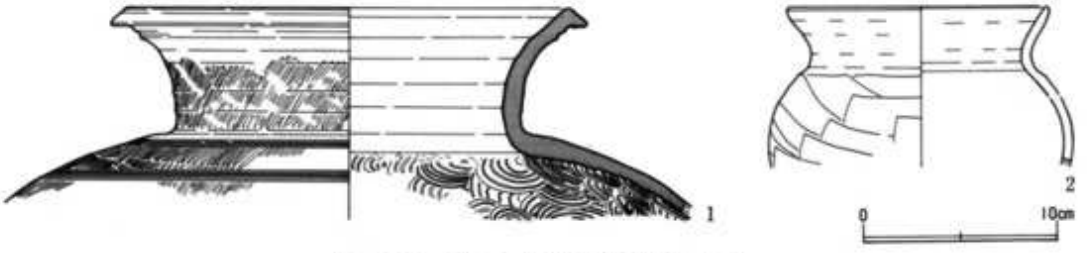


第161図　第94号住居址出土遺物

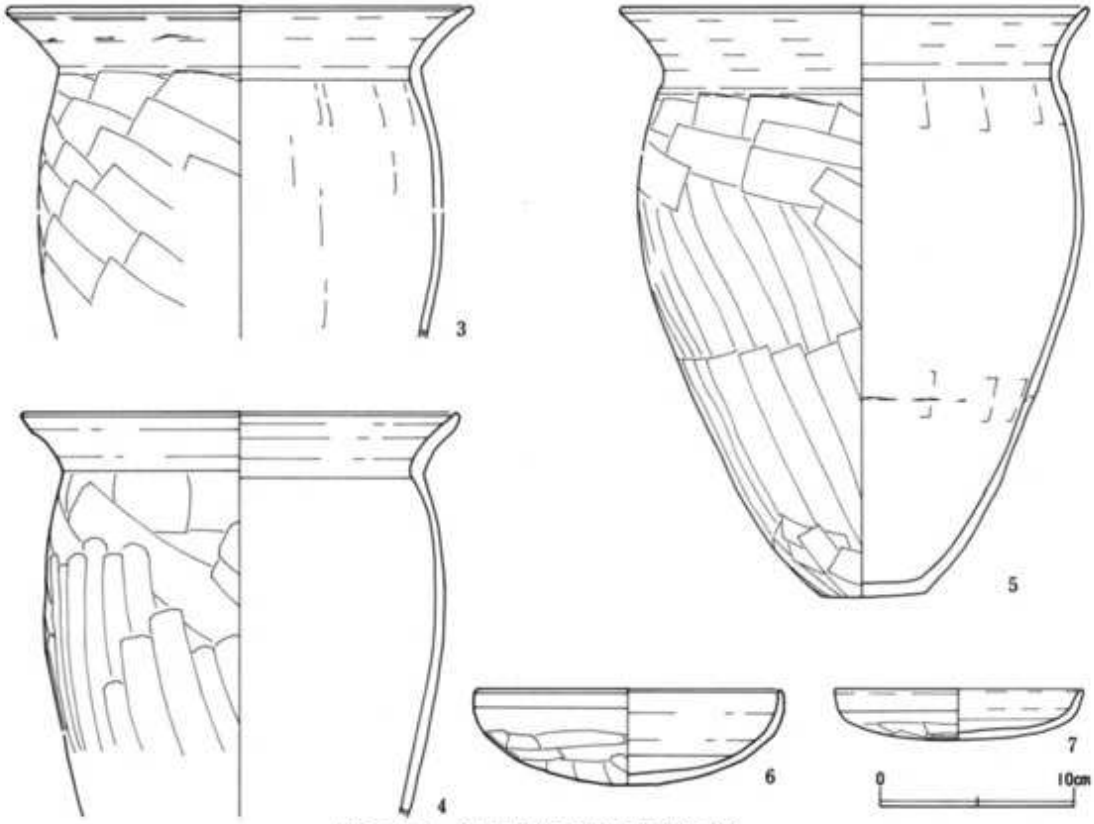




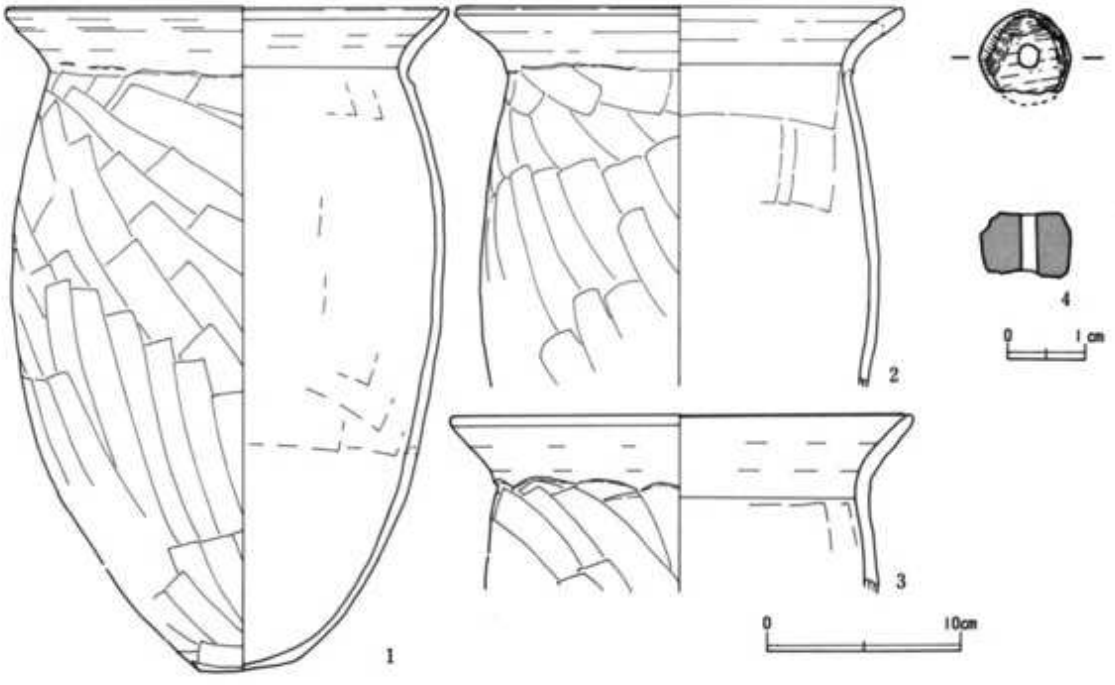
第162図　第95号住居址出土遺物



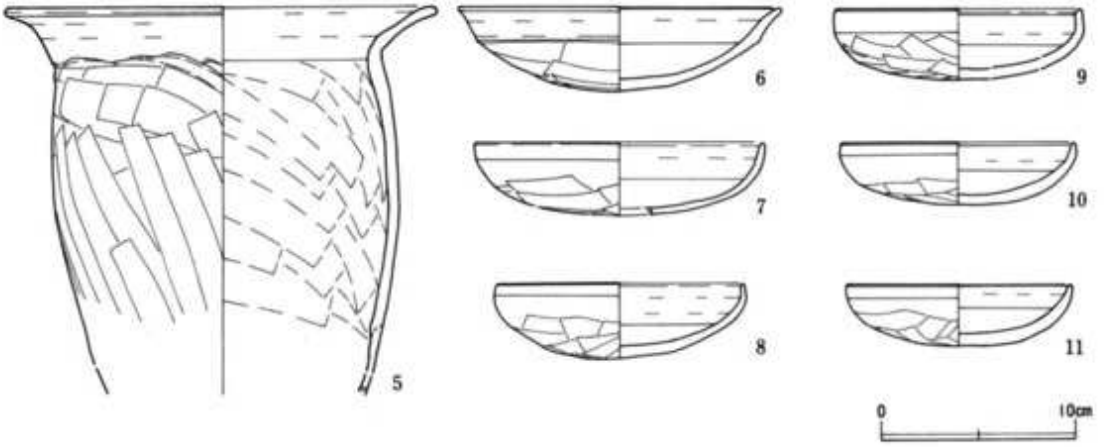
第163図　第96号住居址出土遺物(1)



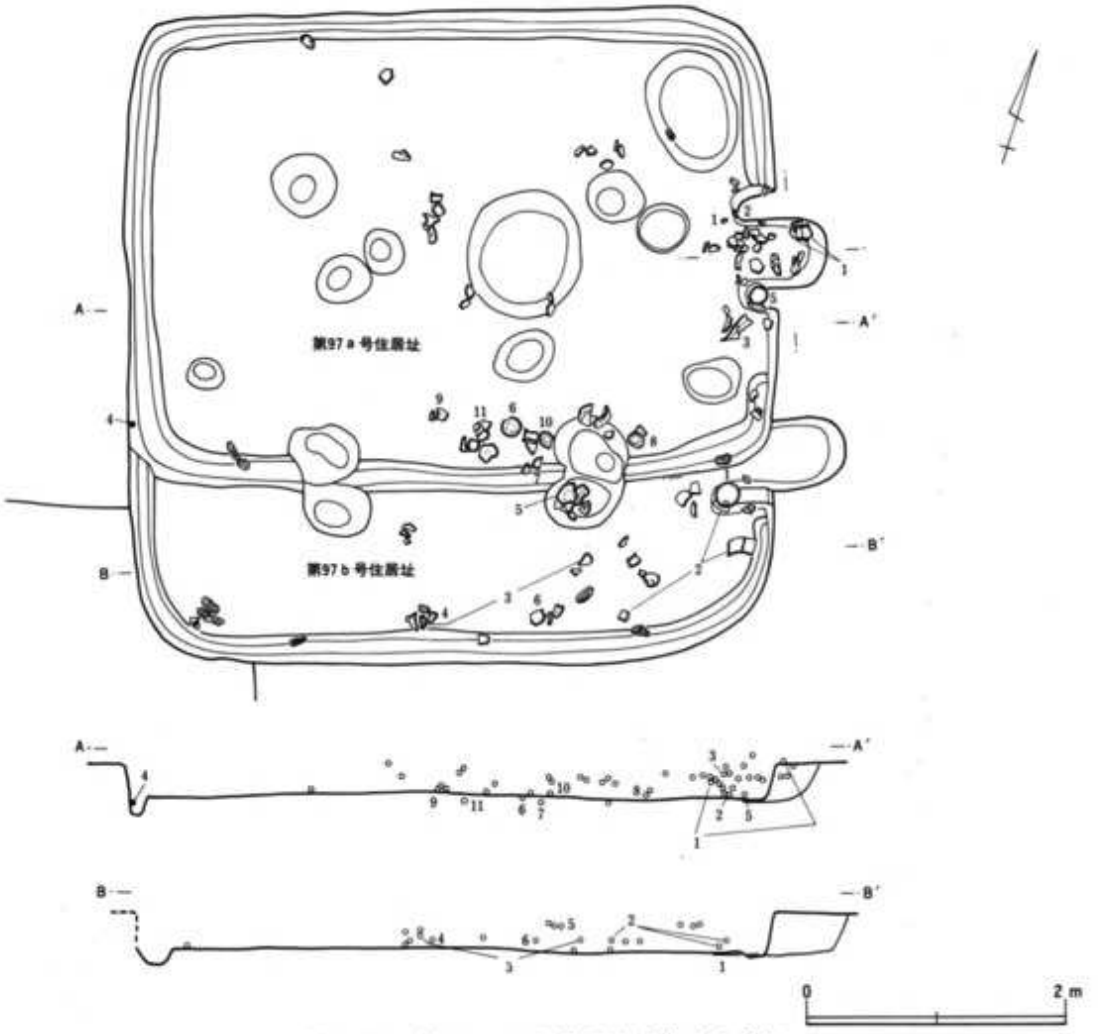
第164図　第96号住居址出土遺物(2)



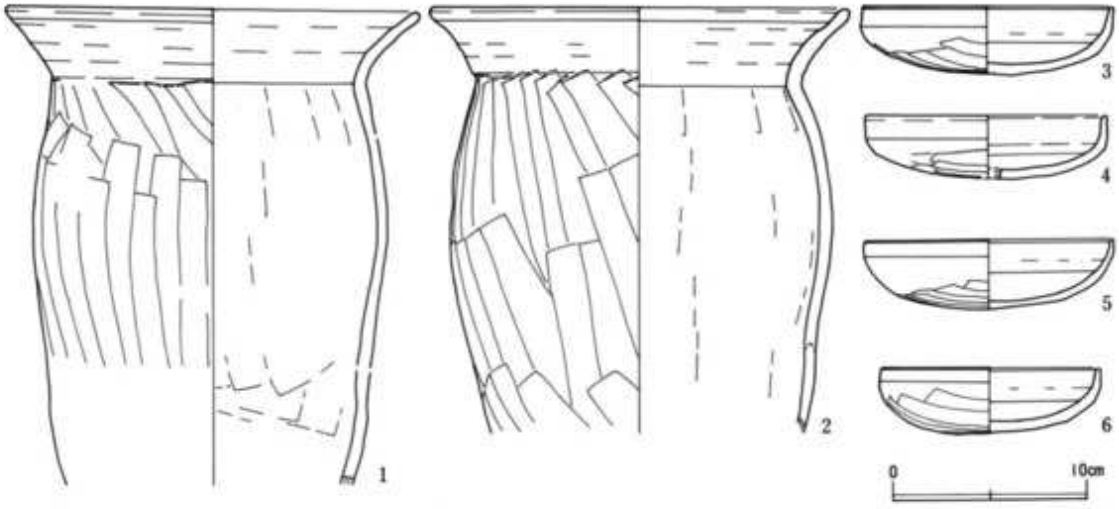
第165図　第97 a 号住居址出土遺物(1)



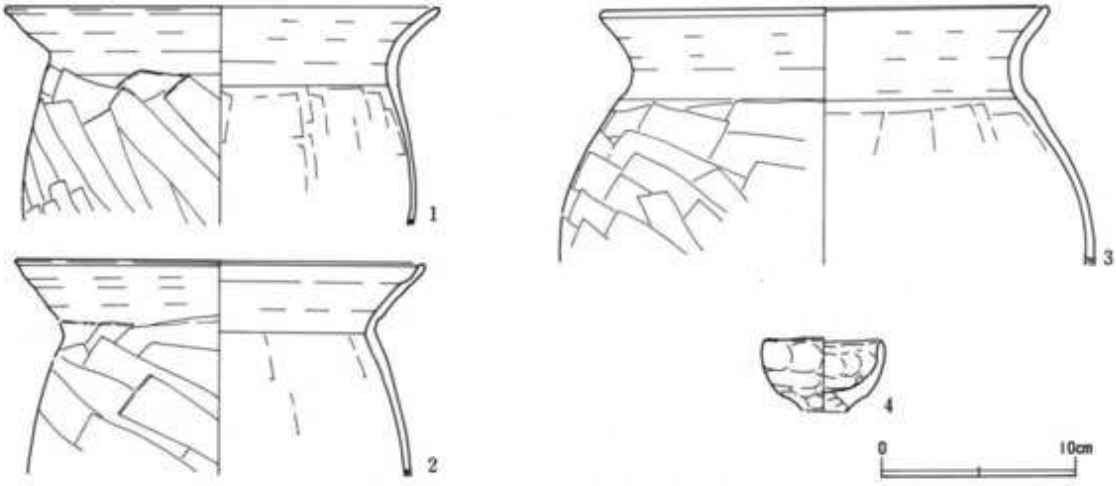
第166図　第97 a 号住居址出土遺物(2)



第167図　第97 a・b 号住居址遺物出土状況

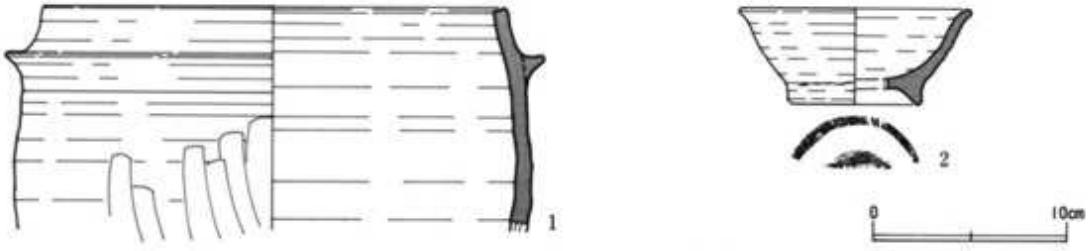


第168図　第97b 号住居址出土遺物

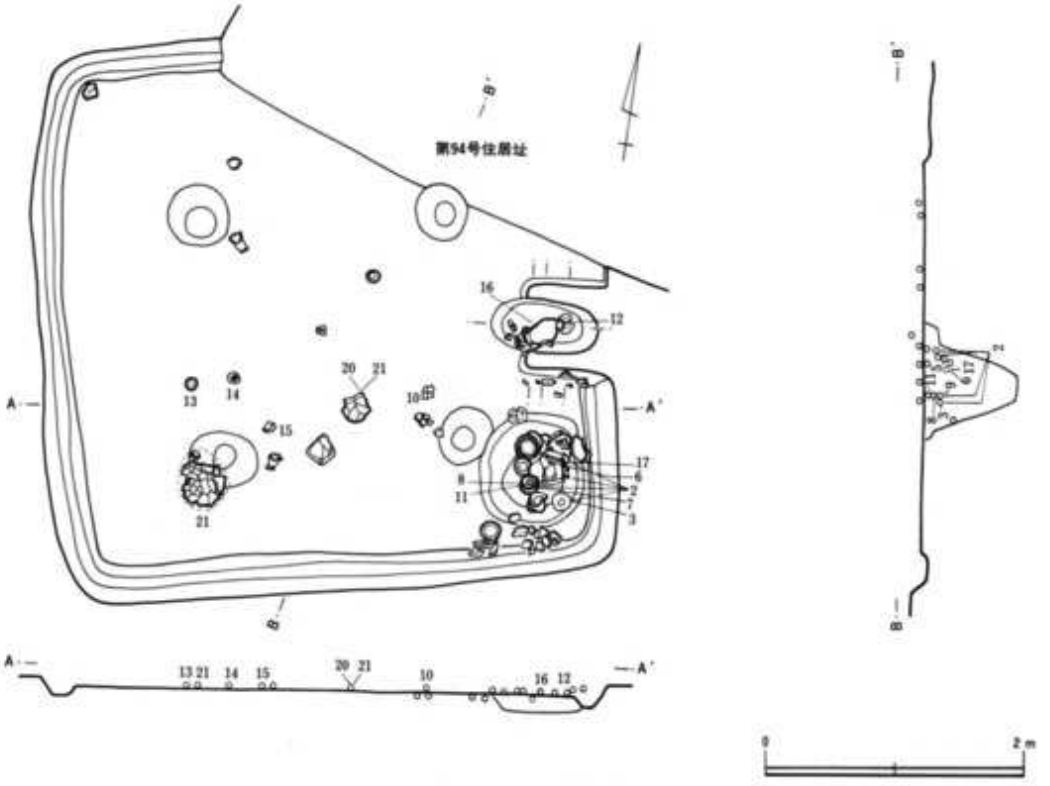


第169図　第98号住居址出土遺物

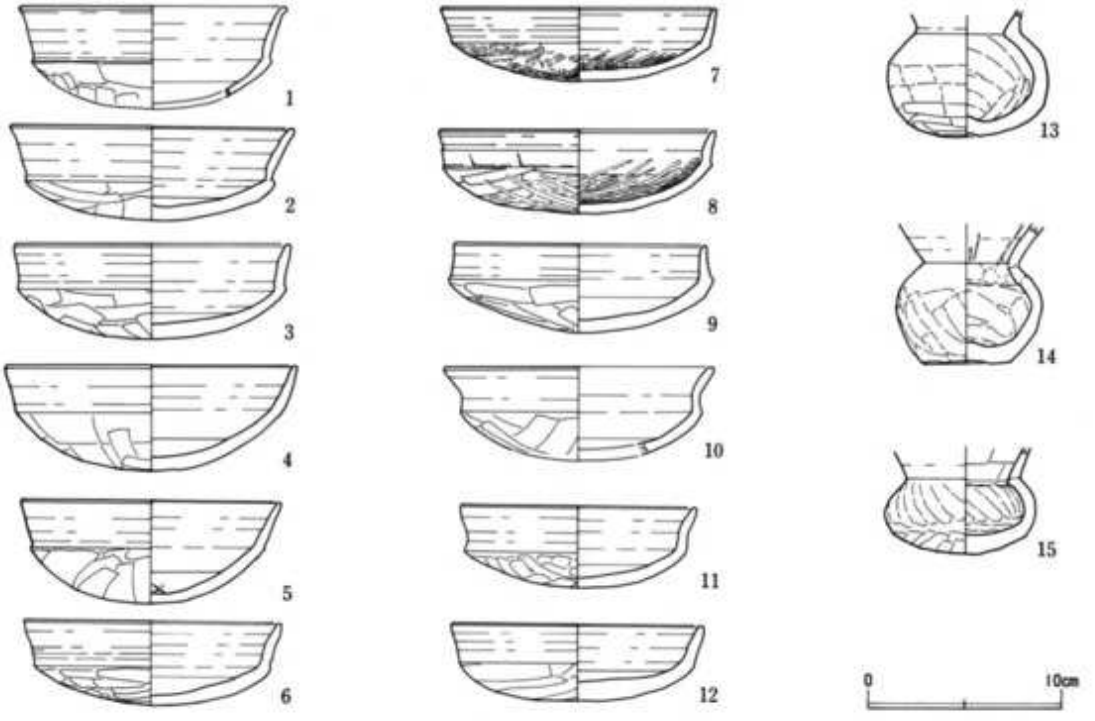
第170図　第99号住居址出土遺物



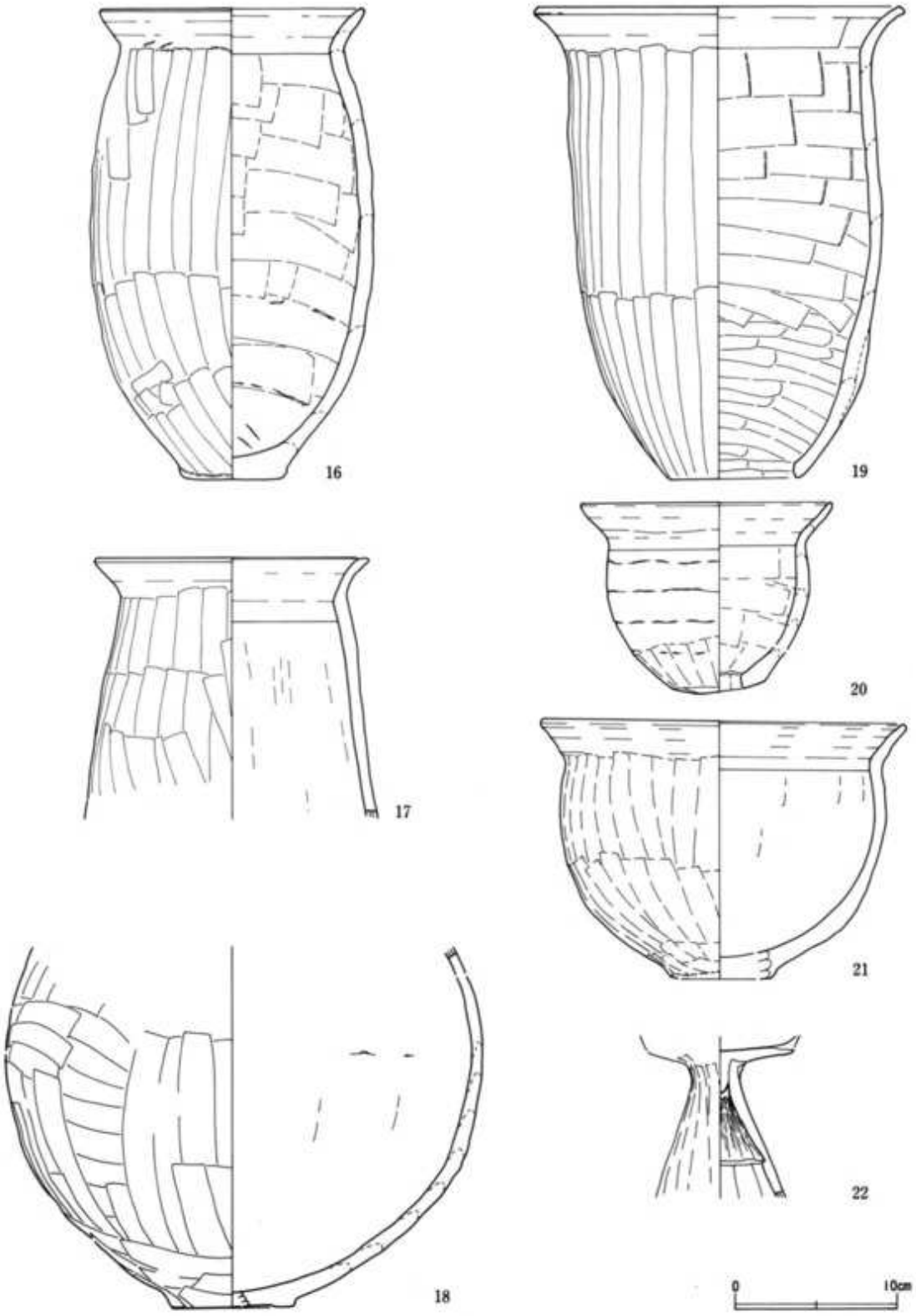
第171図　第100号住居址出土遺物



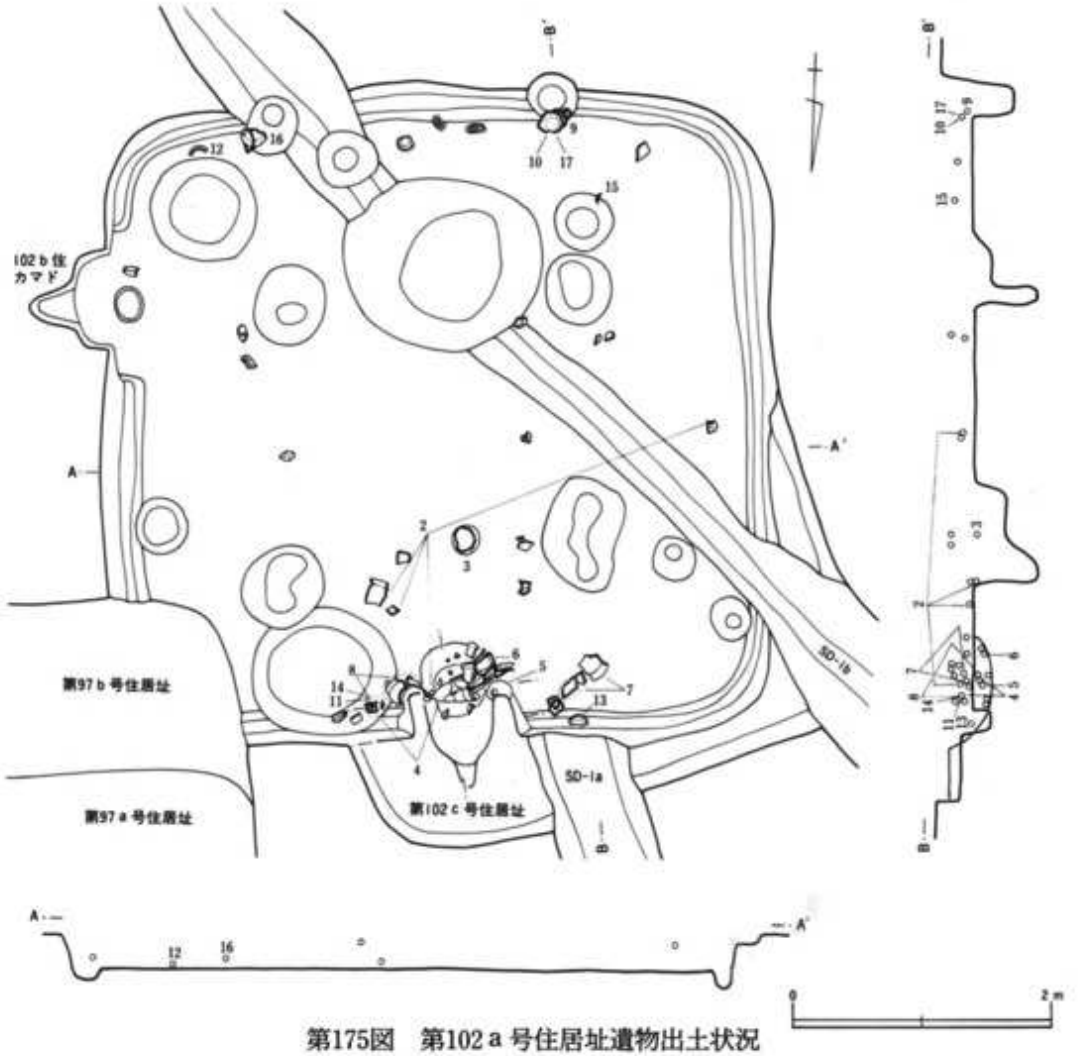
第172図　第101号住居址遺物出土状況



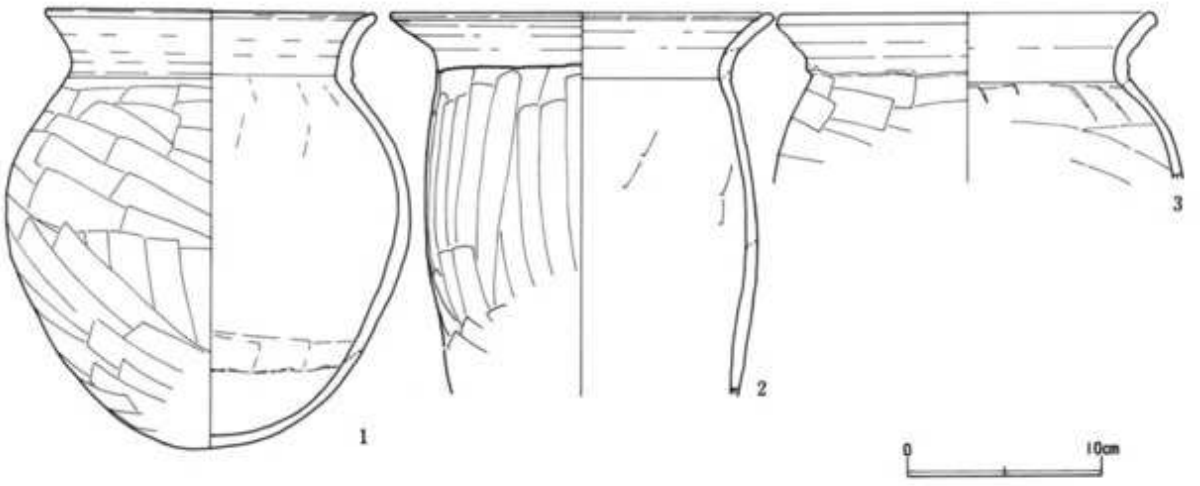
第173図　第101号住居址出土遺物(1)



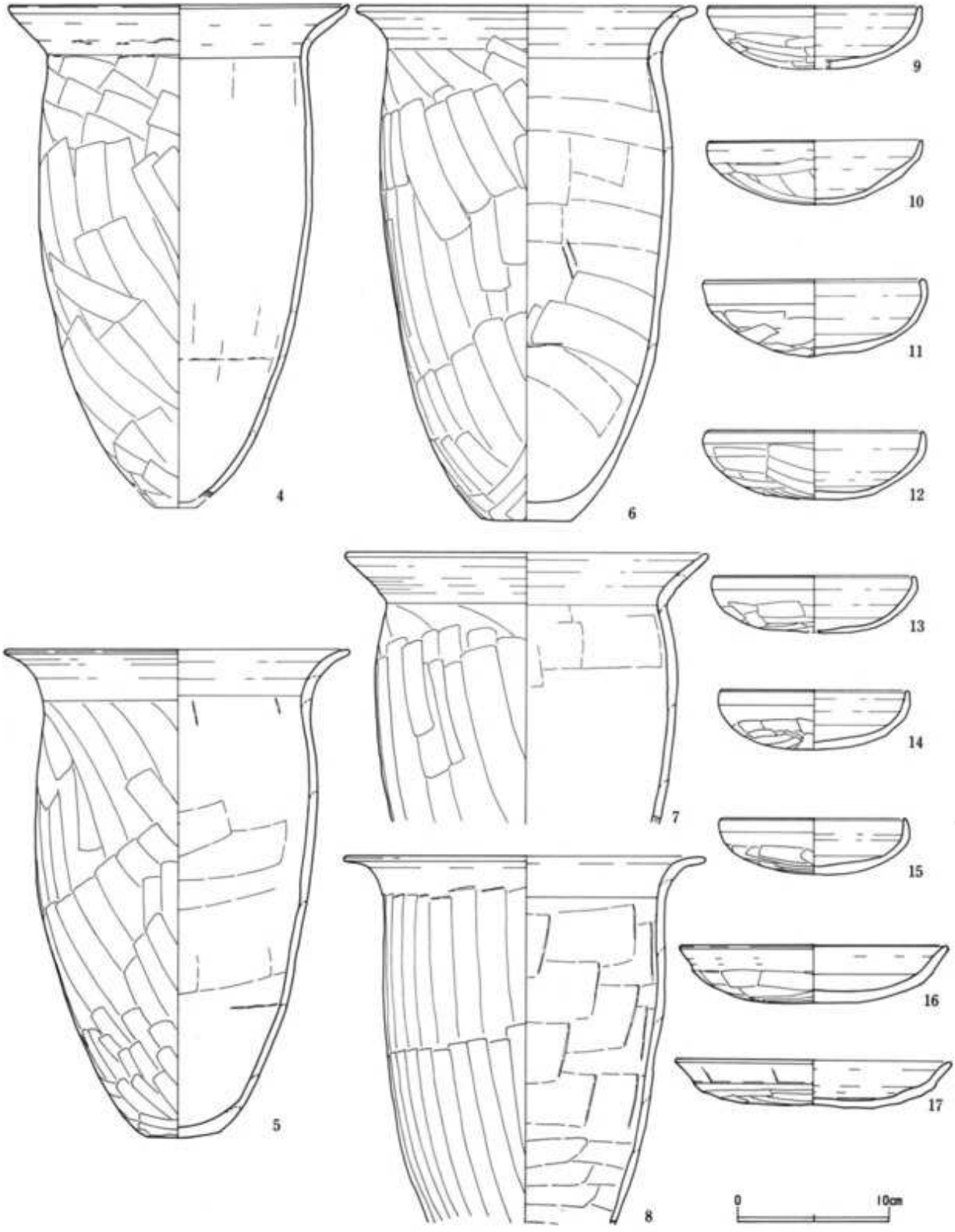
第174図　第101号住居址出土遺物(2)



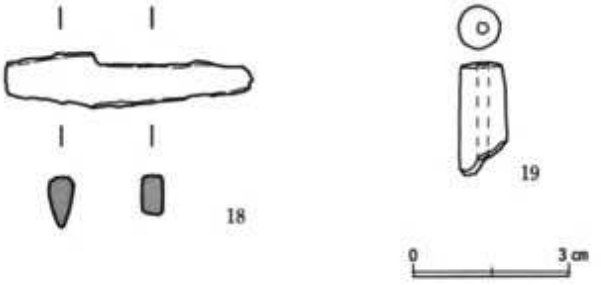
第175図　第102 a 号住居址遺物出土状況



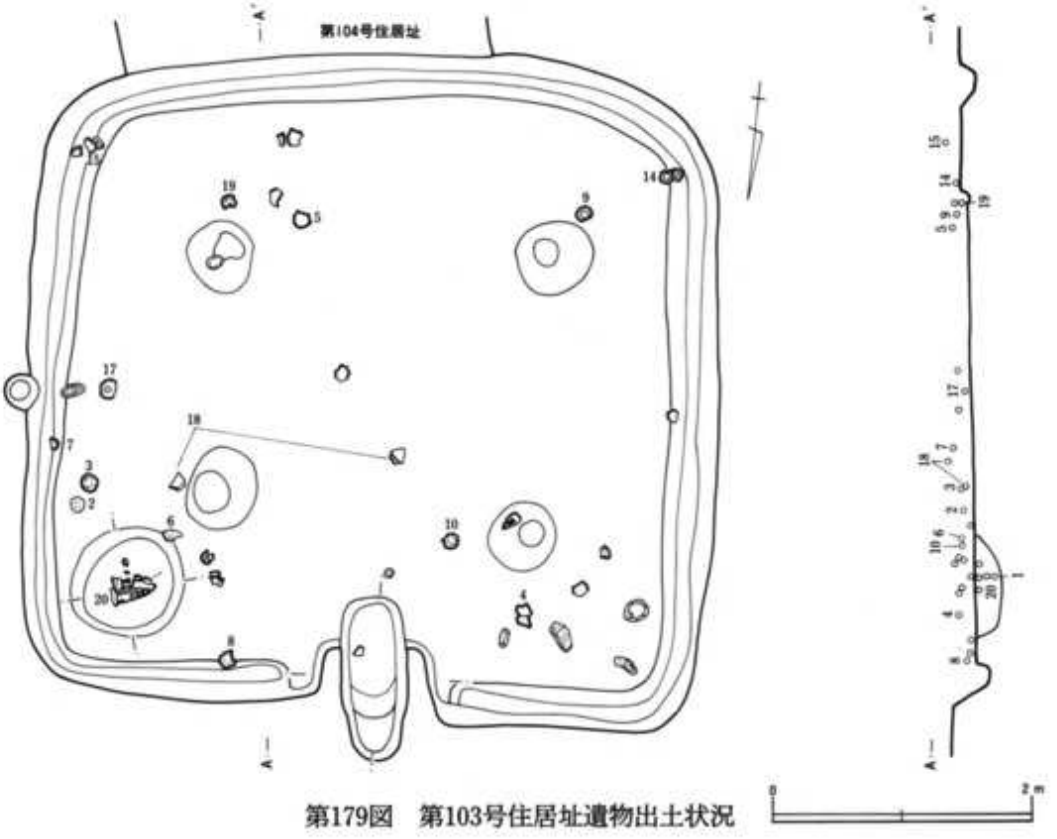
第176図　第102 a 号住居址出土遺物(1)



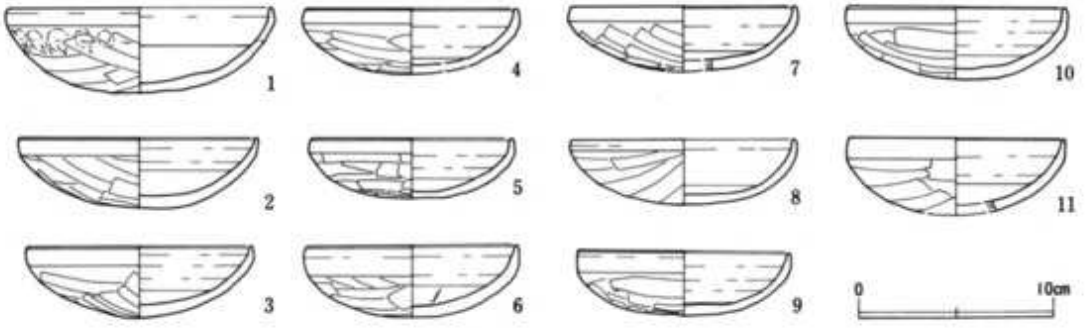
第177図　第102ａ号住居址出土遺物(2)



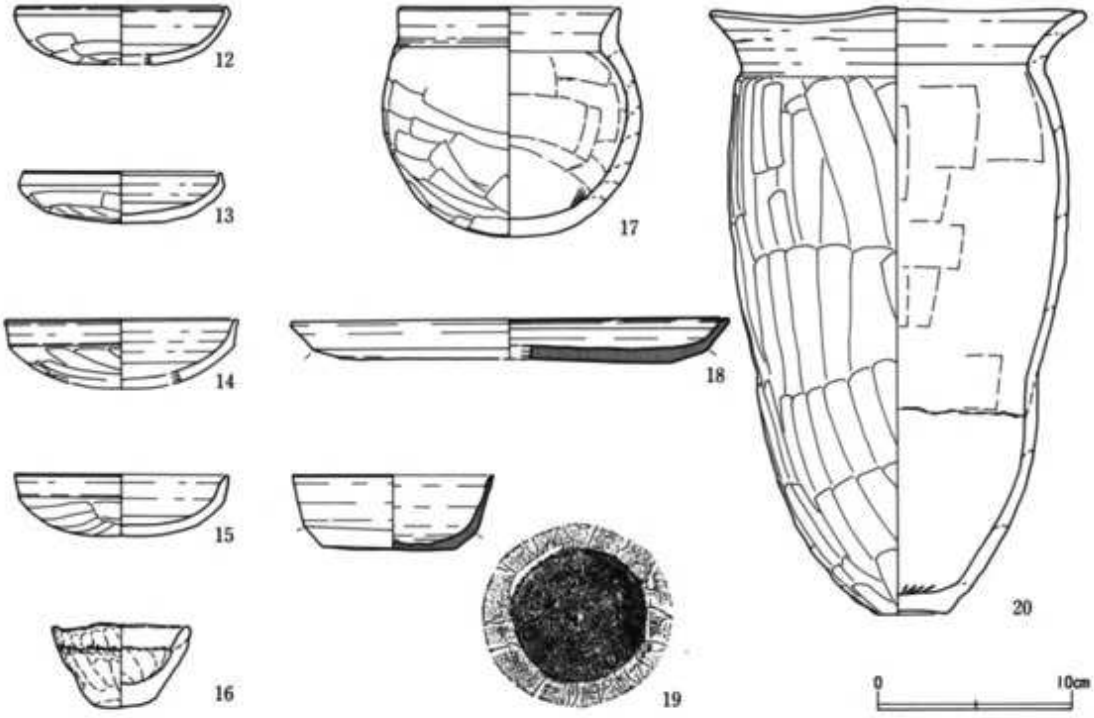
第178図　第102ａ号住居址出土遺物(3)



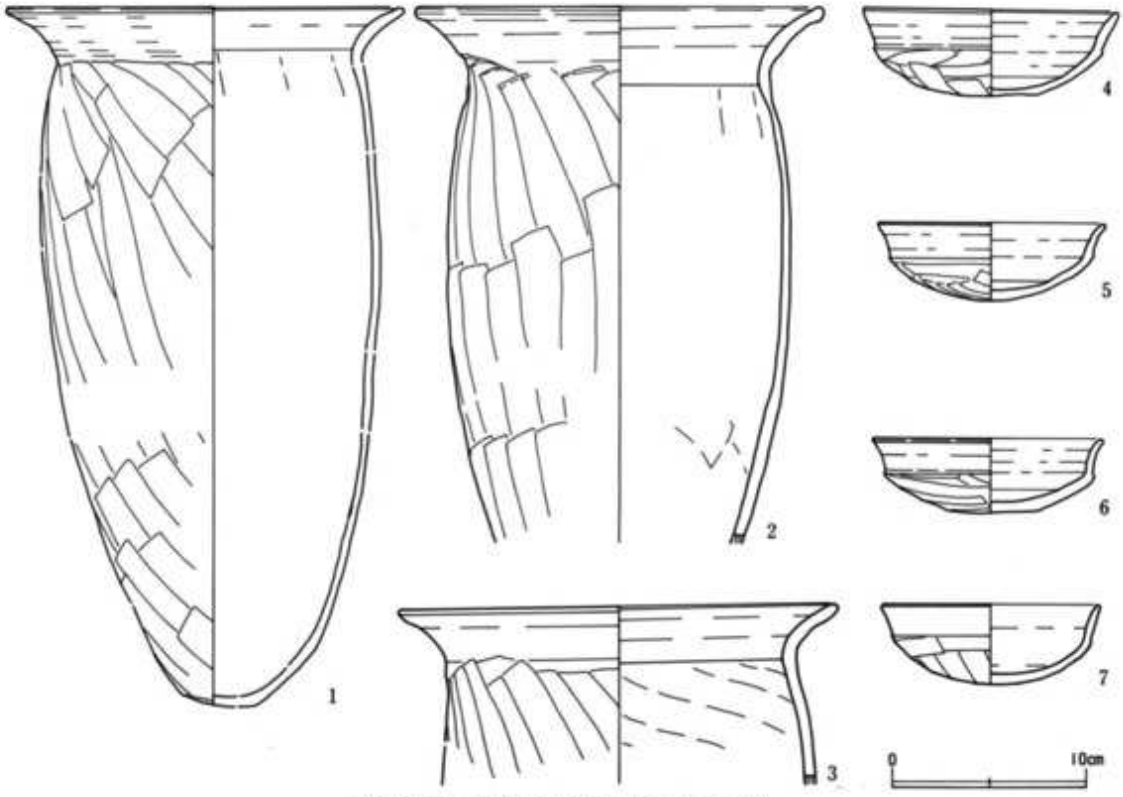
第179図　第103号住居址遺物出土状況



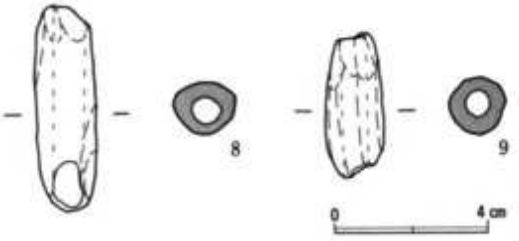
第180図　第103号住居址出土遺物(1)



第181図　第103号住居址出土遺物(2)

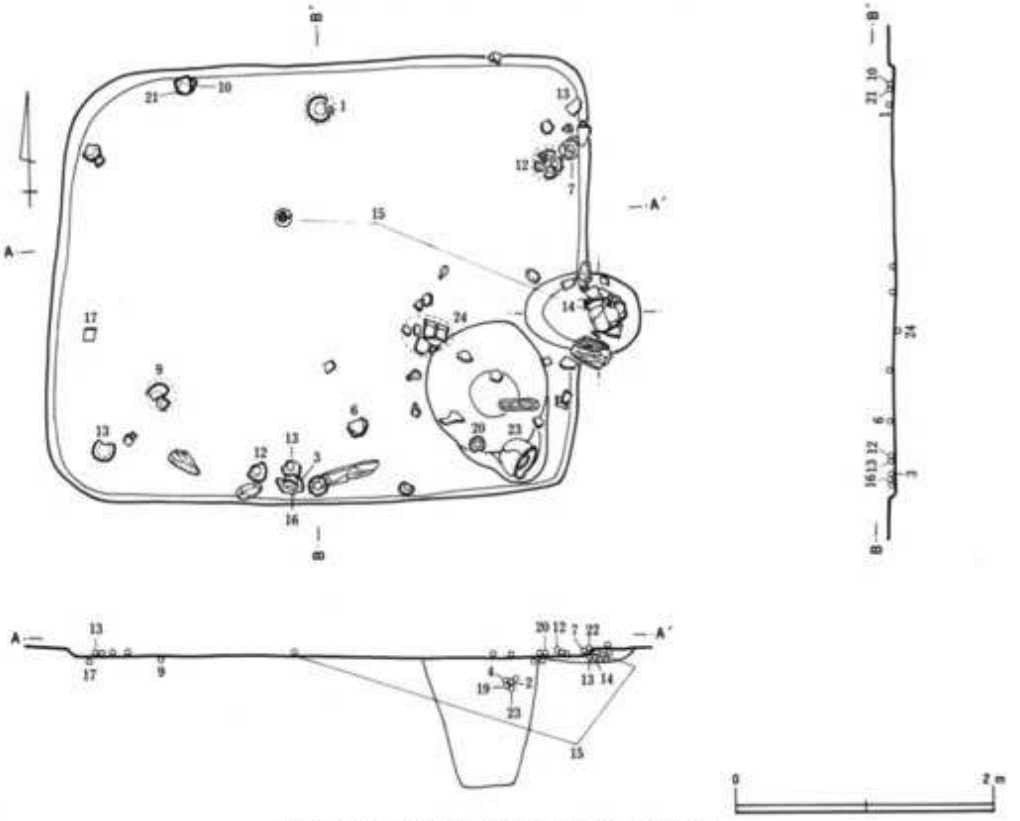


第182図　第105号住居址出土遺物(1)

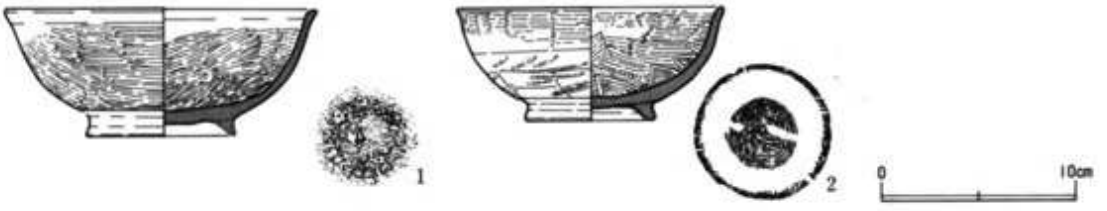


第183図　第105号住居址出土遺物(2)

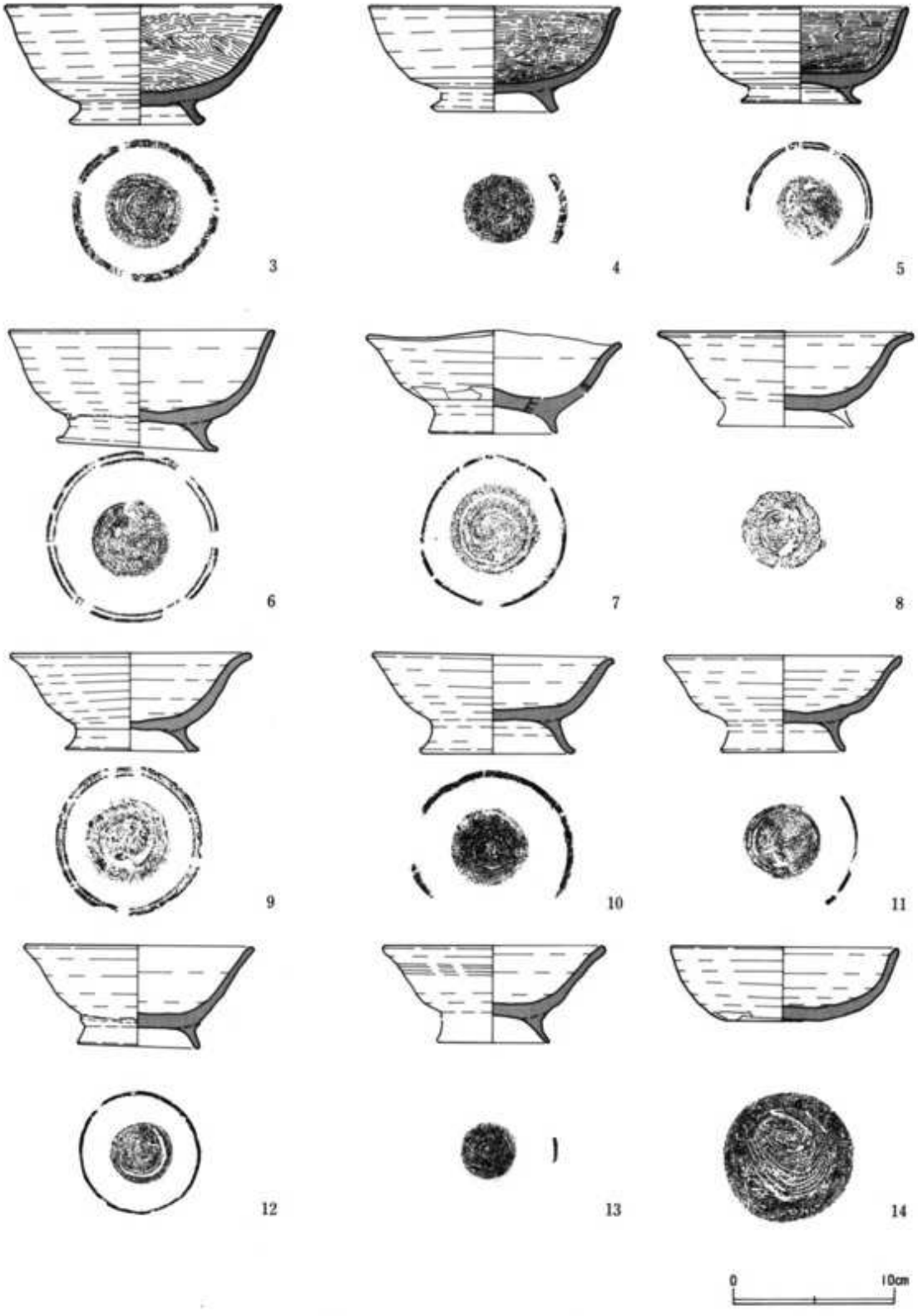
第184図　第106号住居址出土遺物



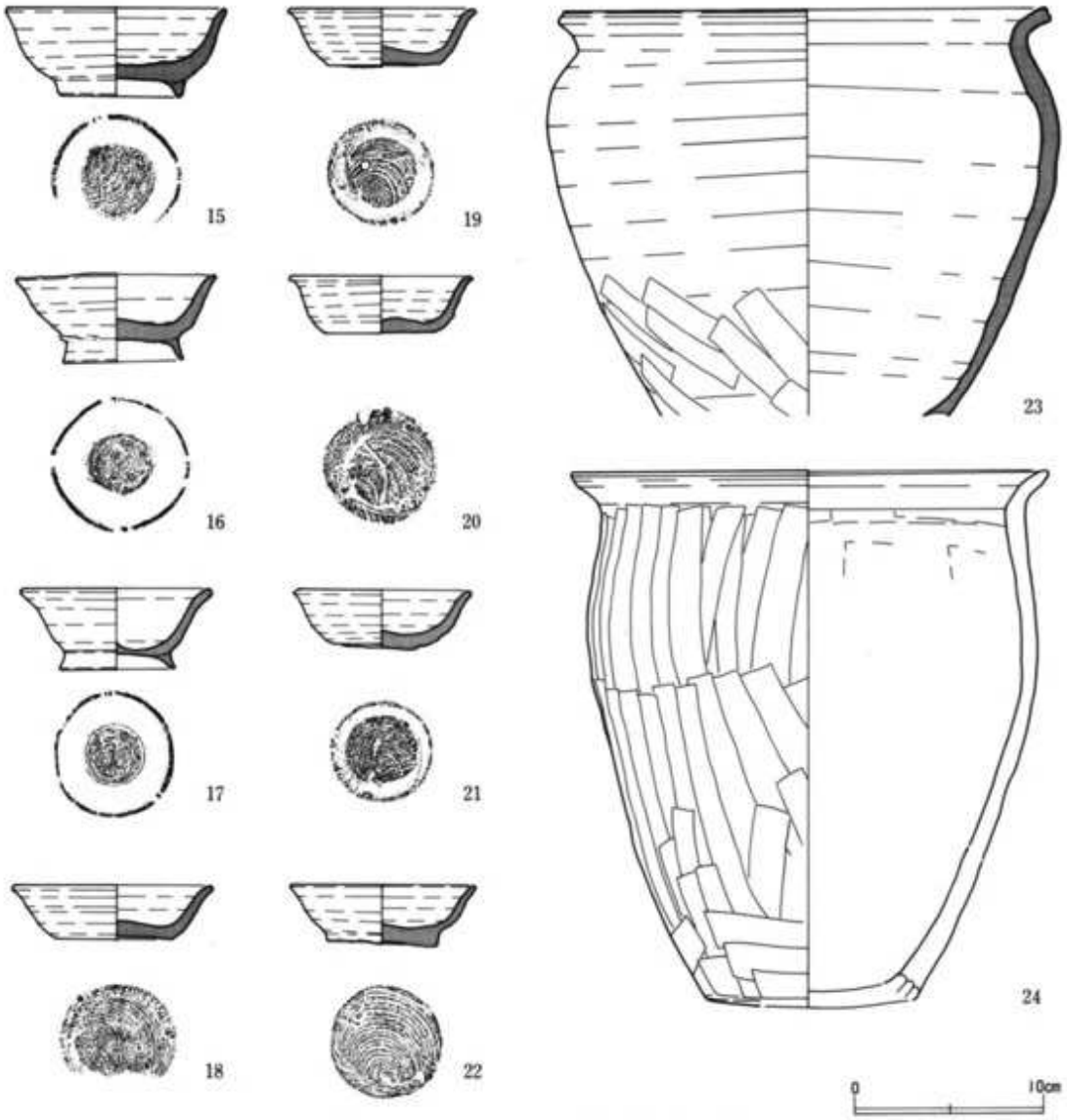
第185図　第107号住居址遺物出土状況



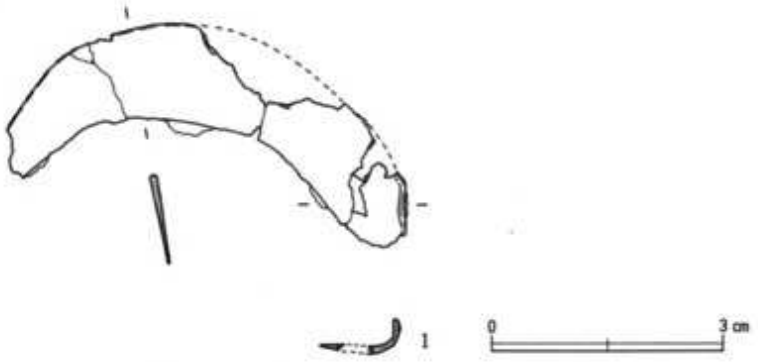
第186図　第107号住居址出土遺物(1)



第187図　第107号住居址出土遺物(2)

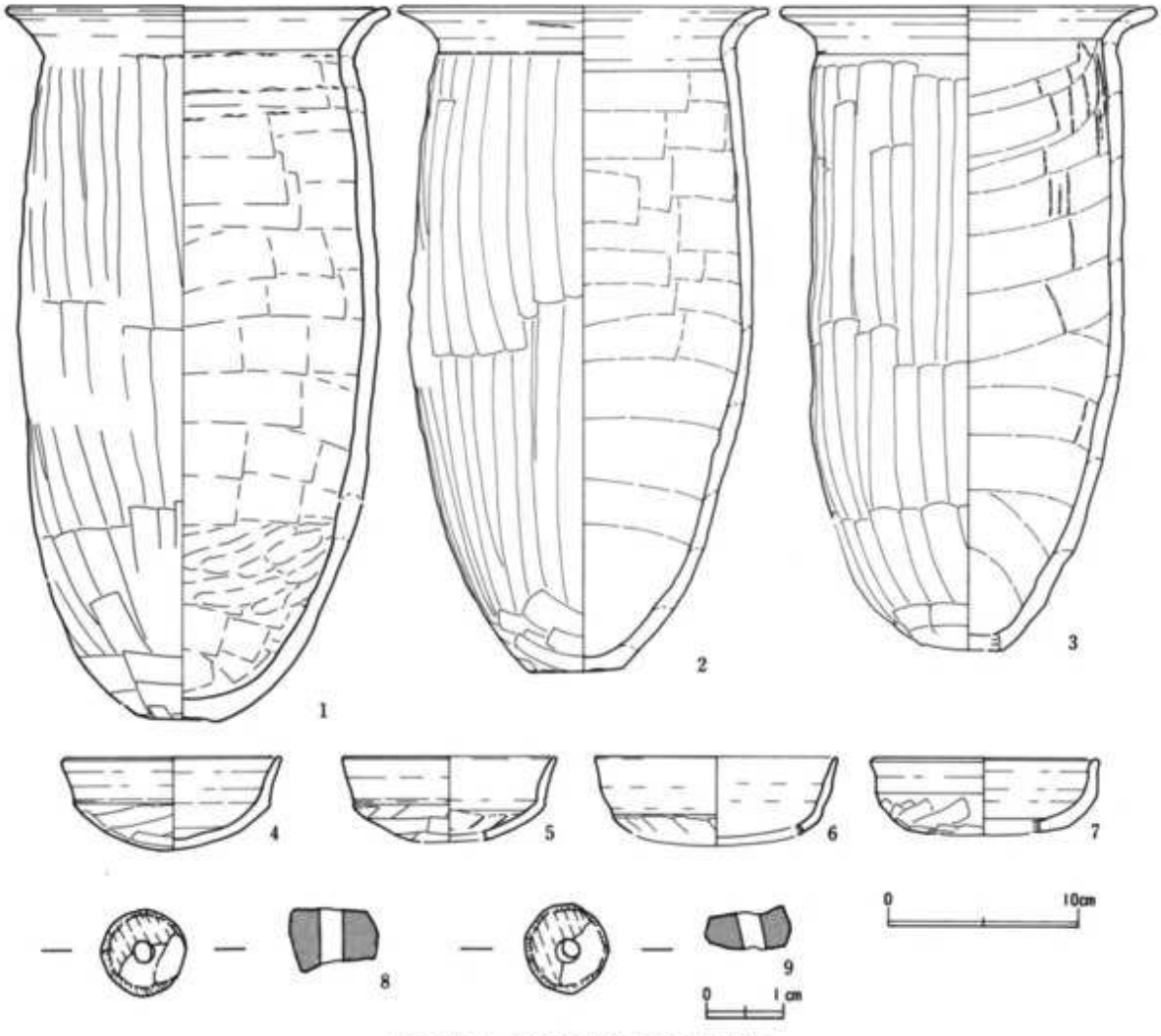


第188図　第107号住居址出土遺物(3)

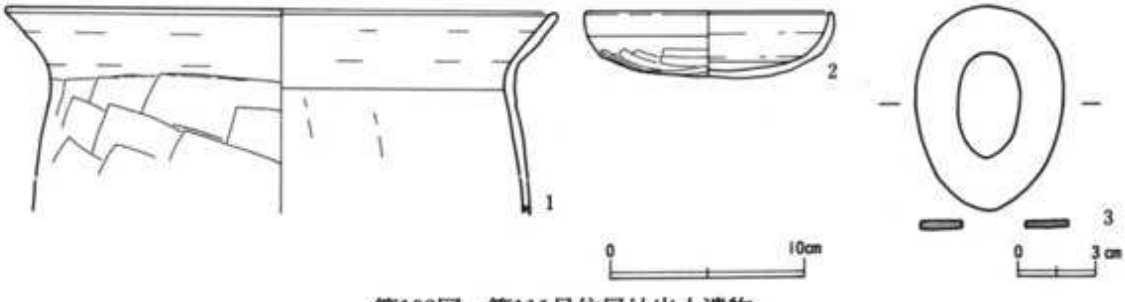


第189図　第108号住居址出土遺物

第190図　第109号住居址出土遺物

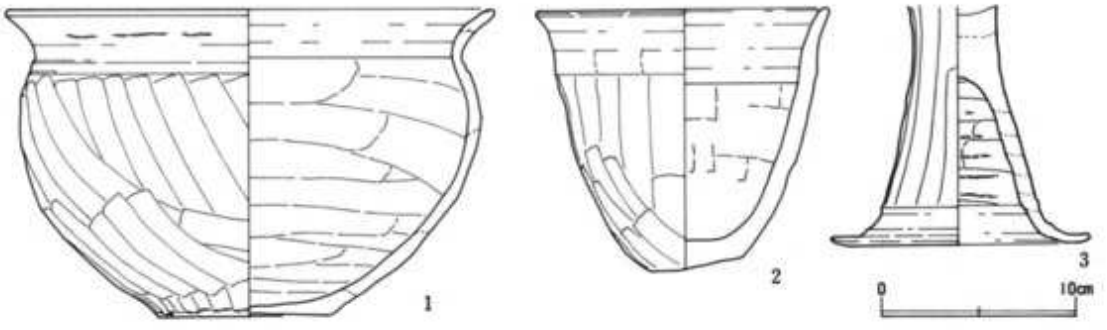


第191図　第110号住居址出土遺物

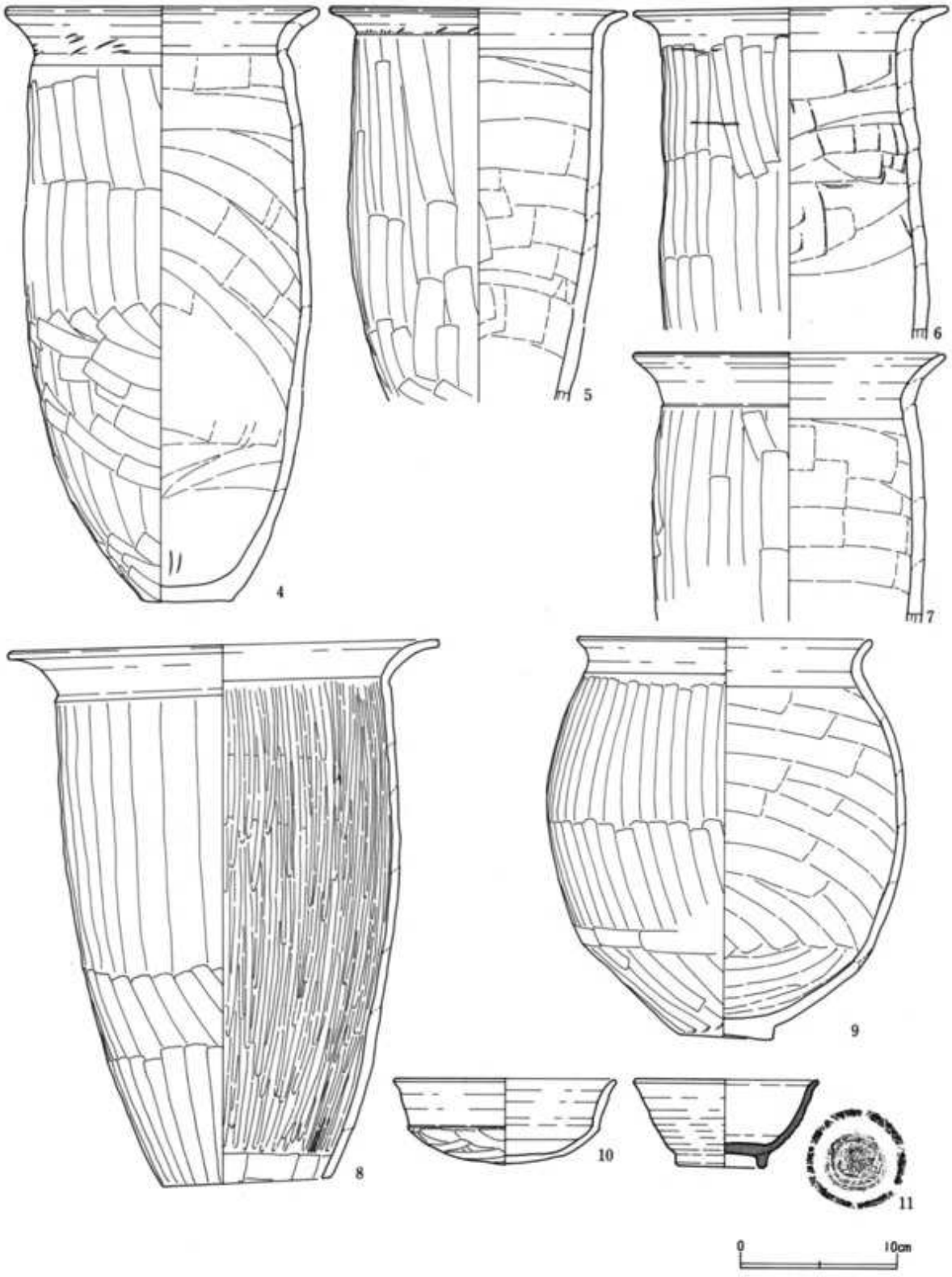


第192図　第111号住居址出土遺物

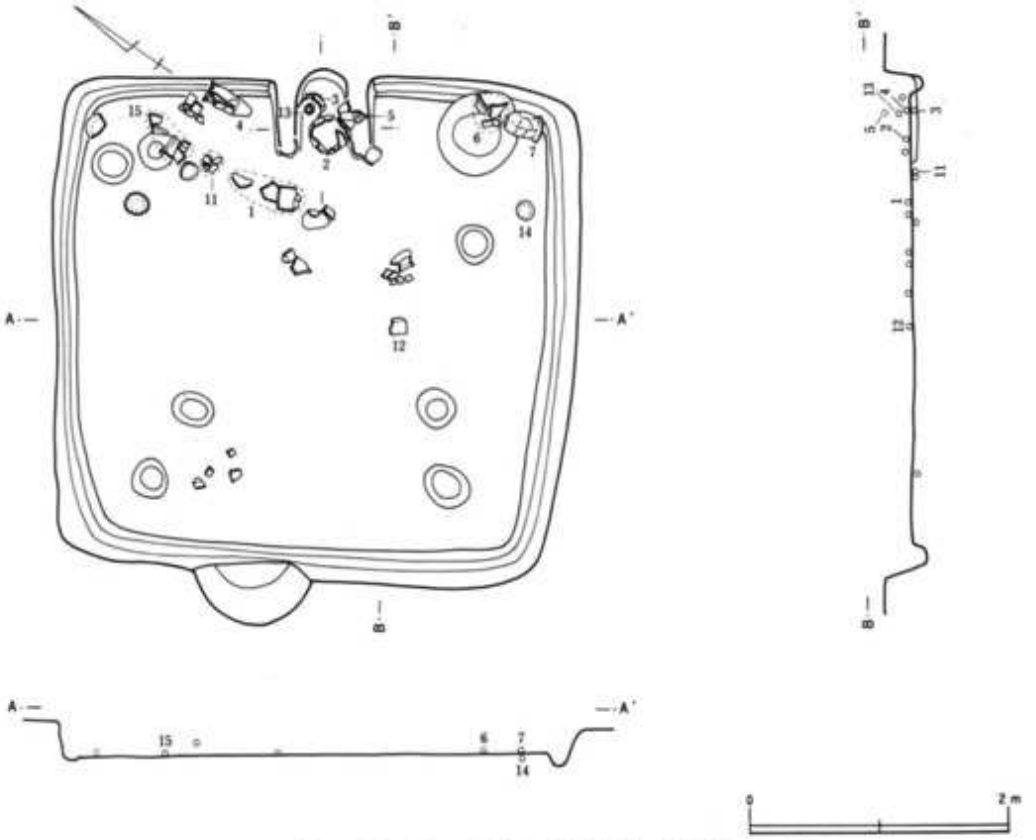
第193図　第112号住居址遺物出土状況



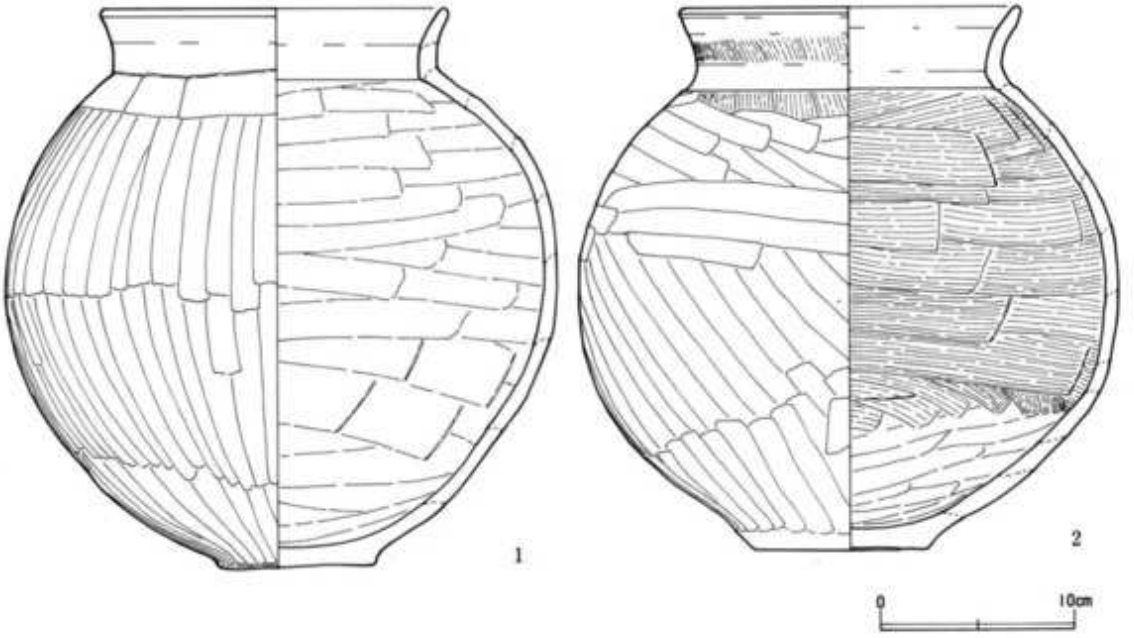
第194図　第112号住居址出土遺物(1)



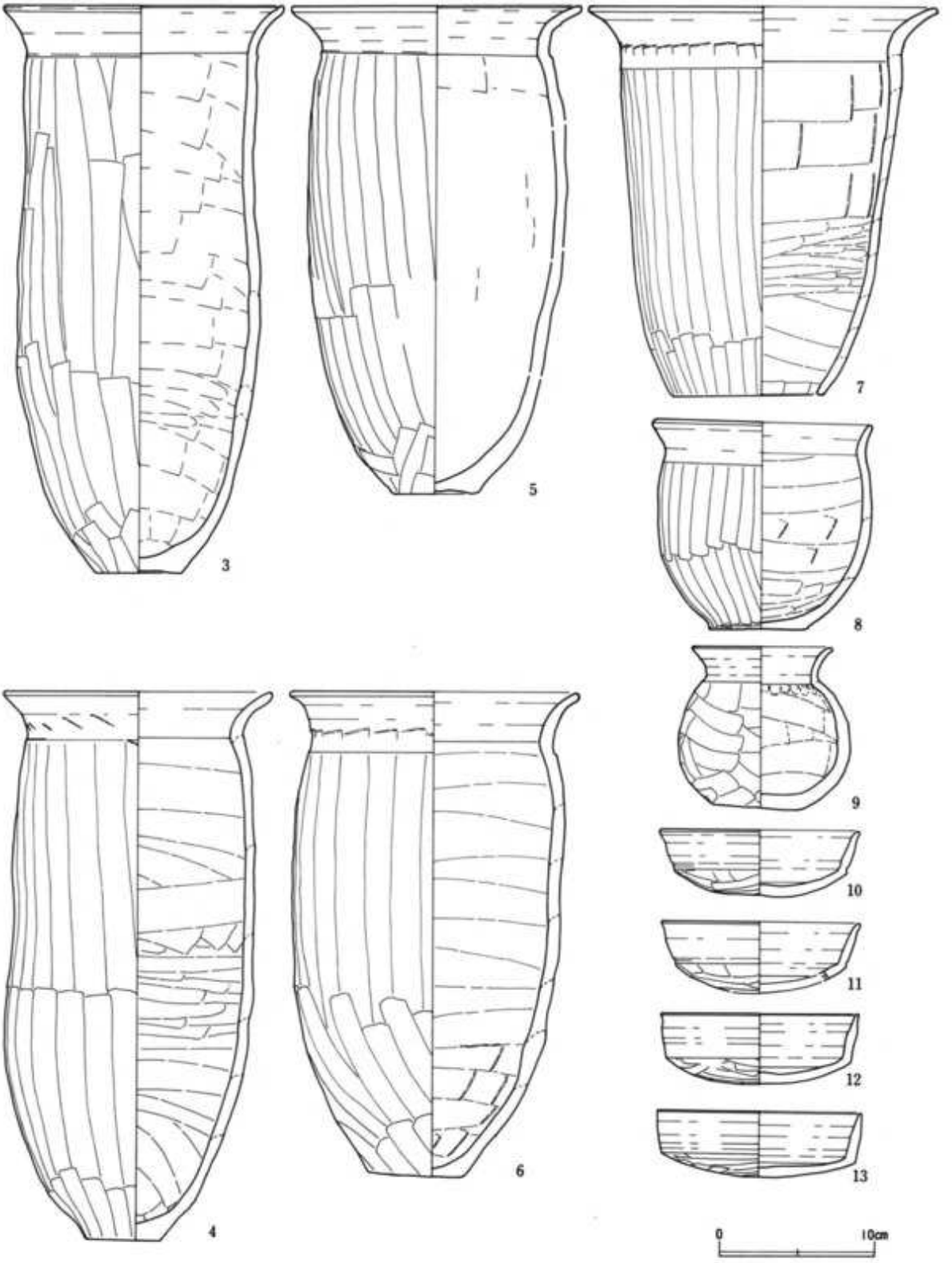
第195図　第112号住居址出土遺物(2)



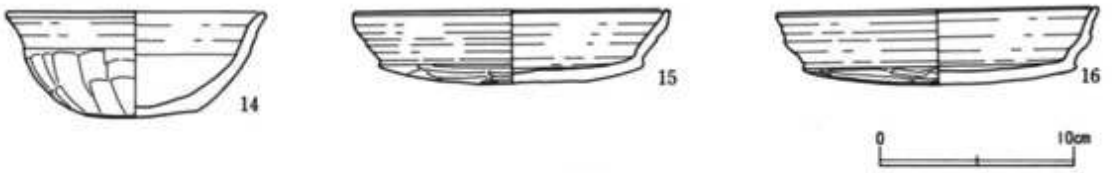
第196図　第113号住居址遺物出土状況



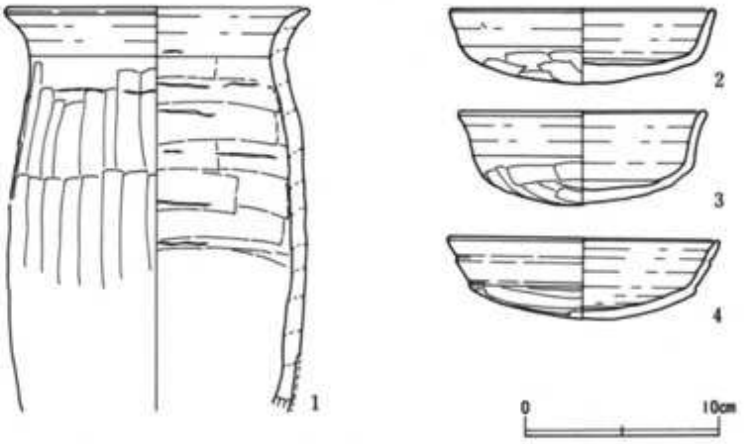
第197図　第113号住居址出土遺物(1)



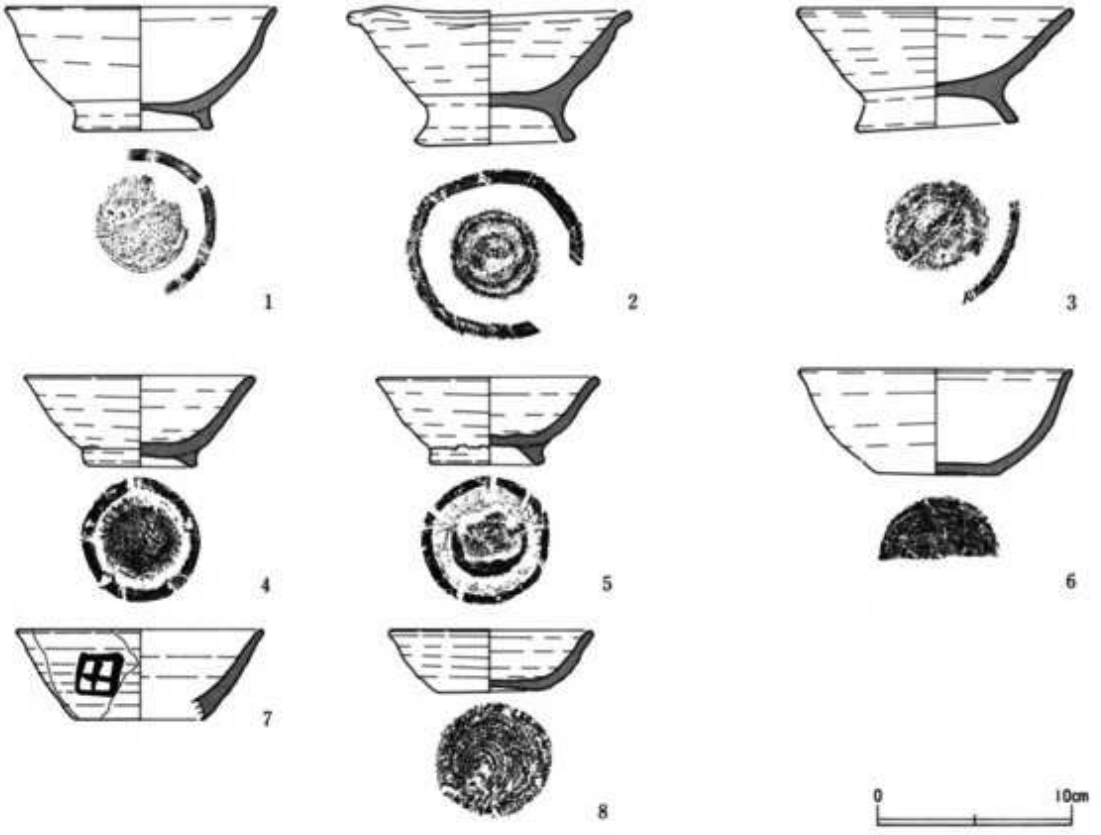
第198図　第113号住居址出土遺物(2)



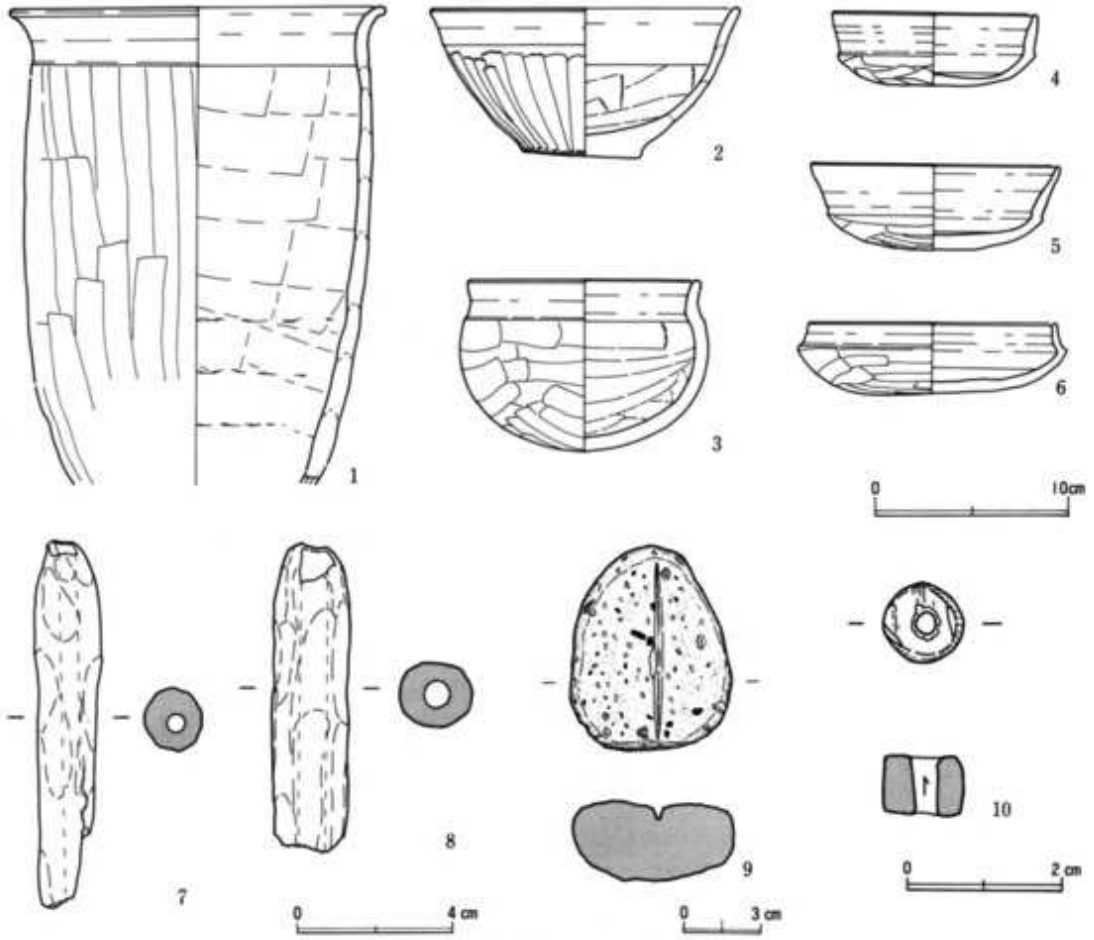
第199図　第113号住居址出土遺物(3)



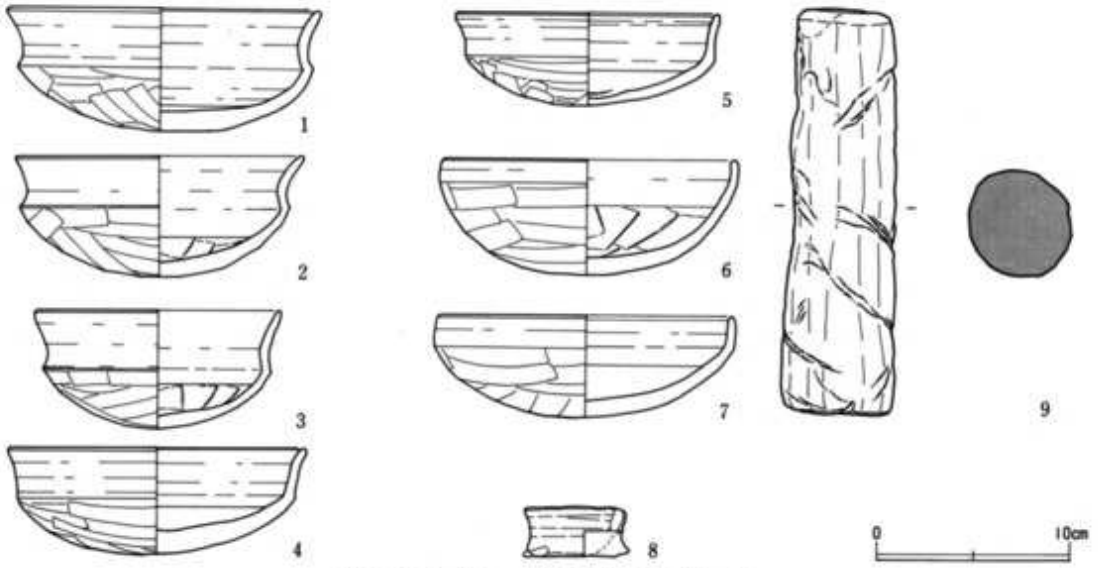
第200図　第114号住居址出土遺物



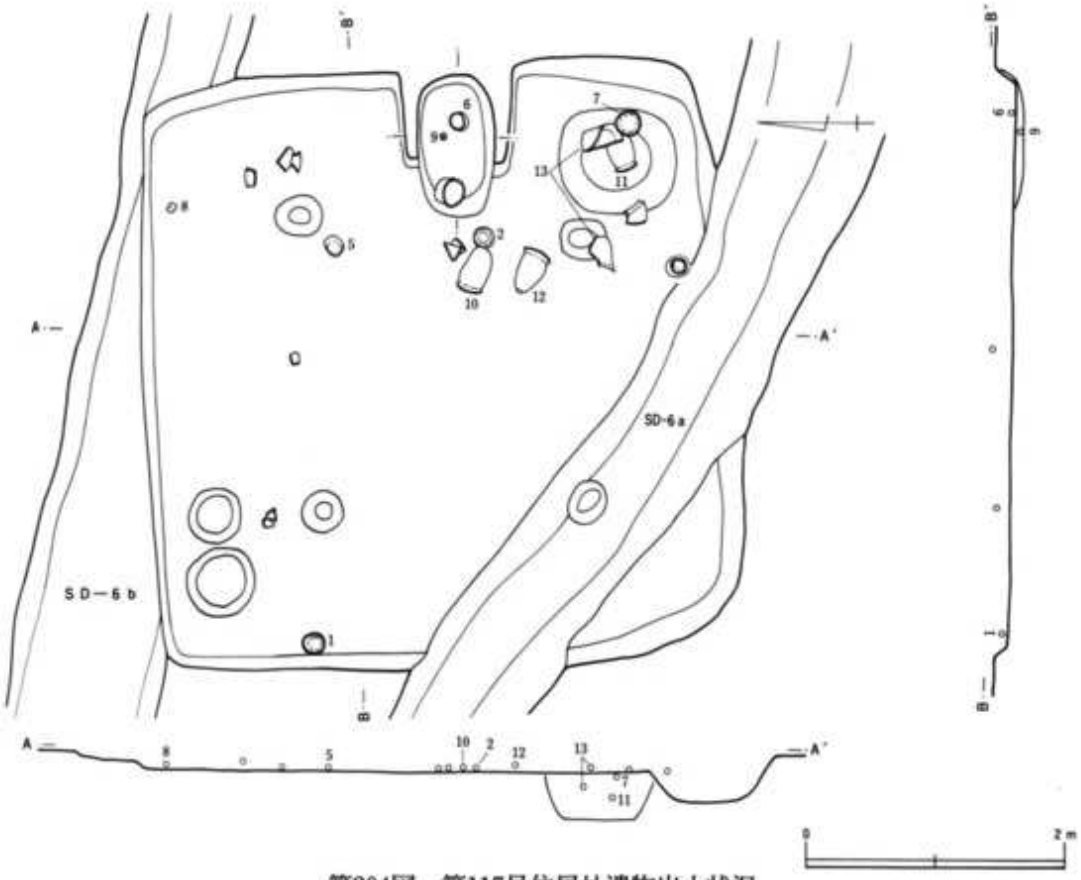
第201図　第115号住居址出土遺物



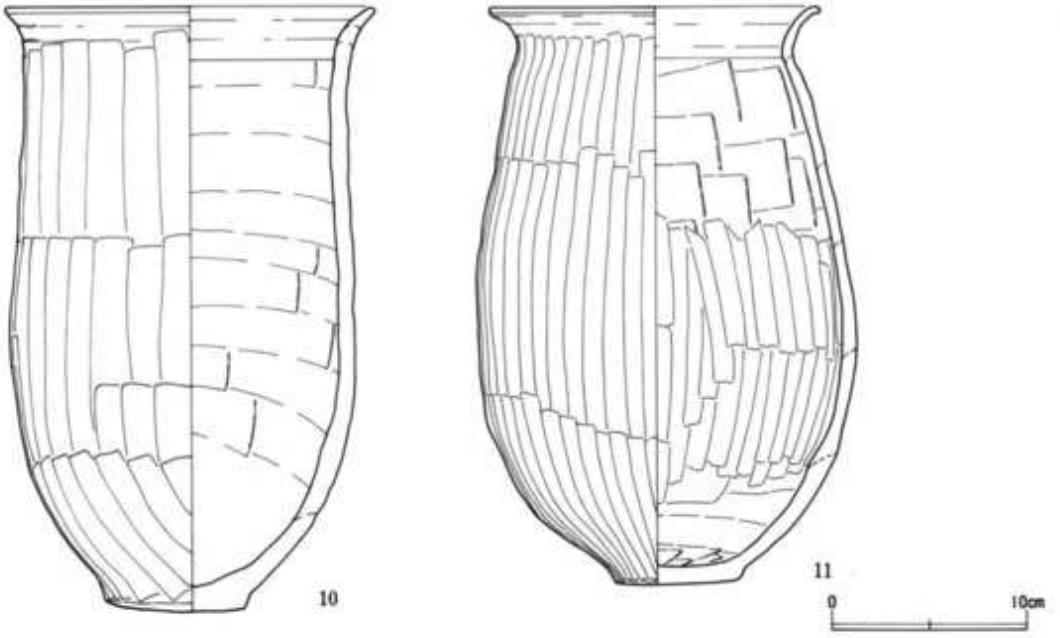
第202図　第116号住居址出土遺物



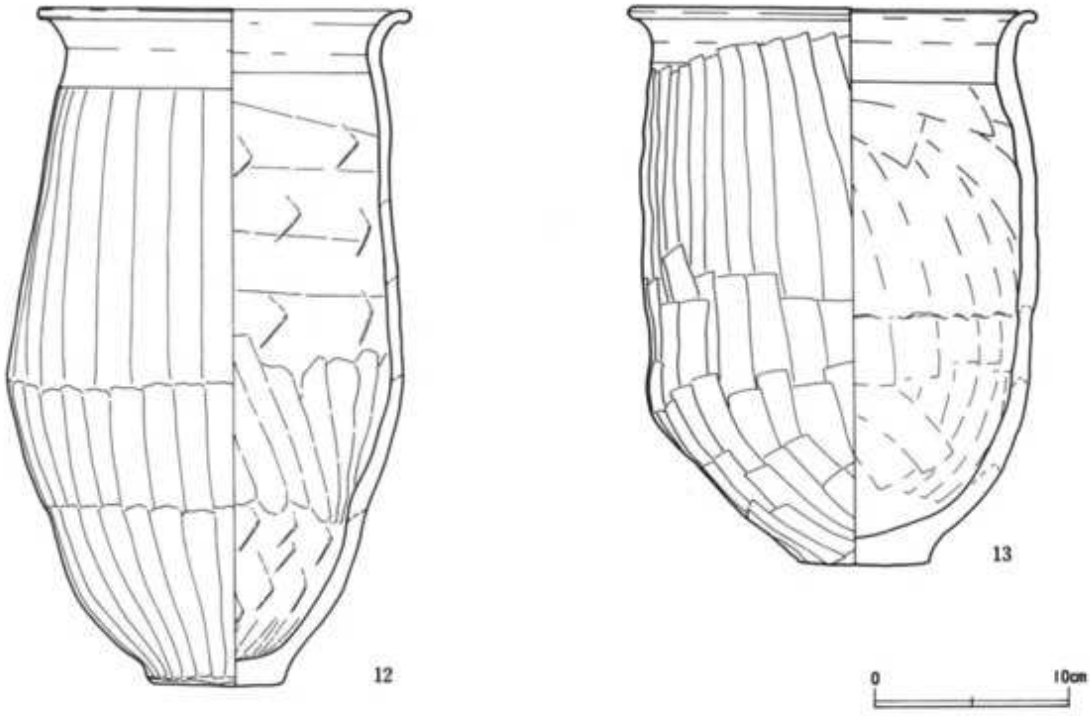
第203図　第117号住居址出土遺物(1)



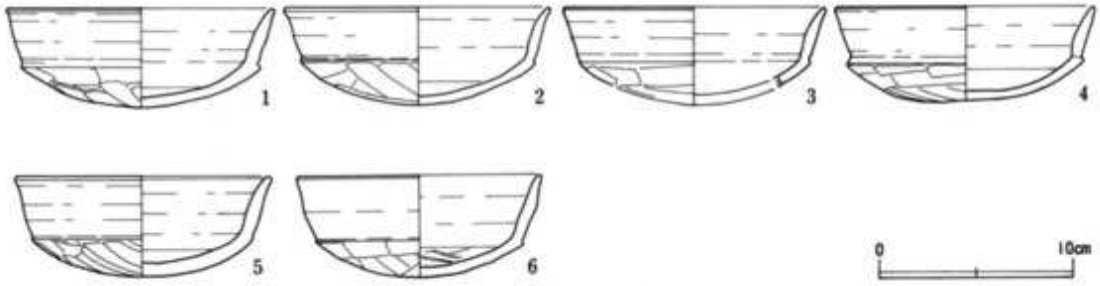
第204図　第117号住居址遺物出土状況



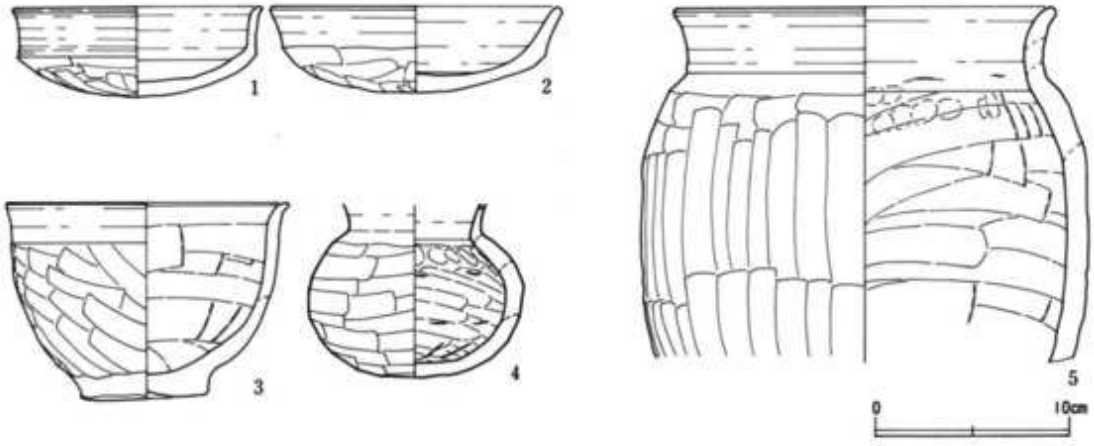
第205図　第117号住居址出土遺物(2)



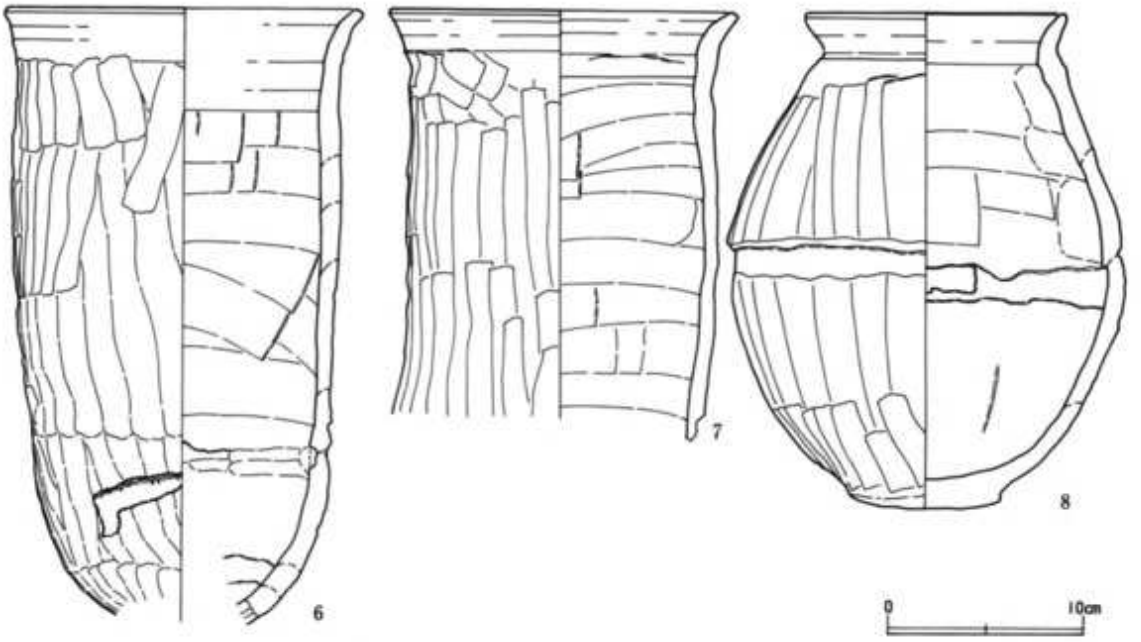
第206図　第117号住居址出土遺物(3)



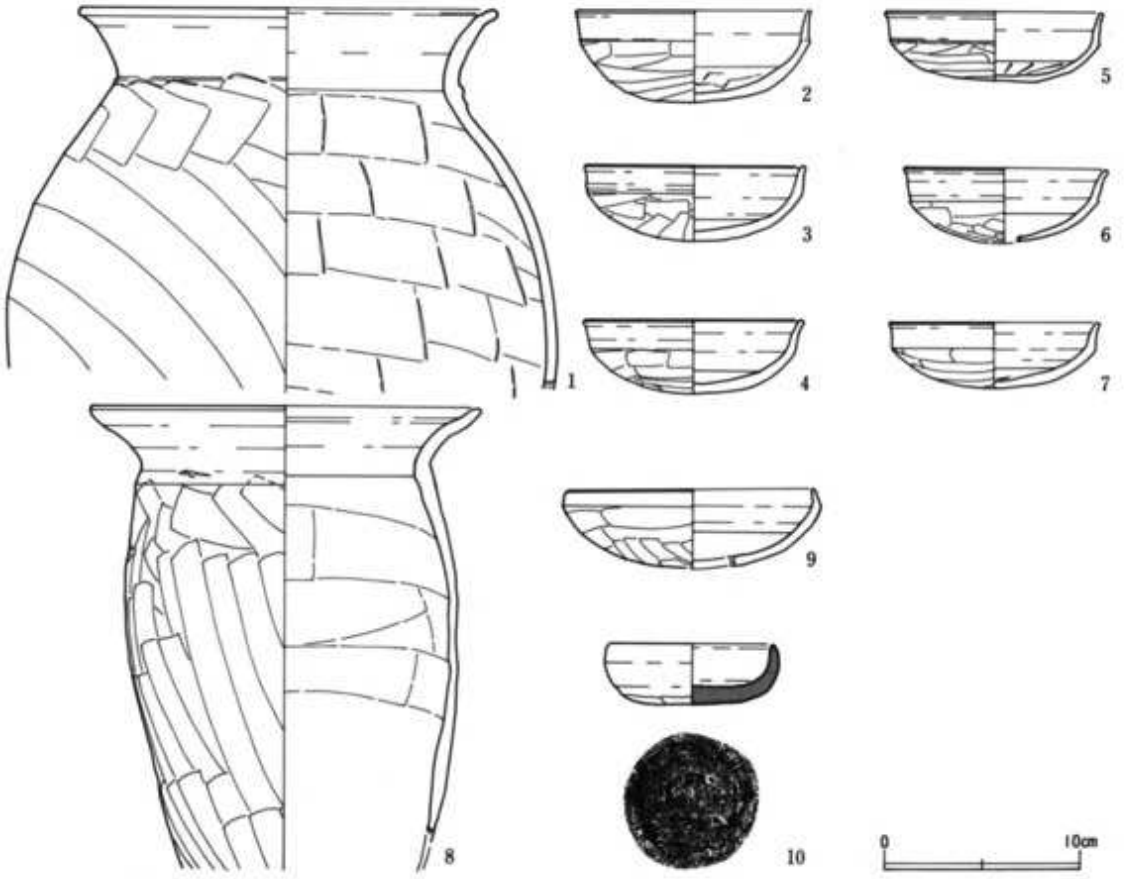
第207図　第118号住居址出土遺物



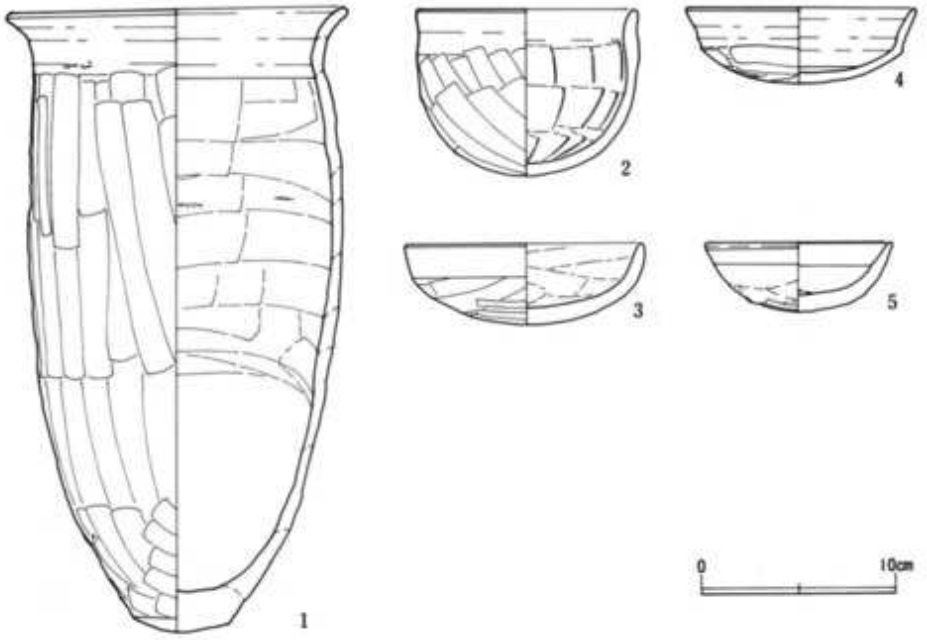
第208図　第119号住居址出土遺物(1)



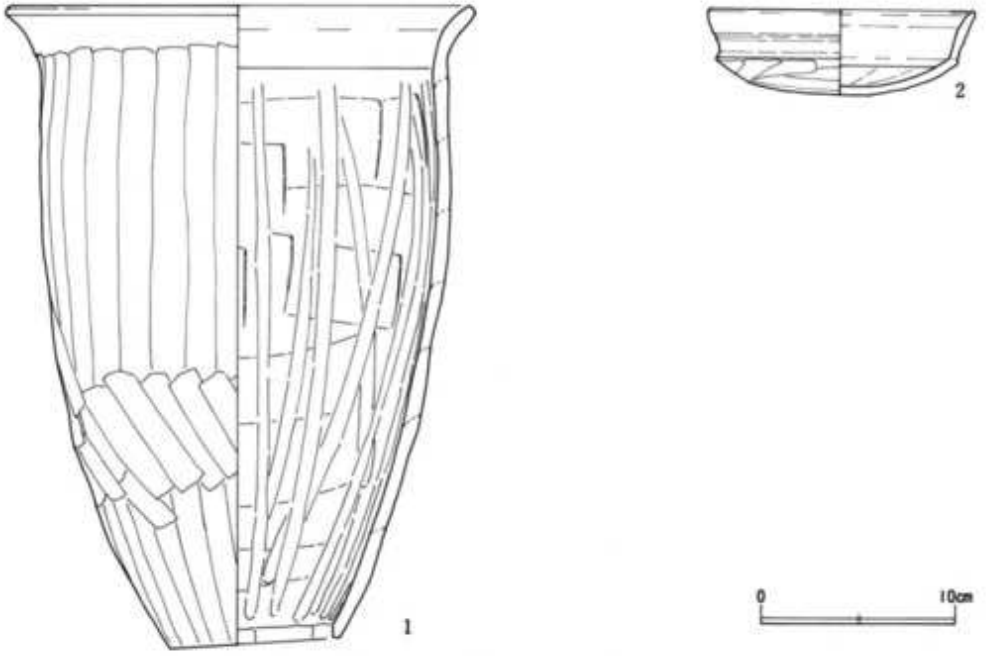
第209図　第119号住居址出土遺物(2)



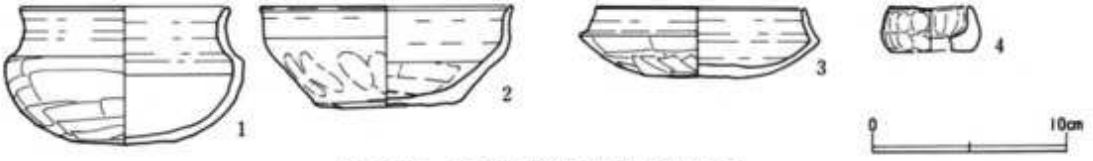
第210図　第120号住居址出土遺物



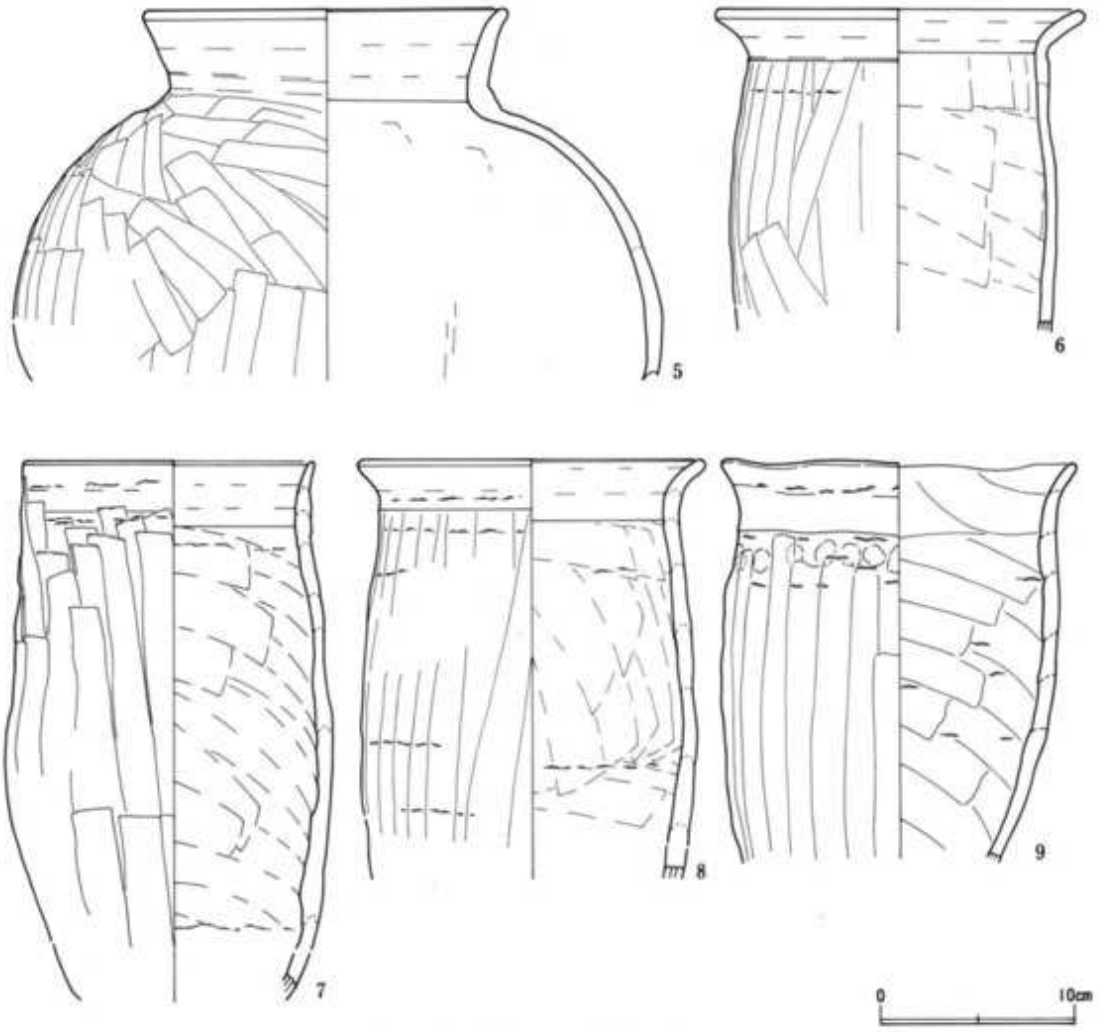
第211図　第121号住居址出土遺物



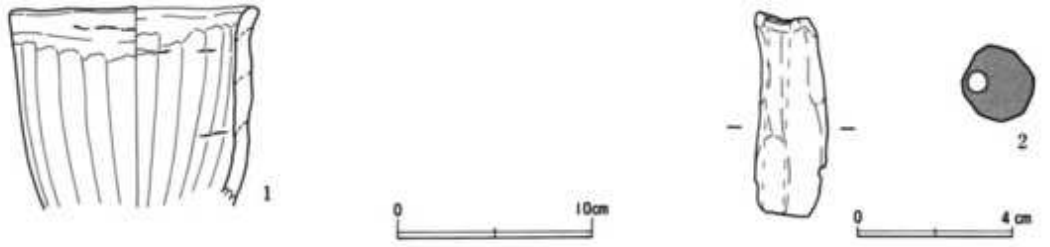
第212図　第123号住居址出土遺物



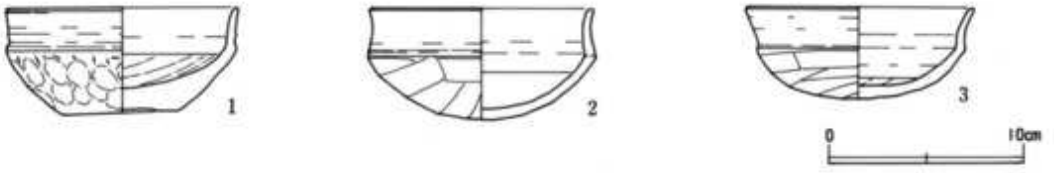
第213図　第124号住居址出土遺物(1)



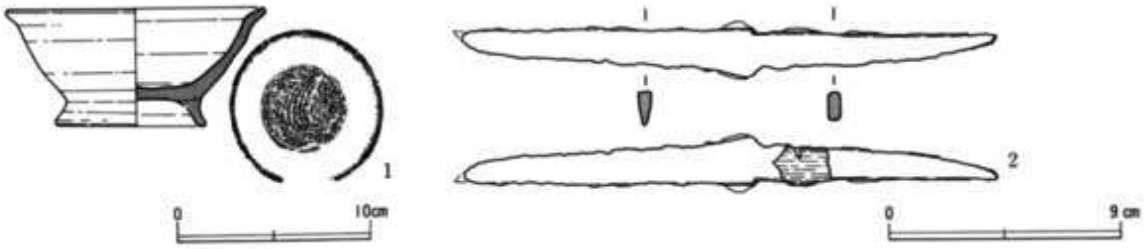
第214図　第124号住居址出土遺物(2)



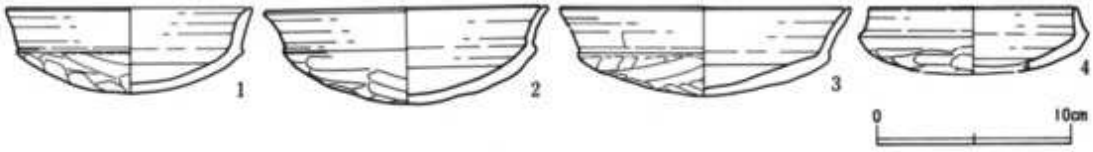
第215図　第125号住居址出土遺物



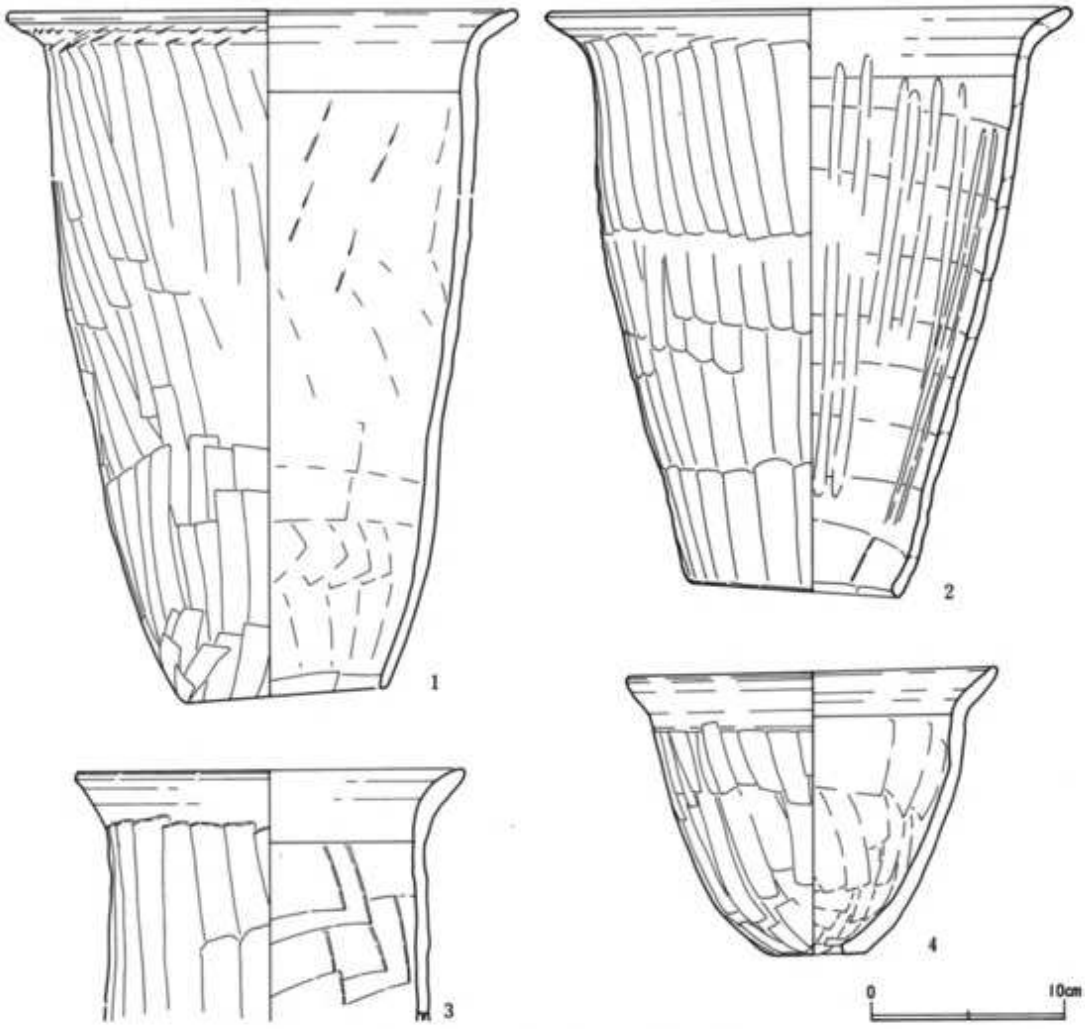
第216図　第129号住居址出土遺物



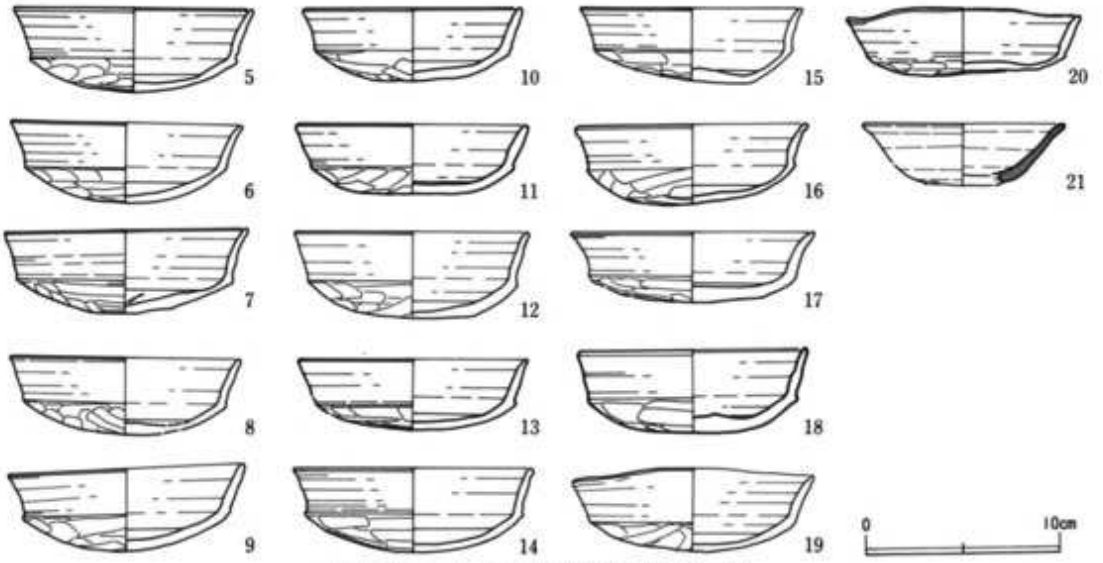
第217図　第131号住居址出土遺物



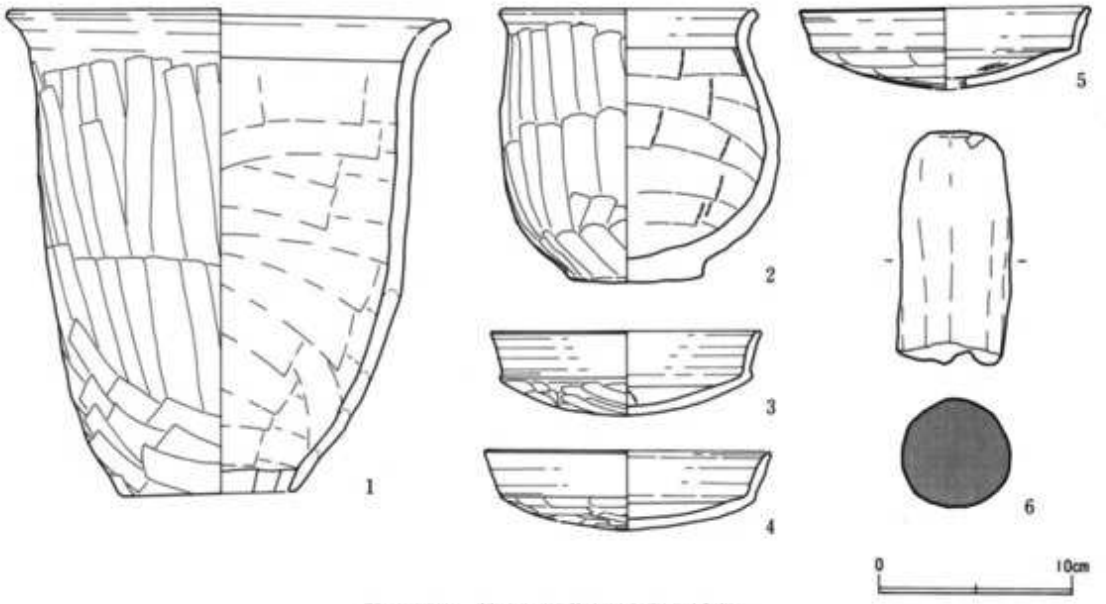
第218図　第133号住居址出土遺物



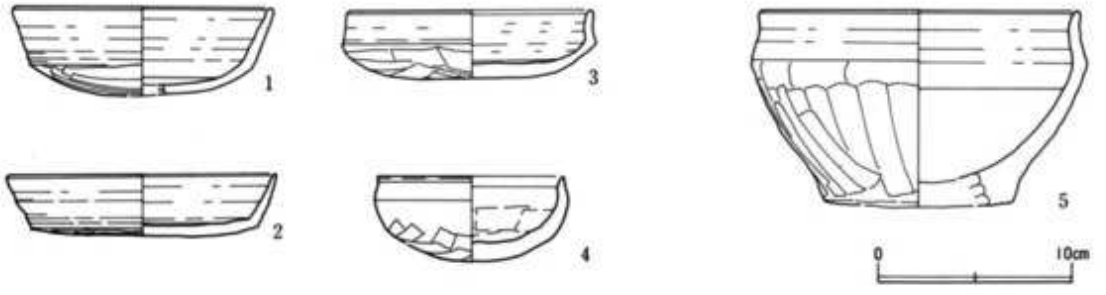
第219図　第134号住居址出土遺物(1)



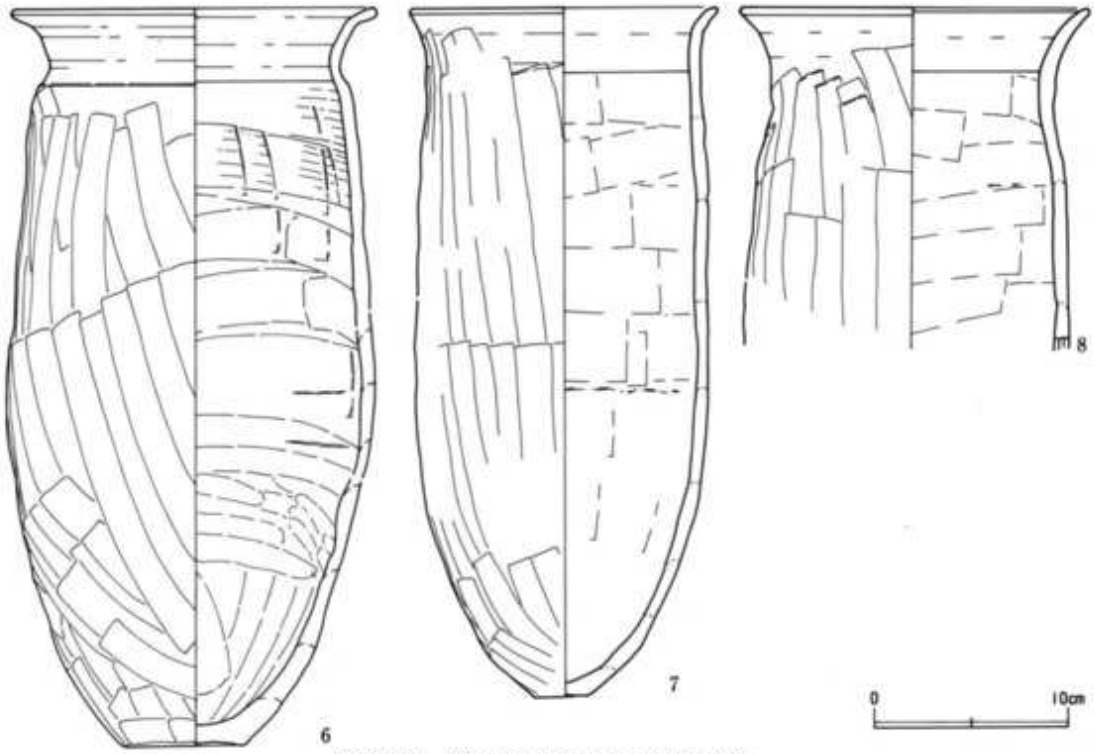
第220図　第134号住居址出土遺物(2)



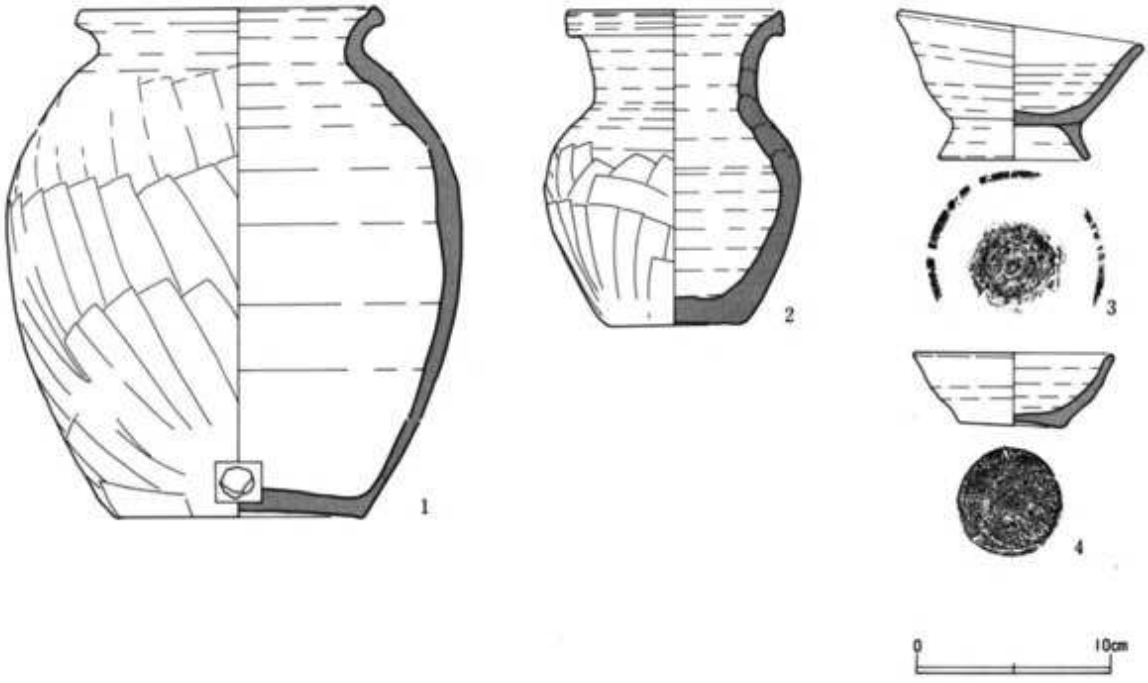
第221図　第135号住居址出土遺物



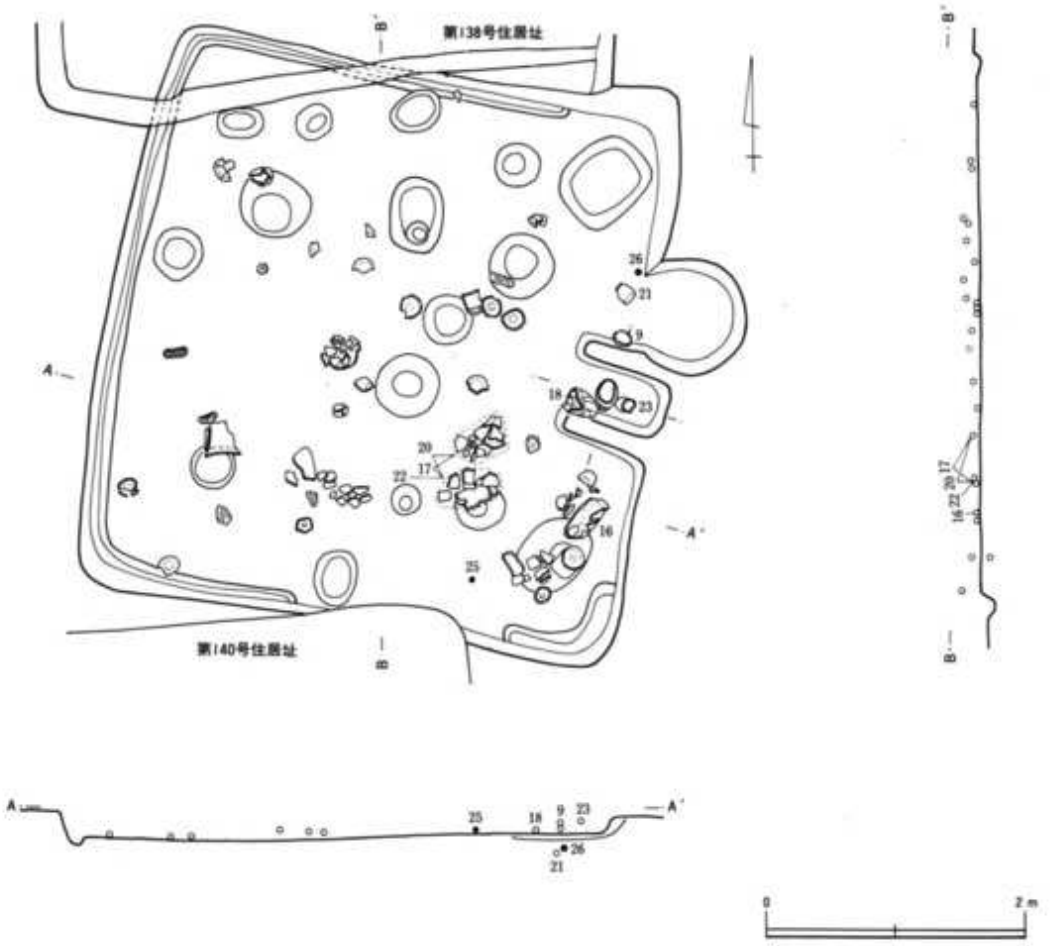
第222図　第136号住居址出土遺物(1)



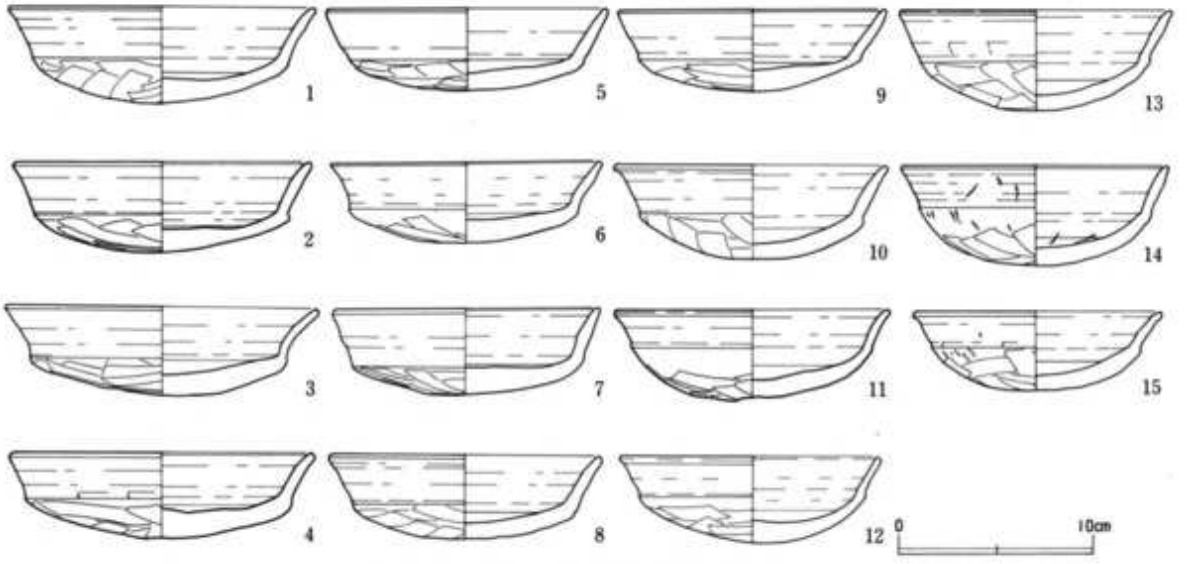
第223図　第136号住居址出土遺物(2)



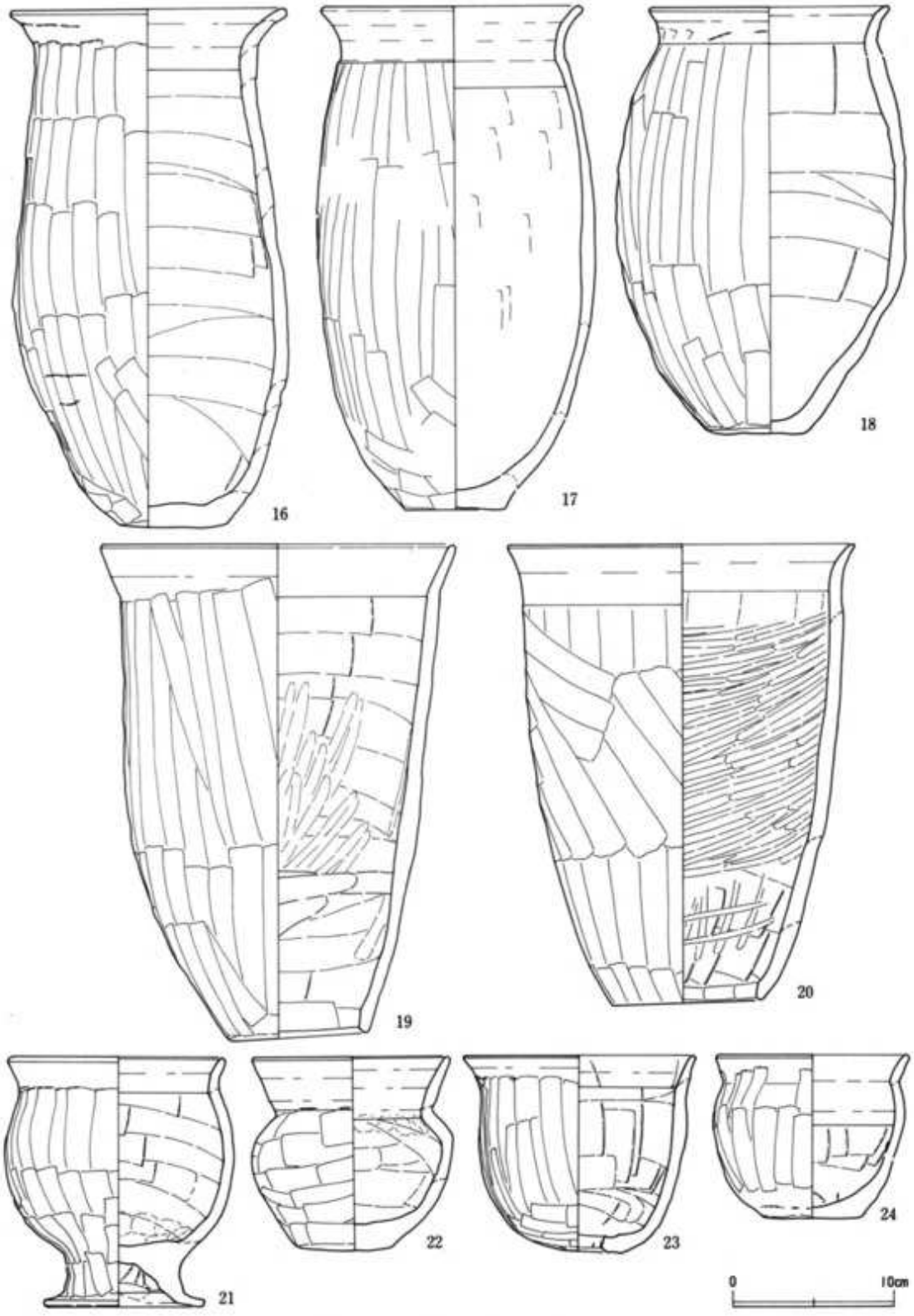
第224図　第138号住居址出土遺物



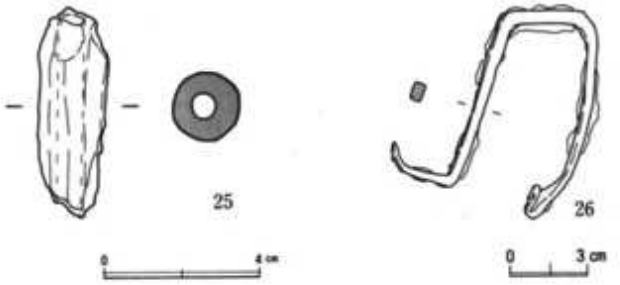
第225図　第139号住居址遺物出土状況



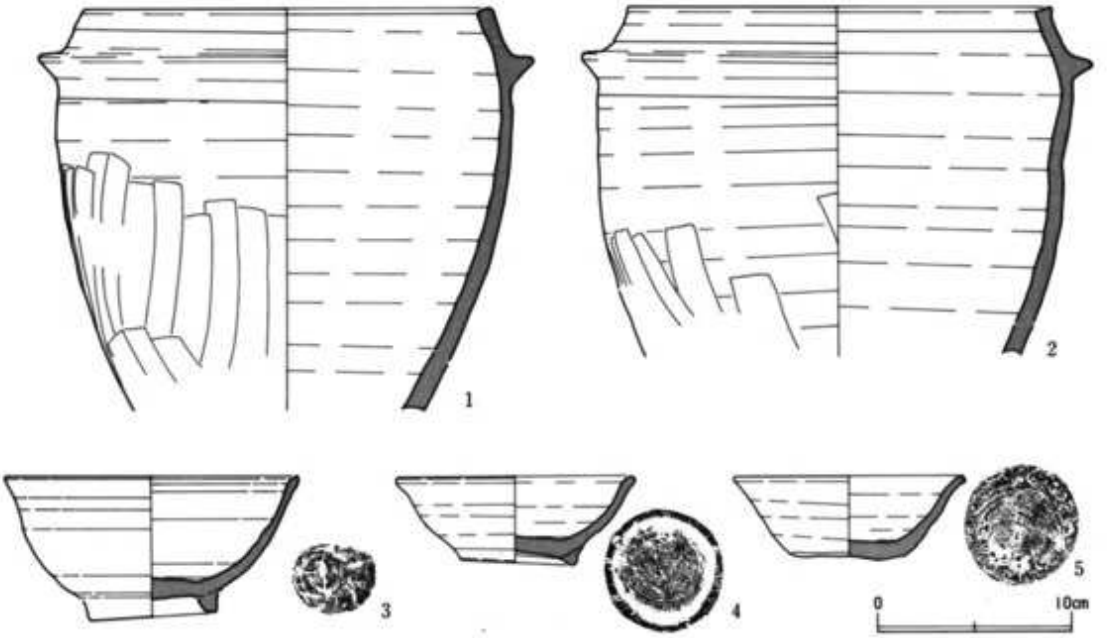
第226図　第139号住居址出土遺物(1)



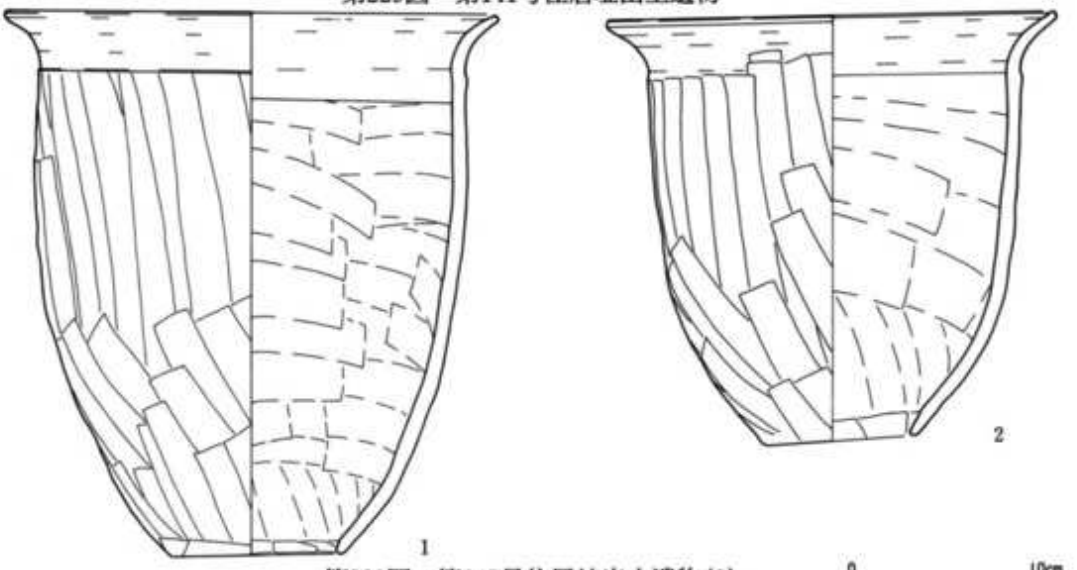
第227図　第139号住居址出土遺物(2)



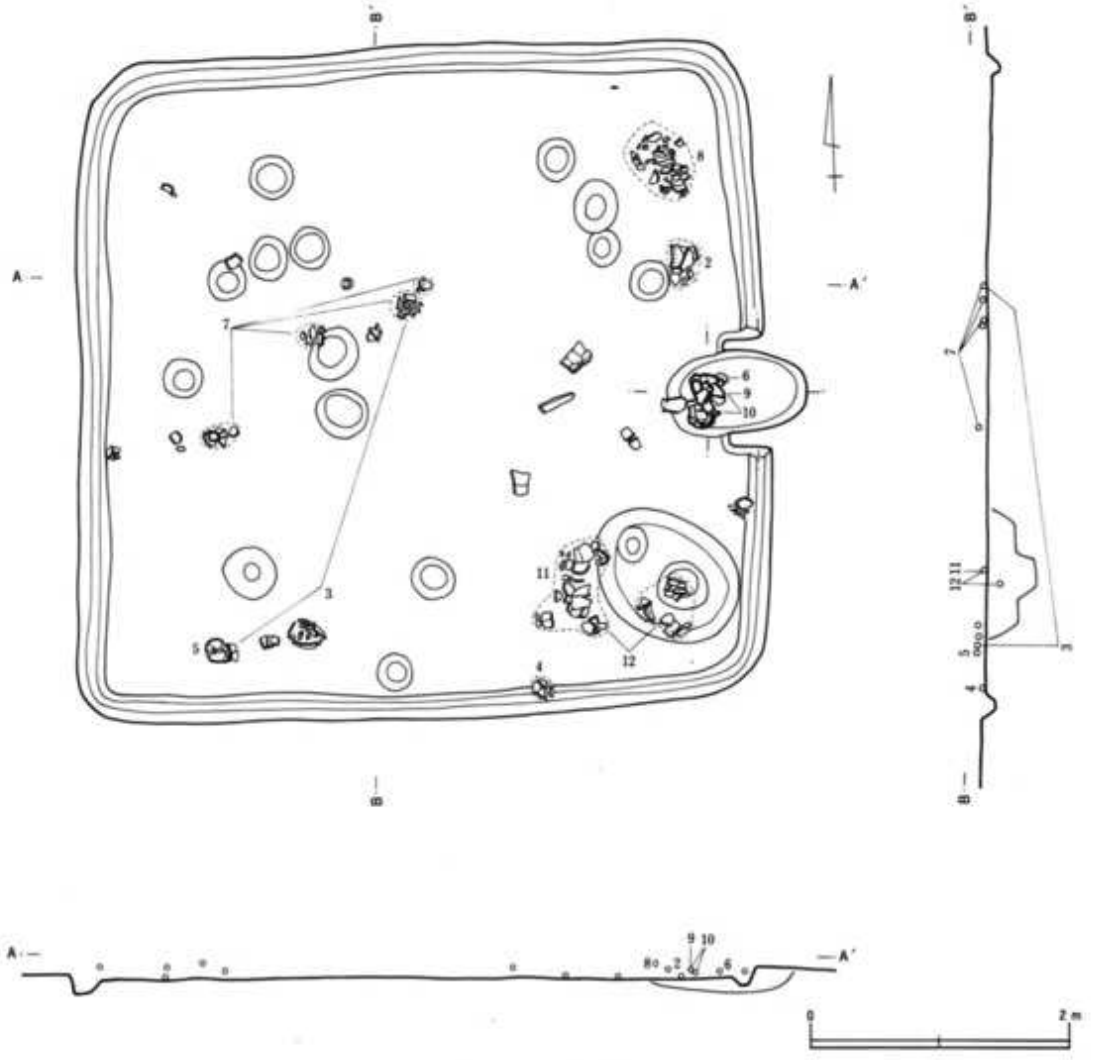
第228図　第139号住居址出土遺物(3)



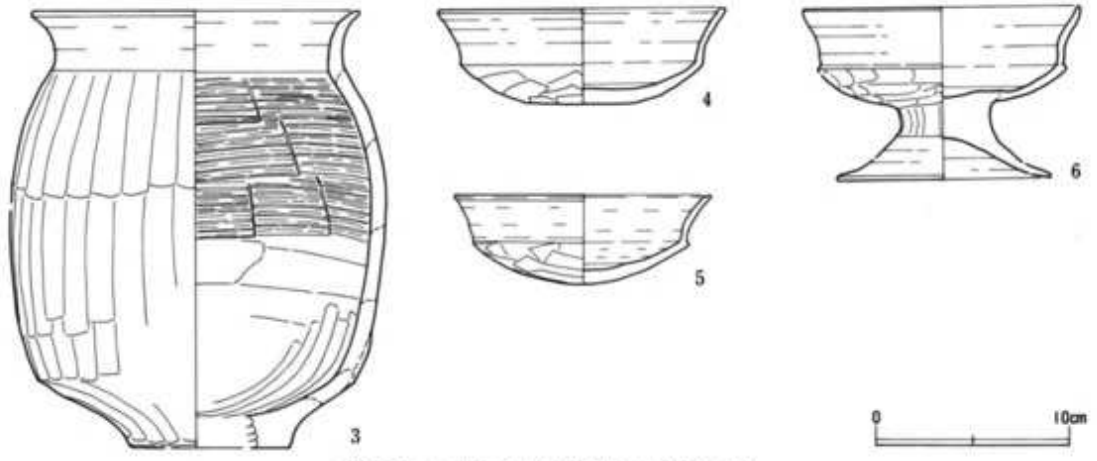
第229図　第141号住居址出土遺物



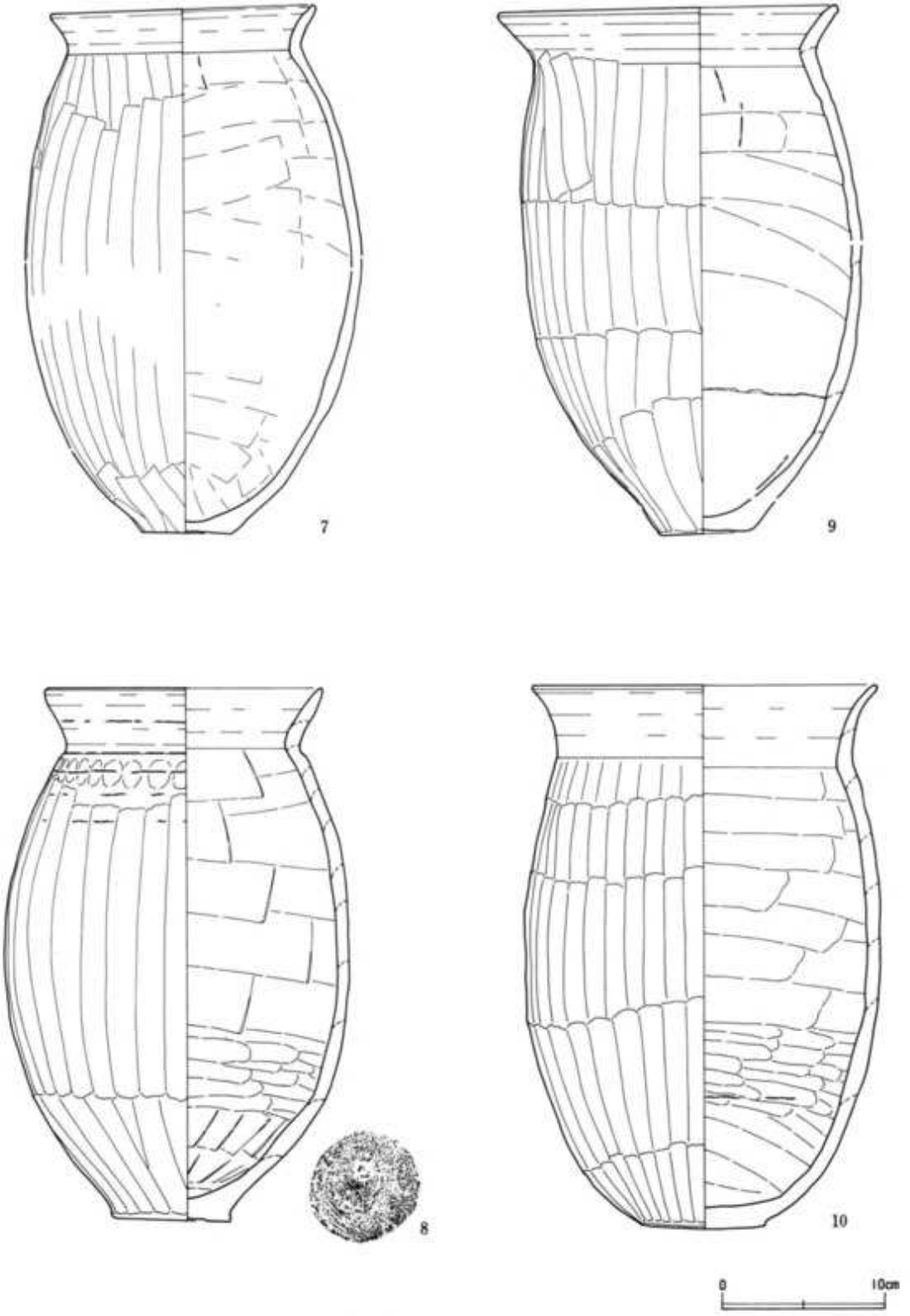
第230図　第142号住居址出土遺物(1)



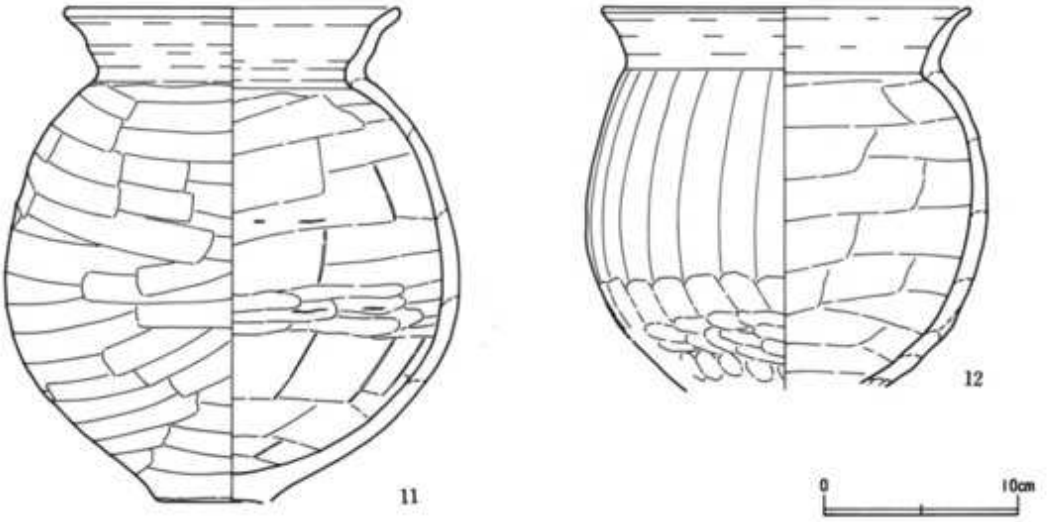
第231図　第142号住居址遺物出土状況



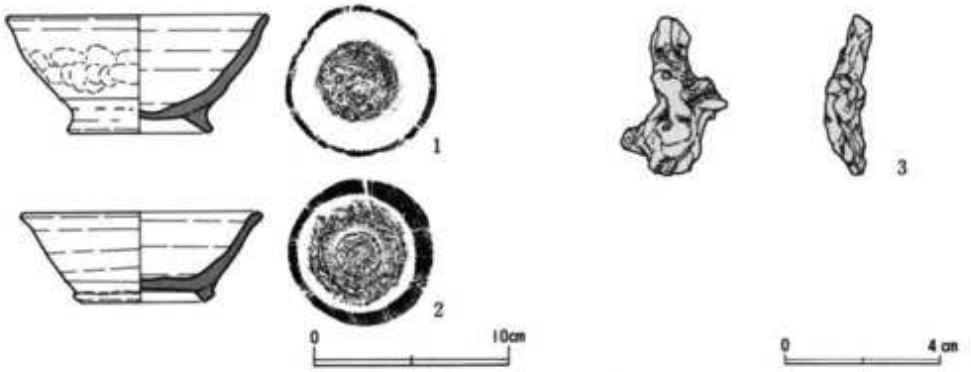
第232図　第142号住居址出土遺物(2)



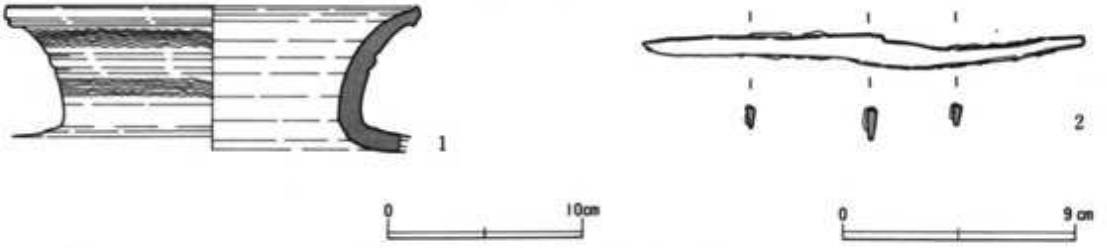
第233図　第142号住居址出土遺物(3)



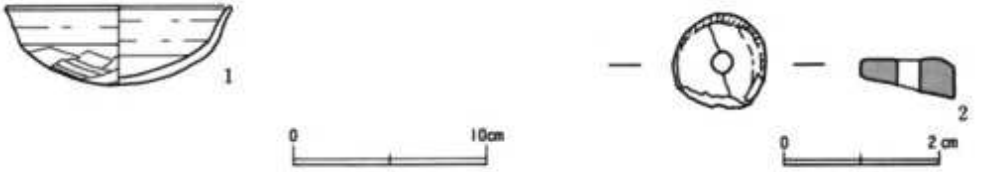
第234図　第142号住居址出土遺物(4)



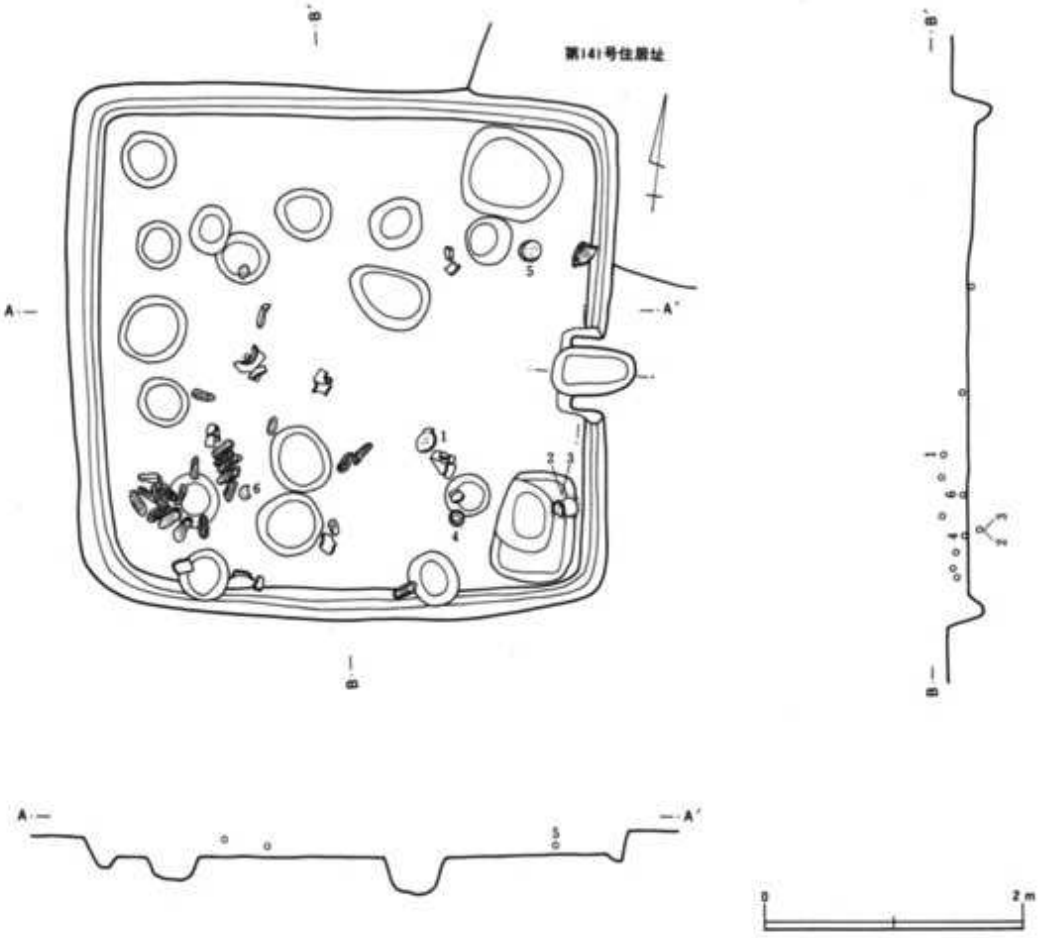
第235図　第143号住居址出土遺物



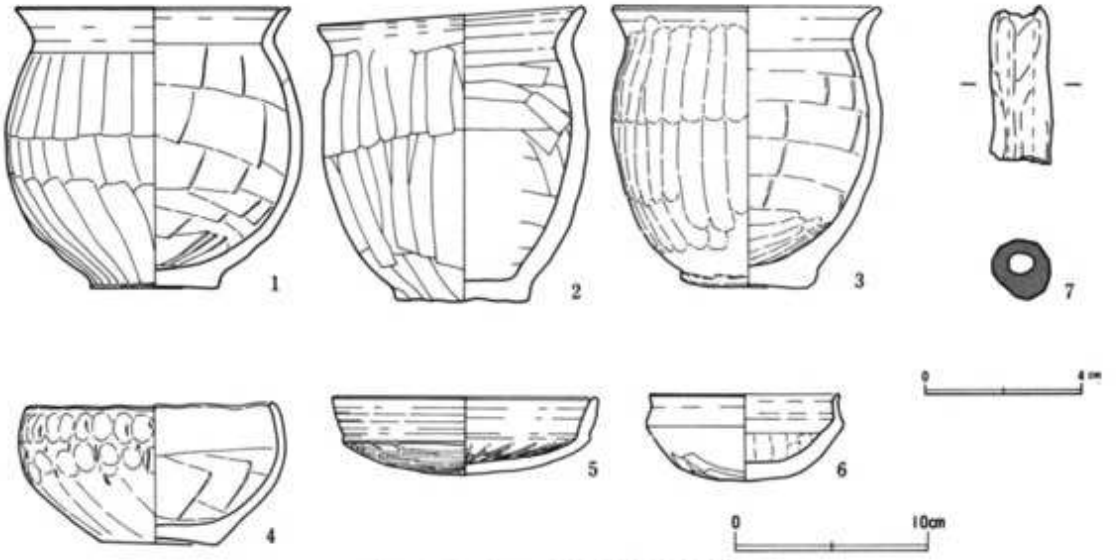
第236図　第145号住居址出土遺物



第237図　第146号住居址出土遺物

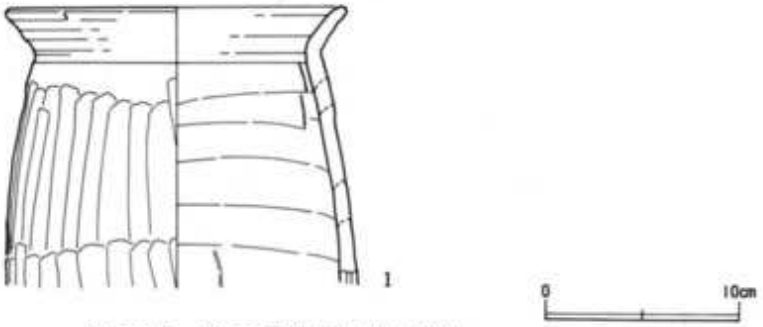


第238図　第147号住居址遺物出土状況

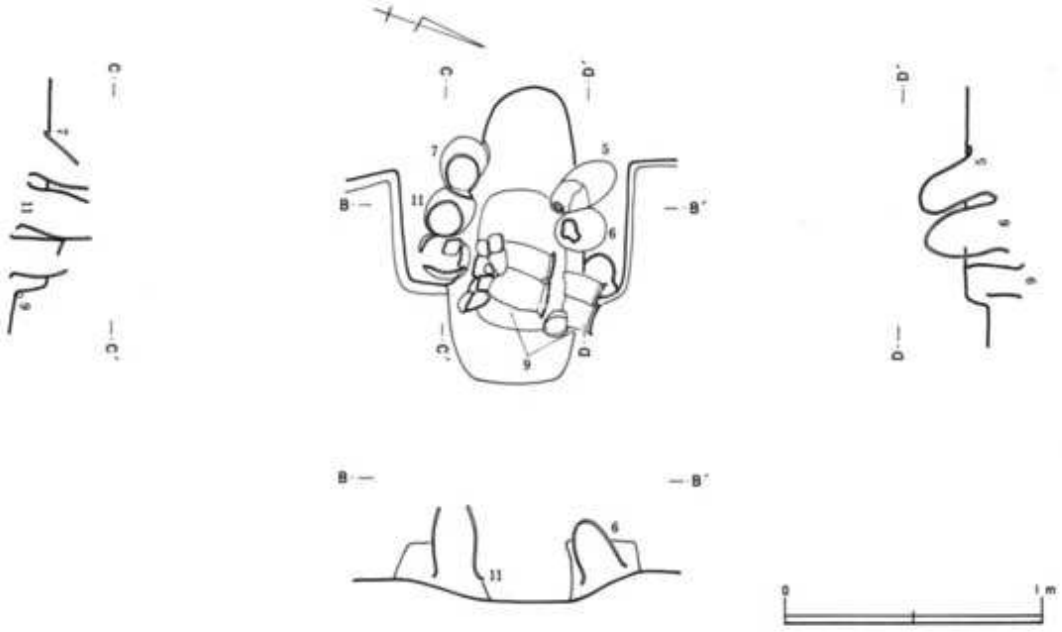


第239図　第147号住居址出土遺物

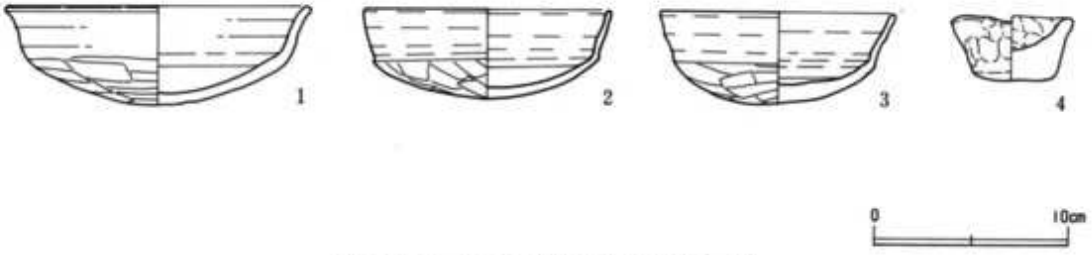
第240図　第148号住居址出土遺物



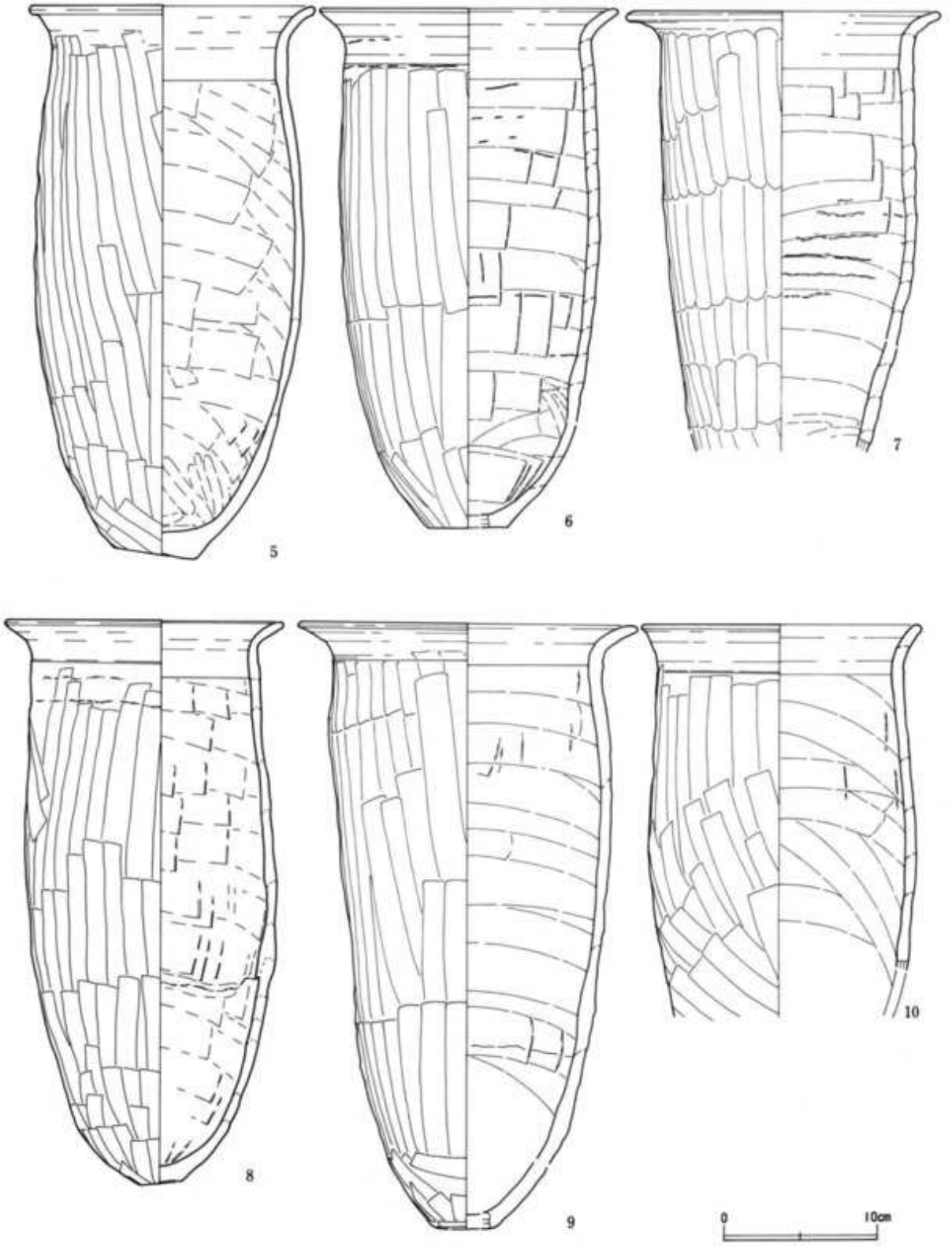
第241図　第149号住居址出土遺物



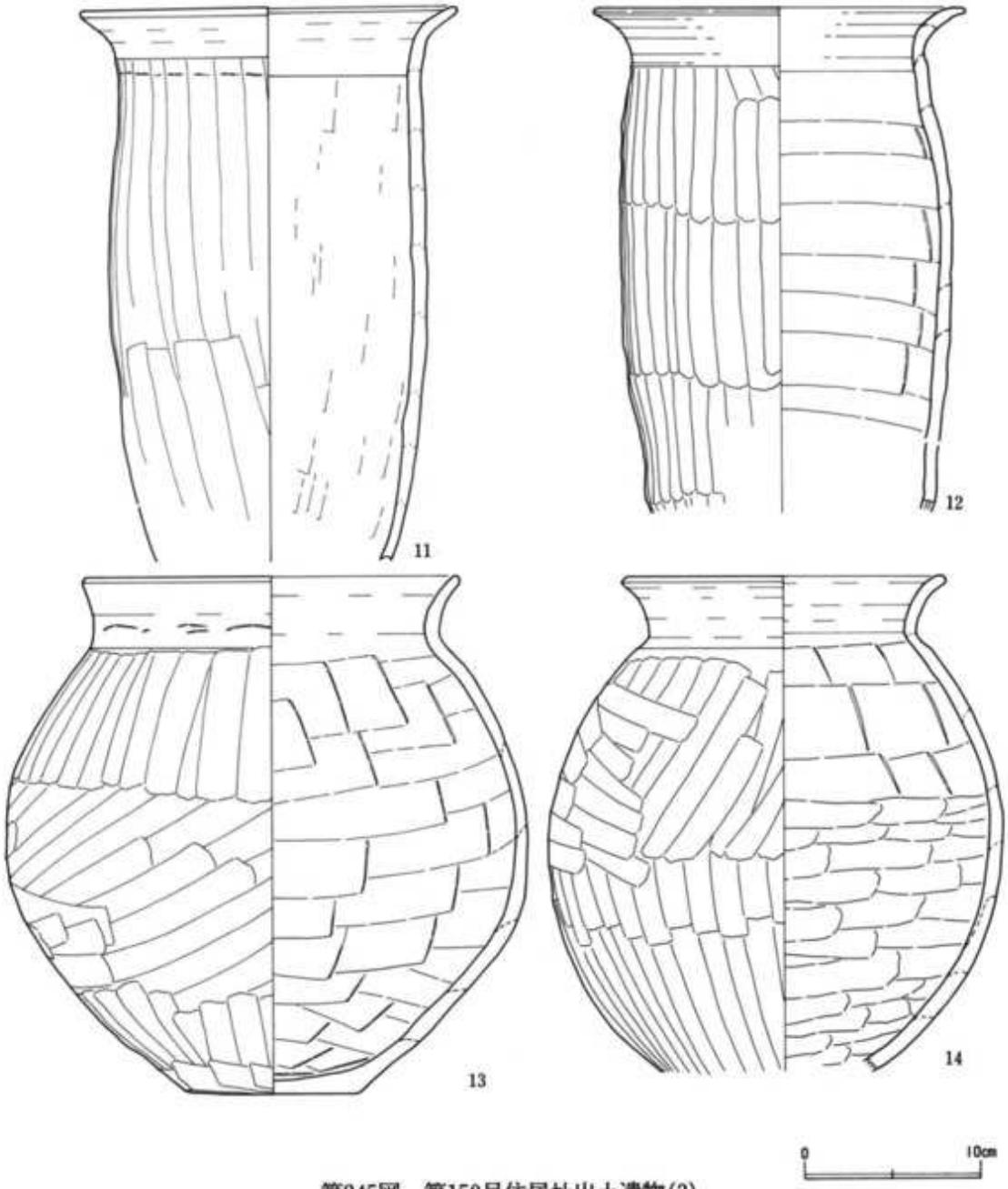
第242図　第150号住居址カマド遺物出土状況



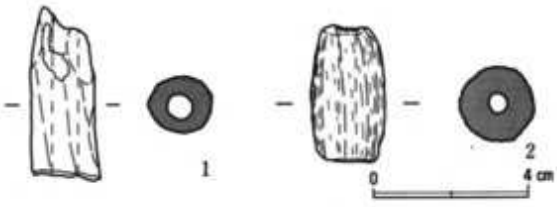
第243図　第150号住居址出土遺物(1)



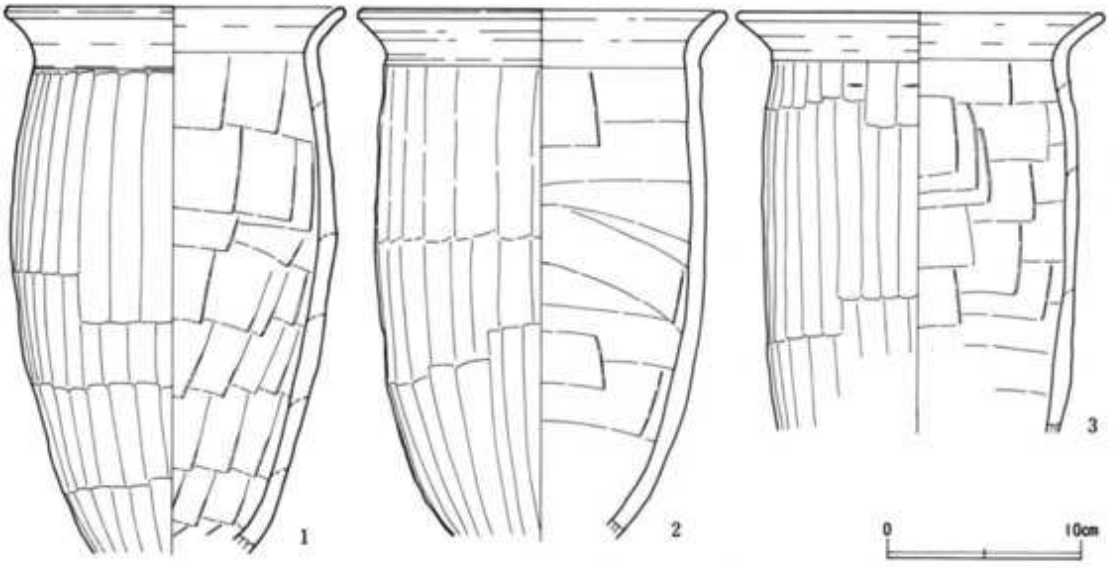
第244図　第150号住居址出土遺物(2)



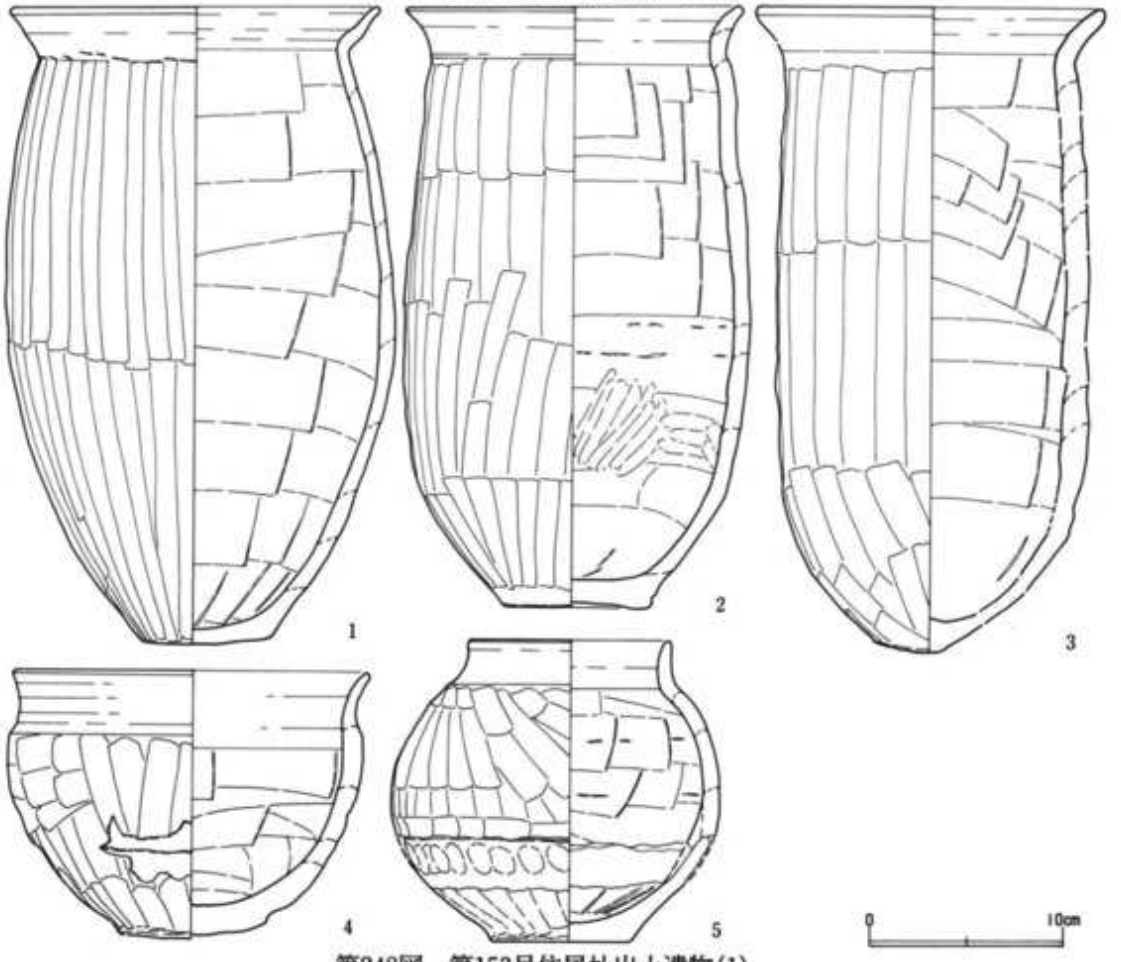
第245図　第150号住居址出土遺物(3)



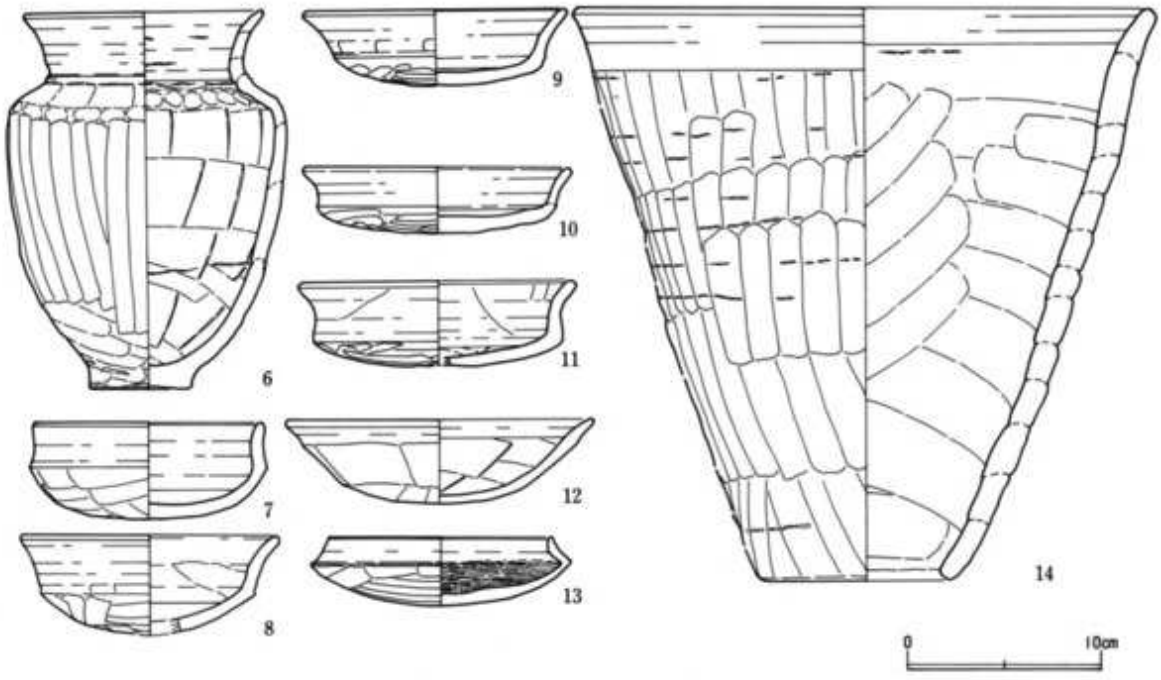
第246図　第151号住居址出土遺物



第247図　第152号住居址出土遺物

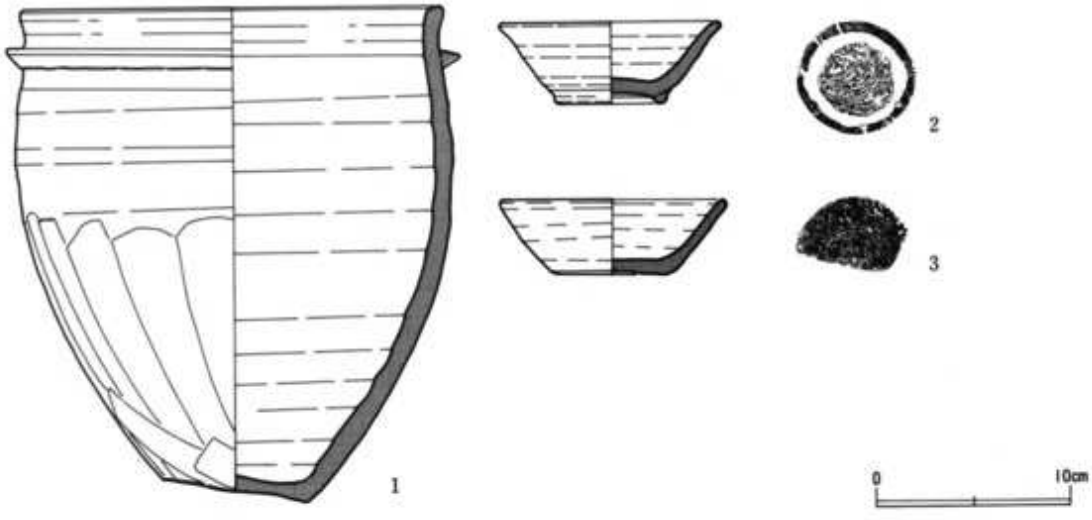


第248図　第153号住居址出土遺物(1)

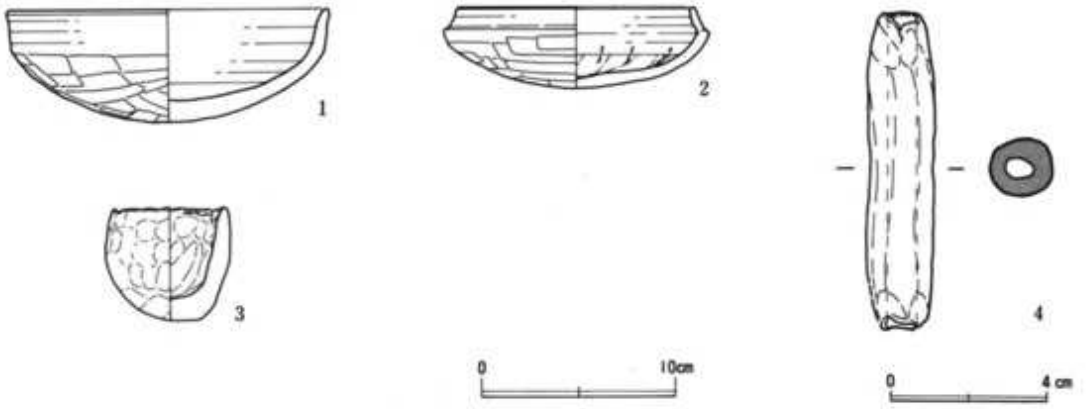


第249図　第153号住居址出土遺物(2)

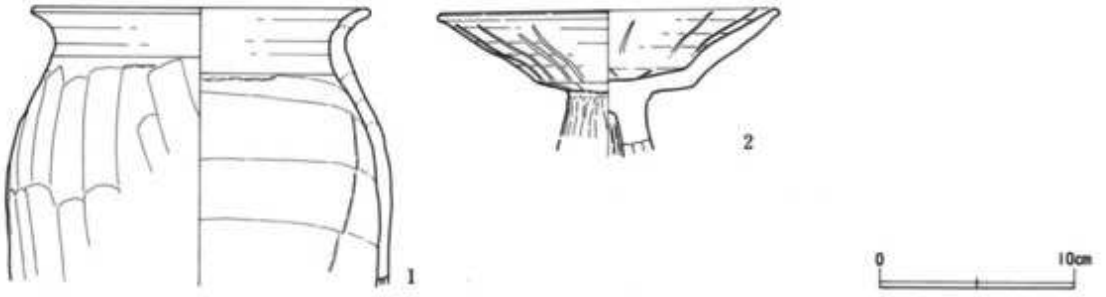
第250図　第154号住居址出土遺物



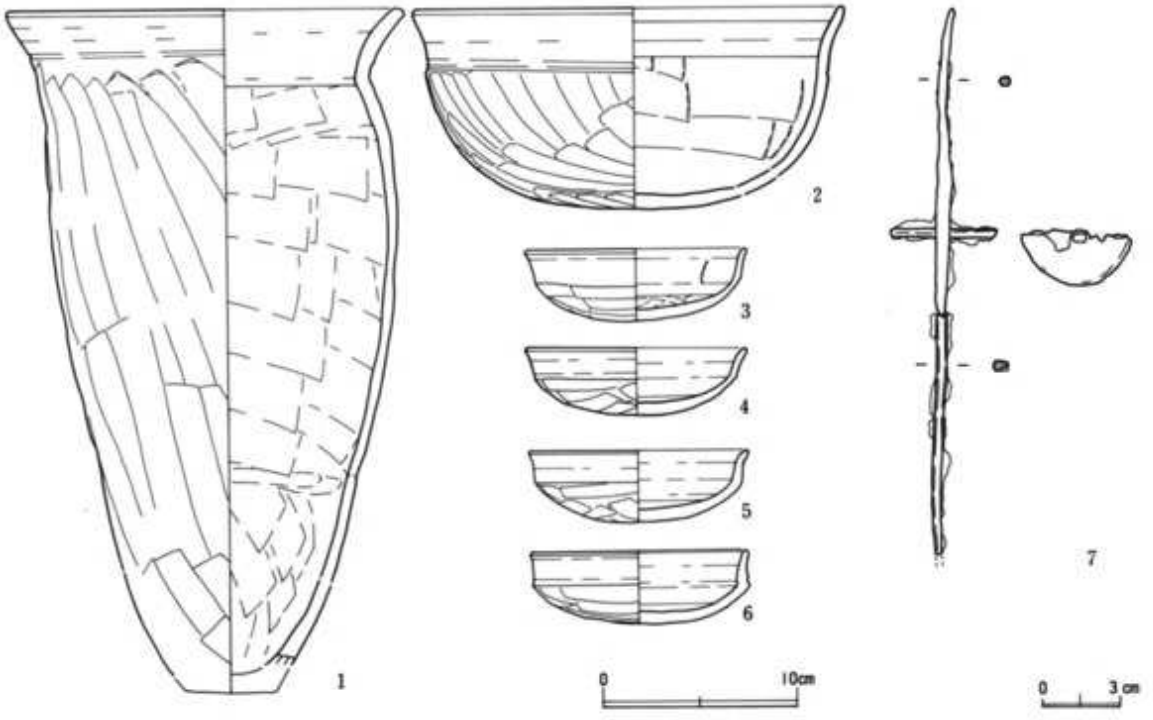
第251図　第155号住居址出土遺物



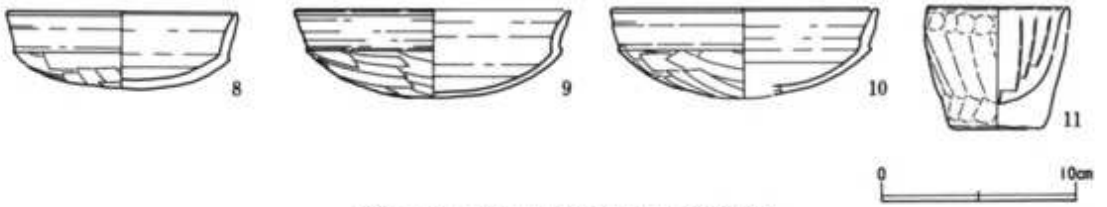
第252図　第156号住居址出土遺物



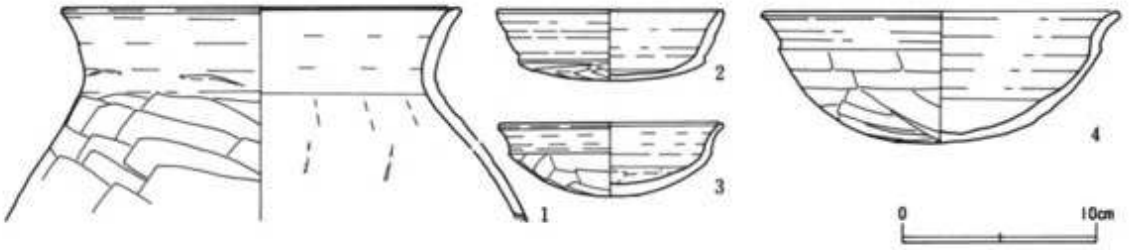
第253図　第157号住居址出土遺物



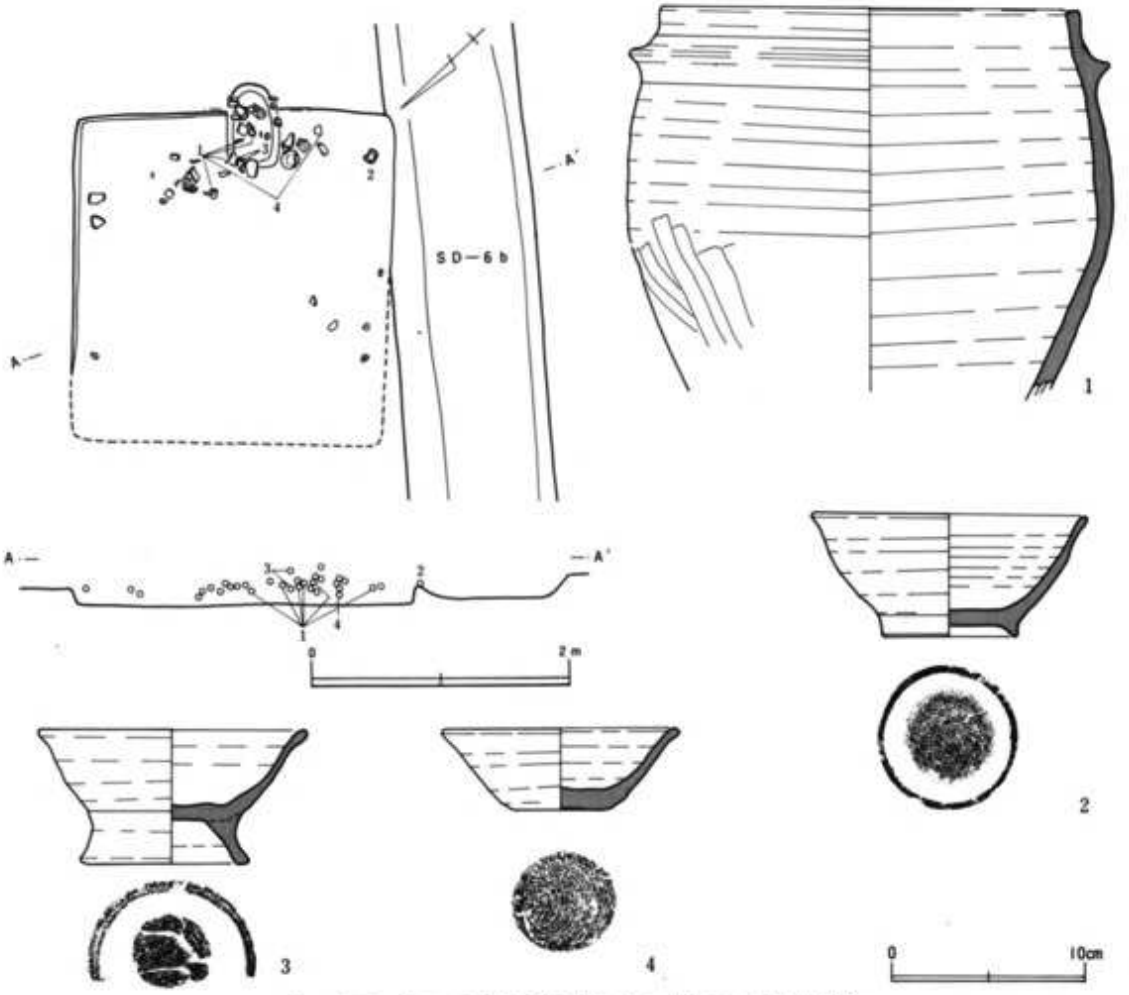
第254図　第160号住居址出土遺物(1)



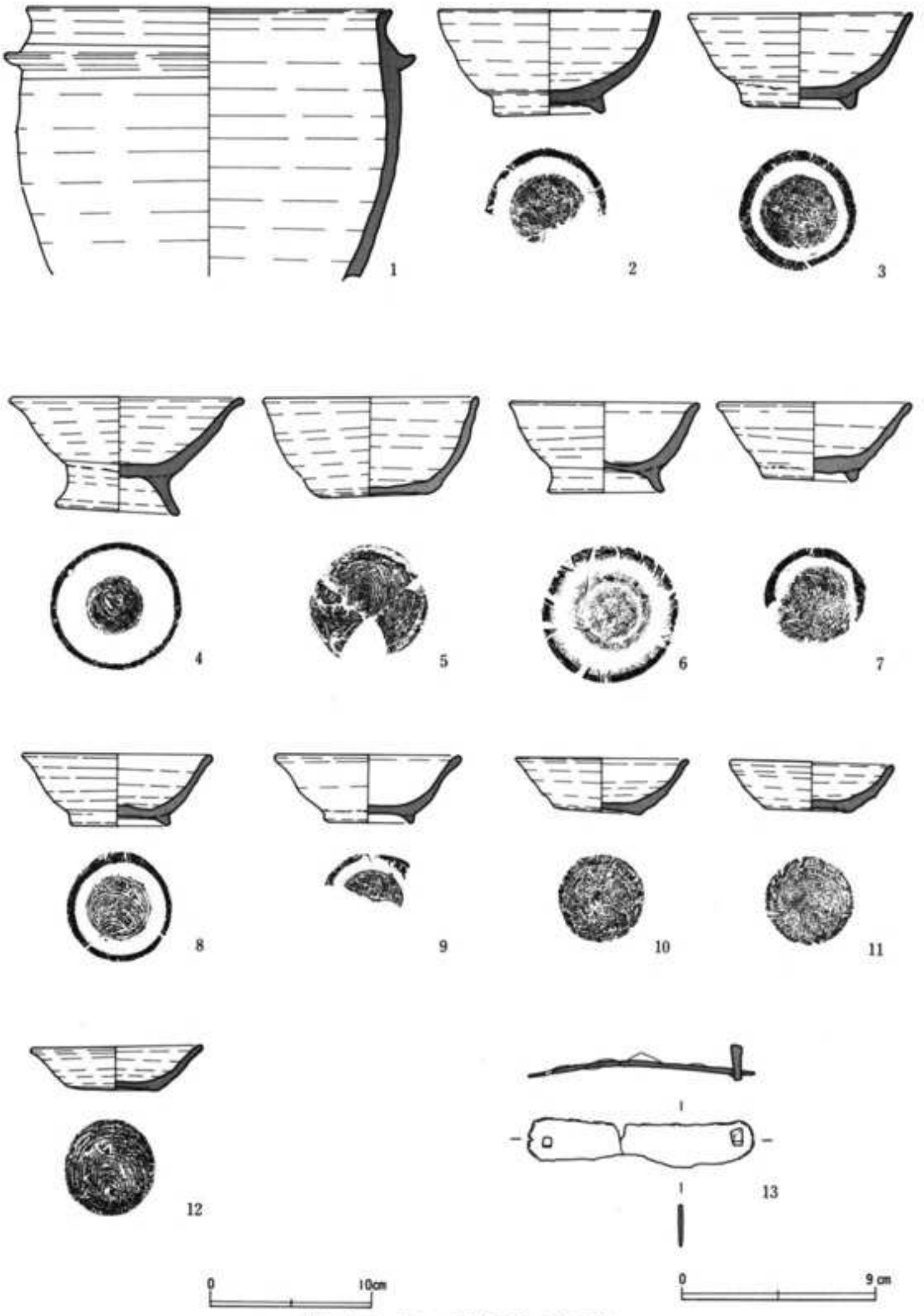
第255図　第160号住居址出土遺物(2)



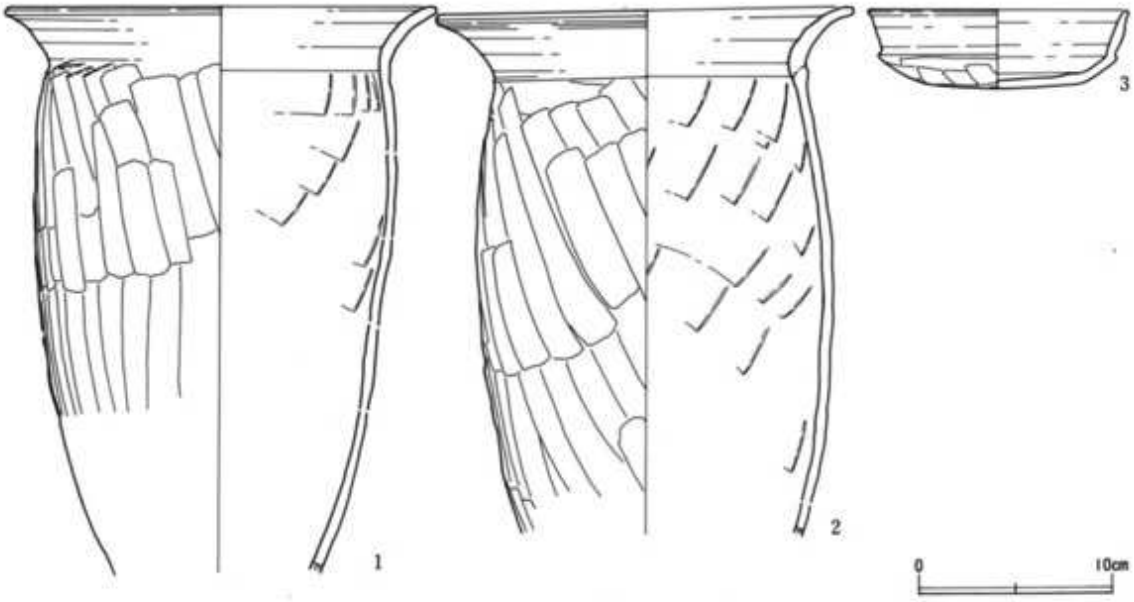
第256図　第161号住居址出土遺物



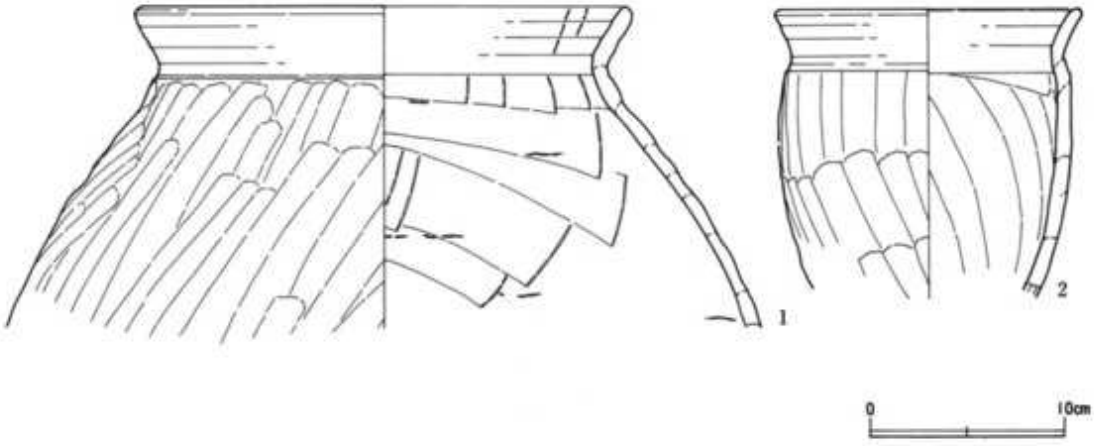
第257図　第163号住居址遺物出土状況及び出土遺物



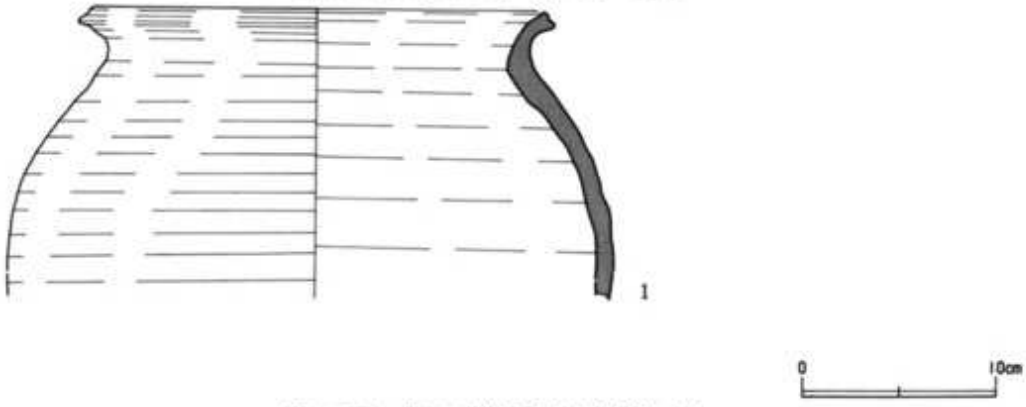
第258図　第165号住居址出土遺物



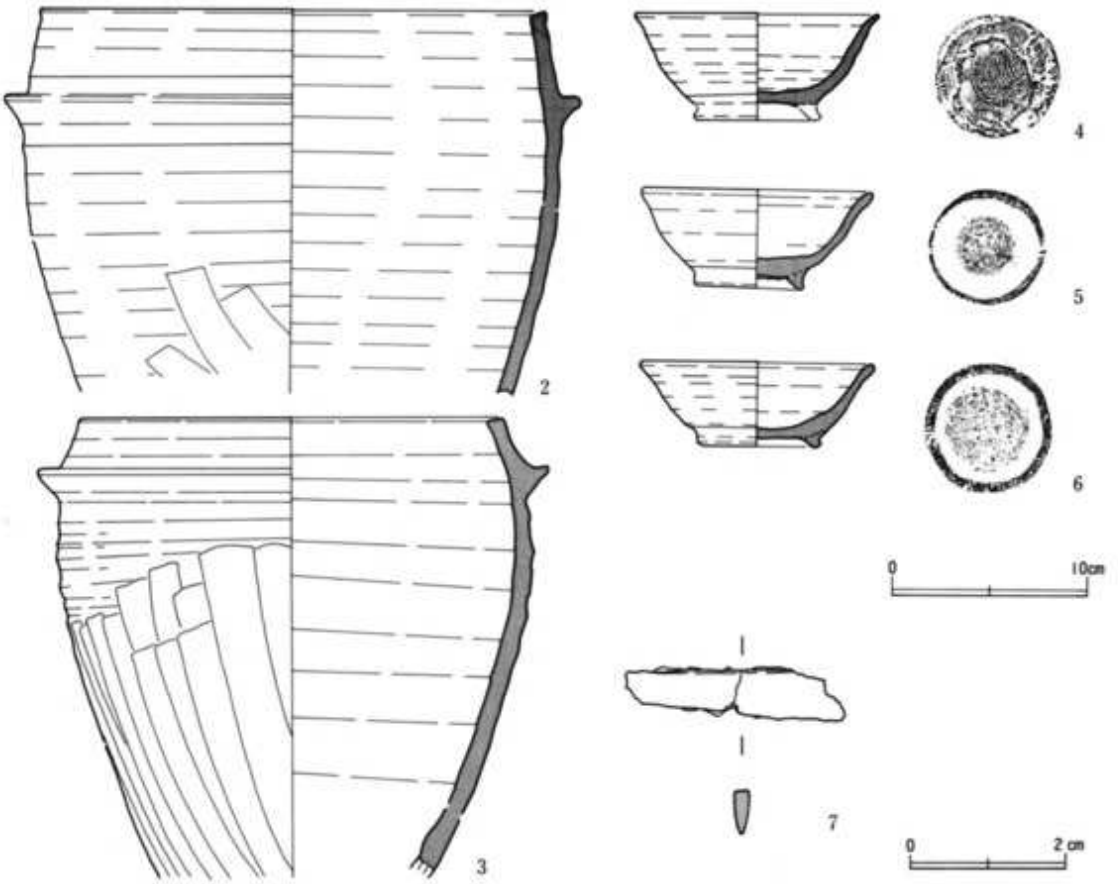
第259図　第166号住居址出土遺物



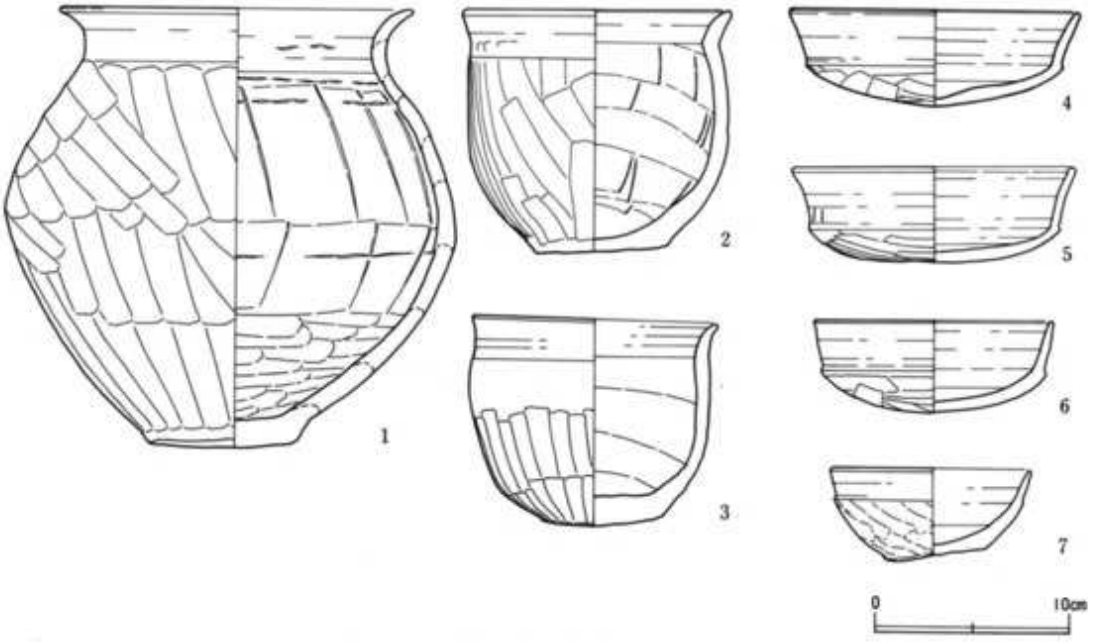
第260図　第167号住居址出土遺物



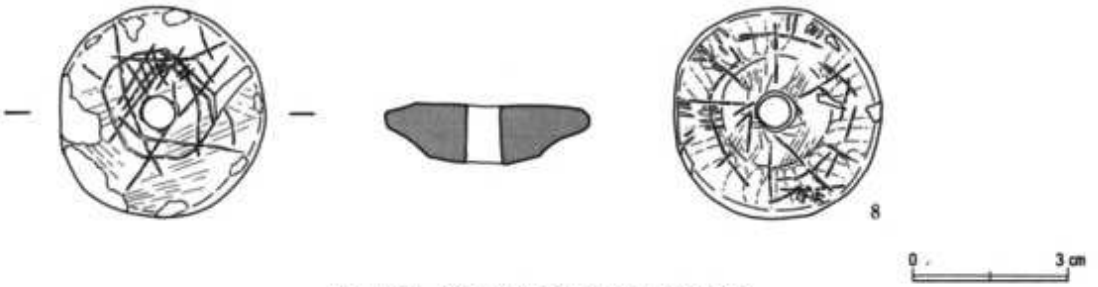
第261図　第169号住居址出土遺物(1)



第262図　第169号住居址出土遺物(2)



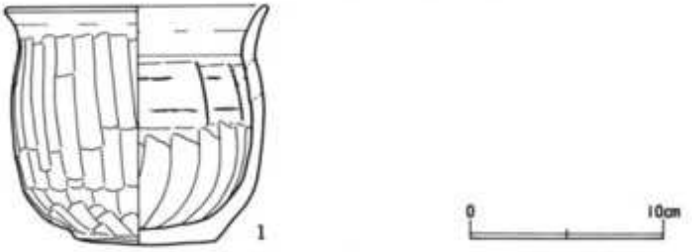
第263図　第170号住居址出土遺物(1)



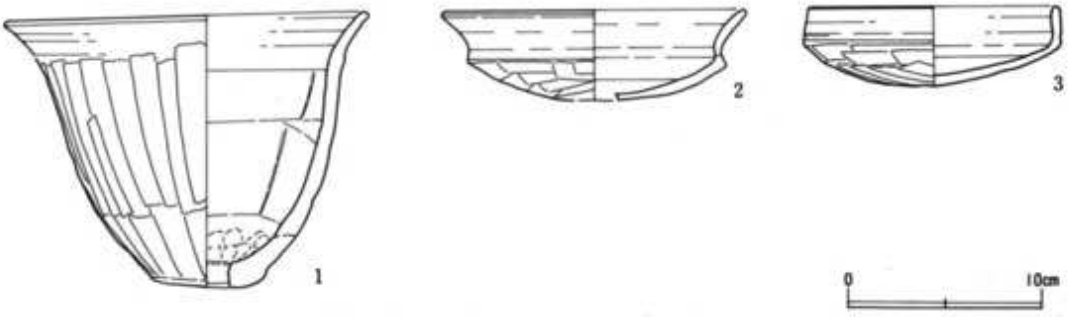
第264図　第170号住居址出土遺物(2)

第265図　第171号住居址出土遺物

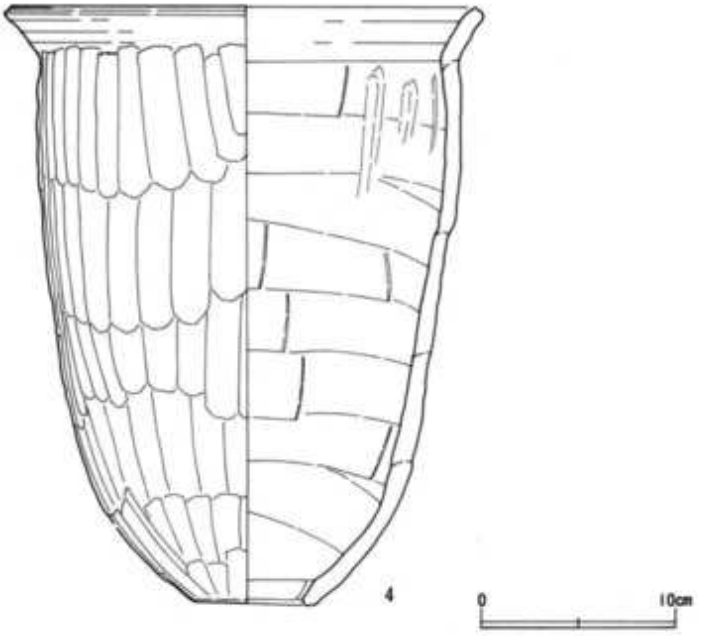
第266図　第172号住居址出土遺物



第267図　第173号住居址出土遺物

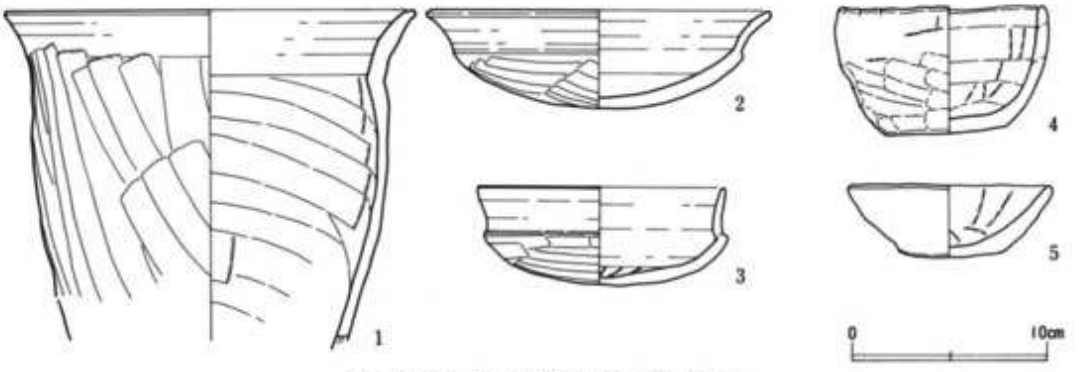


第268図　第175号住居址出土遺物(1)

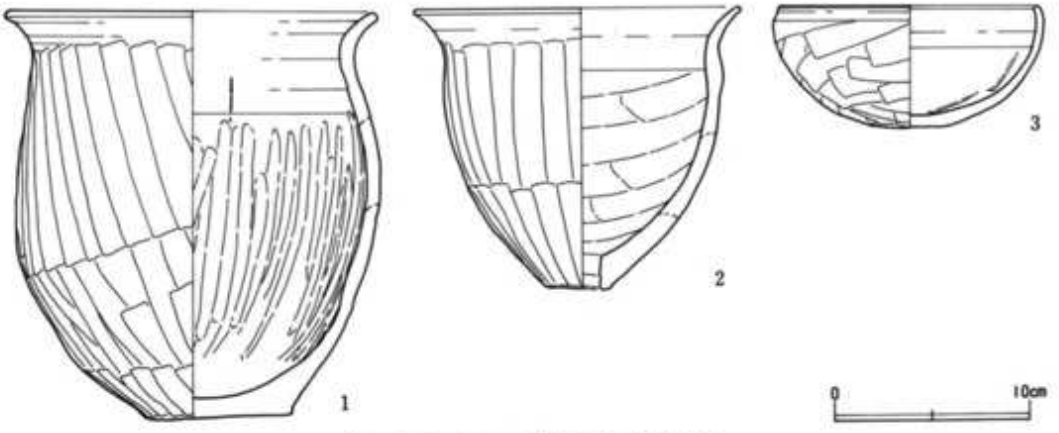


第269図　第175号住居址出土遺物(2)

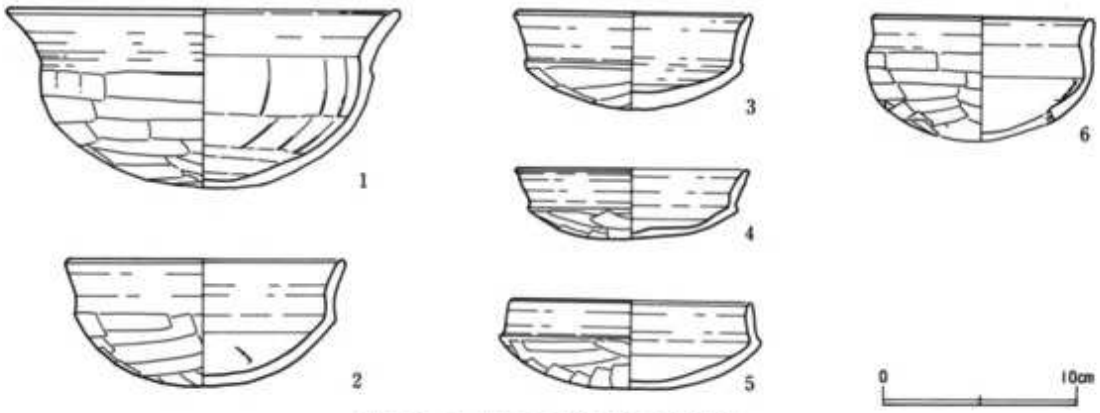
第270図　第176号住居址出土遺物



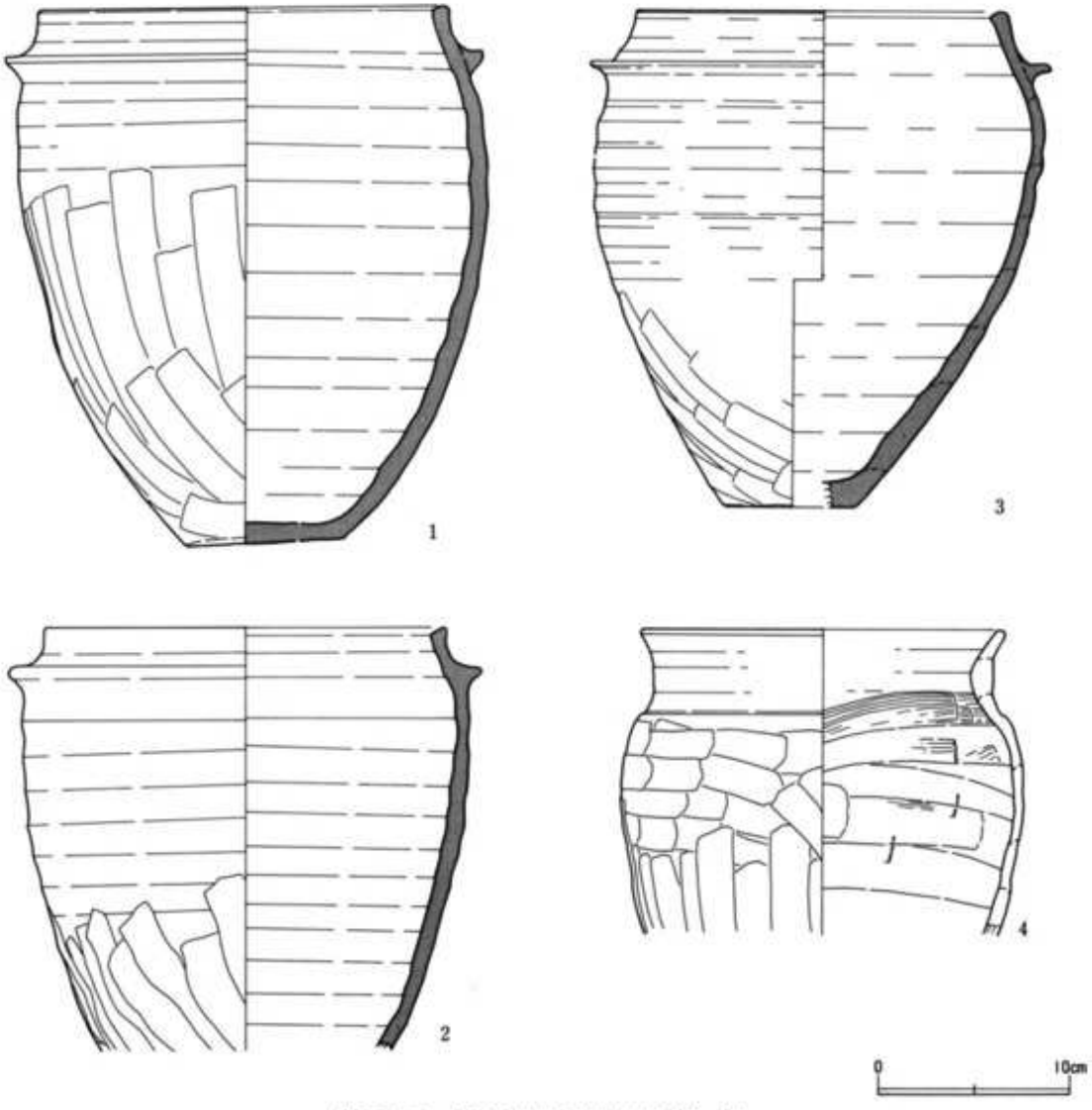
第271図　第177号住居址出土遺物



第272図　第178号住居址出土遺物

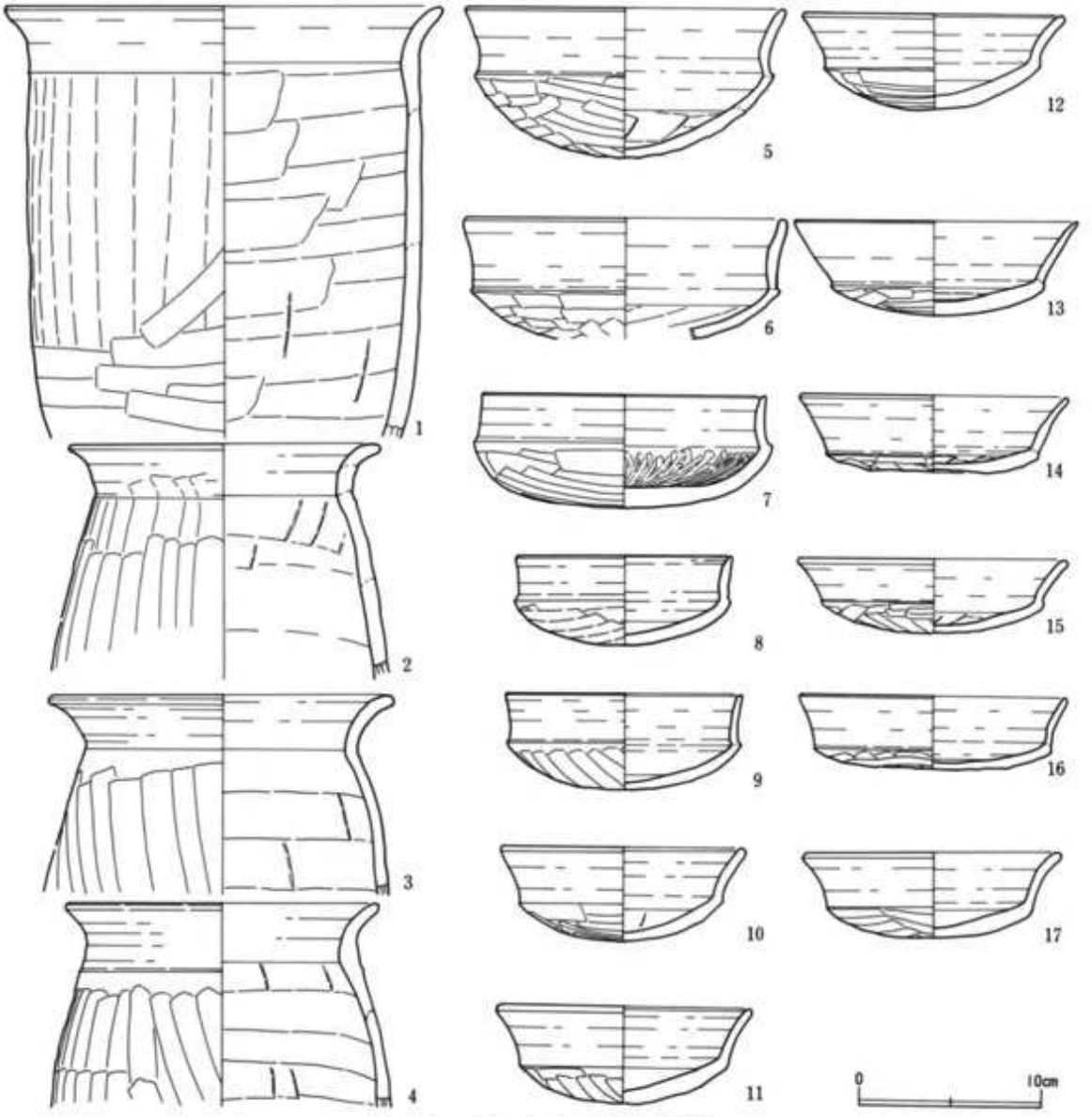


第273図　第179号住居址出土遺物

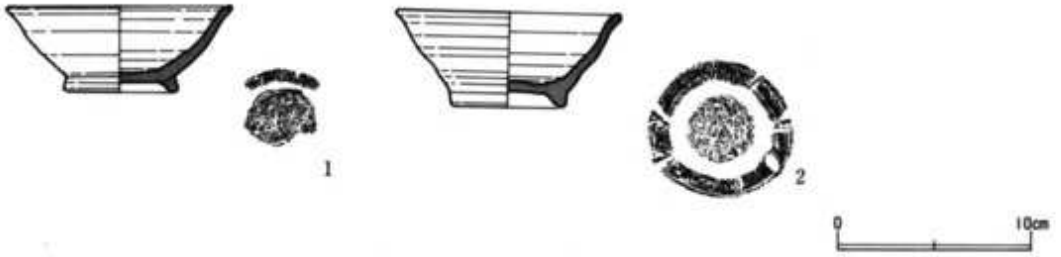


第274図　第180号住居址出土遺物(1)

第275図　第180号住居址出土遺物(2)

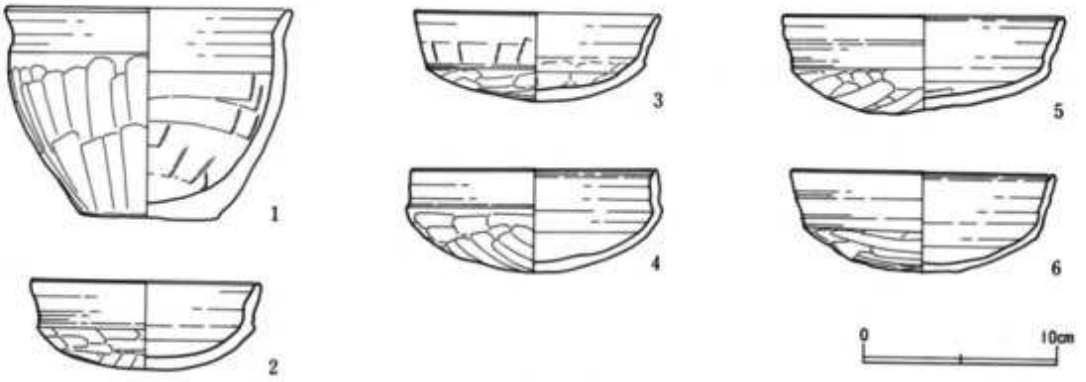


第276図　第181号住居址出土遺物

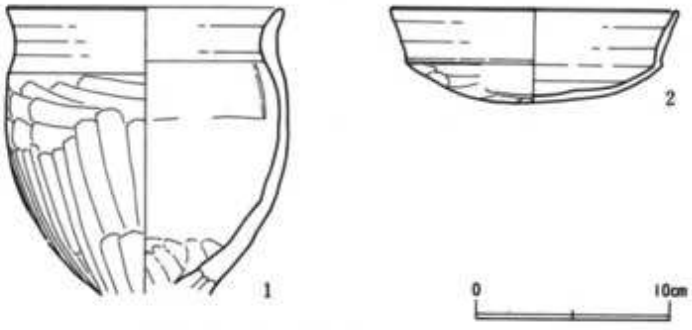


第277図　第182号住居址出土遺物

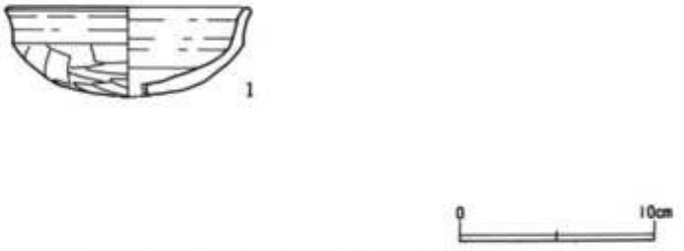
第278図　第183号住居址出土遺物



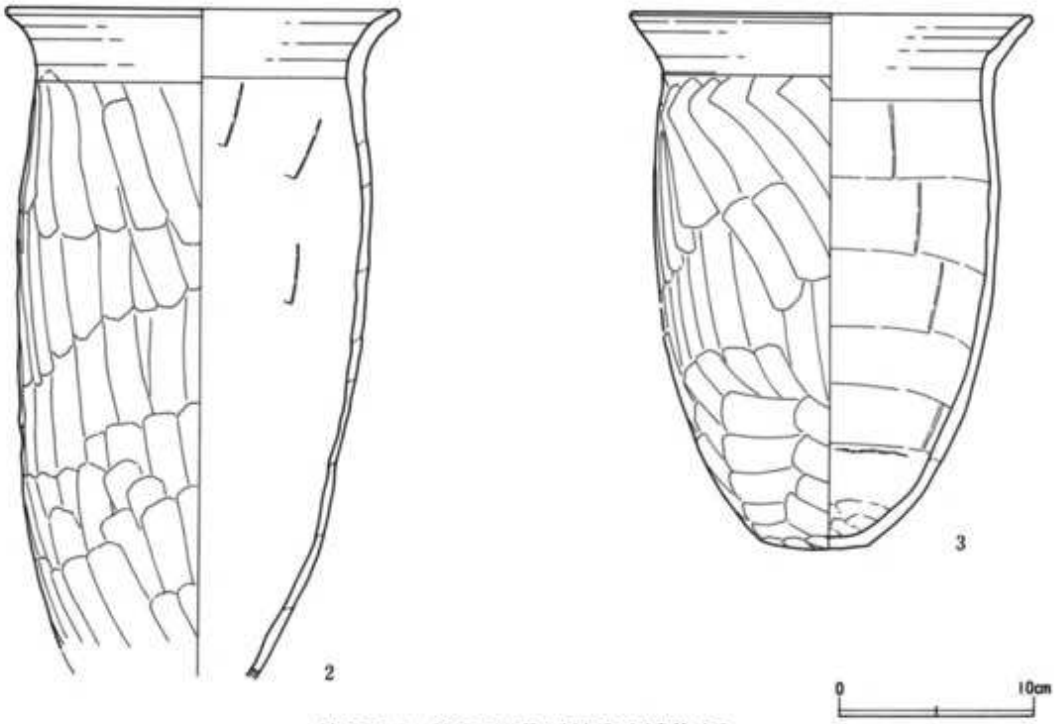
第279図　第185号住居址出土遺物



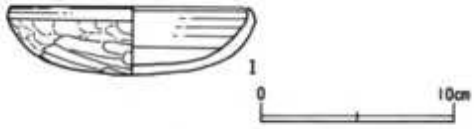
第280図　第186号住居址出土遺物



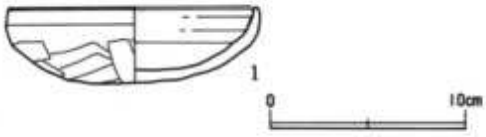
第281図　第187号住居址出土遺物(1)



第282図　第187号住居址出土遺物(2)

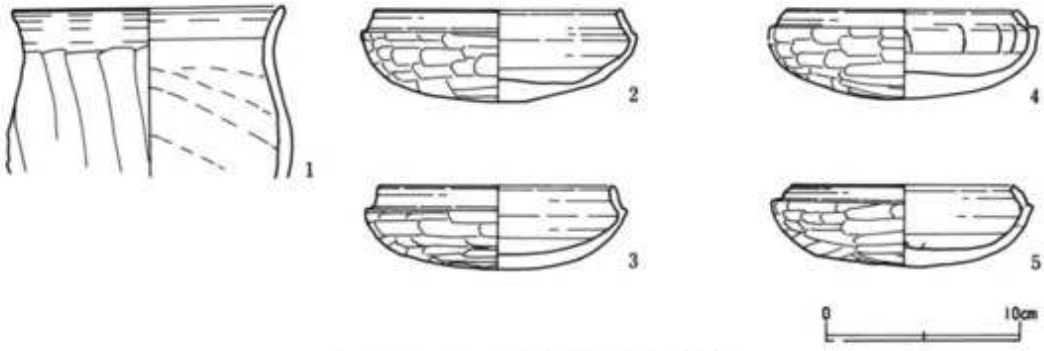


第283図　第189号住居址出土遺物

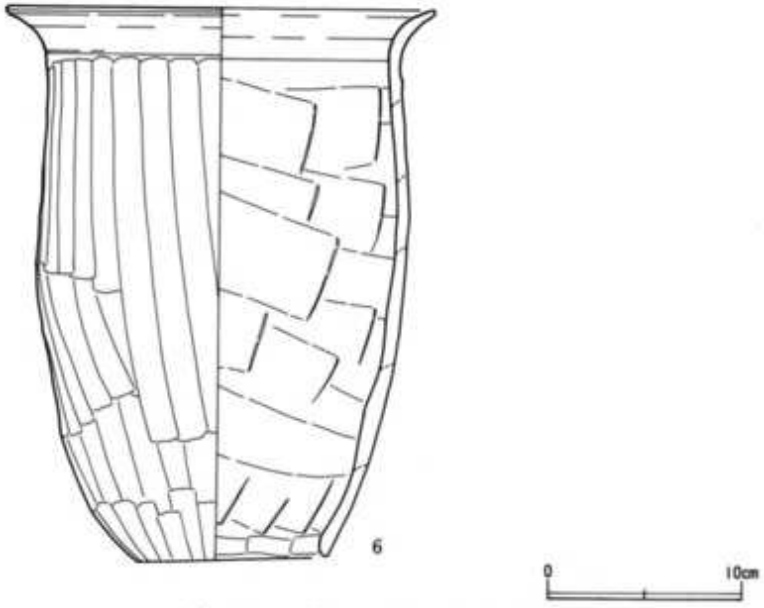


第284図　第190号住居址出土遺物

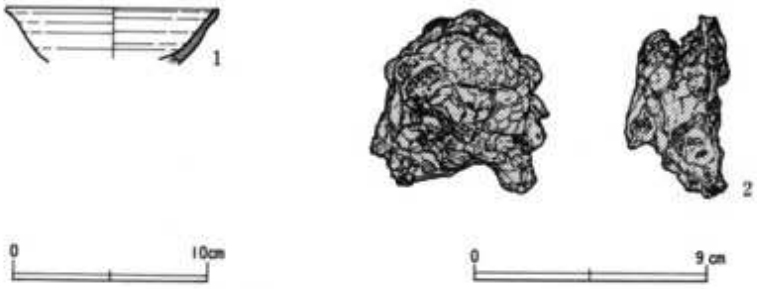
第285図　第191号住居址出土遺物



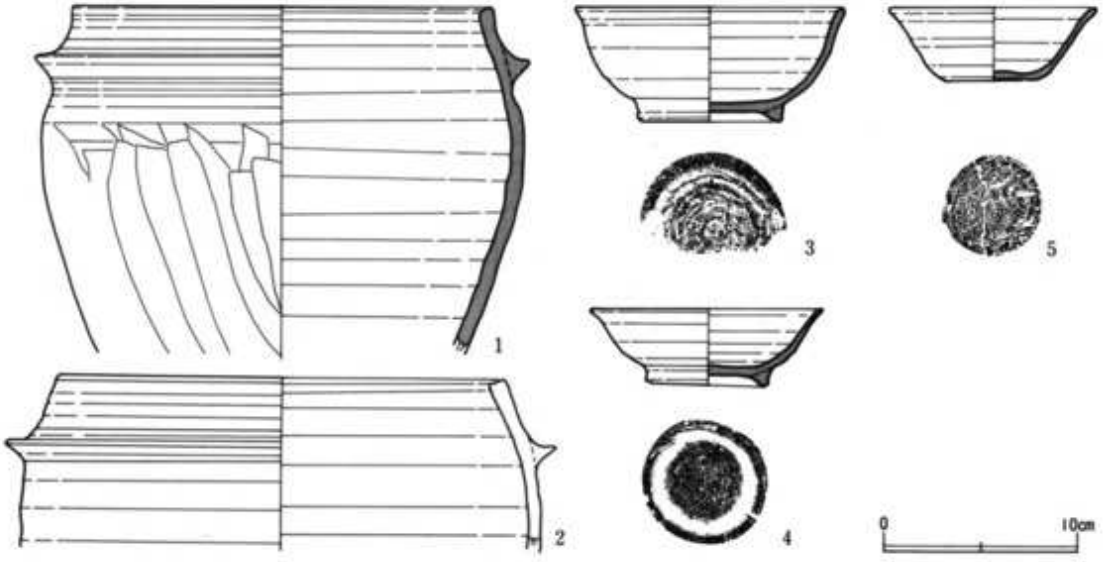
第286図　第193号住居址出土遺物(1)



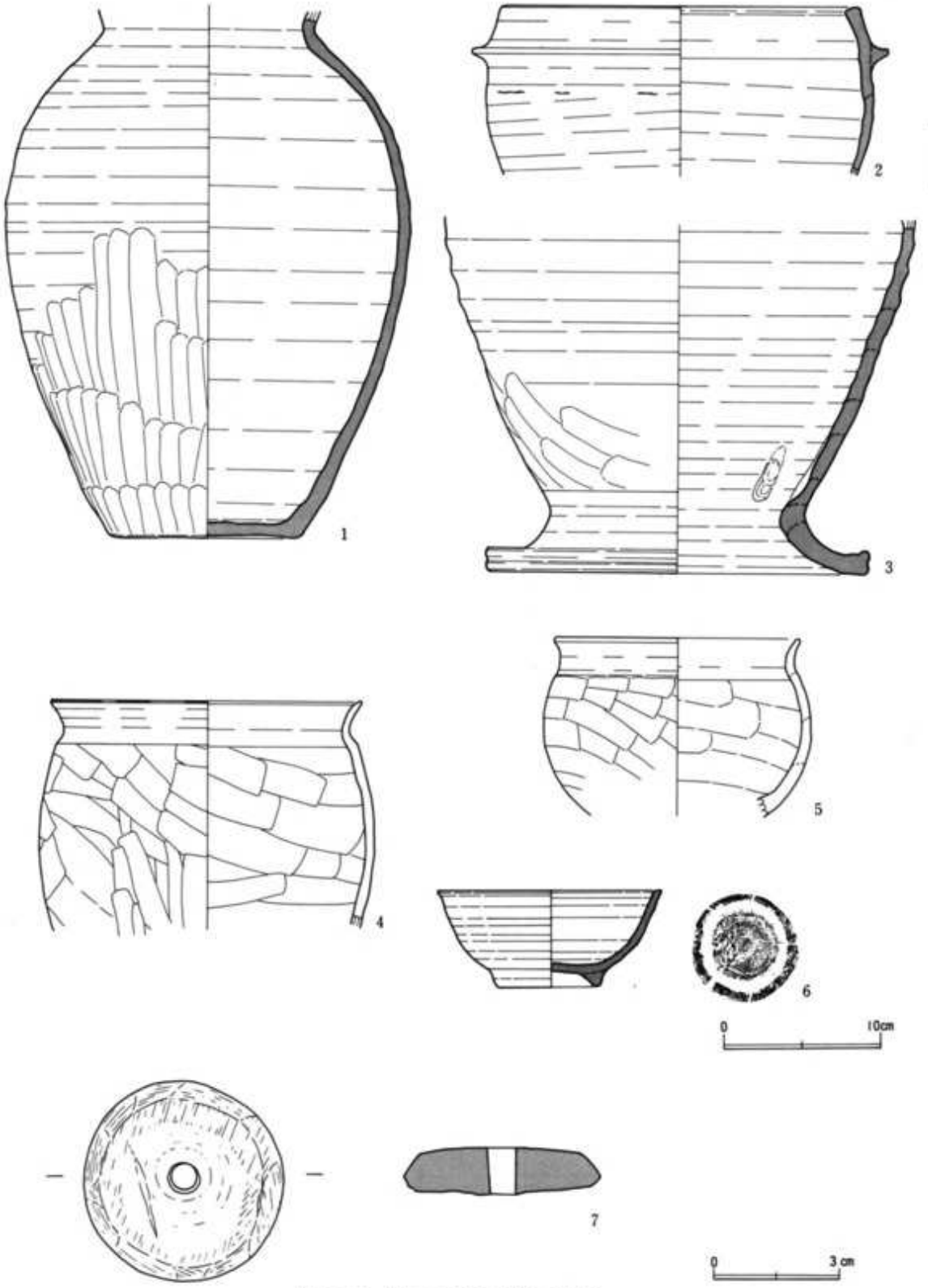
第287図　第193号住居址出土遺物(2)



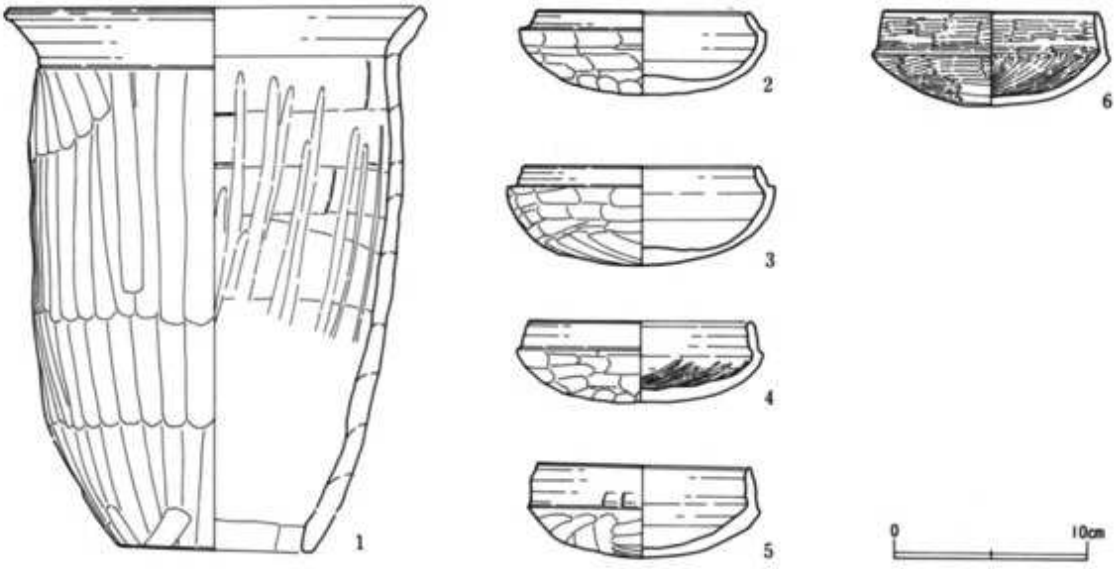
第288図　第194号住居址出土遺物



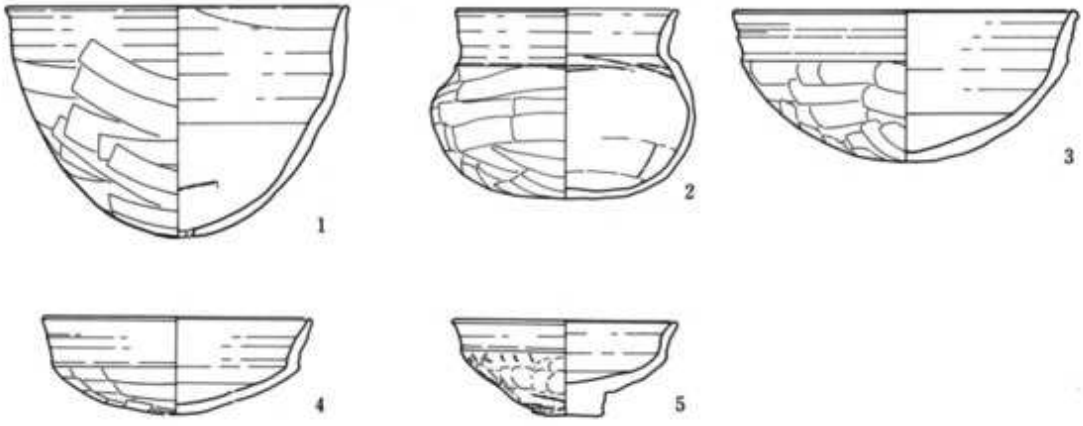
第289図　第195号住居址出土遺物



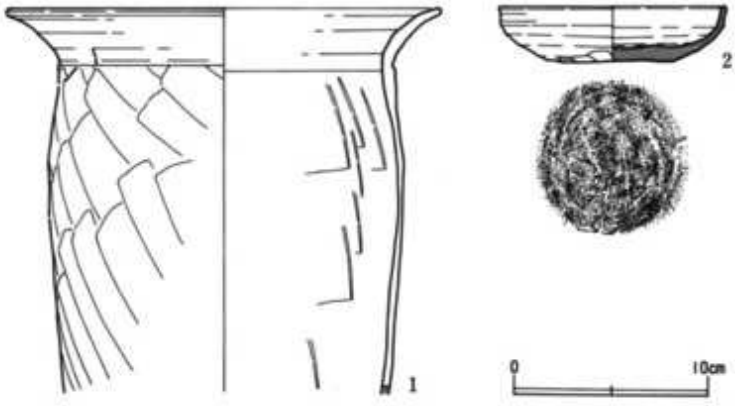
第290図　第197号住居址出土遺物



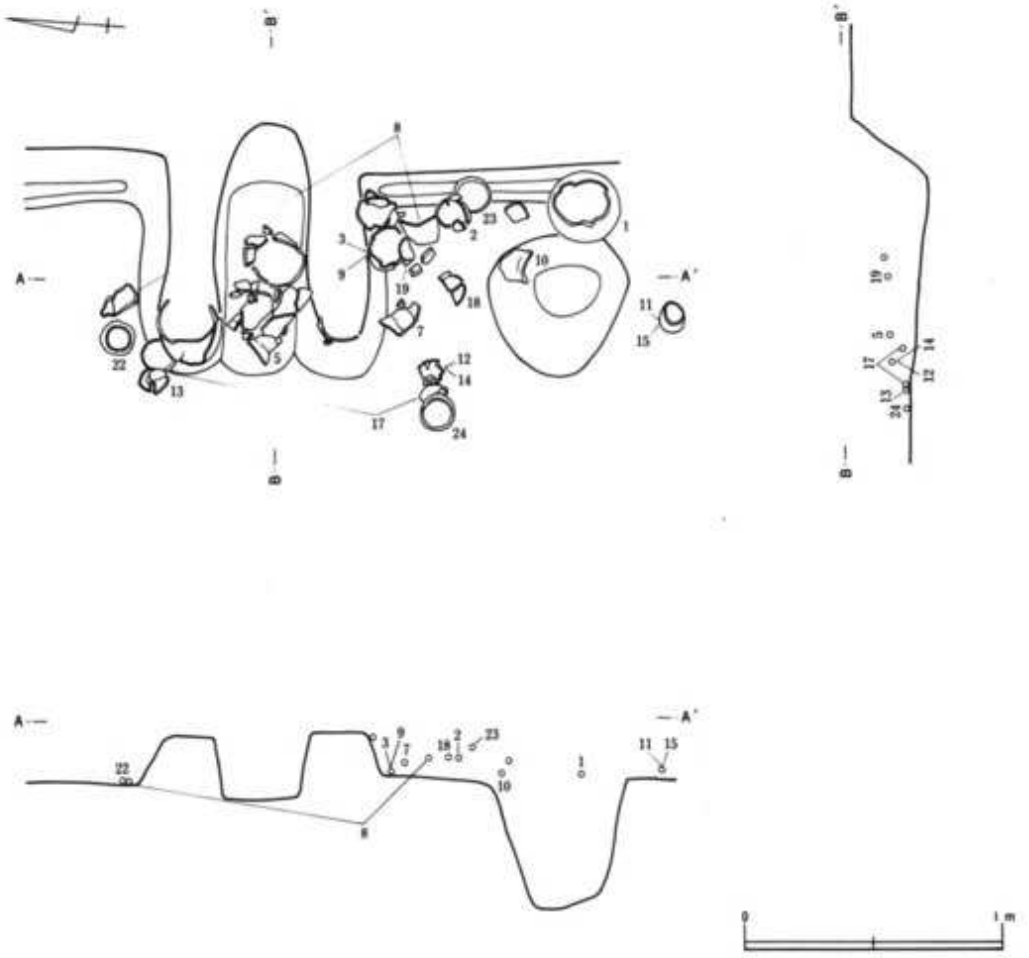
第291図　第200 b 号住居址出土遺物



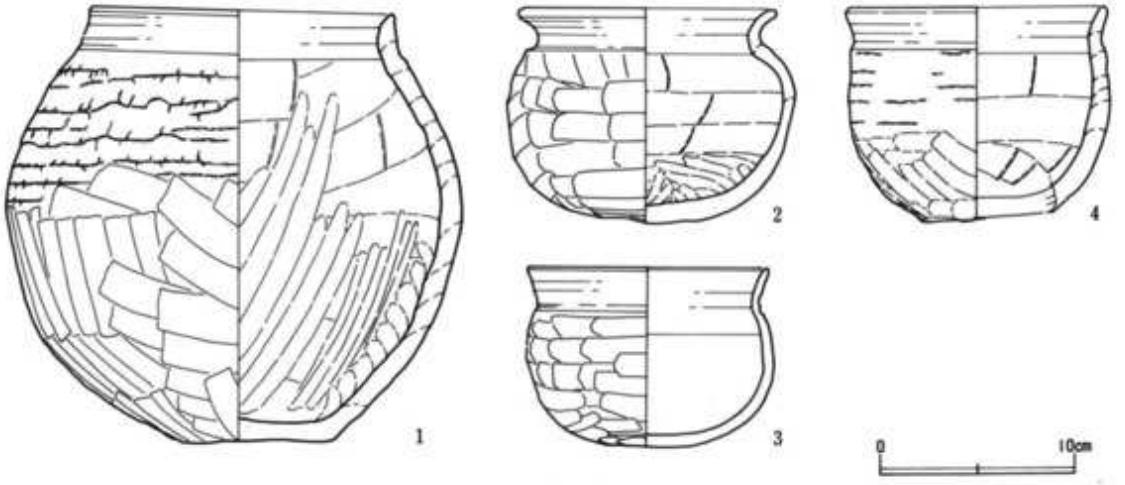
第292図　第201 a 号住居址出土遺物



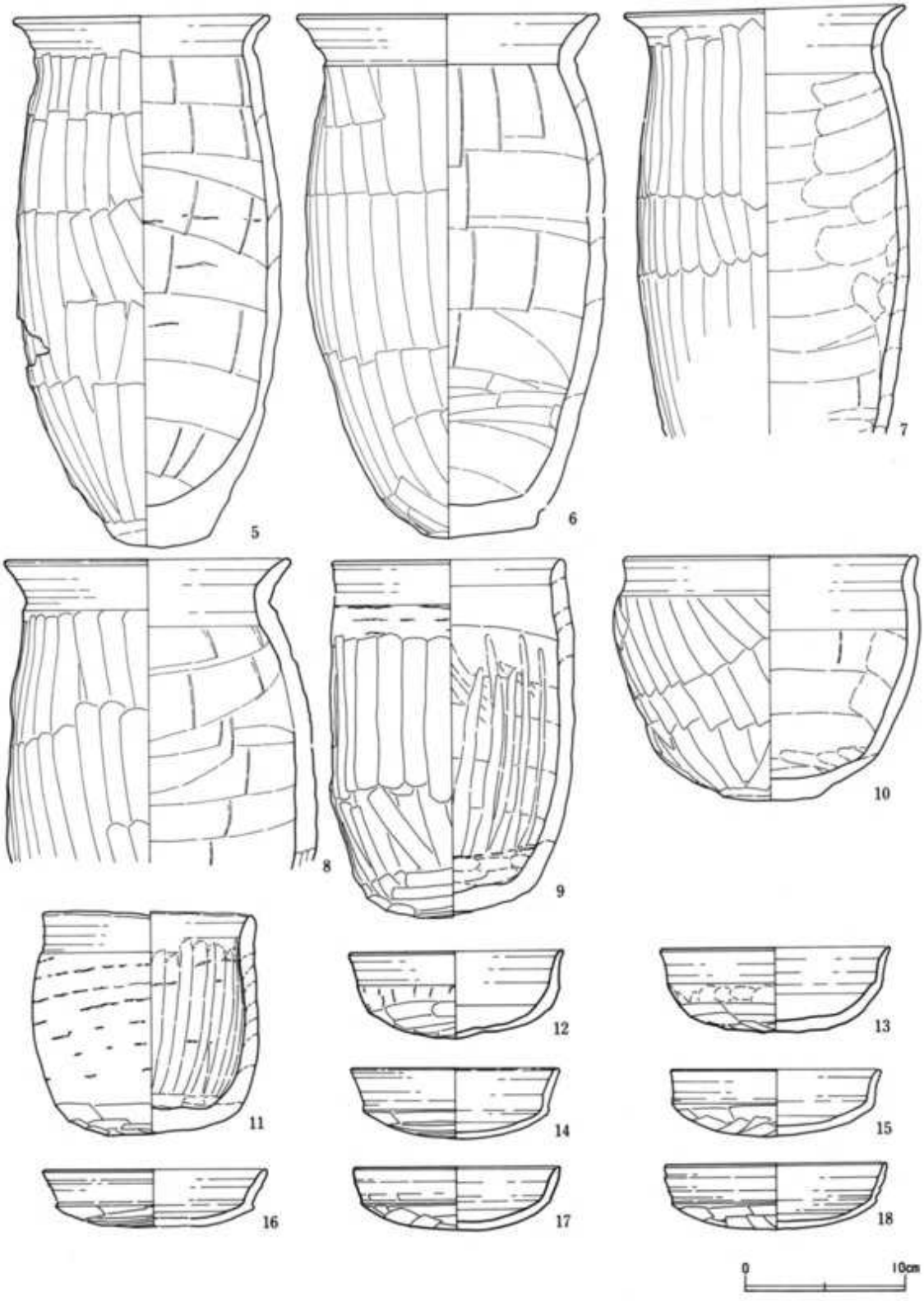
第293図　第202号住居址出土遺物



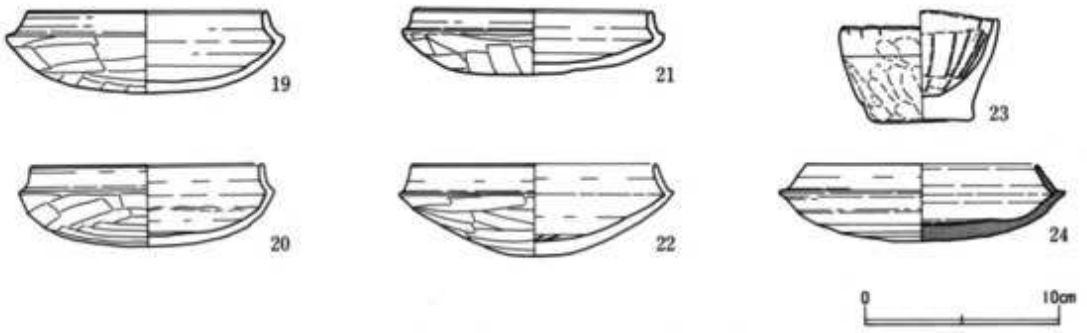
第294図　第203号住居址カマド遺物出土状況



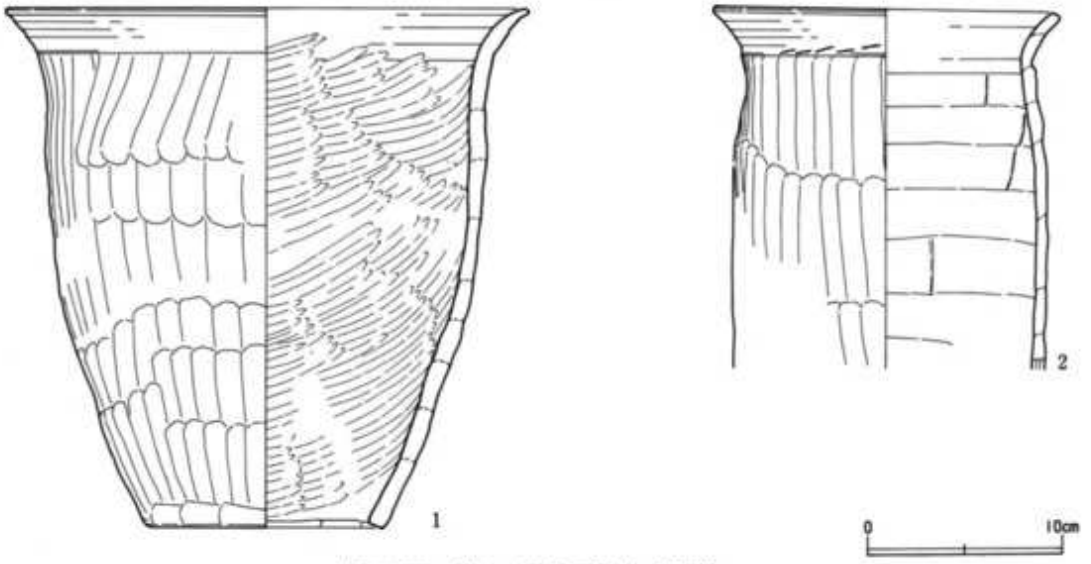
第295図　第203号住居址出土遺物(1)



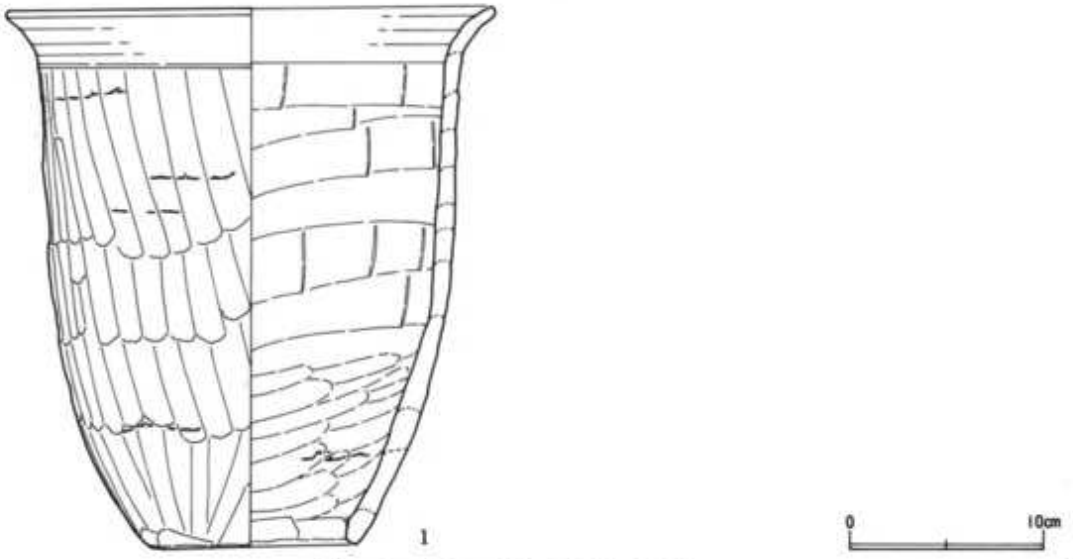
第296図　第203号住居址出土遺物(2)



第297図　第203号住居址出土遺物(3)

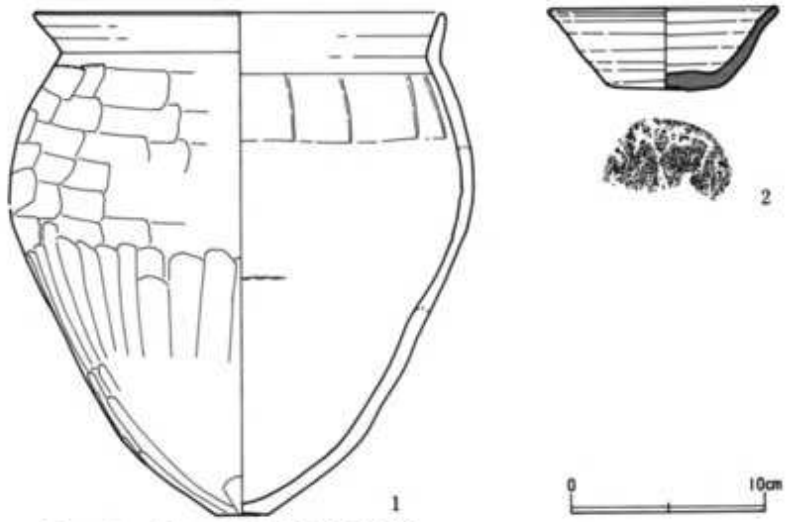


第298図　第205号住居址出土遺物

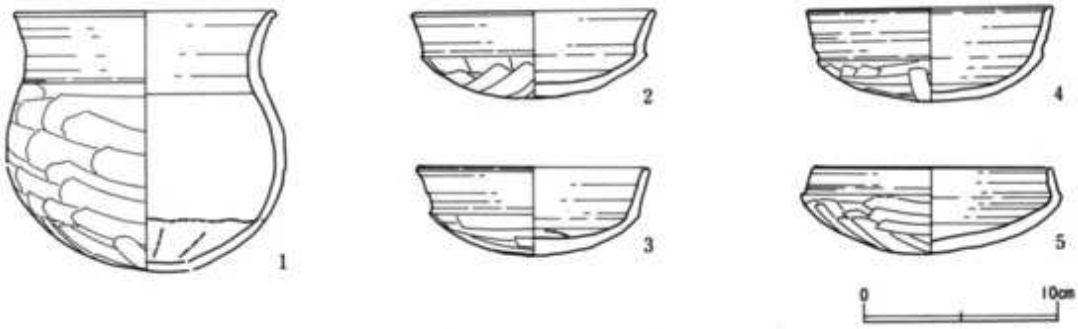


第299図　第206号住居址出土遺物

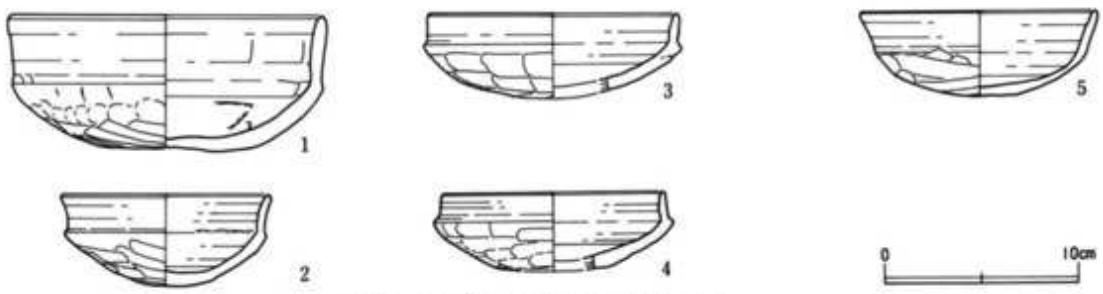
第300図　第208号住居址出土遺物



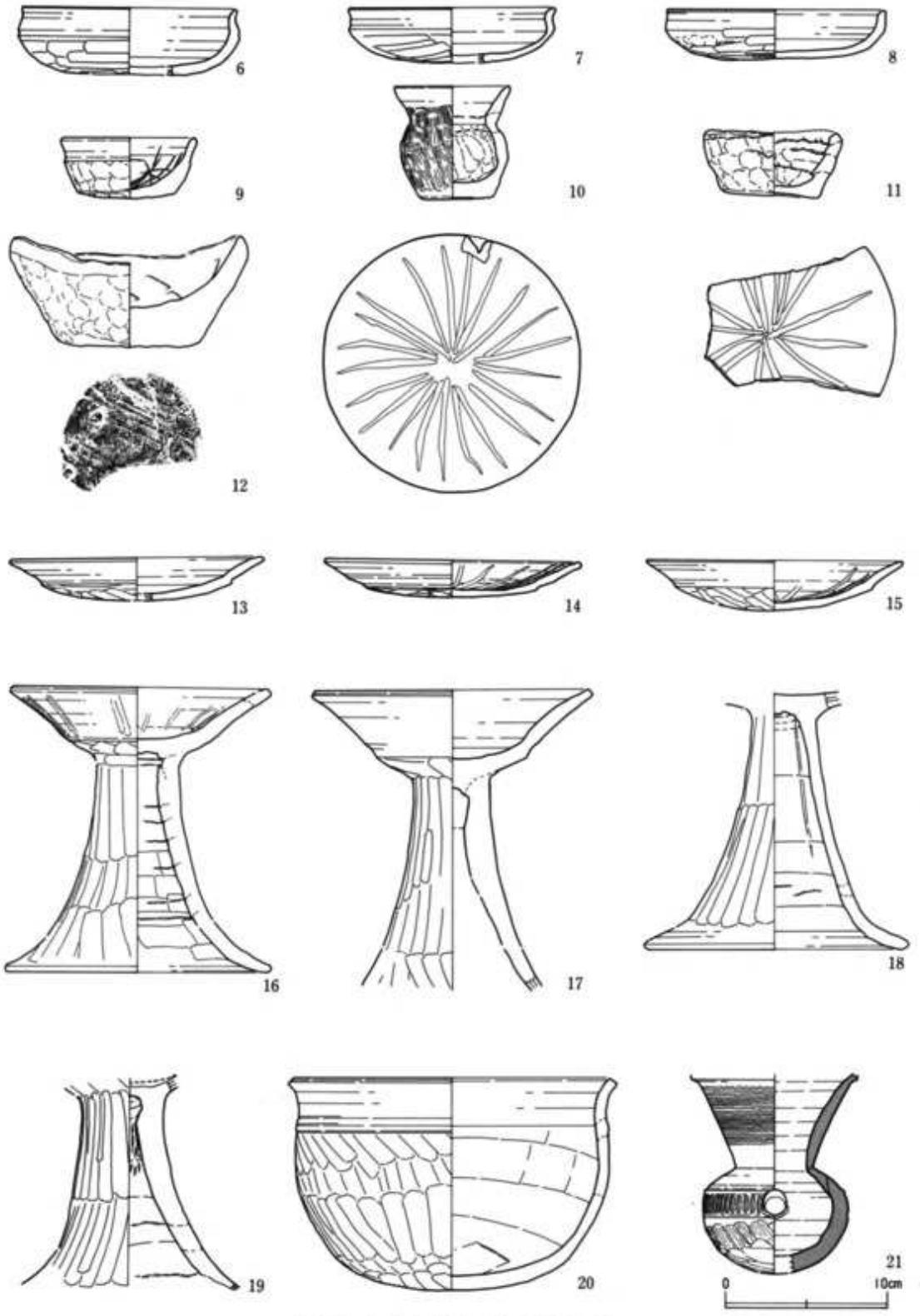
第301図　第210号住居址出土遺物



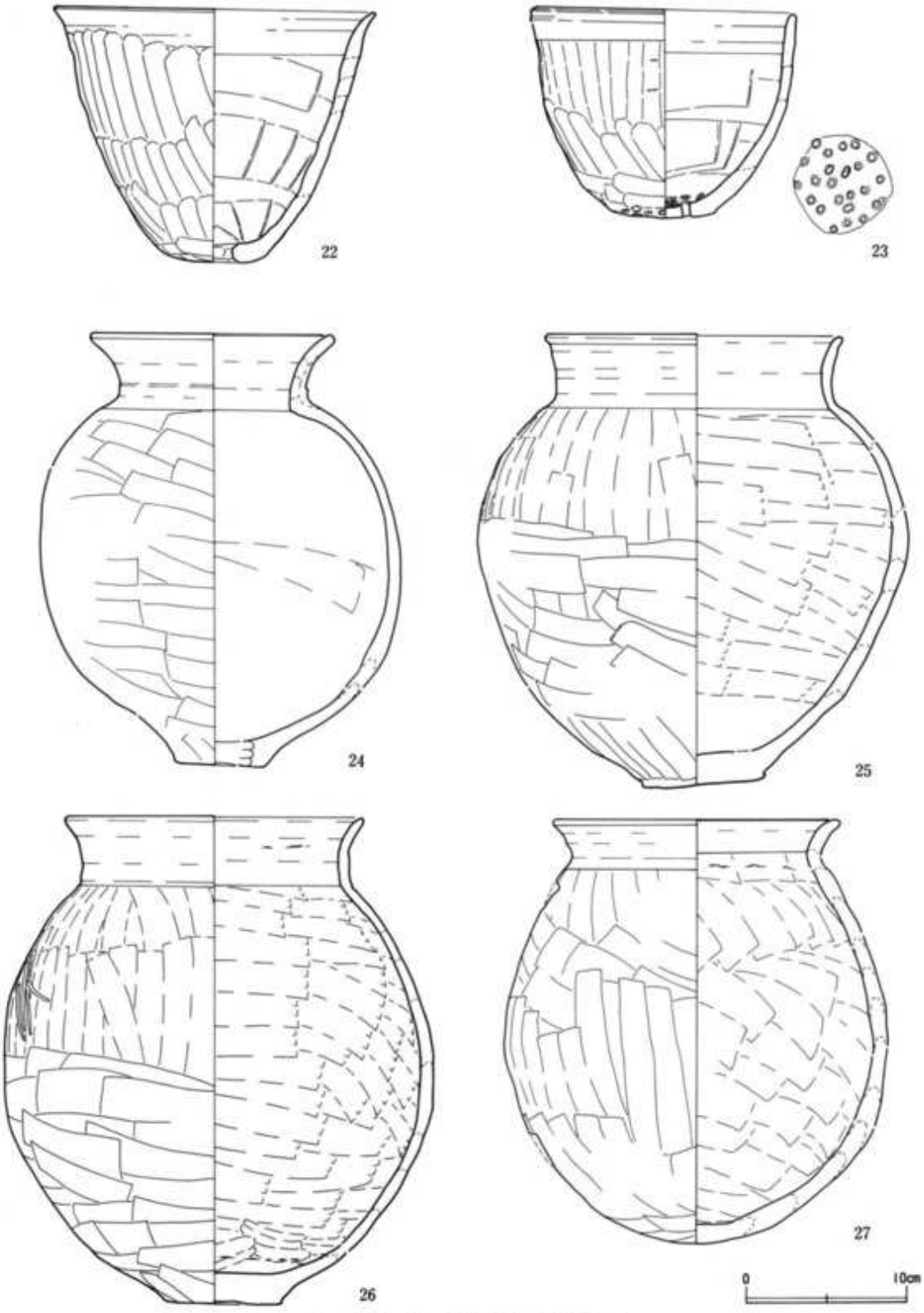
第302図　第215号住居址出土遺物



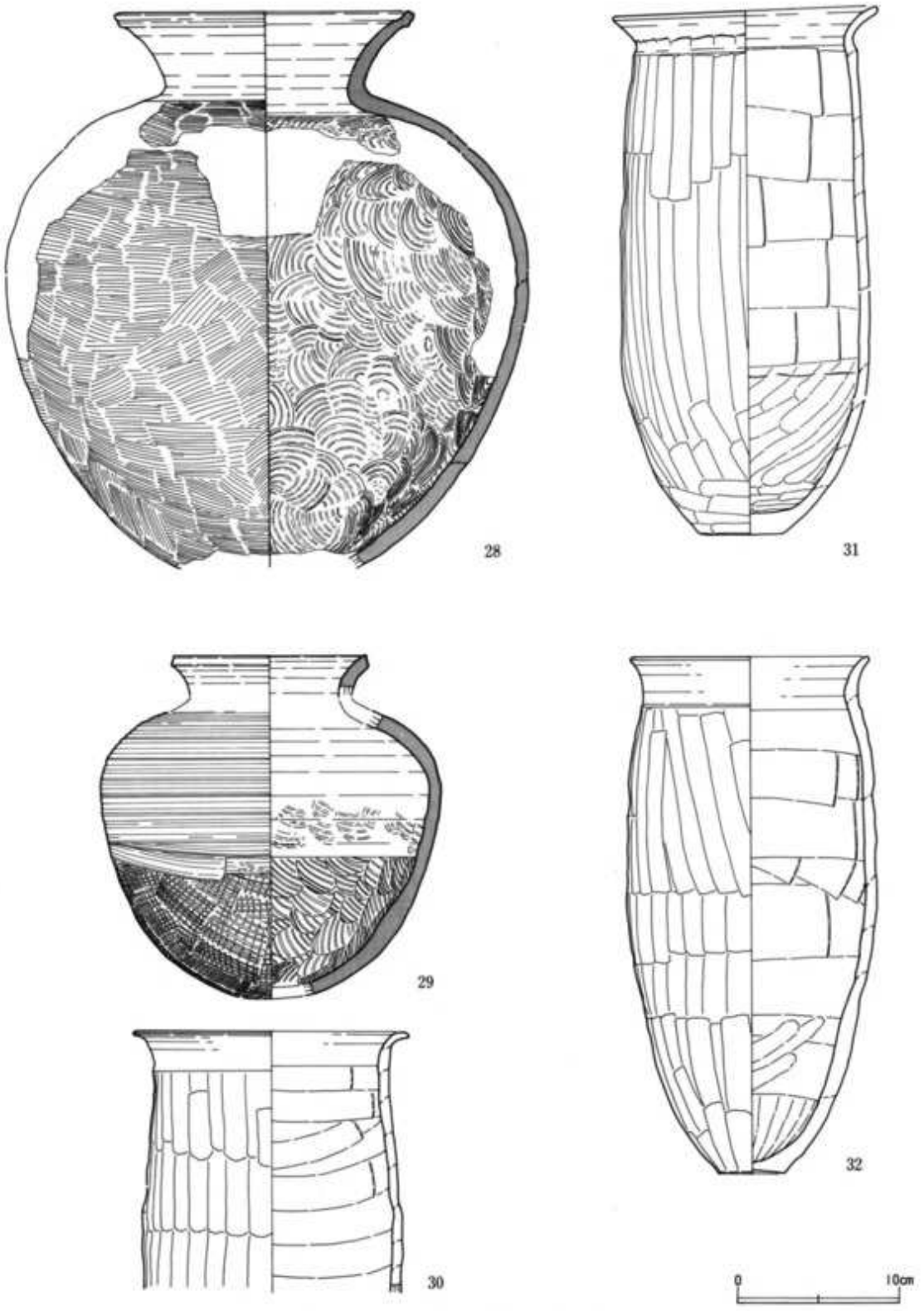
第303図　第３号溝址出土遺物(1)



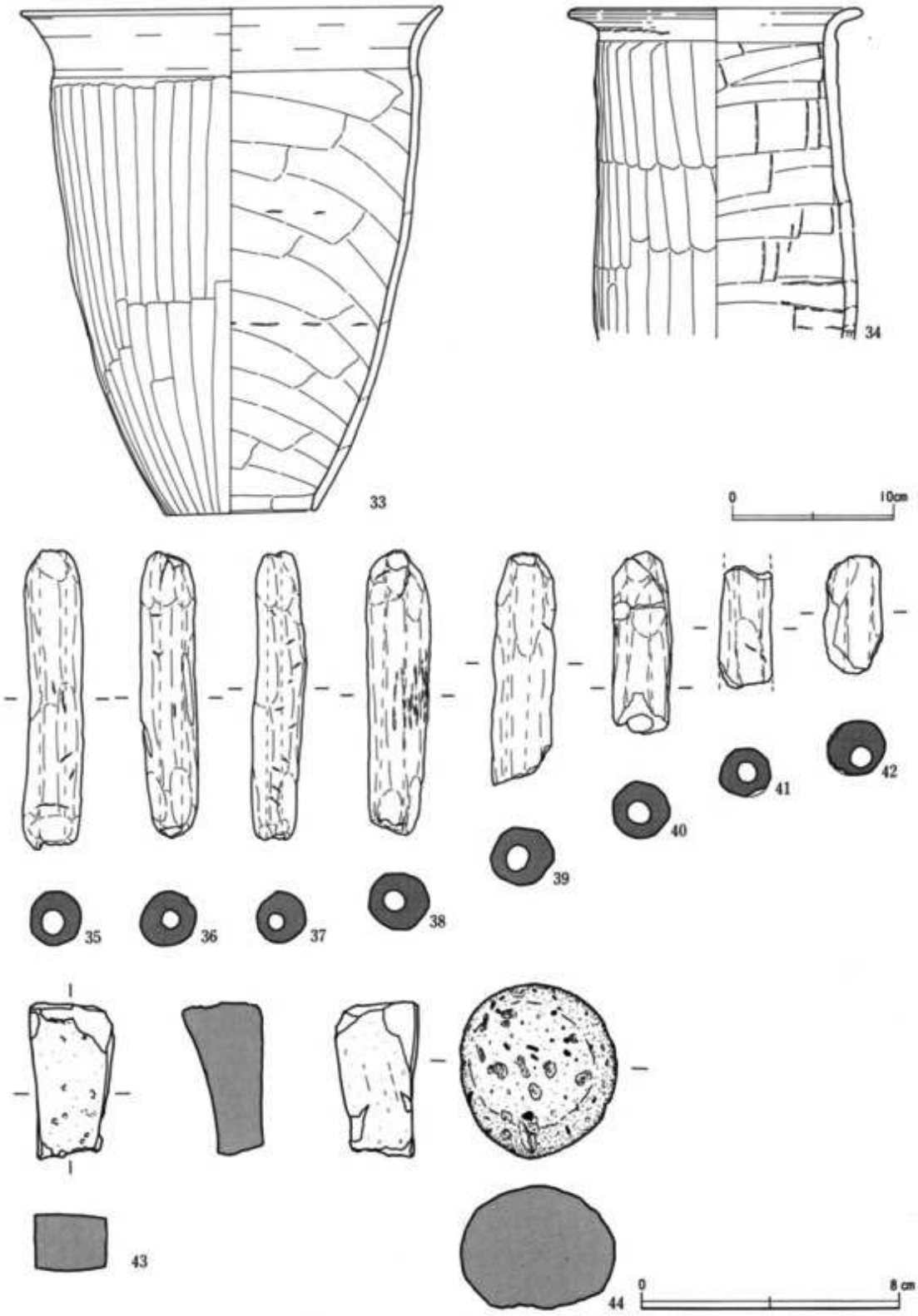
第304図　第３号溝址出土遺物(2)



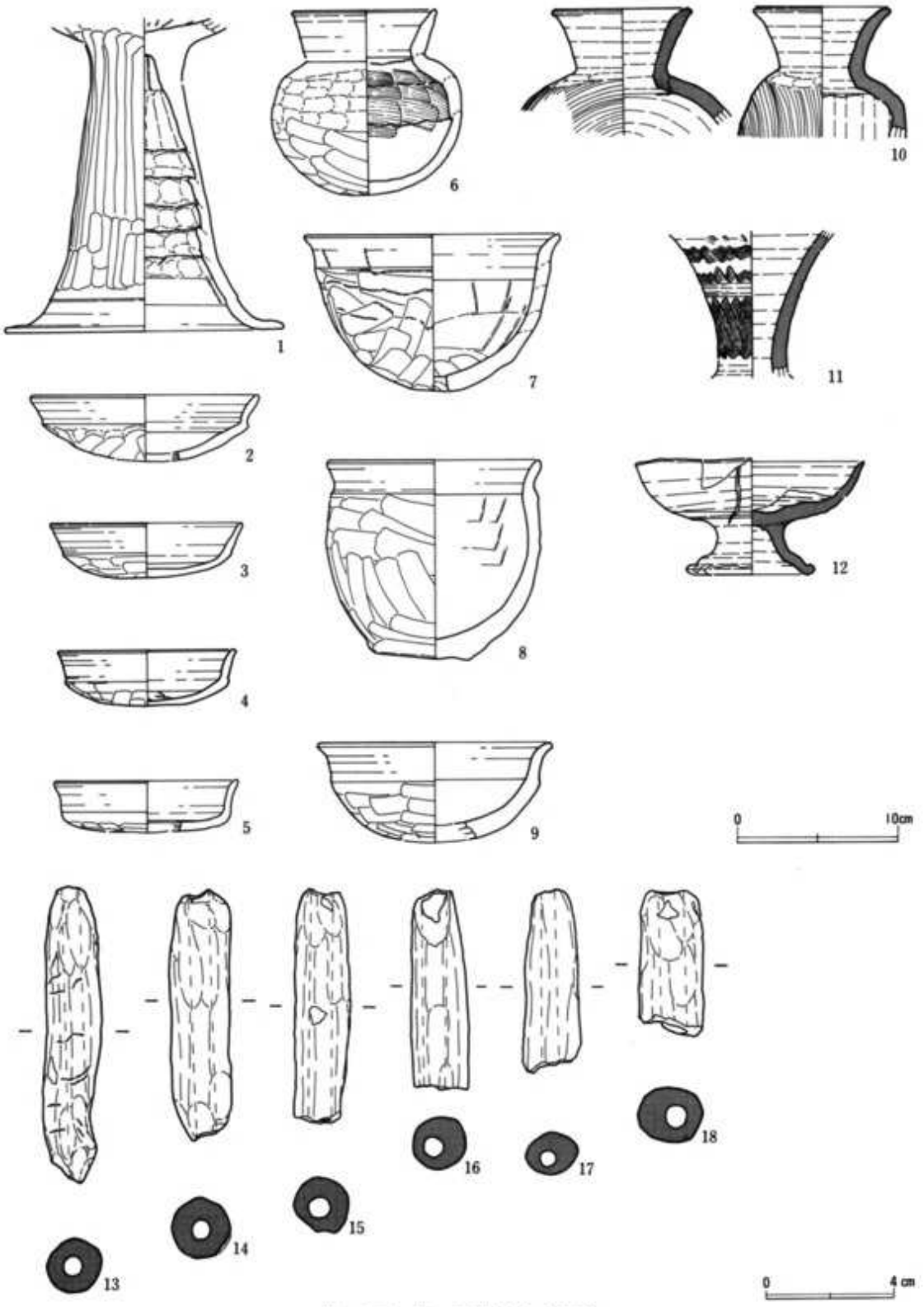
第305図　第３号溝址出土遺物(3)



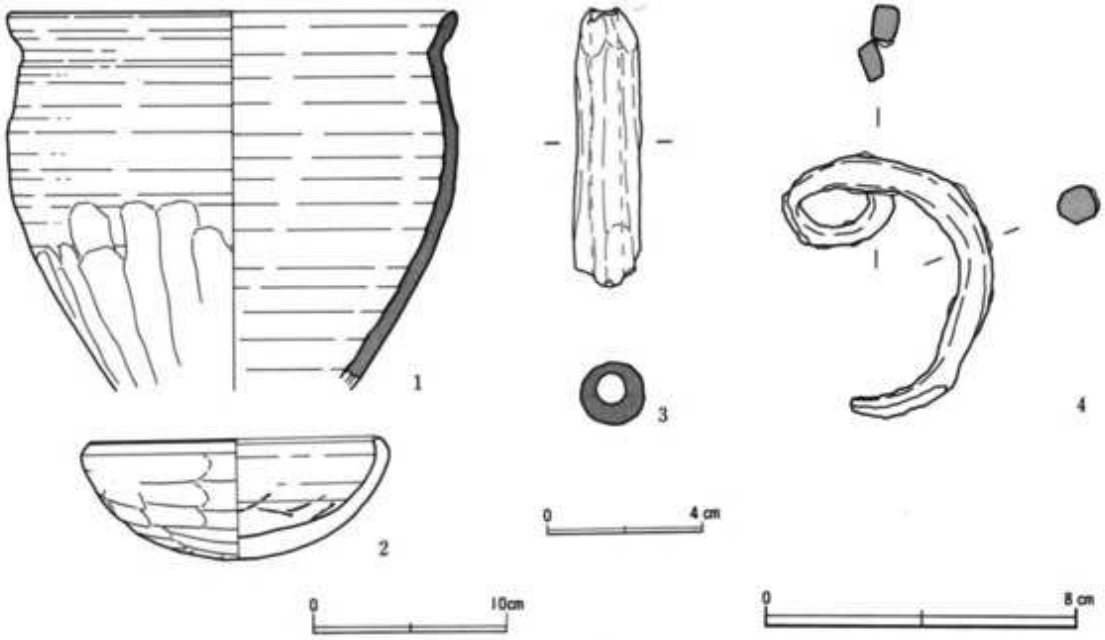
第306図　第３号溝址出土遺物(4)



第307図　第３号溝址出土遺物(5)



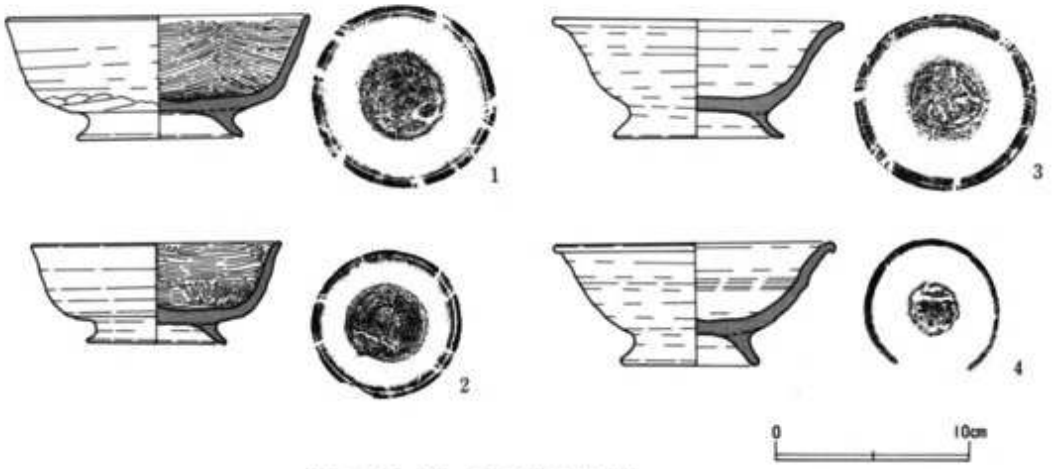
第308図　第４号溝址出土遺物



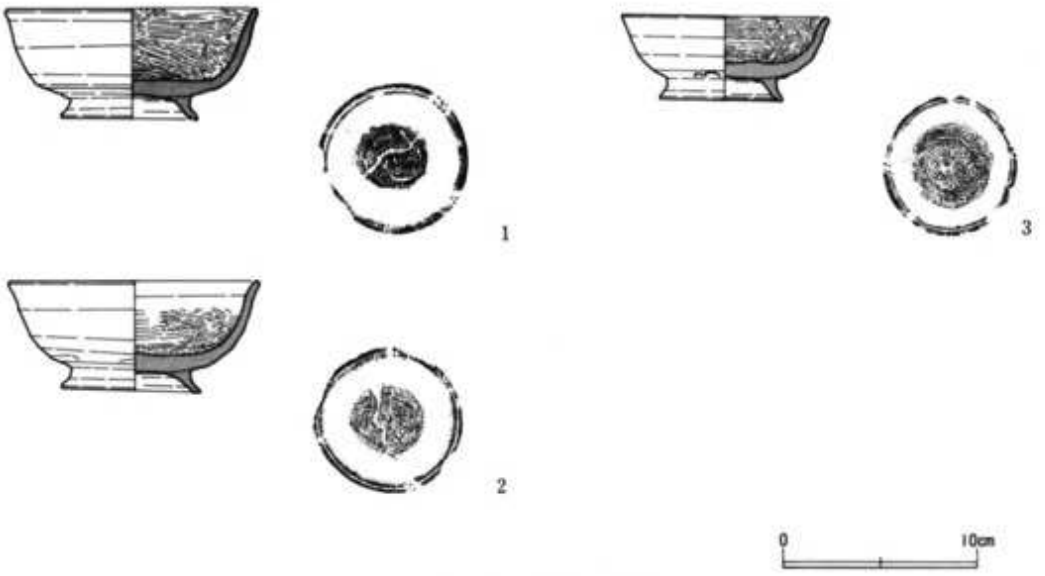
第309図　第６号溝址出土遺物

第311図　第１号土壙出土遺物

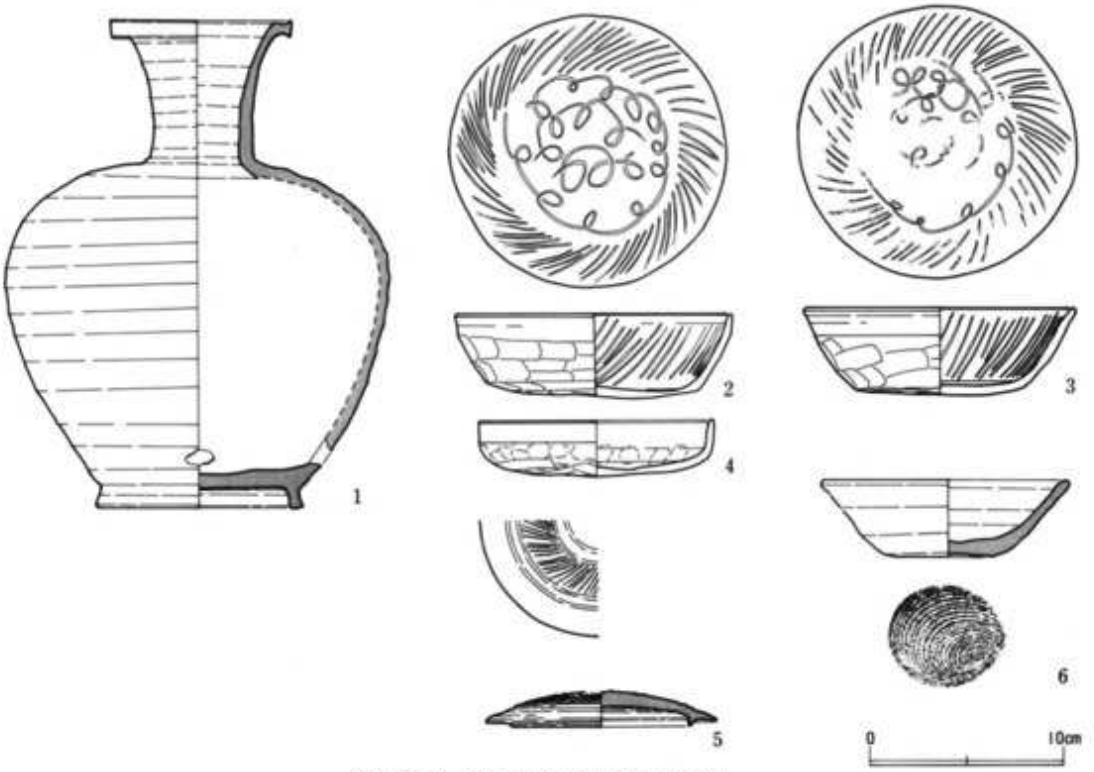
第312図　第２号土壙出土遺物



第313図　第９号土壙出土遺物

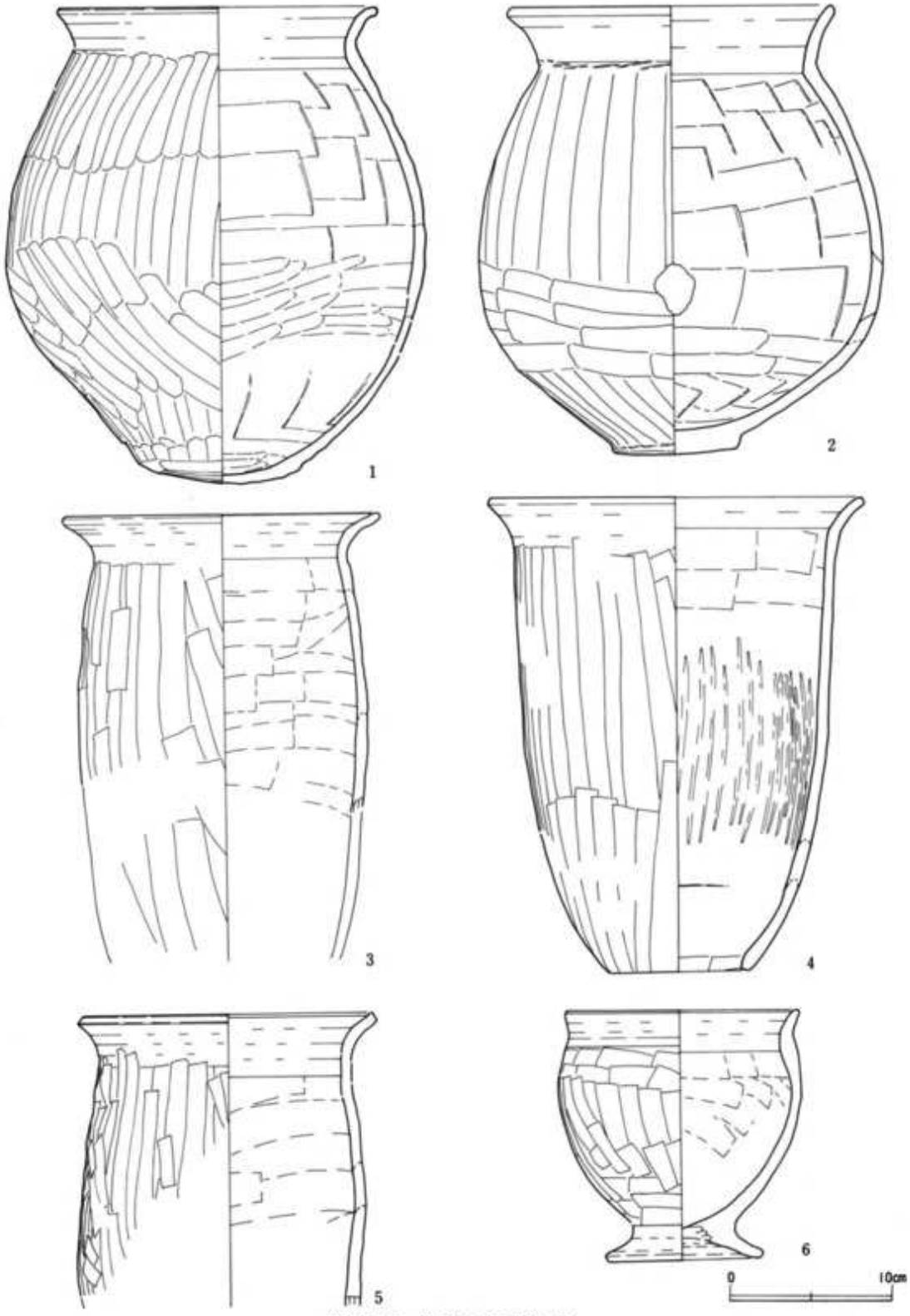


第314図　第11号土壙出土遺物

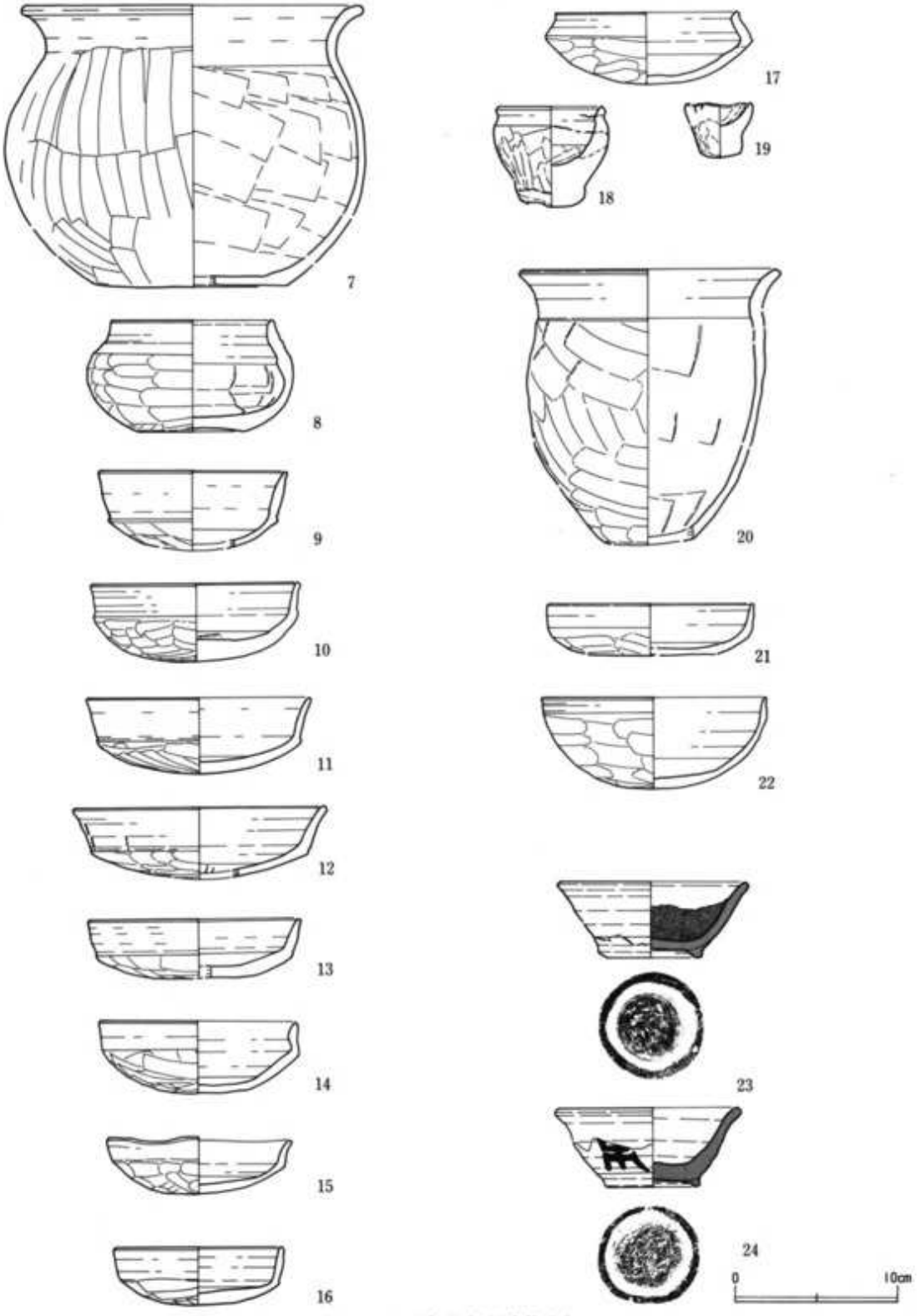


第315図　第１号井戸址出土遺物

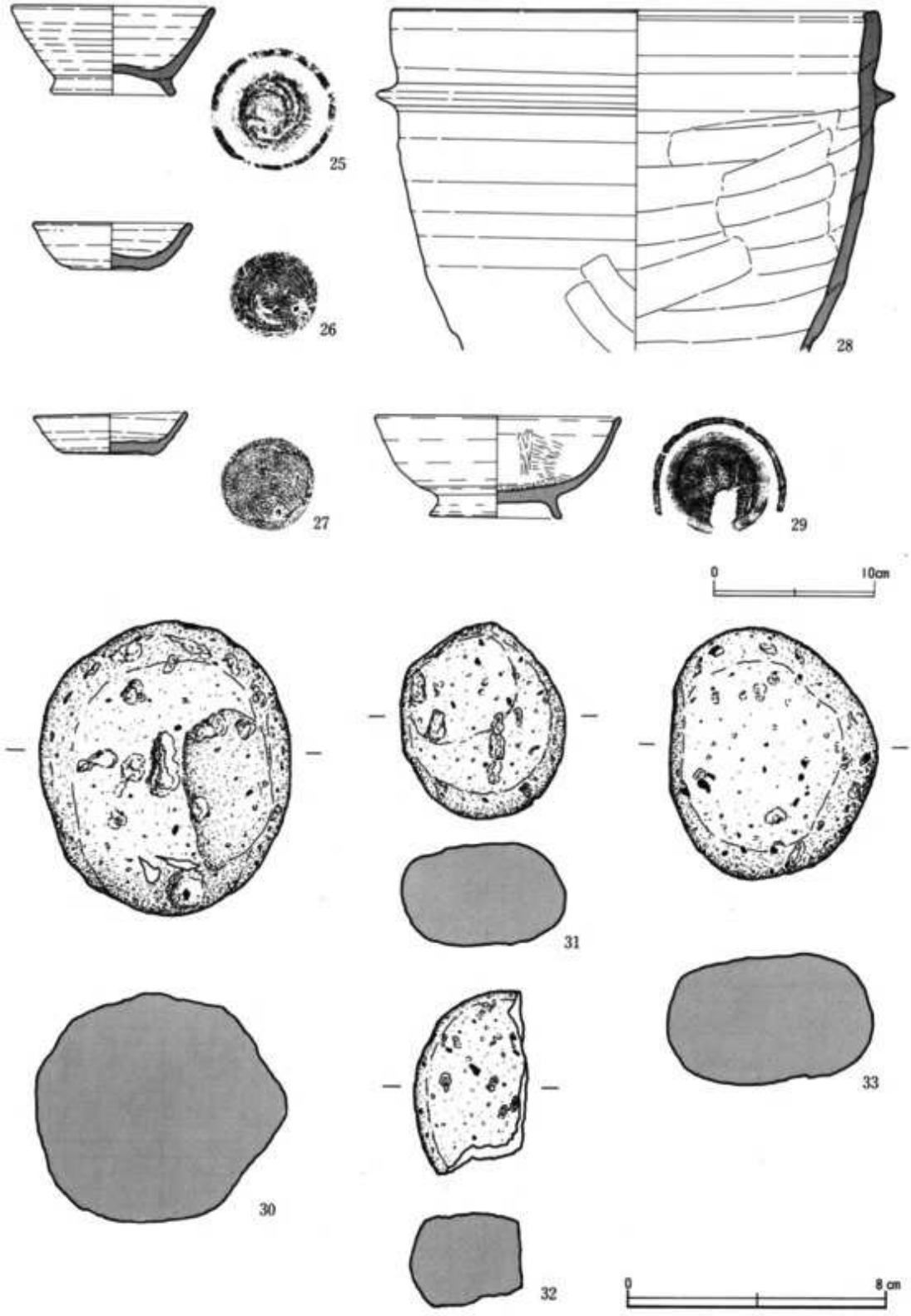
第316図　第２号井戸址出土遺物



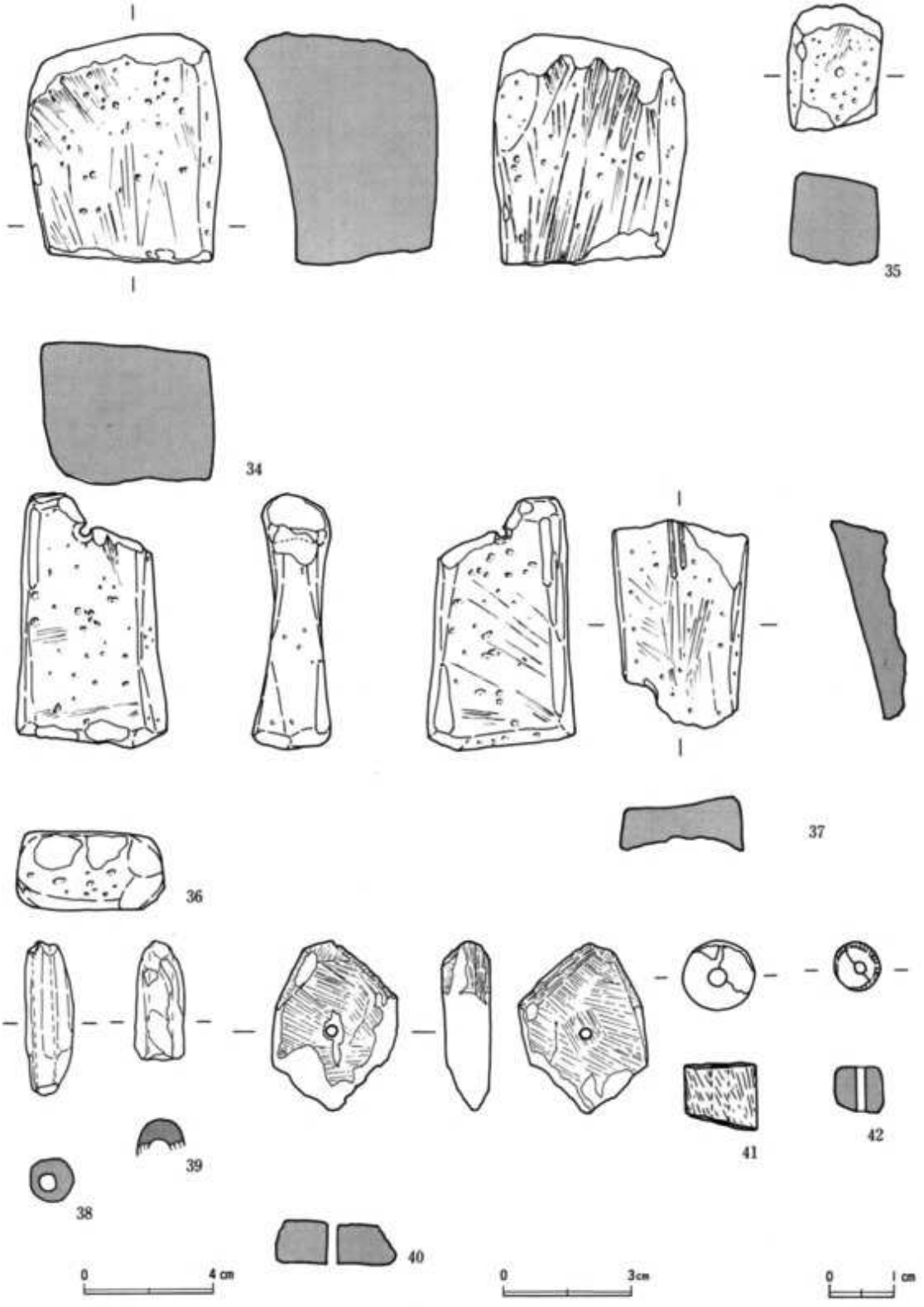
第317図　遺跡出土遺物(1)



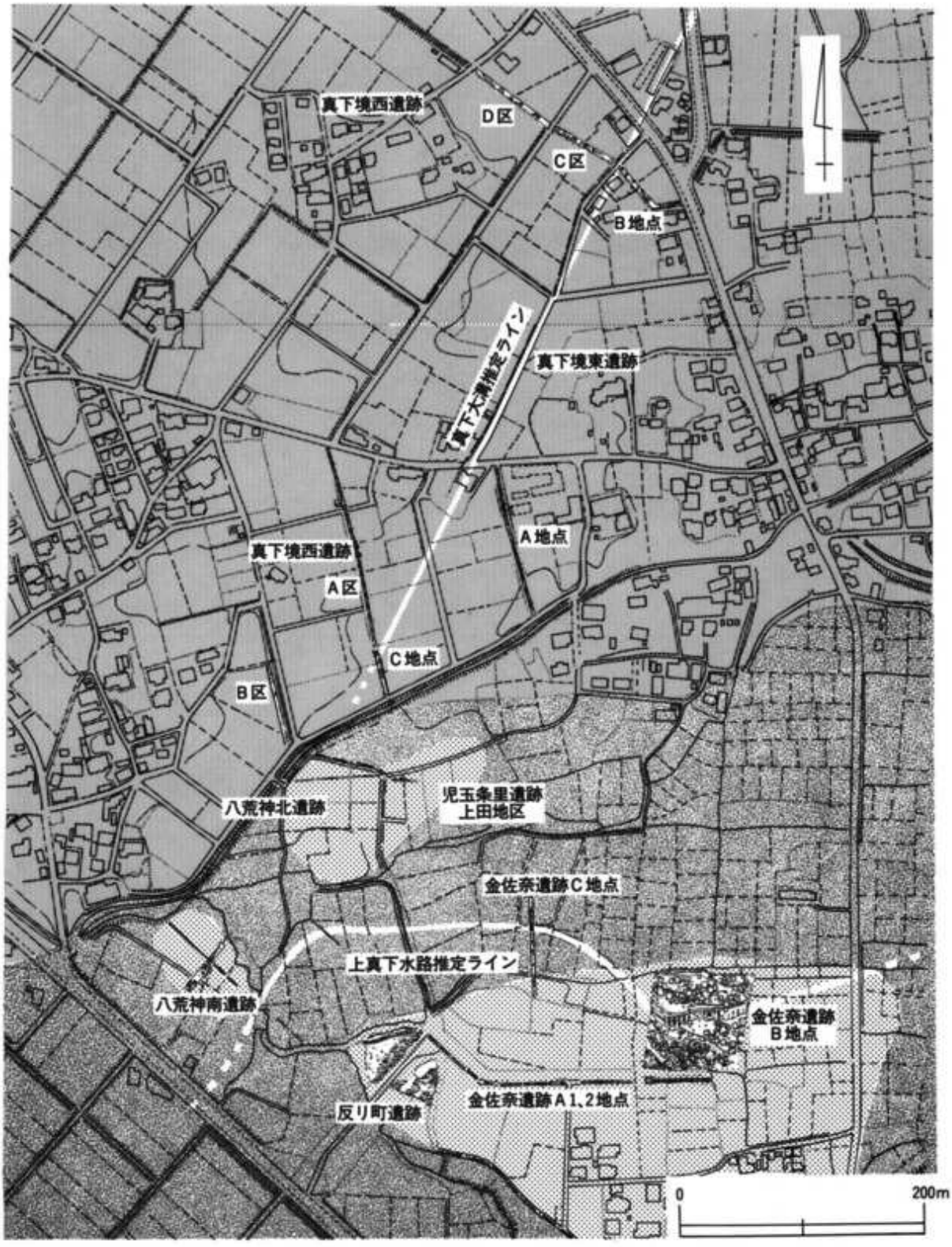
第318図　遺跡出土遺物(2)



第319図　遺跡出土遺物(3)



第320図　遺跡出土遺物(4)



第321図　金佐奈遺跡B地点と周辺の遺跡

第Ⅲ章　金佐奈遺跡の古代景観の変遷　ーまとめにかえてー

はじめに

金佐奈遺跡B地点において検出された集落跡は一時期断絶はあるものの古墳時代後期から奈良・平安時代に営まれた集落である。本遺跡は台地に近接する低地の中に位置する微高地にあたり、南東から北東へと緩やかに傾斜している。当該地域が古代においてどのように利用されたのか本遺跡をとおし周辺の遺跡も含めて概観し、まとめにかえたい。

1．生産空間としての土地利用

集落以前の遺構

当該地が集落として利用され始めるのは古墳時代後期、鬼高Ⅱ式期からである。これを遡る時期の遺構として畠の“畝”ないし水田跡といった積極的な遺構が検出されているわけではない。しかし、集落としての土地利用がなされる以前の遺構として第1・1b(註1)・3・5号溝址があり、また先行する可能性があるものに第4a号溝址”があげられる。これらの遺構はその所在は明らかではないが、この時期の人々の活動領域の一角を占めていたことを表すものである。同時にこれらの人為的営為は無作為に行われるものではなくある一定の目的意識のもとに行われたと考えて差し支えなかろう。本節では発掘調査によって得られた情報と周辺の遺跡や地形から土地利用とその可能性を考え、この地域の景観の復元を試みてみよう。

“上真下水路”

第3号溝址（第94図）は神川町八荒神南遺跡第8トレンチ第6・7号溝址（金子他、1995）・金佐奈遺跡C地点第10号溝址（徳山他、1997）と同一系統のものとして触れられており、仮称“上真下水路”（鈴木、1997）とされるものである。当溝址は断面観察から大きく二時期に分けることができ、ここでは時間的に後出のものを第3a号溝址、前出のものを第3b号溝址、両者ともに指す場合は第3号溝址と称別する。第3a号溝址覆土第11層の上層には群馬県榛名山を供給源とする二ツ岳火山灰（Hr-FA）と思われるテフラの堆積が厚さ約1cmにわたり認められ本址の開鑿時期を知る上で注目される。FAの降下時期については諸説があり、5世紀末から6世紀第1四半期とやや時間幅を含み問題を残すものの鬼高Ⅰ式期を遡ることはあきらかである。またFAの上層（第10層）には砂質の粘質土が堆積しており火山灰降下後も流水していたものと考えられる。さらに上層では層中に鉄分の凝集粒が観察されており流水というより滞水した状況が推定され湿地状の景観を呈したものと思われる。第3b号溝址はこれに先行し、その開鑿時期はさらに遡るものである。

第4a号溝址は調査区西側から第3号溝址に併走し、調査区中央で同溝址に

至るものである。調査所見では第３ｂ号溝址に先行するものとされる。その存続時期等については後述するため、ここでは鬼高Ⅱ式期の集落に先行する可能性があることを指摘するにとどめる。

第５号溝址は第３号溝址から分岐する形で地形の傾斜に直行するように掘削されている。第１・１ｂ号溝址は第５溝址に併走する事から調査区外では第３号溝址から分岐する形をとることが推定されるものである。第５号溝址は第51号住居址に先行するものである。同住居址の遺物の出土状況（第108図）は床面よりやや浮いた状態であり住居廃絶後に廃棄されたものであろう。またこれらの遺物（第109図）は該期の集落の中でも古相にあたるものである。このことから第５号溝址は鬼高Ⅱ式期の集落設営以前に遡ることは確実である。

周辺の地形と遺跡

これらの遺構はどのような目的のために掘削されたのであろうか。ここではやや視点を広げ周辺の遺跡と地形（第320図）を概観し、併せてその性格を検討してみよう。本遺跡の占地する微高地は本庄台地と呼ばれる台地面が金鑽川・赤根川水系の女堀川によって開析され島状に残されたものである。遺跡南側には後に条里が施工された低地面（本文では以下のこの低地面を単に洪積低地面と呼称する）が大きく開け、南西から北東へと展開している。遺跡北側の低地（以下同様に上真下低地と呼称する）は神川町反り町遺跡（篠崎他1995）の南約100mの付近から東方向に延び、同町八荒神南遺跡の集落の占地する微高地と本遺跡に連なる微高地の西端部に立地する反り町遺跡との間を縫って北東方向へと進んでいる。さらに“上真下水路”の流路方向の変わる八荒神南遺跡第８トレンチ付近で北東方向に角度を変えて金佐奈遺跡Ｃ地点を経てさらに東へと延び、本遺跡を通過して約200mの地点で再び“洪積低地面”へと続いている。このような地勢の中で該期の金鑽川の流路が“上真下低地”を流れていたか、“洪積低地面”にその流路をとっていたかはさておき、この“上真下水路”はその規模から旧金鑽川そのものではなく、この本流より導水した幹線水路の一つであると推定される。“上真下水路”は大きく蛇行しており「金鑽川」の旧流路と思われる埋没河川を再掘削して利用していることは金佐奈遺跡Ｃ地点において確認されている（鈴木、1887）。このことは“上真下水路”の流路が“上真下低地”の中に収まること、労働力の省力化という合目的的理由からも首肯出来よう。このように埋没河川を利用する灌漑形態はすでに和泉期に見られものである。堀向遺跡で検出された“蛭川埋没河川跡”（鈴木、1995）である。この“蛭川埋没河川跡”は“上真下水路”を考える上で注目される。“上真下水路”が本流から分流させた幹線用水路であることは先に触れたが旧金鑽川の流路はどこに求められるであろうか。金鑽遺跡Ｃ地点では古墳時代後期以前の可能性が指摘される水田層が存在し、“上真下低地”がはやくから水田として利用され

たことが推定される。このことから旧金鑽川が“上真下低地”に流路をとっていた可能性は低いものと思われ、“洪積低地面”にその流路を想定したい[註2]。

“上真下水路”は“上真下低地”の開発・整備のために開鑿されたものと考えられ、分流する形の第5号溝址・第1・1b号溝址は前後関係があるか同時存在かは明らかではないが自然傾斜に並行して併走しいることから同一の目的意識のもとに掘削されたものであろう。覆土からは恒常的な流水の痕跡は認められないことから境界としての機能も考えられるが、第3号溝址も最も蛇行する部分から分岐することと等高線に沿ってしかも高位置から低位置へと推移していることから用水系の水路として機能していたとも推定される。当該地が耕作地として利用されていたかは中世の耕作に起因すると思われる土層[註3]が遺構確認面にまで及んでいたことから明らかではない。しかしその流路が微高地の傾斜に併行することを積極的に評価するならば流末にあたる低地はもとよりこの微高地上を灌漑していたことは否定し得ない。該期の微高地上に掘削される小規模な溝は水田耕作に伴う低地面のものとは異なり畠や陸田を考える上で重要な位置を占めるもであり、古代の生業や景観の復元に近接するうえで鍵になるものと思われる。

“上真下水路”の流末

ところでこの“上真下水路”の流末はどこへ続くのであろうか。調査区において北東に軸をとる“上真下水路”の延長にあたる石橋遺跡（恋河内、1995）での調査区では該当する溝址は検出されていない。未調査区の現用水路に重複している可能性は否定できないが、石橋遺跡の北側の字松場・真下境地区の地割りを圃場整備以前の地図で見てみると条里地割が大きく乱れていることに気づく。これは蛇行河川の痕跡と認め得るものである。先に想定した旧金鑽川の流路はこの痕跡に合流するものと思われ、“上真下水路”もその軸方向からこの付近で合流していたものと想定される。この付近はまた旧赤根川も合流していたことが推定される地域でもある[註4]。この地割りの乱れを辿っていくと北西の字西畑・鼻曲地区へと続き字蛭川境を介して字堀向・藤塚へと続くのものと東方の字辻堂地区へと続くものとの二者が認められる。このうち前者が“蛭川埋没河川跡”である。後者のものが認められる辻堂地区においては辻堂遺跡（恋河内、1996）の調査がなされ覆土中から鬼高期の遺物を含む河川跡が検出されている。この河川跡は恒常的に流水していたものではないとされるものであり、さらに遺跡の占地する微高地と自然堤防の間の低地部分の調査においても該当する河川跡は検出されていない。このことから“上真下水路”および旧金鑽川は字松場付近で旧赤根川に合流し真下境地区を蛇行しつつ、現女堀川付近に流路が推定される“女堀川南流路”に至るものと思われる。そしてその流末は“蛭川埋没河川跡”とに分流し再び合流するのである。

地割りと旧河川

2．生活空間としての土地利用ー集落の設営ー

周辺遺跡の様相

それまでの灌漑系統の通過点あるいは分岐・結節点として景観が大きく様相を異にするのは鬼高II式期からである。生活空間としての土地利用、すなわち集落が設営されることにより当該地の景観一変されるのである。本遺跡のように鬼高II式期から始まる集落に今井川越田遺跡（瀧瀬・磯崎他、1997等）・南街道遺跡（恋河内、1996）・秋山大町遺跡(註5)があげられる。本遺跡に近接する前代の集落は検出されておらず最も近接するものでも遺跡の南方約1.8kmに位置する辻堂遺跡・共和小学校校庭遺跡が、やや距離はあるものの西南約3.8kmにミカド遺跡（坂本、1981）があげられよう。辻堂遺跡・共和小学校校庭遺跡は本庄台地と児玉丘陵から切り放された生野山とに挟まれた“洪積低地面”の中に位置する自然堤防や微高地上に占地し、和泉期から鬼高II式期に継続する集落である。また近接する微高地上に占地する和泉期・鬼高II式期の集落である南街道遺跡との関連が考えられ、これらの遺跡は地点をかえながらも連続的に推移する遺跡群として捉えられるものである。後張遺跡（立石、1983等）や今井川越田遺跡も同様に近在する梅沢遺跡・川越田遺跡等との関連が考えられ、五領期から鬼高II式期にかかる一連の遺跡群として捉えられるものである。金佐奈遺跡の集落を作った人々がどこから移って来たのかは重要な問題ではあるが機会を改めて検討する事としたい。

集落の様相

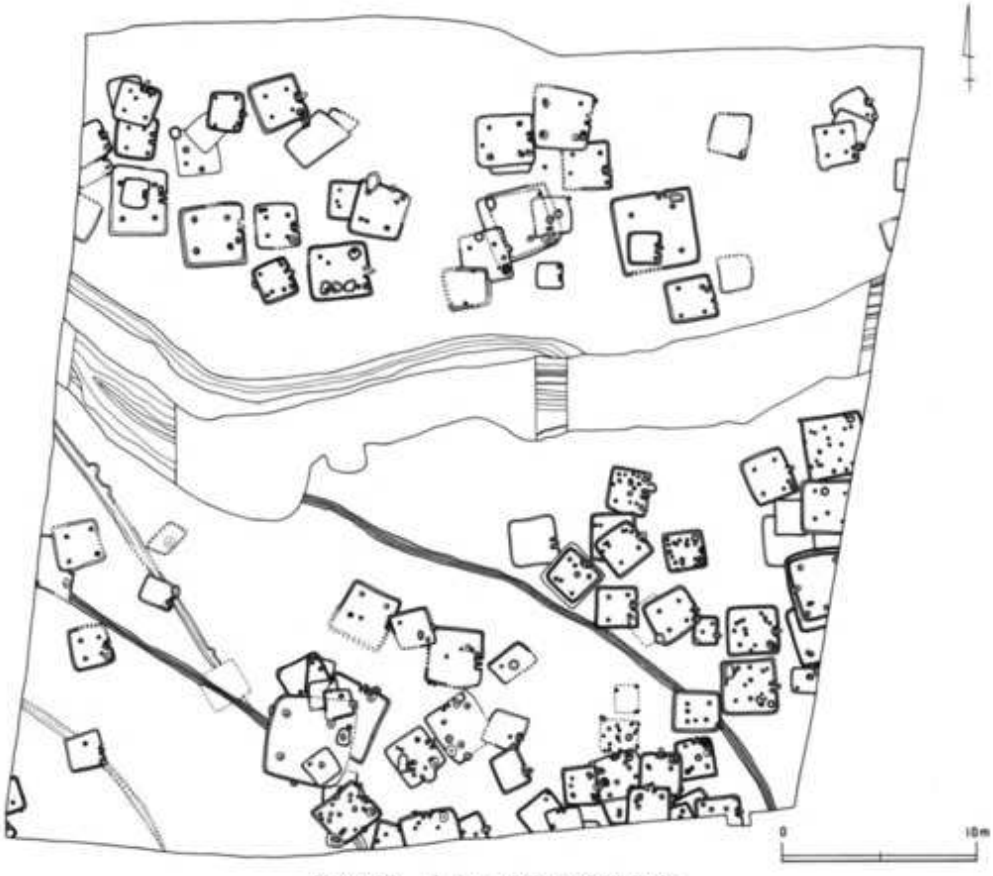
再び集落内に立ち返ることとしよう。鬼高II式期の遺構の分布を示したものが第321図である(註6)。調査上の制約や膨大な数の遺物量のため詳細な検討はなし得なかったが該期の集落内の概要について触れてみたい。集落は該期には機能していた第3号溝址を挟んで北と南に大きく分けることができる。ここでは便宜的に前者を北区域、後者を南区域と称別する。

北 区 域

北区域は大きく三つの住居群に小別することができよう。住居址の主軸は概ね東西をとるものが多く、各住居群間の直線を基調とした空閑地を越えた住居址の構築は見られないことから比較的安定して整然と推移していったことが指摘できる。該期にはまた第4a号溝址が機能していたものと思われる。開鑿時期は鬼高II式期を遡る可能性があり、また該期の住居址がこの溝址と重複関係にないこと、覆土中より鬼高II式期の比較的新相の土師片等が検出されていることから、鬼高II式期の後半代にはその機能を停止し埋没したものであろう。この第4a号溝址は児玉条里上田地区及び八荒神南遺跡では調査区の制約上検出されていないものであるが上流域から用水系の水路として分流させて当該地では北区域の生活にも使用されていたことも推定されるものである。

南 区 域

これに対し南区域はやや雑然とした感を受けるものである。先の第5号溝址はその覆土から集落設営に伴い埋め戻されたものと考えられ、また第1・1b



第322図　鬼高II式期の遺構分布

号溝址も該期には埋没していたか埋め戻された可能性が考えられる。住居址は大まかに見るならば5ないし6の小規模な住居群として捉えられよう。この住居群は地形上の制約からか一定の集中は見られるもののやや近接し、かつ交錯した状況にあり各住居群間の明確な空閑地を読みとりにくいものである。

住居址の主軸

次に住居址の主軸に注目してみよう。北南両区域に構築された比較的古い段階の住居址の主軸は東西を指向しており、これは自然地形の傾斜とは整合しないことから一定の規格のもとに集落が形成されたことを示唆するものであろう。またこの区域には比較的古い様相の遺物の検出された第95号住居址に後続して第1a・1号溝址が掘削されるのの第80号住居址とは重複せず比較的短期間のうちに埋め戻されたものと推定できる。そして北区域とは対称的なことに該期の新しい段階には全てではないもののこの第1a・1号溝址に直行する形、つまり自然地形の沿う形で北東から南西に軸をとるものが現れるといった傾向が指摘できる。このような住居址の主軸方位から当微高地上における集落の設営時には前時期の土地利用の意識との断絶が認められる。そして南区域においてはさらにその変化が指摘できるのである。このような住居址の主軸方位はどのように決定されるのであろうか。前章において“上真下低地”は水田として

利用が為されていたことを触れた。集落の設営された該期にもこの水田継続して存在したことが予想される。弥生時代に始まる稲作農耕における水田の形は外縁部ほど地形等に左右されることはあるものの概ね矩形を基調とすることは衆目の知るところである。また水田遺構の面的な調査が為された今井条里遺跡（岩田、1998）において検出された古代水田は時期により主軸や区画の大小といった違いはあるものの概ね矩形を基調としている。“上真下低地”の地形が遺跡周辺では概ね東西方向を指す帯状を呈することと上記の現象を考えあわせ、さらに灌漑系統の効率化と限定的な空間の効果的な使用という観点を加味するならば、該地は軸を同じくした矩形の水田であった蓋然性が高い。集落はこの区画に準拠して一定の規格性を持って設営された可能性が高いものと思われる。また、より近接する位置関係にある北区域は該期を通して同方向に住居の主軸を保つことから緊密な関係性を読みとれよう。これに対し南区域の各住居址群の交錯する状況や住居主軸の変化には別の要因を求めなければならないだろ。このような一定の空閑地を有さない各住居群同士の関係は、換言すれば境界を必要としない各居住集団間における緊密性を現すものであろうか。または住居址の主軸の変化はただ単に自然地形に適応し、より効率的な居住空間を確保するという合目的的理由に起因するものであろうか。集落内の土地区画の変化は居住集団内における社会的関係性の変化、すなわち社会的集団構成原理の変化を想起させるものである。そしてこの変化は集落内の従前の規制の弛緩が想起され、と同時に居住する特定の集団の一定の自立性の獲得をも示唆するものであろう。このように集落設営時の土地区画の上に新たな集団編成による土地区画がなされ住居址が累積した結果、視覚的分別を困難にしているのである。今井川越田遺跡においても一定区画内で比較的整然と推移するものと空閑地を読みとりがたいものとが混在する現象が認められるようである。該期の集落、ひいては居住者集団のを考える上で示唆的である。ここでは現象にのみ言及しより広範な地域での比較・検討をすることとし、今後の課題としたい。

生活空間と生産空間

土地区画の変化と居住集団

また北区域での想定が為されたように生活空間と生産空間とが相互に連関し一定の規則性を有することに注目するならば、南区域のこのような変化は新たな秩序による生産体系の編成が推定される。遺跡南側に大きく開けている“洪積低地面”への進出である。遺跡の南側を流れる現女堀川は当該地を避けるように北東方向に流路をとっており微高地と“洪積低地面”の境界を為している。この方向は南区域の後出的な要素としてとりあげた住居址の主軸に概ねの一致を見ることは偶然ではあるまい。“上真下低地”の南北両区域、どちらかといえばの北区域主導の下の開発・整備が一応の終焉を迎えるとともに南区域主導の下に新たな水田開発の開始が推定されるのである。

3．真間期以降の集落の景観

集落景観の変化

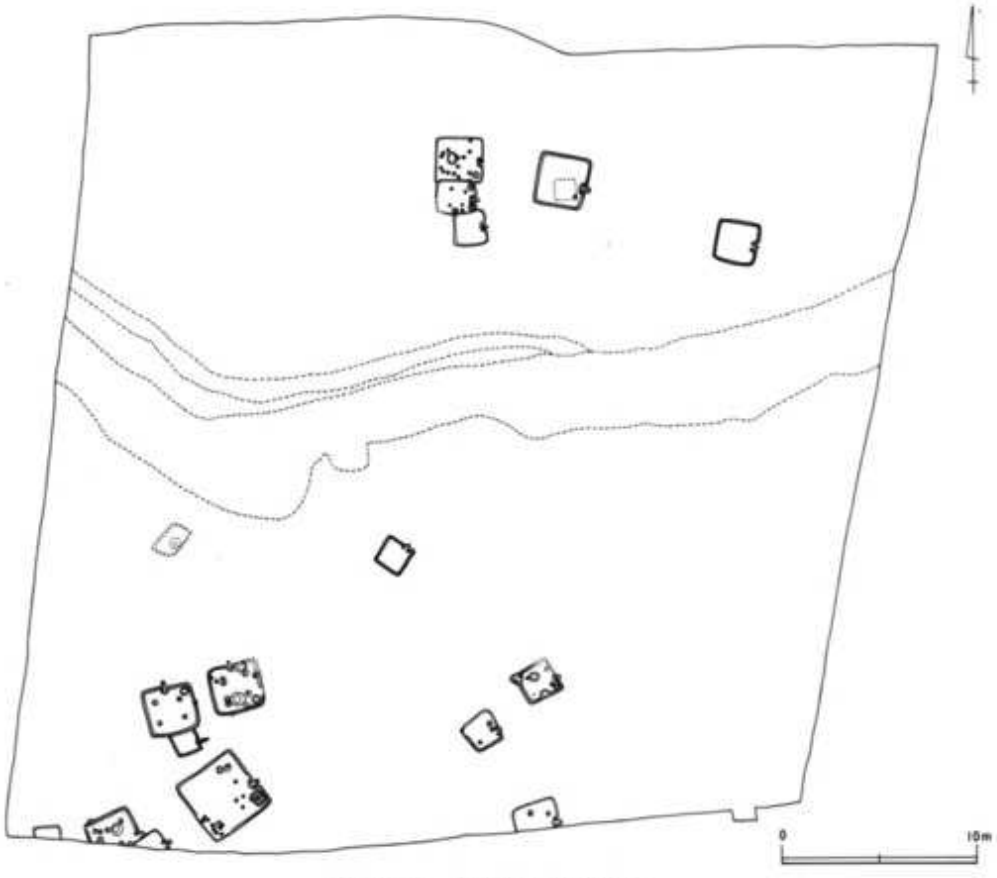
真間期になるとそれまで微高地上で相互に近接した小区域内で推移を辿っていた集落の景観は様相を異にする。該期の遺構の分布を示したものが第322図である。その分布は用水路としてある程度機能していたものと推定される第３号溝址を挟んでやはり大きく北区域と南区域とに分けられる。該期の遺構としてあげられるのは北区域では第166・167・187・201・202号住居址、該期の可能性のあるものとして第168号住居址があげられるにすぎずない。これらの住居址の占地は鬼高期の小規模な住居群の中央の区画に一致し、前時期からの土地区画意識および占有集団の連続性が看取できるものである。また住居址の主軸も概ね東西軸をとり前時期を踏襲していることはこの区域の居住集団における土地区画の秩序が存続していることを物語っている。

南区域に目を向けると東側のやや散在的な分布をみる一群（第44・65・72・106号住居址）と集中傾向にある一群（第88・90・93・102ａ（ｂ）・103・104・105号住居址）とに分けることができよう[註7]。次に住居址の主軸方位を見ると南区域の103・102号住居址のみが主軸を変え東カマドに変化する点が指摘できる。これら該期の集落の時間的変遷を、遺物の遺存状態が良好でその推移が辿りやすい南区域西側の住居群を軸にしてを見てみると大まかに第105→103→102（ｂ）→102ａ号住居址という推移がみられる。第102ｂ・ａ号住居址が二次期にわたったとしても三ないし四回の住居址の建て替えが考えられる。第102ｃ号住居址については出土遺物が無いため判断しがたいものであるがその主軸から前時期の後半以降からあるいは第105号住居址と併存する可能性も考えられよう。ともあれこの時間軸をもとに他の小住居群の変遷を見ると南区域東側のものは概ね第44→72・65→106号住居址という変遷が見られよう。

住居群内の変遷

北側区域では第166・187・201→167・202（→168）号住居址の変遷が考えられる。このうち第166→167（→168）号住居址の変遷は第168号住居址居址は出土遺物に乏しく相互の切り合い関係から求めたものである。この北区域の東側の一群はその出土遺物から同区域西側の一群と南区域の集団より、やや早く衰退してしまうようである。このようにこの時期の集落の様相は前次期に比し激減ともいえる状況を呈しさらに該期をとおしてその減少傾向が進行していく状況が看取できる。この住居址の減少傾向は相対的に占有する居住空間と耕作地とをあわせた土地の増大を意味するものであり、該期の土地占有のあり方が大きく変化したことを示すものである。

集落の様相は次の国分期[註8]にさらに顕著な減少傾向を辿る（第323図）。第３号溝址が用水路として機能したかは明らかでないが、この時期に第１号井戸址



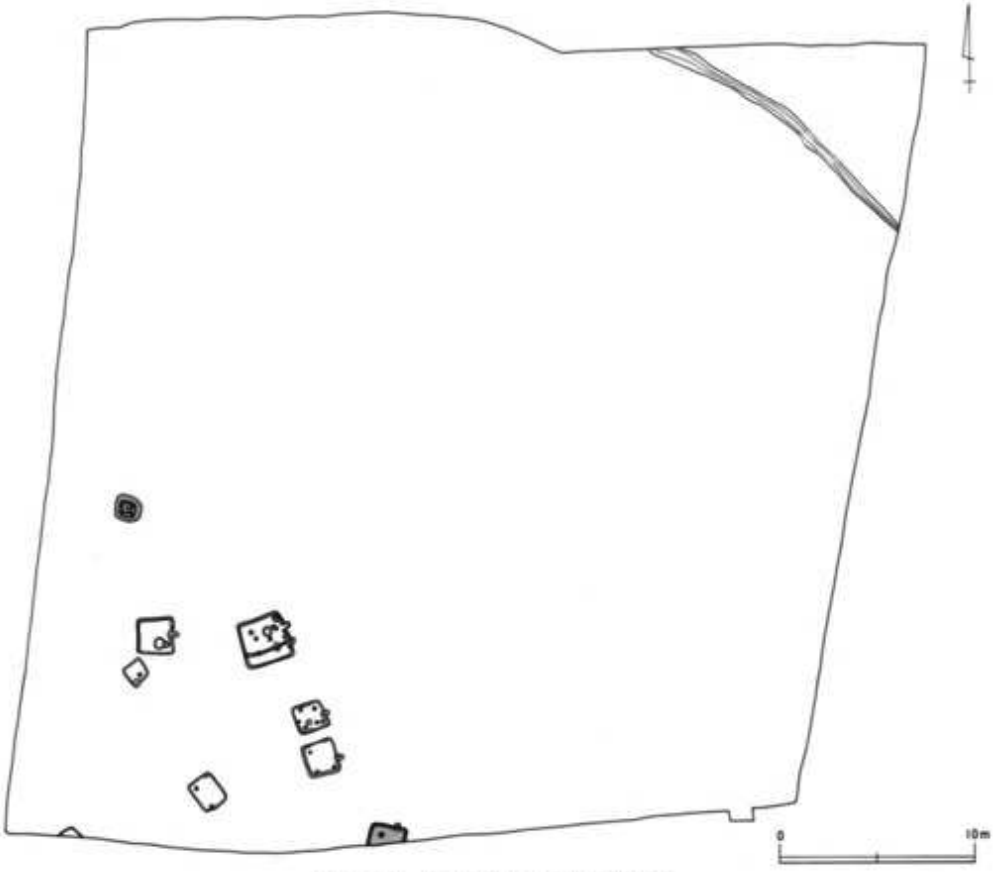
第323図　真間期の遺構分布

が掘られていることから生活に耐えうるだけの水量の確保は困難であったことが予想される。北区域は居住空間として使用されなくなり、第９ｂ号溝のみが等高線に沿って掘削されているにすぎない。この溝址の存在形態から周辺はあるいは耕作地として利用た可能性も考えられよう。

南区域の西側にはやや集中傾向にある一群が存在するのみである。これらの住居址の占地もまた真間期の西側の一群と一致するものである。住居址の主軸も概ね前次期同様であり占有集団と土地区画の意識の連続性を指適できよう。

「計画的集落」と金佐奈遺跡

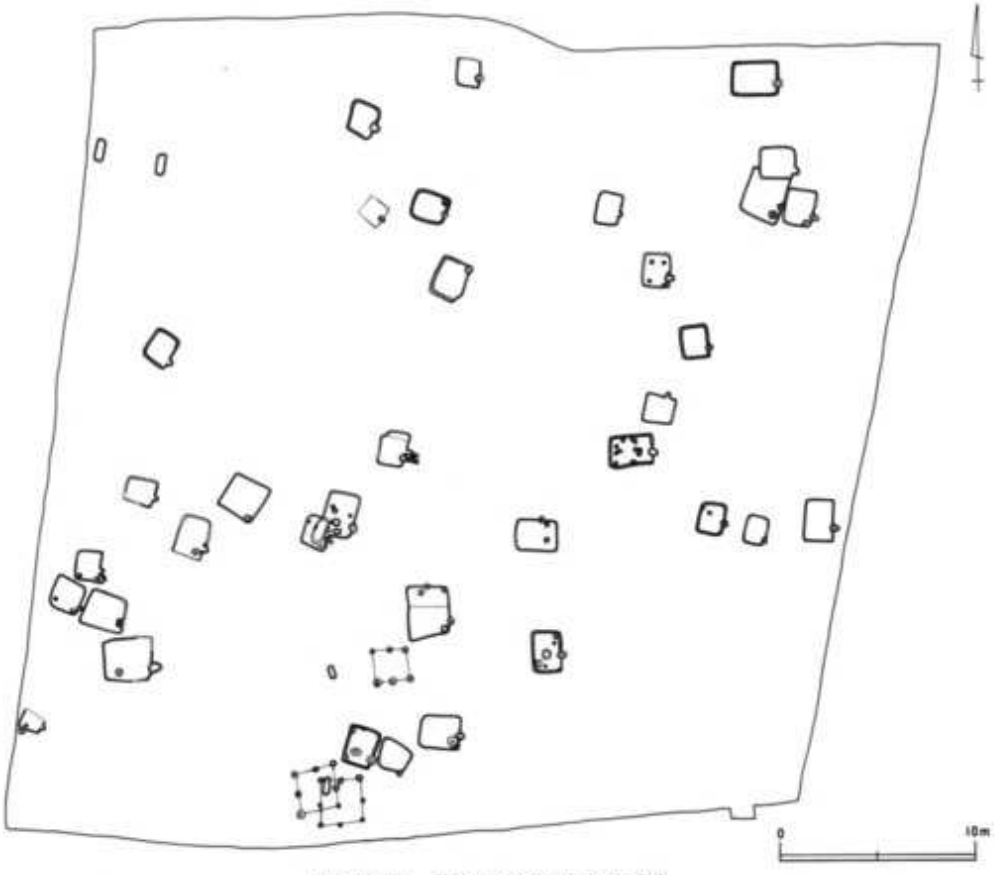
ところでこの時期の集落や灌漑形態のあり方を見る上で欠かすことのできない遺跡として本庄市八幡太神南遺跡・立野南遺跡、将監塚・古井戸遺跡（赤熊他、1988他）・真下境東遺跡・辻ノ内遺跡、神川町真下境西遺跡等がある。この本庄台地上への集落の移動と用水系水路である“真下大溝”の開鑿、条里施工と「古九郷用水」の開鑿といった一連の開発は「計画的集落」としてその社会的背景とともに論考されている（鈴木、1989・1991他）。この本庄台地上の開発には大きく分けて二つの画期があることが指摘されてい。“真下大溝”開鑿以前と思われ真間式の開始期に近い時期の集落として八幡太神南遺跡・立野南遺跡・真下境東・辻ノ内遺跡があげられ“真間期の一次的な集落”とされる。そ



第324図　国分期の遺構分布(1)

して全てではないものの、この“真間期の一次的な集落”が再編成されたものとして将監塚・古井戸遺跡があげられ“真間期の二次的な集落”とされている。“真間期の一次的な集落”は“真間期の二次的な集落”の時期には衰退傾向にあり、“真間期の一次的集落”は国分期にまでで継続し徐々に減少していく傾向が指摘されている。金佐奈遺跡での真間期に始まる住居址の激減する現象はこの“真間期の一次的な集落”の開始期に相当しこの集落に居住していた人々の大半は計画的な開発のもとに居住の地を台地上へと移したものと思われる。そして“真下大溝”の開鑿に携わったことは想像に難くない。

ところでこの“真下大溝”はその直線的な流路から現九郷用水付近から分流されたものと推定されている。その開鑿の前提となる一定水量を確保した水源としては「古九郷用水」として論考されている（鈴木、1989)。この「古九郷用水」の開鑿に伴い本遺跡南側の“洪積低地面”に流路を想定した旧金鑽川は上流部において「古九郷用水」に合流したものと考えられる。このような一連の灌漑系統の整備とともに“洪積低地面”には徐々に条里が施行され生産空間としての景観をととのえ、また本庄台地上は生活空間として開拓されていったのである。



第325図　国分期の遺構分布(2)

羽釜出現期以降の集落

一時期の断絶をへて当地が再び生活空間の地として利用が始まるのは、羽釜出現期以降である。当該期の遺構の分布を示したものが第324図である。

北武蔵における該期の土器の編年研究は現状において十分になされているといえる状況ではない。また先にも触れたように中世の耕作による攪拌を受けている本遺跡では重複関係を有する遺構もあるが、諸条件により分析の対象となる資料とはいえず、現段階で集落の変遷について語ることは困難である。住居址の重複関係と遺物の様相から数時期にわたることが予想されるが、更なる資料の蓄積と土器編年研究の進展を待って周辺の遺跡と併せて再検討することとし、ここでは平面的な特徴を述べるにとどめたい。第3号溝址の埋没はすでに完了し、これとともに土地区画を規制するといった機能は喪失している。住居址の分布は等高線に沿う形で空閑地を残し帯状に展開していることが看取できよう。そしてその主軸は概ね東西方向を指向していることが指摘できる。そして遺構の構成は住居址のみで構成されるものと掘立柱建物を有する一群とに大きく分けられよう。調査区北西コーナー付近に位置する第9・11号土壙には高台付き埦及び高台付き坏が検出されており墓壙な可能性が考えられており周辺は墓域として居住空間とは隔絶した空間として存在したのもと推定される。

まとめ

当該地域におけるの鬼高II式期以前から国分期までの土地利用や景観の変遷を大雑把ではあるが概述してきたわけである。要約すると以下のようになる。

① 当該地における鬼高II式期の集落設営以前は“上真下水路”の流路および支水路の分岐点としての利用がなされており、この微高地の北側の“上真下低地”は水を湛えた水田が広がっていた景観が推定される。また積極的な根拠に乏しいものの小規模の溝址について検討し、この微高地上が耕作地として利用されていた可能性を指摘した。

② “上真下水路”の流路を地形、地割などから検討した結果その流末が“女堀川南流路”にあたる可能性が高いことが考えられる。

③ 鬼高II式期の集落において北区域と南区域における住居址群のあり方とその推移について検討した。ここでは北区域における住居址の主軸方位と“上真下低地”に予想される水田の区画との関係と南区域における土地区画と住居址の主軸方位の変化から集落内における一定集団の再編成が想起され、またその集団による洪積低地の開発の可能性について考えた。

④ 真間期及び国分期においては住居址の減少傾向と周辺遺跡の動向において“真間期の一次的な集落”の開始にともない当該集落が衰退することを確認した。そして計画的な開発における景観の推移について想定し、また土地区画と住居址の主軸方位から当該地に残存した集団の歴史的な連続性が認められることを指摘した。

⑤ 羽釜出現期以降については諸条件により詳細な検討は避け、住居址の重複と遺物の様相から数期にわたる可能性を述べた。また集落内の平面的な特徴として等高線に沿った形で空閑地を挟み帯状に展開することを指摘した。

以上発掘調査によって得られた情報や報告書となっている周辺遺跡情報、そしてその他の現象とをあわせ金佐奈遺跡における古代景観の復元を試みた。

多くの部分は類推に頼るものでもあるがこれらは遺跡として認知されやすい集落や墓域のみではなく生産空間をもふくめた活動領域の把握・検討が為されるべきであるとの考えによるものである。また今後の調査によって検証されるべき課題として提示したい。今回は各々の現象の抽出に傾倒したものとなったが、今後はこのような現象の背景を検討し、またより広範な地域を含め総合的な“地域”の歴史の解明につとめたい。 (大熊季広)

註

註1　第1号溝址は第176・177号住居址（鬼高期）との前後関係は不明ではあるが第77（国分期）・80・84号住居址（鬼高期）に先行するものである。第1b号溝址は第102c（時期不明）・119号住居址（鬼高期）との切り合い関係は不明ながらも第94・96・99（国分期）・102a・（b）号住居址（真間期）に先行するものである。同溝址は第101号住居址（鬼高期）に近接する位置関係から同時存在することは考え難い。また第1a号溝址が第95号住居址（鬼高期）に後続し，第102a号住居址に先行して重複することから、第1号溝址と第1b号溝址は鬼高II式期に先行する同一遺構と考えられる。

註2　神川町圃場整備に先立つ試掘調査で埋没河川跡が検出されているという。金子彰男氏にご教示を得た。記して感謝したい。

註3　この土層については金佐奈遺跡A2地点（徳山、1998）で触れられており、A1地点も同様である。また地点は変わるが児玉清水遺跡(1995年調査)、共和小学校校庭遺跡B地点（1998年調査）等でも同様に観察されている。児玉清水遺跡では真間期及び国分期（羽釜出現以降）の住居址はこの層によって攪拌された状態であり国分期の礫石を用いた竈のほかは遺存状態の極めて不良なものであった。このことからこの土層が中世以降の耕作土である可能性は高いものと思われる。

註4　旧赤根川の流路については「金屋条里周辺の灌漑と開発」（鈴木、1996）のなかで触れられている。また紙幅の都合で字切図を掲載できなかった。これについては「児玉条里遺跡　―児玉条里北部地区―」（鈴木、1998a）所載のものを参照されたい。

註5　秋山大町遺跡は近接する秋山東遺跡とともに児玉町遺跡調査会により現在継続調査中である。

註6　第321図には紙幅の関係から鬼高II式期以前のもの、また鬼高II式期以降真間期以前のものが同図中に示してある。第1a号溝は第95号住居址（鬼高II式期・第162図）に後続し、第102a号住居址（真間期・第175～178図）及びSE-1（国分期・「コ」の字甕並行期）に先行するものである。第7号溝址も同様に第92号住居址（鬼高II式期・第160図）に後続し、第93号住居址（真間期）に先行するものである。

註7　前者の一群は前代の小住居址群から連続性を考えるならば第44号住居址と第65・72・106号住居址との二群にさらに分離することがが可能であろう。

註8　金佐奈遺跡B地点の生活空間としての土地利用は国分期に一時断絶がみれる。真間期から継続して営まれ一定期間の断絶の後、羽釜出現以降に再び集落が営まれるという時間的推移を辿るのである。本文は当該地域の変遷を土器型式を示標として概述する事からこれらを別称するために前者を国分期、後者を単に羽釜出現期以降とする。

引用・参考文献

赤熊浩一他（1988）『将監塚・古井戸―古墳・歴史時代Ⅱ―』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第71集

磯崎　一他（1995）『今井川越田遺跡』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第177集

井口泰基　（1997）「埼玉県北西部における埴輪供給の問題―胎土分析を中心に―」『土曜考古』第21号　土曜考古学研究会

井上尚明他（1986）『将監塚・古井戸―古墳・歴史時代Ⅰ―』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第64集

岩瀬譲　（1998）『地神／塔頭』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第193集

岩田明広　（1998）『今井条里遺跡』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第192集

大屋道則　（1988）「出土遺物からみた一括遺物の同時性」『真鏡寺後遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書　第８集

大屋道則　（1995）「５　土器」『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第150集

小澤正人　（1996）「古墳時代後期から平安時代の集落の変遷」『大久保山遺跡Ⅳ』早稲田大学本庄校地文化財調査室編

金子彰男　（1995）『真下境西・反り町・八荒神北・八荒神南遺跡』　神川町教育委員会文化財調査報告　第12集

恋河内昭彦（1989）『共和小学校校庭遺跡』児玉町文化財調査報告書　第10集

恋河内昭彦（1993）『川越田遺跡Ⅱ』児玉町遺跡調査会報告　第５集

恋河内昭彦（1995）『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴蒔・毛無し屋敷・石橋』児玉町文化財調査報告書　第17集

恋河内昭彦（1996ａ）『辻堂遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書　第19集

恋河内昭彦（1996ｂ）『辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡』児玉町文化財調査報告書　第20集

坂本和俊他（1981）『金屋遺跡群』児玉町文化財調査報告書　第２集

篠崎　潔　（1992）『皂樹原・檜下遺跡Ⅳ』皂樹原・檜下遺跡調査会

篠崎　潔　（1998）「女堀大溝」『治水・利水遺跡を考える』第７回東日本埋蔵文財財研究会

鈴木徳雄　（1983）「古代北武蔵における土師器制作技法の画期」『土曜考古』第７号　土曜考古学研究会

鈴木徳雄　（1984ａ）「いわゆる北武蔵系土師器坏の動態」『土曜考古』第９号　土曜考古学研究会

鈴木徳雄　（1984ｂ）「古代児玉郡における土地利用と村落の変貌」『阿知越遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書　第４集

鈴木徳雄　（1989ａ）「古代児玉郡の開発と真下大溝」『真下境東遺跡』児玉町文化財調査報告書　第９集

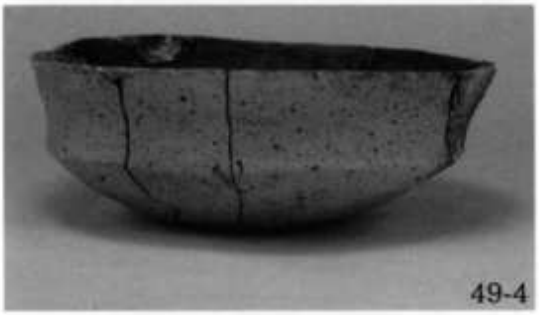
鈴木徳雄　（1989ｂ）「九郷用水の開鑿年代」『九郷用水関係資料集』児玉町史史料調

査報告　第12集
鈴木徳雄　(1991)「古代児玉郡における集落設営の計画性」『辻ノ内・中下田・塚畠・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書　第15集
鈴木徳雄　(1995)「古代児玉郡の土地利用と方形館の成立」『堀向・藤塚A・柿島・内手B・C・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告　第18集
鈴木徳雄　(1996a)「金屋条里周辺の灌漑と開発」『東鹿沼・藤塚B1・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書　第21集
鈴木徳雄　(1996b)「古代北武蔵の開発と集落」『月刊文化財』11月号　No.398
鈴木徳雄　(1997a)「古代児玉郡の灌漑と地域圏」『金佐奈C・児玉条里上田地区』児玉町文化財調査報告書　第25集
鈴木徳雄　(1997b)『将監塚東・平塚・藤塚遺跡』児玉町文化財調査報告書　第26集
鈴木徳雄　(1997c)「古代北武蔵の土地利用と集落」『日本歴史』9月号第592号
鈴木徳雄　(1998a)「児玉条里の形成と継続」『児玉条里遺跡―児玉北部地区―』児玉町文化財調査報告書第28集
鈴木徳雄　(1998b)「古代北武蔵における灌漑と土地利用」『治水・利水遺跡を考える』第7回東日本埋蔵文化財研究会
瀧瀬芳之他 (1998)『今井川越田遺跡III』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第193集
田中広明　(1996)「武蔵国の加美郡と陸奥国の賀美郡」『埼玉考古』第32号
田中広明他 (1997)『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第190集
徳山寿樹他 (1994)『平塚・左口・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第16集
徳山寿樹他 (1995)『堀向・藤塚・柿島・内手・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書　第18集
徳山寿樹他 (1996)『藤塚遺跡―B2地点の調査―』児玉町文化財調査報告書　第22集
徳山寿樹他 (1997)『金佐奈C・児玉条里上田地区』児玉町文化財調査報告書　第25集
徳山寿樹　(1998)『金佐奈遺跡I―B地点の調査―』児玉町文化財調査報告書　第30集
利根川章彦 (1998)『御林下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第223集
富田和夫　(1985)『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第150集
伴瀬宗一他 (1996)『今井川越田遺跡II』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第178集
増田逸朗他 (1982)『後張』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第26集
水口由紀子 (1991)「武蔵国における中世成立期の煮炊土器小考」『埼玉考古学論集―創立10周年記念論文集―』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
児玉町史編さん委員会 (1989)『九郷用水関係資料集』児玉町史史料調査報告　第12集
児玉町教育委員会　児玉町史編さん委員会　(1993)　『児玉町史　自然編』

図　　版

49-1

49-3


49-4

49-5

49-6

49-9

49-10

49-12

第49号住居址出土遺物

第49・50号住居址出土遺物

50-12

50-15

51-6

51-7

51-1

51-8

51-16

52-2

第50・51・52号住居址出土遺物

図版4

第53号住居址出土遺物

54-1

54-2

54-4

54-7

54-9

54-6

54-10

第54号住居址出土遺物

図版6

55-1

56a-2

56a-5

56a-1

58-1

60-1

62-2

第55・56a・58・60・62号住居址出土遺物

62-5

62-6

63-1

63-2

63-5

63-3

第62・63号住居址出土遺物

図版8

63-10

63-11

63-12

64-2

64-3

65-1

65-3

65-2

66-2

67-1

67-2

68-1

第63・64・65・66・67・68号住居址出土遺物

68-2

71-1

71-3

71-4

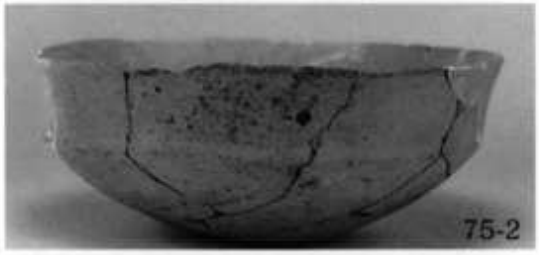
71-5

72-2

74-2

74-4

74-7


75-2

75-4

第68·71·72·74·75号住居址出土遺物

第75・76号住居址出土遺物

76-2

76-6

76-7

76-4

76-9

第76号住居址出土遺物

77-1

80-1

77-2

80-2

80-4

第77·80号住居址出土遺物

80-12

82-3

82-4

82-8

82-9

82-1

84-1

84-11

第80・82・84号住居址出土遺物

84-10

84-12

84-13

84-15

84-16

84-18

85-1

86-2

87-1

87-5

89-1

89-2

第84・85・86・87・89号住居址出土遺物

95-1

95-2

95-3

95-4

96-6

第95・96号住居址出土遺物

96-2

97a-2

96-4

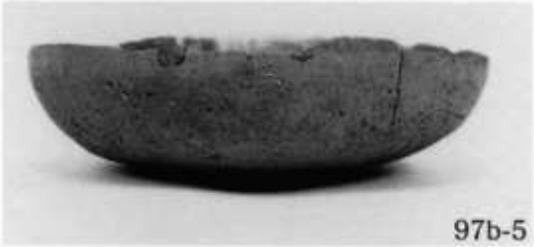
97a-5

97a-1

97a-8

97a-9

第96・97a号住居址出土遺物


97b-5

97b-6

98-2

99-2

101-1

101-2

101-3

101-6

101-7

101-8

101-9

101-14

第97b・98・99・101号住居址出土遺物

101-19

102a-1

101-20

102a-2

101-22

102a-3

第101・102a号住居址出土遺物

102a-4

102a-5

102a-8

102a-6

102a-10

102a-12

102a-14

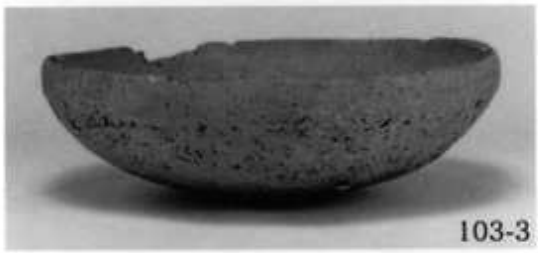
第102a号住居址出土遺物

102a-16

102a-17

103-1

103-2


103-3

103-6

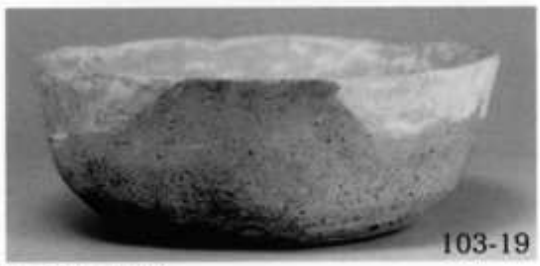
103-9

103-13

103-16

103-17

103-18


103-19

第102a・103号住居址出土遺物

105-1

106-1

106-2

107-23

105-5

105-6

105-7

107-24

第105・106・107号住居址出土遺物

107-1

107-7

107-2

107-9

107-4

107-10

107-5

107-11

107-6

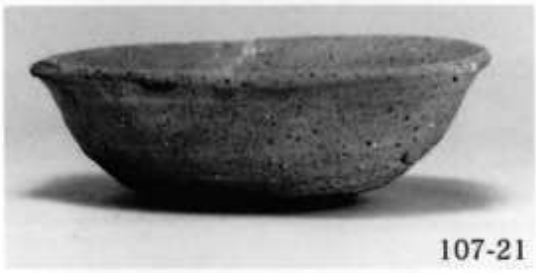
107-12

第107号住居址出土遺物

107-14

107-20

107-15


107-21

107-16

107-22

107-17

107-18

107-19

110-1

第107・110号住居址出土遺物

110-2

110-3

110-7

111-1

111-2

112-5

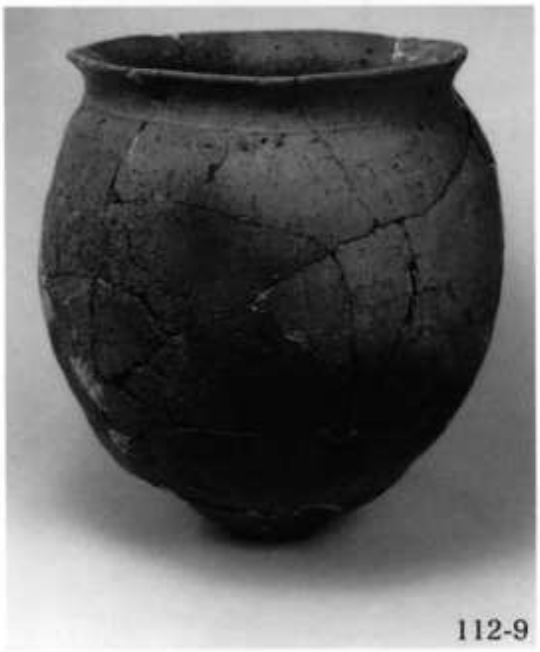
第110・111・112号住居址出土遺物

112-4

112-1

112-2

112-8


112-9

第112号住居址出土遺物

第112・113号住居址出土遺物

113-9

113-10

113-14

113-15

113-16

114-1

114-3

115-2

115-3

第113・114・115号住居址出土遺物

115-4

117-2

115-5

117-4

115-8

117-5

116-2

116-6

117-1

117-10

第115·116·117号住居址出土遺物

117-11

117-13

117-12

118-1

118-2

118-5

第117・118号住居址出土遺物

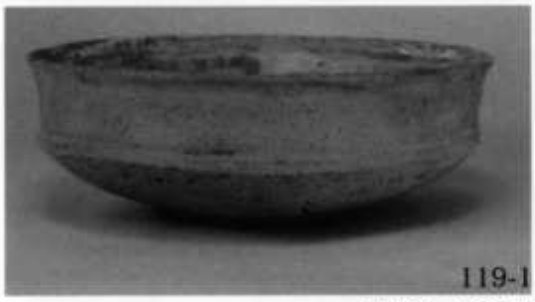
119-6

120-1

120-8

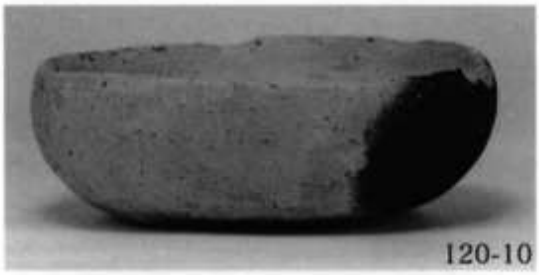
119-3

120-2


119-1

120-7

第119・120号住居址出土遺物


120-10

121-1

121-3

121-4

123-1

123-2

124-1

124-2

第120・121・123・124号住居址出土遺物

124-5

134-1

124-7

134-2

129-3

134-14

第124・129・134号住居址出土遺物

135-1

136-2

136-5

135-2

138-2

135-4

135-5

138-3

第135・136・138号住居址出土遺物

138-1

139-6

139-8

139-9

138-4

139-10

139-1

139-11

139-2

139-14

139-3

139-15

第138・139号住居址出土遺物

139-16

139-18

139-19

139-20

第139号住居址出土遺物

139-21

141-2

139-24

142-11

141-4

141-5

142-12

第139・141・142号住居址出土遺物

142-8

142-1

142-2

142-10

143-1

143-2

第142・143号住居址出土遺物

145-1

147-3

147-4

147-5

148-1

149-1

150-2

150-9

第145･147･148･149･150号住居址出土遺物

150-13

152-2

152-1

153-1

第150・152・153号住居址出土遺物

153-3

153-6

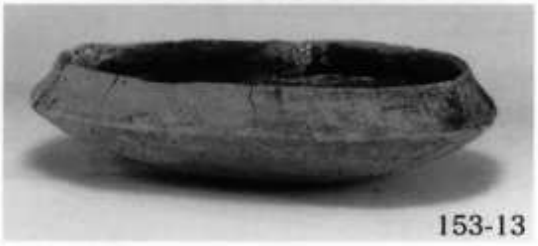
153-9

153-4

153-10

153-12

153-8

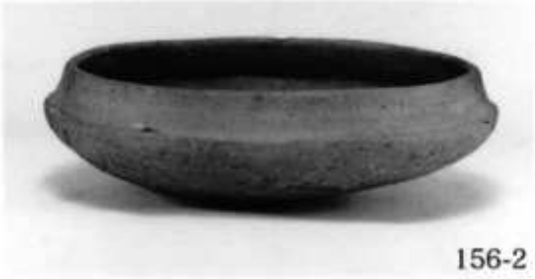

153-13

第153号住居址出土遺物

153-14

157-2

155-3


156-2

160-1

156-3

160-2

160-3

第153・155・156・157・160号住居址出土遺物

160-5

160-8

160-9

160-11

161-1

161-2

161-3

161-4

163-2

163-3

163-2

第160・161・163号住居址出土遺物

165-1

165-3

165-5

165-6

165-11

166-2

166-3

167-1

169-5

第165・166・167・169号住居址出土遺物

169-3

170-5

171-1

170-1

172-1

173-1

170-2

175-3

第169・170・171・172・173・175号住居址出土遺物

175-1

178-1

176-1

178-2

177-3

177-4

179-1

178-3

179-3

第175·176·177·178·179号住居址出土遺物

180-1

181-7

181-10

180-4

181-12

185-4

180-6

185-6

180-7

187-1

第180・181・185・187号住居址出土遺物

187-2

191-1

193-2

193-4

193-3

187-3

193-6

第187・189・193号住居址出土遺物

194-1

200b-3

195-4

200b-4

197-1

200b-5

201a-1

197-6

200b-2

201a-2

第194・195・197・200b・201a号住居址出土遺物

201a-3

201a-4

201a-5

203-1

203-13

203-2

203-4

203-17

203-20

203-22

第201a･203号住居址出土遺物

203-5

203-6

203-23

206-1

203-24

210-2

第203・205・206・210号住居址出土遺物

210-1

SD3-2

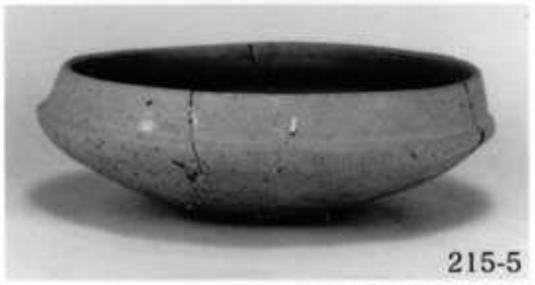
SD3-8

SD3-9

215-1

SD3-10

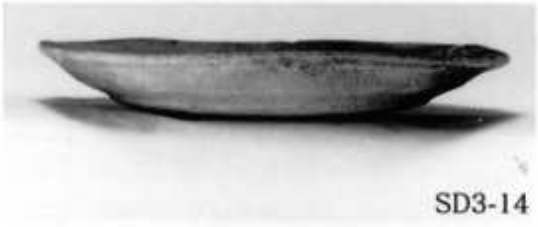
215-4


215-5

SD3-11

第210·215号住居址・第3号溝址出土遺物

SD3-21



SD3-14

SD4-11

SD3-15

SD4-12

第3・4号溝址出土遺物

SD3-26

SD3-27

SD3-31

SD3-32

第３号溝址出土遺物

SK1-1

SK9-1

SK9-2

SK11-1

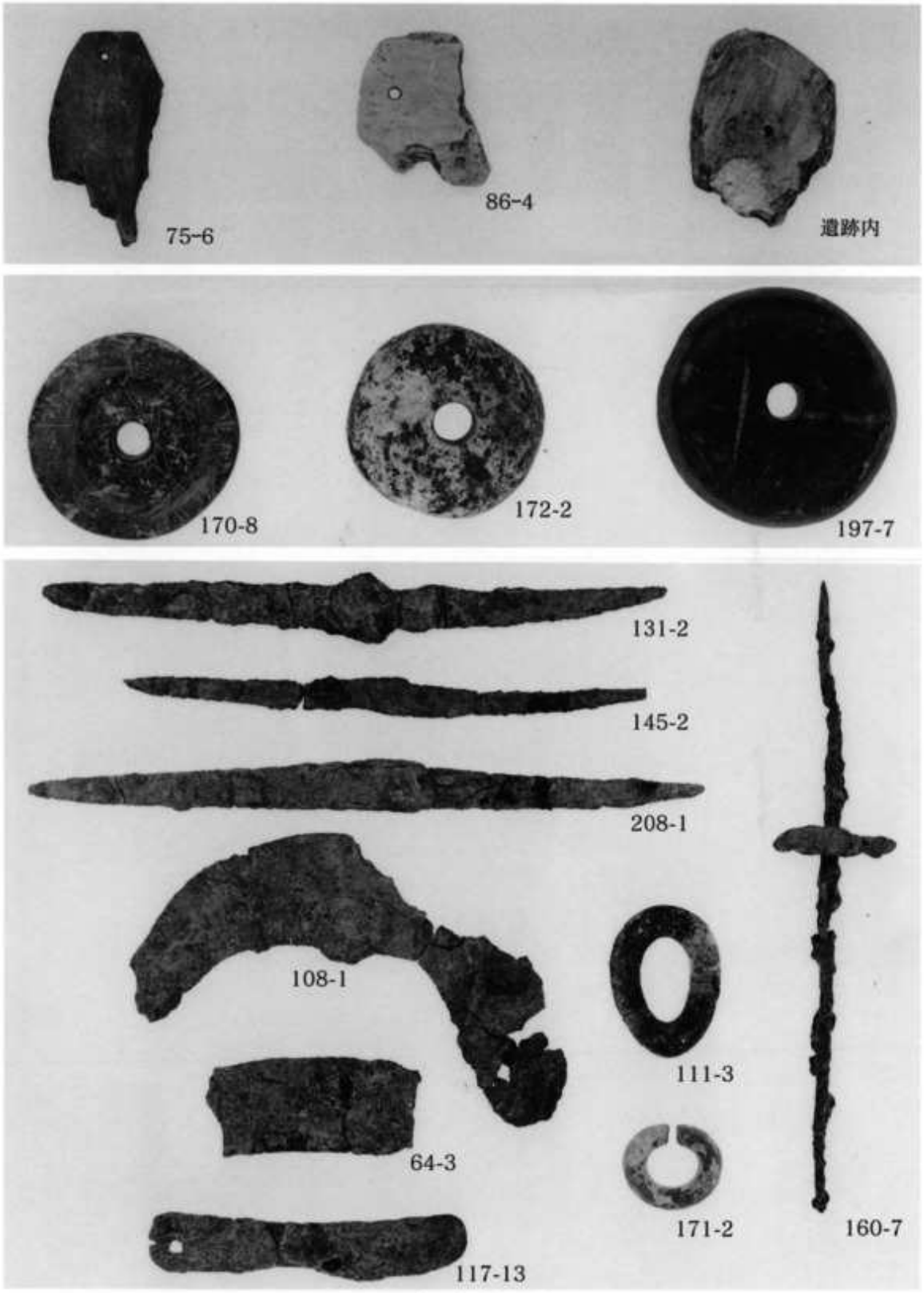
SK11-2

SE1-1

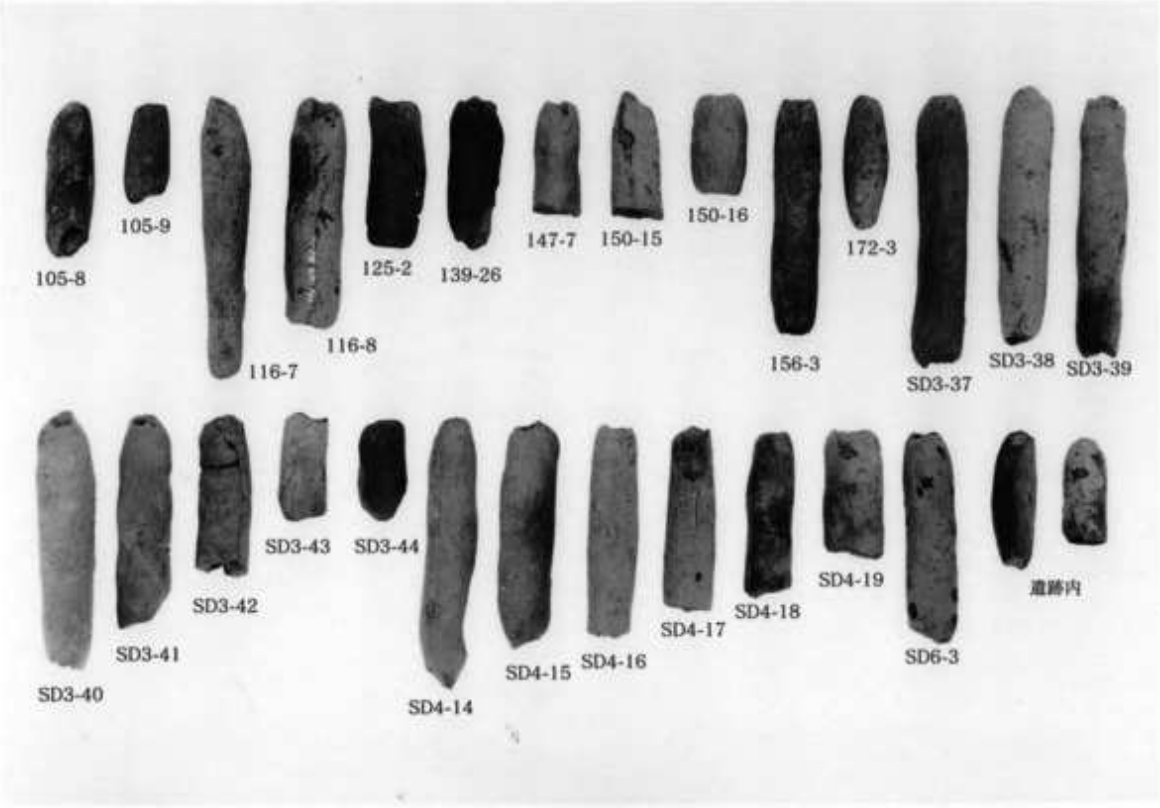
SE1-2

SE1-3

第1·9·11号土壙・第1号井戸址出土遺物


75-6
86-4
遺跡内
170-8
172-2
197-7
131-2
145-2
208-1
108-1
111-3
64-3
171-2
160-7
117-13

その他の出土遺物(1)


105-8
105-9
116-7
116-8
125-2
139-26
147-7
150-15
150-16
156-3
172-3
SD3-37
SD3-38
SD3-39
SD3-40
SD3-41
SD3-42
SD3-43
SD3-44
SD4-14
SD4-15
SD4-16
SD4-17
SD4-18
SD4-19
SD6-3
遺跡内

76-26
遺跡内
遺跡内
SD3-45
遺跡内
遺跡内

その他の出土遺物(2)

報告書抄録

フリガナ	カナサナイセキBチテンII		
書名	金佐奈遺跡B地点II		
副書名	町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書	巻次	28
シリーズ	児玉町文化財調査報告書	巻次	第33集
編集者	徳山寿樹・大熊季広		
編集機関	児玉町教育委員会		
所在地	〒367—0217　埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368　TEL 0495（72）1331		
発行日	1999（平成11）年3月23日		

所収遺跡（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡	北緯（°′″）	東経（°′″）	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
金佐奈遺跡（カナサナイセキ）（B地点（チテン））	児玉郡（コダマグン）児玉町（コダママチ）大字（オオアザ）上真下（カミマシモ）字（アザ）南外（ミナミ）	113824	298	36°12′6″	139°8′2″	19920609〜19930306	8000	県営畑地帯総合土地改良

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
金佐奈遺跡（B地点）	集落	古墳後期〜奈良平安	竪穴住居 掘立柱 土壙 井戸 溝	土師器 須恵器	大溝覆土下層よりFA層を検出した

児玉町文化財調査報告書第33集

金佐奈遺跡 II
── B地点の調査 ──

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書

平成11年3月23日印刷
平成11年3月23日発行

発行者　児玉町教育委員会
埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368
印刷所　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67